

教育研究活動



研修コース VOTAK -
ミャンマー語のレッスン



ランチョンセミナー



VOTAK 結婚事情



JAPAN TENT - 杖道



空手



ランチョンセミナー



金沢大学留学生センター 2009 年合同開講式

留学生の活動



PII との交流



KUSEP — 大樋焼体験



いしかわ金沢学



JAPAN TENT — 邦楽体験



KUSEP — 能楽体験



山中塗体験



加賀友禅体験



日研生 — 輪島大祭に参加

金大キャンパスの国際化をリードする

金沢大学留学生センター自己点検評価

2002.10 ～ 2010.3

金沢大学 留学生センター

2010

ま え が き

1995年4月、日本海側の国立大学として初めて設立された金沢大学留学生センターは、外国人留学生および海外留学を希望する本学の学生に対して、必要な教育と指導助言をする学内共同教育施設である。

前回の自己点検評価（1995年4月～2003年9月）以降、本センターは引き続き、日本語教育の分野では全学の留学生を対象とした日本語教育（総合日本語コース）と北陸地区大学の国費外国人留学生に対する大学院予備教育（日本語研修コース）を行い、また留学プログラムの分野では日本語・日本文化研修プログラム（日研生）と金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）を運営・実施している。さらに、日韓共同理工系学部留学生に対する予備教育や「アジア人財資金構想 高度専門留學生育成事業」（2007年度より）のビジネス日本語教育など、ある面特化したニーズに対応した教育も行っている。そして、2010年4月にはセメスター・プログラムを新たに開設するなど、本学の国際化の推進に寄与すべく新たな挑戦を始めたところである。

今回ここに、主として国立大学法人化（2004年4月1日）以降第一期中期計画期の活動内容をまとめた。「留学生30万人計画」など、大学の国際化は今後もさらに進んでいくと思われる。本学も金沢大学憲章に「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と謳っているように、より国際化を推進する方針を持っている。そうした中、本センターが本学の国際化の推進においてどのような役割を果たしていくべきか、またどのようなイニシアティヴをとることができるのか、自己点検評価に基づき、学内外からのご意見・ご指摘に耳を傾けつつ、組織として自ら考え行動していきたいと思う。

2011年1月

金沢大学留学生センター長

志 村 恵

目 次

まえがき

1. センターのあり方と目標

- 1. 1 沿革 1
- 1. 2 留学生センターの理念と目的 1

2. 留学生センター組織

- 2. 1 組織図 3
 - 2. 1. 1 教員組織 4
 - 2. 1. 2 事務組織 5
- 2. 2 教員のプロフィール 5
- 2. 3 教員採用・昇任の選考方法 8

3. センター各部門の活動

- 3. 1 日本語等教育部門 9
 - 3. 1. 1 総合日本語コース（一般日本語） 9
 - 3. 1. 2 大学院入学前予備教育（日本語研修コース） 37
 - 3. 1. 3 日韓共同理工系学部留学生コース（日韓プログラム） 61
 - 3. 1. 4 短期留学プログラム（KUSEP） 75
 - 3. 1. 5 日本語・日本文化研修プログラム 96
- 3. 2 多文化共生部門 144
 - 3. 2. 1 留学生のための生活・学習支援 144
 - 3. 2. 2 日本人学生のための留学支援 149
 - 3. 2. 3 その他：留学生教育 156
 - 3. 2. 4 問題点 157

4. 学内貢献

- 4. 1 授業科目担当 159
 - 4. 1. 1 共通教育開講科目 159
 - 4. 1. 2 教育学部・学校教育学類開講科目 161
 - 4. 1. 3 教育学研究科開講科目 161
 - 4. 1. 4 文学部・人間社会学域開講科目 162
 - 4. 1. 5 工学部・理工学域開講科目 162
 - 4. 1. 6 医学部・医薬保健学域開講科目 162
 - 4. 1. 7 自然科学研究科開講科目 162
 - 4. 1. 8 自然科学研究科博士前期課程・高度専門（技術・ビジネス）
留学生特別コース 162

4. 1. 9 保健管理センターカウンセリング担当	163
5. 教員の業績	
5. 1 各教員の業績	164
5. 2 資金の導入状況	192
5. 2. 1 学内資金	192
5. 2. 2 外部資金	192
6. 地域・社会貢献	
6. 1 金沢大学公開講座	195
6. 2 JAPAN TENT	195
6. 3 金沢学プログラム	197
6. 3. 1 「金沢学プログラム」各年度の概要	197
6. 3. 2 「金沢学」3年間の検討	198
6. 4 「いしかわ金沢学」	199
6. 4. 1 平成17年～18年事業報告	200
6. 4. 2 平成19年度事業報告	202
6. 4. 3 平成20－22年度事業報告	203
6. 4. 4 まとめに代えて —— 「いしかわ金沢学」の最近の5年間	209
6. 5 JICA（（独）国際協力機構）日系研修員受入事業	210
7. 講演・討論会・その他の活動	
7. 1 講演・討論会	212
7. 1. 1 日研生教育改善研究会	212
7. 1. 2 研究会「日本語教育における日・中・韓対照研究の役割 －文法研究の立場から－」	212
7. 2 遠隔教育	212
7. 3 ホームビジット及び里親制度	214
7. 4 スキー講習会・交流事業	214
7. 5 茶器・書道展	215
7. 5. 1 大樋年雄氏指導・金沢大学留学生制作の茶器展	215
7. 5. 2 大樋年雄氏指導・金沢大学留学生制作の茶器展	216
7. 5. 3 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会	216
7. 5. 4 金沢大学留学生制作の茶器・書道展	217
7. 5. 5 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会	217
7. 5. 6 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会	218
7. 5. 7 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会	218
7. 6 広報活動	219
7. 6. 1 留学フェア	219

7. 6. 2	ホームページ	221
7. 6. 3	留学生センターニュース	225
8.	施設と環境	
8. 1	施設の現状	226
8. 2	施設の将来計画	226
9.	管理運営	
9. 1	管理運営組織	227
9. 2	留学生部会	227
9. 3	留学生センター長の選出方法	227
9. 4	学内管理運営への参加状況	228
9. 5	事務組織	228
9. 6	自己点検評価の実施状況	228
10.	財政	
10. 1	留学生センター予算	229
10. 1. 1	平成 14 年度（単位：千円）	229
10. 1. 2	平成 15 年度（単位：千円）	229
10. 1. 3	平成 16 年度（単位：千円）	230
10. 1. 4	平成 17 年度（単位：千円）	230
10. 1. 5	平成 18 年度（単位：千円）	231
10. 1. 6	平成 19 年度（単位：千円）	232
10. 1. 7	平成 20 年度（単位：千円）	233
10. 1. 8	平成 21 年度（単位：千円）	234
10. 2	非常勤講師手当等実績（平成 16 ～ 21 年度）	236
11.	刊行物	
11. 1	研究論文集（紀要）	237
11. 2	学生文集	240
11. 3	日本語教材	240
11. 4	留学生センターニュース	240
11. 5	年報	240
11. 6	その他	240
12.	留学生センターの課題と将来展望	
	留学生センターの設置から現在までの経過	241

資 料

1. 規程

1. 1 留学生センター規程	243
1. 2 留学生センター外国人留学生日本語・日本文化研修コース規程	246
1. 3 留学生センター外国人留学生日本語研修コース規程	247
1. 4 金沢大学留学生センター日韓共同理工系学部留学生コース規程	248
1. 5 金沢大学短期プログラム規程	249

2. 学生交流の推移

2. 1 協定校との学生の相互交流の推移	252
2. 2 金沢大学における外国人留学生数の推移	255

1. センターのあり方と目標

1. 1 沿 革

2004年4月1日、国立大学法人法の施行により、金沢大学は法的には「国立大学法人金沢大学」というそれ以前とは別の組織となった。金沢大学留学生センターも、法人化以前の組織（教職員を含む）とプログラム等を継承しつつ、新たに発足した。これに伴い、「金沢大学留学生センター規程」（2004年4月1日施行）をはじめとする関係各規程の見直し・改定を行い、新たな組織としての体制を整えた。

教員組織及び事務組織に関しては、後述の2.1にまとめるが、国立大学法人化に際しては、前述の様にそれ以前の体制を維持した。すなわち、教員組織はセンター長・センター教員会議のもとに5部門、事務組織は国際課長のもとに3係を擁した。2005年4月には事務組織を2係に整理し、業務の集約化を行った。また、2009年4月には教員組織も整理し、各部門の掌握コース・プログラムの見直しを行った。

具体的な教育内容に関しては、引き続き、全学の留学生、北陸地区大学の国費外国人留学生、日韓共同理工系学部留学生、「アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業」（2007年度より）参加学生を対象とした日本語教育・予備教育の実施、日本語・日本文化研修プログラム（日研生）及び金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）のコーディネートと運営・実施を行っている。また、2010年4月には1学期間のセメスター・プログラムを新たに開設するなど、本学における留学生教育の役割を拡大している。これは政府の「留学生 300,000 人計画」（2008年）に対応した本学の国際化推進の方針に従ったものである。

その他、文化体験学習「いしかわ金沢学」を金沢市と連携して実施したり（2002年度より実施）、石川県が実施する「プリンストン in 石川プログラム」（PII）に協力したり（センターとしては2006年度より）と地域と連携した国際交流事業を行っている。また、本学の協定校であるタフツ大学（アメリカ合衆国）から講師を招き「TOEFL-iBT Seminar」を夏季休業期間に実施するなど本学学生の海外留学派遣支援業務も拡大してきている（2007年度より）。

1. 2 留学生センターの理念と目的

本学は大学憲章で「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と大学の理念を定めており、2010年11月現在142校と大学間交流協定及び部局間交流協定を締結している。本センターは、その国際教育研究交流の一翼を担う組織として重要な役割を担ってきた。

「金沢大学留学生センター規程」の第2条はその設置目的を定めているが、それによると「センターは、学内共同教育研究施設として、外国人留学生及び海外留学を希望する金沢大学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における留学生交流の推進に寄

与することを目的とする。」そして、第3条によって、同目的を果たすべき具体的業務を7つ定めている。すなわち、

- (1) 外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育に関すること。
- (2) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (3) 外国人留学生に対する予備教育に関すること。
- (4) 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (5) 留学生教育の調査研究に関すること。
- (6) 短期留学プログラムの実施に関すること。
- (7) その他センターに関する必要な業務。

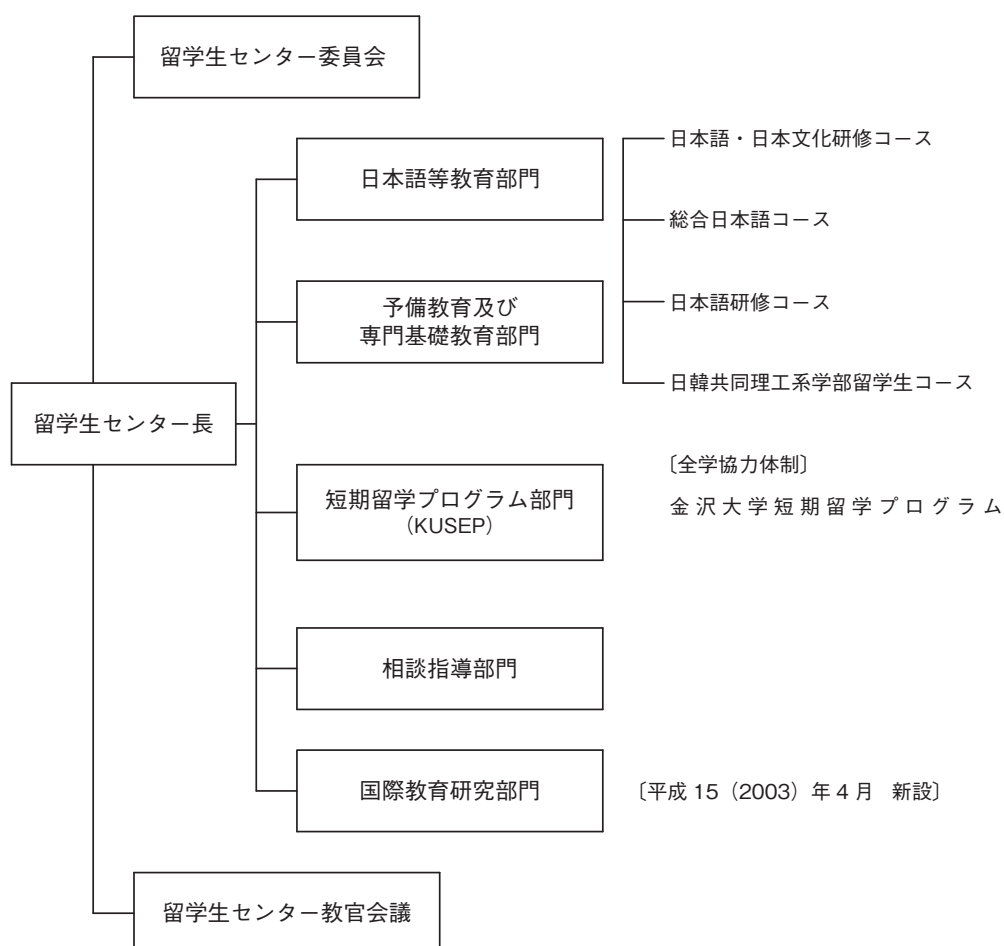
である。つまり、現行の規程における本センターの業務は、1) 外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育、2) 短期留学プログラムの企画・運営・実施、3) 留学生就学・生活支援、4) 本学の学生の海外留学支援、5) 留学生教育及び指導等に関する調査・研究、6) その他の国際協力に関する業務にまとめることができよう。

2008年に政府が「留学生30万人計画」を発表して以来、本学も国際化推進の動きをさらに加速させている。その意味で、外国人留学生の増加に対応しつつ、充実した教育と相談助言を提供することは、本センターの中心的ミッションである。他方、今後は日本人学生の海外体験・留学体験が強く社会から求められることから、本学の日本人学生の海外留学促進にさらに力を傾注することが期待されている。派遣留学説明会・海外留学フェア、ランチョンセミナー国際月間などはすでに取り組まれてきたことである。さらに外国語教育研究センターや部局と連携した語学教育の強化、派遣留学OB/OGの協力を得た留学へのモチベーション強化、新しい留学プログラムの開発など一層の努力が必要である。

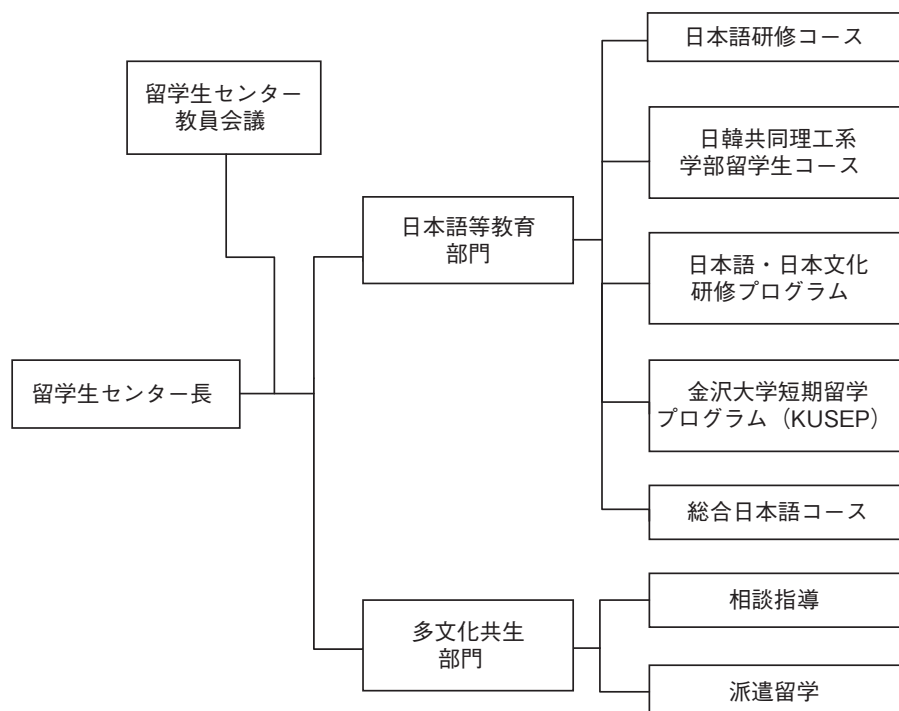
2. 留学生センター組織

2. 1 組 織 図

2003 年 4 月～ 2009 年 3 月



2009 年 4 月～ 2010 年 3 月



2. 1. 1 教員組織

a. 留学生センター長

留学生センター規約第 5 条第 1 項により、留学生センター長は、「本学の専任の教授をもって充てる」こととされている。また、任期は 2 年間であり、再任を妨げないものである。平成 15 年度 (2003 年度)～平成 21 年度 (2009 年度) の留学生センター長は、以下の通りである。

留学生センター長	所属・職名	在任期間
中山 謙二	工学部・教授	平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月
北浦 勝	工学部・教授 (平成 20 年 3 月まで) 理工研究域・教授 (平成 20 年 4 月より)	平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月
志村 恵	人間社会研究域・教授	平成 21 年 4 月～現在

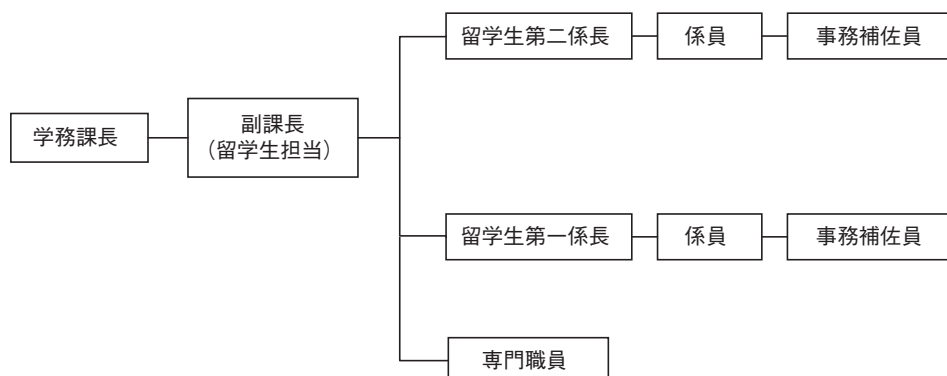
b. 専任教員

留学生センターの教員定員は 9 名である。これに兼任の留学生センター長が加わり、留学生センターは 10 名で成り立っている。

平成 21 年度末 (2010 年 3 月) において、留学生センターでは、教授 5 名、准教授 4 名からなる専任教員が、二つの部門を担当している。日本語等教育部門は留学生のための教育コース及びプログラムを運営する部門であるが、専任教員は、「総合日本語コース」2 名、「日本語研修コース」1 名、「日韓共同理工系学部留学コース」1 名、「日本語・日本文化研修コース」1 名、「金沢大学短期留学生プログラム」2 名である。また、同多文化共生部門では、留学生の学習・生活支援を 1 名が、日本人学生の留学支援等をもう 1 名の教員が担当している。

2. 1. 2 事務組織

留学生センターの事務は、学生部学務課留学生係が担当している。留学生課留学生係職員数は2010年3月現在で常勤7名（内併任1名）、非常勤職員2名の計9名である。このうち留学生センターの事務を直接担当するのは、留学生第二係の常勤2名、非常勤職員1名である。



※非常勤職員は、一時的に予算措置された者は除いた。

2. 2 教員のプロフィール

岡沢 孝雄 OKAZAWA Takao

生 年：1946 年

職階・学位：教授・理学博士

学歴・職歴：北海道大学理学部動物学科卒業（1969.3）、北海道大学大学院理学研究科動物学専攻修士課程修了（1973.3）、北海道大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程中退（1981.6）、佐賀医科大学医学部助手（1981.7）、金沢大学助手（1992.2）、金沢大学講師（1994.7）、金沢大学教授（1995.10）

専 門 分 野：衛生動物学

担 当 部 門：日本語等教育部門（金沢大学短期留学プログラム（KUSEP））

三浦 香苗 MIURA Kanae

生 年：1948 年

官職・学位：教授

学歴・職歴：九州大学文学部哲学科美学美術史卒業（1972.3）、ソニー企業（株）ソニー・ランゲージ・ラボラトリー（福岡、東京）（1972.4）、モービル石油（株）人事部語学訓練課、後にペガサス・ランゲージ・サービス Pegasus Language Services と改める、（東京）（1977.4）、九州大学留学生センター非常勤講師（1990.4）、同 助手（1991.5）、金沢大学留学生センター教授（1995.10）

専 門 分 野：日本語教育学

部 門：日本語教育等部門（日本語研修コース）

八重澤（松下）美知子 YAEZAWA (MATSUSHITA) Michiko

生 年：1950 年

官職・学位：教授・教育学修士

学歴／経歴：東京学芸大学大学院教育学研究科学校教育専攻修士課程修了（1975.3），東京教育大学大学院教育心理学講座青年心理学研究生修了（1976.3），財団法人田中教育研究所研究員（1976.4），東京学芸大学非常勤講師（1982.4～1990.9），金沢大学非常勤講師（1987.4～1991.11），金沢大学（専任）講師（1991.12），金沢大学教授（1995.10），金沢大学大学院教育学研究科教授（2006.4），金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長（2008.8～），放送大学客員教授（2006.4～2008.3）

専 門 分 野：教育心理学，教育・社会系心理学，発達心理学

部 門：多文化共生部門（相談指導）

太田 亨 OTA Akira

生 年：1962 年

職名・学位：教授・文学修士

学歴・職歴：東京外国語大学外国語学部スペイン語学科卒業（1986.3），東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程日本語学専攻修了（1992.3），メキシコ国立自治大学外国語教育センター・アジア諸語並びに現代ギリシャ語学科日本語専任講師（1989.3），メキシコ大学院大学アジア・アフリカ研究センター非常勤講師（1989.10），国際交流基金派遣日本語教育専門家・サンパウロ日本語普及センター日本語教師養成講座主任（1992.12），国際交流基金サンパウロ日本語センター主任講師（1994.4），大東文化大学国際交流センター非常勤講師（1997.10），金沢大学講師（1998.4），金沢大学助（准）教授（2000.6），金沢大学教授（2009.2）

専 門 分 野：（日・西・ポ）対照言語学，日本語教育

担 当 分 野：日本語等教育部門（日韓共同理工系学部留学生コース，）

ビットマン ハイコ BITTMANN Heiko

生 年：1964 年

官職・学位：教授・博士（学術・Dr. phil.）

学歴・職歴：ドイツ・チュービンゲン（Tübingen）大学大学院修了（1993.3），金沢大学博士課程満期退学（1999.3），ドイツ・チュービンゲン（Tübingen）大学哲学博士（Dr. phil.）（1999.5），金沢大学ドイツ語非常勤講師（1998.4～2001.3），金沢大学留学生センター助教授（2001.2），同准教授（2007.4），同教授（2009.2），

専 門 分 野：日本学・スポーツ科学

担 当 部 門：多文化共生部門（金沢大学短期留学プログラム（KUSEP））

長野 ゆり NAGANO Yuri

生 年：1949 年

官職・学位：准教授・文学修士

学歴・職歴：大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士前期課程修了（1992.3），大阪大学大学院文学研究科日本学専攻博士後期課程単位修得退学（1995.3），岡山大学留学生センター非常勤講師（1995.10），鳥取大学教育学部非常勤講師（1996.4），金沢大学留学生センター助教授（1998.9），同准教授（2007.4～2009.9）

専 門 分 野：日本語学・日本語教育

部 門：日本語等教育部門（総合日本語コース）

峯 正志 MINE Masashi

生 年：1959 年

官職・学位：准教授・文学修士

学歴・職歴：広島大学文学部文学科言語学専攻卒業（1983.3），広島大学大学院文学研究科博士課程前期言語学専攻修了（1985.3），広島大学大学院文学研究科博士課程後期言語学専攻単位取得退学（1989.7），広島大学教育学部教科教育学部国語教育学（日本語・日本事情）助手（1989.8），広島大学留学生センター助手（1990.6），金沢大学留学生センター講師（1996.12），金沢大学留学生センター助教授（1998.8），同准教授（2007.4）

専 門 分 野：シュメール語学，言語学，日本語学

部 門：日本語教育部門（総合日本語コース）

パリハワダナ ルチラ PALIHAWADANA Ruchira

生 年：1963 年

官職・学位：准教授・博士（学術）

学歴・職歴：東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了（1994.3），東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了（1997.9），大東文化大学国際交流センター非常勤講師（1997.10），金沢大学留学生センター助教授（1998.5），同准教授（2007.4），同退職（2010.3），京都大学国際交流センター教授（2010.4より）

専 門 分 野：日本語学，日本語教育

部 門：日本語等教育部門（日本語・日本文化研修プログラム）

齊木 麻利子 SAIKI Mariko

生 年：1959 年

官職・学位：准教授・Ph.D. (Linguistics)

学歴・職歴：上智大学外国語学部英語学科卒業（1982.3），スタンフォード大学大学院言語学科 Ph.D. コース修了（1987.6），金沢大学教養部助教授（1987.4），金沢大学教育学部助教授（1996.4），金沢大学留学生センター助教授（2003.4），同准教授（2007.4）

専 門 分 野：理論言語学

部 門：多文化共生部門（派遣留学）

2. 3 教員採用・昇任の選考方法

本センター教員の選考に関しては、「金沢大学留学生センター規程」（2004 年 4 月 1 日施行，2006 年 4 月 1 日および 2007 年 4 月 1 日改正）および「金沢大学留学生センター長，センター教員及び客員教授等選考規程」（2004 年 4 月 1 日施行，2006 年 1 月 20 日および 2007 年 2 月 27 日改正）に定められている。「金沢大学留学生センター規程」の第 6 条には，「センター教員の選考については，別に定める」とあり，金沢大学留学生センター長，センター教員及び客員教授等選考規程」は，これを受けたものである。

留学生センター長に関しては，学長が関係部局長より推薦された候補者を参考としつつ選考する（選考規程 3 条）。

センター教員及び客員教授等を採用する必要がある場合，センター長は，センター教員会議の議を経て，センター長，センターの教授若干人，金沢大学研究国際企画会議または金沢大学教育企画会議委員として教員会議に加えられた者若干人をもって組織する「選考委員会」を設置する。選考委員会の長はセンター長が務める。選考委員会は，候補者の資格，適性等について審査を行い，センター教員会議にその報告を行う。センター教員会議は出席した構成員の 3 分の 2 以上の多数をもってセンター教員及び客員教授等候補者を決定し，この議に基づき学長が選考する。

なお，2009 年 1 月 1 日「金沢大学教育職員の採用・昇任に係る選考手続きに関する規程」，「教育職員の採用・昇任に係る選考手続きに関する運用方針」及び「金沢大学教育職員の採用・昇任に係る選考手続きに関する細則」が定められ，同細則 5 条によって設置された「教員人事会議」によって各人事案件が協議・承認されることとなった。

2010 年 4 月 1 日採用の 3 つの人事案件に関しては，現行のこれらの諸規定に則って新規採用が行われた。

3. センター各部門の活動

3. 1 日本語等教育部門

ここでは留学生センターの教育部門の点検評価を行う。

まず、留学生センターの教育プログラム・コースに属する全留学生に対し日本語教育を提供する「総合日本語コース」の点検評価を行う。続いて、「大学院入学前予備教育日本語研修コース」と「日韓共同履修経緯学部留学生コース」、「日本語・日本文化研修コース」、「短期留学プログラム（KUSEP）」、「文化体験プログラム」について検討する。

3. 1. 1 総合日本語コース（一般日本語）

3. 1. 1. 1 コース概要

a. 成立の経緯

「総合日本語コース」（以下、「総合コース」）は、平成 10 年 10 月、それまで行われていた「全学向け日本語補講」を大幅に拡大・再編することによって誕生した。再編のきっかけは、平成 10 年秋学期から始まった「金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）」である。KUSEP のための独自の日本語プログラムを新しく始める余裕がなかったため、従来の対象学生に加え KUSEP 学生も組み込める形で再編を行った。平成 12 年度秋学期からは日韓共同理工系学部留学生コースの学生も対象になり、様々なニーズの学生を抱えた日本語プログラムとなっている。開設から現在まで、その基本的な枠組みは変わっていない。

b. 目的

大学・大学院での学習・研究活動の基盤となる実践的な日本語力を養う。

c. 対象学生

原則としては、金沢大学に在籍する留学生（学部学生、大学院生、研究生、特別聴講生等）で、日本語を母語としないものである。

具体的には次のような学生である。

- 1) 学部生、大学院生、研究生、科目等履修生、特別研究学生、特別聴講学生
- 2) 留学生センターに所属する次のコースの学生
 1. 金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）
 2. 日本語・日本文化研修コース
 3. 日韓共同理工系学部留学生コース
 4. 日本語研修コース
- 3) ただしクラス定員に余裕がある場合は、次のような優先順位で上記の学生以外の

者を受け入れる場合がある。

1. 金沢大学に在籍する外国人客員研究員
2. 金沢大学の外国人教職員
3. その他留学生センター長が特に認めた者

3. 1. 1. 2 カリキュラム

a. 開講期間・開講時期

春（4月～8月）と秋（10月～2月）の2学期、開講される。1学期は15週、授業は週5日、1コマは90分である。総合コースの授業は、いくつかの例外を除き、すべて午前中に行われる。これは、留学生センター所属の各プログラム生が、それぞれのプログラムの専門科目（通常、午後に行われる）を受けられるように配慮した結果である。（なお、平成17年度春学期まで行われていた小立野キャンパスでの授業は、留学生センター所属の学生が受講しないため、午後も開講されていた）。

b. 開講キャンパス

平成17年度春学期までは、角間キャンパスと小立野キャンパス（工学部キャンパス）の両方で開講されていた。同年春学期終了後に工学部が角間キャンパスに移転し、同年秋学期からは角間キャンパスのみでの開講となった。しかし、これにより宝町キャンパスで学ぶ医学部所属の学生の受講が困難になり、医学部の学生から宝町キャンパスで日本語の授業を開いて欲しいという強い要望が起きた。そこで平成18年春学期から、謝金を使った「医学部補講」¹を開始することとした。そのため、現在では、角間キャンパスと宝町キャンパスの2カ所で授業を行っている。

c. クラスの種類とレベル

総合コースには、通常クラス、漢字クラス、技能別クラスの三種類のクラスがある。

通常クラスは、日本語の四技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的な習得を目指すもの。漢字クラスは、漢字の読み・書きだけを学習するクラス。技能別クラスは、4技能をそれぞれ個別に伸ばそうとするクラスである。

通常クラスは週に3回以上授業があるが、漢字クラス、技能別クラスは週1回のクラスである。このように週当たりの時間数を決めたことにより、時間に余裕の無い人でも日本語クラスを受けることが可能になった。（例えば忙しくて週1回くらいしか受けられないような人でも、漢字クラスまたは技能別クラスなら受けることが可能である。）

クラスのレベルとしては、初級から上級まで7レベルある。それぞれのレベルの到達目標は以下の通りである。

¹ 医学部補講は総合日本語コースの一部でありながら、角間の授業とは様々な点で異なっている。詳細については「g. その他 1. 医学部補講」の項を参照のこと。

レベル	学習内容・到達目標
A（初級Ⅰ）	平仮名・片仮名・漢字 109 字，初級文法の前半を学習し，その運用力を養う。日常生活に必要な簡単な会話，平易で短い文章の読み書きが出来るようになる。
B（初級Ⅱ）	初級文法の後半を学習し，その運用力を太しなう。日常生活に役立つ会話，簡単な文章の読み書きが出来るようになる。
C1（初中級）	C2 への橋渡しレベル。一度は学んだが，正確には覚えていない，または身に付いていない初級文法の復習をしながらその運用練習を十分に行うことにより，C2 への足固めをする。C2 に備えて漢字の読みも学習する。
C2（中級Ⅰ）	主として書き言葉の文章（漢字仮名交じり文）の読解を中心として学習し，そこに使われている表現や構文を学び，それを題材にした「聞く・話す・書く」活動が出来るようにする。
D（中級Ⅱ）	上質で文化的深み・広さを持った文章（生教材を多少書き直したもの）の読解を中心として学習し，そこに使われている表現や構文を学び，それを題材にした「聞く・話す・書く」活動が出来るようにする。
E（上級Ⅰ）	現代日本社会のいくつかのトピックについて書かれた文章（すべて日本人向けに書かれた生教材）の読解を中心として様々な活動を行い，日本語の運用力を更に高める。日本語や日本文化・日本社会についての理解も深める。
F（上級Ⅱ）	これまでに習得した日本語の応用能力を更に高めることにより，大学や大学院での学習・研究活動の基盤となる実践的日本語能力を養うことを目指す。現代日本社会の実態・問題を様々な視点から捉え考える。日本語や日本文化・日本社会についての理解も更に深める。

初級・中級・上級のそれぞれを 2 段階に分け，更に初級と中級の間に 1 レベル（C1 レベル）を置いた構成になっている。総合コース開講当初は C1 レベルがなかったが，初級Ⅱから中級Ⅰへの橋渡しをスムーズにするため平成 12 年度秋学期から設けられた。

漢字クラスは，B, C, D, E, F の 5 クラスがある。A レベルの漢字学習は通常クラス（A クラス）に組み入れられている。C1, C2 の学生は共に漢字 C クラスを受ける。通常クラスと漢字クラスは連動せず，独立した内容で授業を行っている。（従って必ずしも通常クラスと漢字クラスのレベルが同じとは限らない。）

技能別クラスは C レベル以上の学生のためのものである。中心的な授業としては，C レベルは初級読解，D レベルは作文，講義の聴解，中級読解，E レベルはレポート作成，口頭発表，F レベルは上級読解，コンピュータによるレポート作成がある。（年度ごとに多少開講科目が異なることがある。時間割を参照のこと）

学生は，自分のレベルと同レベルか，1 レベル上または下の技能別クラスを取ることが出来る。

クラスの種類とレベルの週当たりコマ数を表にまとめると以下のようになる。

通常クラス	コマ数	漢字クラス	コマ数	技能別クラス	相当レベル	コマ数
A	5	—		—	—	
B	4	漢字 B	1	—	—	
C1	3	漢字 C	1	初級読解	C	1
C2	3					
D	3	漢字 D	1	作文 講義の聴解 中級読解	D D D	1 1 1
E	3	漢字 E	1	レポート作成 口頭発表	E E	1 1
F	3	漢字 F	1	上級読解 コンピュータによるレポート作成	F F	1 1

d. 使用教科書

1. 通常クラス

クラス	著者・編者／教科書名／出版社
A	『みんなの日本語Ⅰ』 スリーエーネットワーク
B	『みんなの日本語Ⅱ』 スリーエーネットワーク
C1	金沢大学留学生センター 『ともだちと話そう』
C2	文化外国語専門学校『文化中級日本語Ⅰ』 凡人社
D	文化外国語専門学校『文化中級日本語Ⅱ』 凡人社（1～6課）
E	『ニューアプローチ中上級日本語 完成編』
F	山本富美子他『国境を越えて』 新曜社 ・平成20年度秋学期からは、週3コマのそれぞれのコマが独立したものになったため、担当教師によって異なる教科書が用いられた。多くは自主教材（生教材）が用いられている。 ・平成20年秋学期～22年春学期の峯担当の読解（週1回）では、大野純子著『大学「教養の日本語」』（講談社出版サービスセンター）が使用された。

2. 漢字クラス

クラス	著者・編者／教科書名／出版社
漢字 B	Basic <i>Kanji</i> Book Vols. 1, 2 11～27 課（200 字） （1～10 課は、通常クラスの A レベルで学習）
漢字 C	Basic <i>Kanji</i> Book Vol.2 28～45 課（193 字）
漢字 D	Intermediate <i>Kanji</i> Book, Lessons 1～9 課（178 字）
漢字 E	自主制作教材（130 字）
漢字 F	自主制作教材（130 字）

3. 技能別クラス

クラス	著者・編者／教科書名／出版社
初級読解	自主教材
作文	『大学・大学院生の日本語③作文編』（アルク）
講義の聴解	『講義を聞く技術』 産能短大
中級読解	『中上級者のための速読の日本語』（ジャパントイムズ）
レポート作成	浜田麻里他『大学生と留学生のための論文ワークブック』 くろしお出版
口頭発表	東海大学留学生教育センター『日本語口頭発表と討論の技術』 東海大学出版会
上級読解	自主教材（生教材）
コンピュータによる論文作成	自主教材

なお、平成 17 年度秋学期に、週 1 コマの通常クラスを設けた(「週 1 回 C2 クラス」および「週 1 回 D クラス」)。また平成 18 年度春・秋学期にも同様のクラス(コミュニケーション上クラスおよび下クラス。共に口頭でのコミュニケーション能力を重視する通常クラスである。)を設けた。通常クラスを受けるほど時間に余裕がないが、それでも総合的な日本語能力を伸ばしたいという学生のために設けたが、コマ数削減のため、わずか 3 学期だけの開講で終わった。

e. 履修の手続き・履修形態

1. プレースメントテスト

日本語クラスを初めて履修しようとする学生は全員プレースメントテストを受けなければならない(ただし、通常クラスを受講せず、漢字クラスまたは技能別クラスのみを受講する学生は受ける必要はなく、直接授業に出て担当教師のチェックを受ける)。テストは筆記試験(聴解含む)で、初級用と中・上級用の 2 種類があり、学生の自己申告でどちらかを選んでもらう。試験開始後 10 分以内ならレベルの変更は可能。

平成 21 年度秋学期までは、下の方針によって作られていた。

- 1) 総合コースにおける学習内容から出題する。
- 2) 総合コースの A～E の各レベルを測る問題を、この順番に配列する。
- 3) できる限り記述式の問題を取り入れる。

判定は、このテストの結果だけではなく、(当該学生の詳しい資料がある場合には)学習歴なども考慮し総合的に判定する。判定の結果クラスの人数に極端な違いが出来そうな場合には、人数を調整する場合もある。

2. レベルの確定

授業開始後、学生のレベルがクラスのレベルに合っていないと判断された場合に備えて、通常クラスについては 3 週間、漢字クラス、技能別クラスについては 4 週間の「レベル移動期間」を設けている。以下の要件を満たした場合に、学生は上下 1 レベルの範囲でレベルを移動する。

1. 学生が現在出ているクラスの複数の担当教員の合意
2. 異動先のクラスのクラス責任者の合意
3. 仮移動
4. 移動先のクラス責任者の最終合意

上記の手続きを踏んだことは、書いた形で記録に残す。このような煩雑な手続きを踏む理由は、このようにすると「レベル移動は教師が適当に、恣意的に行っているのではなく、きちんとした手続きを踏んで行われている」ことが学生にも分かり、希望通りにならなかった場合の不満が少なくなるからである。

しかしこの方法だと、移動先のクラスでの学習が出遅れるという欠点があることも事実である。また学生数が急増した今、なかなか学生一人一人の能力の見極めも短期間では難しくなっており、再検討の余地がある。

3. 登録期間

学生は授業開始後、通常クラスは3週間以内、漢字クラス・技能別クラスは4週間以内にクラスに出て登録しなければならない。ただし、この期間を過ぎた場合でも、それが（来日が遅れるなど）正当な理由によるものと認められる場合は、授業開始後6週間までは学生を受け入れる。

4. 履修可能コマ数

一人の学生が一学期に履修できるコマ数は、原則最大5コマまでとしている。

f. 授業担当者と授業運営

総合コースの授業は、専任教員と非常勤講師で担当している。漢字クラスと技能別クラスは1名の教師が単独で担当するが、通常クラスは3～5名の教師がチームティーチング方式で担当している。各チームの「レベル責任者」（総合コースの「コース責任者」が指名する）は、進度表の作成、学生のレベル移動についての判断、月例報告（毎月コース責任者への提出が義務づけられている）の提出、問題があったときのコース責任者への連絡、定期試験の問題作成、クラスごとのミーティング（毎学期最低2回は開催）の招集などを行い、通常クラス各レベルの運営のまとめ役としての役割を果たす。

専任教員が勤める「コース責任者」（2名が担当。平成22年度春学期からは、主担当1名、副担当2名の編成となった）は、総合コース全体の運営を統括する立場にあり、プレースメントテストの実施、レベル移動に関する最終判断、学期開始時の打ち合わせ会の開催、学期中の諸問題への対処、学期末の反省会の開催などを行っている。

g. その他

1. 医学部補講

a. 開講の経緯

平成17年度春学期終了後に工学部が角間キャンパスに移転したため、小立野(工学部)キャンパスでも行われていた総合日本語コースは、同年秋学期からは角間キャンパスだけの開講となった。この工学部キャンパスでの授業には、地理的に近い宝町キャンパスで学ぶ医学部所属の留学生も参加していた。彼らは工学部キャンパスでの授業が無くなったからといって角間キャンパスまで通うのは時間的に難しいため、ほとんど受講が不可能な状態になってしまった。彼らから実際に宝町キャンパスでの開講の要望があったため、平成18年春学期から、謝金による「医学部補講」を開講することにした。

b. 開講期間・コマ数・開講レベル

開講期間は、総合日本語コースと同じく、春・秋学期に開講される。1学期に15週であるのも同様。開講当初は、1レベル週2回のクラスとして始まったが、平成20年度春学期からは、国際学類の教員の協力を得ることが出来、2レベル（それぞれ週2回で、計週4コマ）での開講になった。具体的なシラバスの作成は、その時の学生のレベル等に応じて柔軟に対応することになっている。

c. 教科書

開講当初、医学部補講の受講者も出来れば角間キャンパスの上のレベルのクラスに合流できるようにとの配慮から、角間キャンパスの初級クラスと同じように『みんなの日本語』を使用していたが、平成22年度春学期からは『はかせ1』、『はかせ2』（スリーエーネットワーク）を使用している。

d. 総合コースの授業との違い

大きな違いは次の2点である。

- 1) 登録期間を設けず、学生を随時受け入れている。
- 2) 評価は出席のみで、定期テストも行わない。

これ以外にも、複数のレベルでの受講を認めていること、（英語を理解する学生ばかりのため）文法説明などに英語を多く利用していること、などの違いがある。半期で辞める学生が多いこと、また開講レベルが少なく次のレベルに進める機会もほほないことなどから、とにかく日本語に触れてもらうことを大きな目標にしているため、上のような方針で開講している²。

2. ボランティア教師による個別指導

留学生センターでは、満70歳を迎えた方はその次の年度からは非常勤講師として雇用しないことにしている。平成19年秋学期終了時に初めてその規則が適用されることとなった。しかし、従来から総合コースに在籍する学生の個々の様々なニーズに、授業だけでは応え切れていないのではと考えていた私たちは、その講師の方に何か授業以外の形でご協力いただけないか相談した結果、ボランティアで、学習上の問題を抱える留学生の個別の指導・相談に応じていただけることになり、平成20年春学期から個別指導を開始した。

開講形態は、週2回、午後1時～4時の時間帯に指定した教室で教師が待機するというもので、訪れた学生の問題に対応していただいている。

個別指導開講のお知らせは、学期ごとに各クラスで行っている。また、クラスに在籍する学生に学習上の問題があると担当教師が判断した場合は、その問題について個別指導担当の

2 金沢大学医学研究科では、大学院博士課程に所属する留学生に対して、この医学部補講の受講を単位として認めている。医学部補講担当者は、学期終了後に受講者の出席日数に関する報告を事務に提出する。上下両レベルとも授業は週2回15週で30回あるが、その出席率で単位認定しているとのことである。

教師に連絡した上で、その学生に個別指導を受けるよう勧めている。

3. 1. 1. 3 教育活動実績

a. 開講科目と履修者³・合格者数,

平成 15, 16 年度各学期の履修者数と合格者数

開講科目	平成 14 年度秋		平成 15 年度春		平成 15 年度秋		平成 16 年度春		平成 16 年度秋	
	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者
角 間 A	16	13	5	3	12	10	5	2	12	11
小 立 野 A	9	4	4	3	14	11	6	5	6	4
角 間 B	8	4	15	14	10	9	9	9	7	5
小 立 野 B	7	4	9	8	2	2	10	6	7	1
角 間 C 1	6	6	7	7	7	5	11	8	16	12
小 立 野 C1	11	10	3	3	9	3	4	4	4	3
角 間 C 2	14	9	14	9	13	12	14	14	11	6
小 立 野 C2	7	2	11	9	1	1	*	*	*	*
角 間 D	15	13	8	7	7	7	11	11	11	9
小 立 野 D	8	2	8	1	15	1	*	*	*	*
角 間 E	12	9	14	12	14	12	8	8	11	10
小 立 野 E	4	2	3	2	2	0	*	*	*	*
角 間 F	8	6	13	12	4	4	13	10	7	7
漢 字 B	10	7	14	13	15	13	9	7	19	12
漢 字 C	15	13	11	9	10	9	13	10	11	8
漢 字 D	8	7	13	10	13	13	8	7	6	6
漢 字 E	10	10	8	8	7	7	14	10	8	8
漢 字 F	8	7	9	9	6	6	8	8	7	4
初 級 読 解	11	8	11	11	11	10	11	5	15	14
作 文	10	8	14	10	10	10	12	10	2	1
講義の聴解	12	9	*	*	16	16	11	8	2	2
中 級 読 解	*	*	*	*	0	0	6	6	3	3
レポート作成	8	7	7	7	6	4	3	3	8	8
口 頭 発 表	*	*	11	11	9	8	3	3	6	4
上 級 読 解	*	*	8	8	*	*	5	4	1	0
コンピュータ	4	4	9	7	7	6	9	9	4	4

3 履修者数とは、登録期間内にクラスに一度でも出席した学生（出席の意図を示した学生）を指す。合格しなかった学生はほとんど中途放棄(1 回だけ出席の学生も含む)の学生で、期末試験まで受けて不合格になった学生はそれほど多くない。

*は開講されていないことを示す。

開 講 ク ラ ス	平成 17 年度春		平成 17 年度秋		平成 18 年度春		平成 18 年度秋		平成 19 年度春	
	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者
角 間 A	9	6	17	12	7	1	27	13	16	11
小 立 野 A	3	3	*	*	*	*	*	*	*	*
角 間 B	9	5	13	9	14	11	9	8	15	4
小 立 野 B	4	1	*	*	*	*	*	*	*	*
角 間 C 1	13	10	16	12	9	8	14	11	10	10
小 立 野 C1	5	3	*	*	*	*	*	*	*	*
角 間 C 2	18	15	14	11	14	10	12	11	16	13
角 間 D	5	4	11	10	18	10	11	7	13	10
角 間 E	19	16	14	11	12	10	19	15	11	9
角 間 F	12	9	19	8	19	19	5	3	13	9
漢 字 B	11	9	16	12	13	8	17	15	17	14
漢 字 C	17	14	13	12	13	12	10	9	14	11
漢 字 D	3	3	6	6	10	10	10	10	13	10
漢 字 E	7	5	12	11	8	6	13	13	7	7
漢 字 F	8	7	7	6	13	12	5	5	13	11
初 級 読 解	11	11	17	16	5	5	17	17	14	14
作 文 * *	9	5	8	6	10	8	8	5	11	9
聴 解 * *	11	11	9	7	4	4	0	0	9	7
中 級 読 解 **	4	4	5	5	6	6	11	10	12	9
レ ポ ー ト **	4	0	16	13	9	7	5	4	8	5
口 頭 発 表 **	6	4	7	6	8	7	10	7	7	6
上 級 読 解 **	7	7	4	3	8	8	3	2	5	4
コ ン プ ュ ー タ	6	4	4	4	7	7	3	3	7	7
討 論	*	*	*	*	*	*	8	1	*	*
週 一 回 C2	*	*	2	2	*	*	*	*	*	*
週 一 回 D	*	*	3	2	*	*	*	*	*	*
コミュニケーション下	*	*	*	*	5	3	12	3	*	*
コミュニケーション下	*	*	*	*	6	2	5	2	*	*
医 学 部 補 講	*	*	*	*	12	—	12	—	23	—

開 講 ク ラ ス	平成 19 年度秋		平成 20 年度春		平成 20 年度秋		平成 21 年度春		平成 21 年度秋	
	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者	履修者	合格者
角 間 A	9	6	6	2	13	7	6	2	25	17
角 間 B	13	9	12	7	20	17	16	13	15	13
角 間 C 1	14	12	16	11	15	13	10	9	21	17
角 間 C 2	14	13	18	13	12	10	18	18	14	13
角 間 D	15	12	19	17	16	12	16	15	26	24
角 間 E	10	8	15	12	12	10	18	15	23	16
角 間 F	12	9	8	8	9/10/10 ⁴	9/9/9 ⁴	12/15/15	11/12/10	13/13/13	12/12/12
漢 字 B	17	15	11	6	26	23	18	14	24	23
漢 字 C	14	14	15	14	21	17	9	9	21	17
漢 字 D	6	5	15	15	11	9	19	19	22	22
漢 字 E	10	9	12	11	14	10	13	12	23	21
漢 字 F	8	6	8	8	10	8	10	8	11	10
初 級 読 解	19	17	8	8	26	24	10	10	26	26
作 文 * *	4	3	14	13	12	12	*	*	*	*
聴 解 * *	3	3	18	16	10	8	13	12	19	18
中 級 読 解 **	5	4	16	14	15	10	20	16	18	15
レ ポ ー ト **	10	6	7	7	8	6	16	16	8	7
口 頭 発 表 **	8	4	11	6	14	12	14	12	14	14
上 級 読 解 **	6	6	8	8	3	3	8	6	14	14
コ ン プ ュ ー タ	7	5	1	1	3	3	3	3	3	3
日 本 事 情 (春) ／ 討 論 (秋)	*	*	7	7	6	6	6	6	3	3
専 門 読 解	*	*	*	*	4	4	5	5	6	5
医 学 部 補 講	16	—	*	—	*	—	*	—	*	—
医学部補講 (下)	*	—	16	—	19	—	10	—	11	—
医学部補講 (上)	*	—	6	—	7	—	9	—	12	—

4 角間 F は週 3 回開講されているが、平成 20 年度秋学期以降は 3 つのコマが独立開講となったので、それぞれのクラスの人数を別個に表した。

b. 授業時間割

授業開始 2002 年 10 月 11 日 (金) ～ 授業終了 2003 年 2 月 28 日 (金)

【平成 14 年度秋学期】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)	
	クラス	教官 / 講義室	クラス	教官 / 講義室
月	B	櫻 田 /1	A	長 野 /1
	読解	三 浦 /3	D	早 川 /2
	作文	長 野 /2	E	櫻 田 /3
	レポート	ルチラ /4	漢字 F	藤 田 /4
火	A	苗 田 /1	B	越 野 /1
	C2	越 野 /3	F	小 西 /4
	E	小 西 /4	漢字 C	一 瀬 /3
水	A	笹 原 /1	C1	笹 原 /1
	B	早 川 /2	C2	浅 野 /3
	F	古 本 /3	漢 D	古 本 /2
	聴解	太 田 /4	漢 E	早 川 /4
木	A	一 瀬 /1	C1	寺 下 /1
	漢 B	河 内 /3	C2	一 瀬 /3
	コンピュ	岡 澤 /5	D	小 西 /2
			E	島 /4
金	B	河 内 /3	A	早 川 /1
	D	櫻 田 /4	C1	河 内 /3
			F	櫻 田 /4

＊ 斜字体は専任教官 (以下同様)

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)		4 時限 (14:30 ～ 16:00)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	浅 野	C1	浅 野	C2	藤 田	B	早 川
火	B	長 野	A	河 内	C1	河 内		
水	D	櫻 田	C2	平 瀬	A	平 瀬	B	苗 田
木	D	古 本	B	平 瀬	A	平 瀬	C2	敷 田
金			C1	寺 下	A	寺 下	D	島

【平成 15 年度春学期】

授業期間：2003 年 4 月 10 日（木）～ 2003 年 7 月 28 日（月）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	櫻 田	B	越 野	上級読解*	三 浦
	C2	越 野	C1	敷 田		
	レポート*	ルチラ	D	笹 原		
			漢字 F	藤 田		
火	A	苗 田	D	一 瀬		
	F	桜 田	E	島		
	漢字 B	河 内				
	漢字 C	一 瀬				
水	A	ルチラ	B	桜 田		
	C1	笹 原	C2	笹 原		
	漢字 D	古 本	E	古 本		
			F	長 野		
木	A	河 内	B	一 瀬		
	C2	一 瀬	C1	浅 野		
	E	小 西	D	古 本		
金	コンピュータ	岡 沢	F	小 西		
	B	早 川	A	寺 下		
	作文	長 野	漢字 E	早 川		
	口頭発表*	峯	初級読解	長 野		

* 「教養的科目」の「日本語 B」としても開講する。（以下同様）

* この学期は、担当教官の海外出張のため、技能別クラスの講義の聴解および中級読解は開講されなかった。

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)		4 時限 (14:30 ～ 16:00)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	河 内	B	河 内	C2	藤 田	D	早 川
火	A	浅 野	C1	浅 野	B	桜 田	D	桜 田
水			A	田 中	C2	田 中	B	苗 田
木	B	峯	C1	寺 下	A	寺 下	C2	古 本
金	C1	山 口	D	山 口	E	長 野	A	苗 田

【平成 15 年度秋学期】

授業期間：2003 年 10 月 10 日（金）～ 2004 年 2 月 18 日（水）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	B	越 野	A	山 口	中級読解*	太 田
	作文*	長 野	C2	越 野		
	上級読解	三 浦	漢字 E	早 川		
			漢字 F	藤 田		
火	E	小 西	A	一 瀬		
	漢字 B	河 内	C1	笹 原		
	漢字 C	一 瀬	D	小 西		
			F	島		
水	A	桜 田	C2	桜 田		
	B	笹 原	D	笹 原		
	C1	長 野	口頭発表	峯		
	レポート	ルネラ				
木	B	敷 田	A	一 瀬		
	漢字 D	古 本	C2	浅 野		
	コンピューター	岡 沢	E	敷 田		
金			F	長 野		
	B	峯	A	河内		
	D	河 内	C1	寺 下		
	E	櫻 田	講義の聴解*	太 田		
	初級読解	長 野	F	桜 田		

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)		4 時限 (14:30 ～ 16:00)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	峯	C2	峯	D	藤田	B	敷 田
火	B	浅 野	C1	浅 野	C2	桜田	A	苗 田
水	B	河 内	C2	河 内	D	島	A	苗 田
木	B	早 川	C1	寺 下	A	寺下	E	長 野
金			D	早 川	A	早川	C1	苗 田

【平成 16 年度春学期】

授業期間：2004 年 4 月 8 日（木）～ 2004 年 7 月 29 日（木）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	作文	長 野	漢字 F	藤 田	中級読解	太 田
	上級読解	三 浦	漢字 E	早 川		
	B	ルチラ	A	ルチラ		
			C2	古 本		
火	A	一 瀬	B	越 野		
	C1	笹 原	漢字 C	一 瀬		
	F	古 本	D	笹 原		
			E	櫻 田		
水	レポート	ルチラ	口頭発表	峯		
	A	峯	C1	寺 下		
	初級読解	長 野	F	櫻 田		
			漢字 D	太 田		
木	漢字 B	河 内	E	古 本		
	C2	浅 野	B	敷 田		
	D	古 本	A	河 内		
	コンピュータ	岡 沢	C1	浅 野		
金	A	早 川	E	山 口		
	B	櫻 田	D	早 川		
	F	長 野	C2	櫻 田		
	講義聴解	太 田				

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:50 ～ 10:20)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (12:50 ～ 14:20)		4 時限 (14:30 ～ 16:00)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月					B	越 野	A	敷 田
火	B	峯	C1	寺 下	A	寺 下		
水					C1	山 口	A	苗 田
木	B	長 野	A	峯				
金	A	河 内	B	河 内			C1	苗 田

【平成 16 年度秋学期】

授業期間：2004 年 10 月 12 日（火）～ 2005 年 2 月 18 日（金）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限（8:50 ～ 10:20）		2 時限（10:30 ～ 12:00）		3 時限（13:00 ～ 14:30）	
	クラス	教官 / 講義室	クラス	教官 / 講義室	クラス	教官 / 講義室
月	E	櫻 田	A	峯	中級読解*	太 田
	作文*	峯	初級読解	斉 木		
	上級読解*	三 浦	漢字 F	藤 田		
			聴解*	太 田		
火	A	苗 田	B	河 内		
	漢字 B	河 内	C1	苗 田		
	漢字 C	一 瀬	D	一 瀬		
	漢字 D	太 田	E	笹 原		
水	A	早 川	B	太 田		
	D	櫻 田	C2	笹 原		
	C1	笹 原	口頭発表*	峯		
	レポート*	ルチラ	F	櫻 田		
木	A	敷 田	B	敷 田		
	C2	浅 野	C1	浅 野		
	E	古 本	F	古 本		
	コンピュータ	岡 沢				
金	B	峯	A	ルチラ		
	F	山 口	D	早 川		
	漢字 E	早 川	C2	櫻 田		

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限（8:50 ～ 10:20）		2 時限（10:30 ～ 12:00）		3 時限（13:00 ～ 14:30）		4 時限（14:40 ～ 16:10）	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月			A	越 野	B	越 野	C1	敷 田
火			C1	寺 下	A	寺 下	B	苗 田
水					B	峯	A	峯
木					A	櫻 田	C1	苗 田
金	A	河 内	B	河 内				

【平成 17 年度春学期】

授業期間：平成 17（2005）年 4 月 12 日（火）～ 平成 17（2005）年 8 月 1 日（月）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限（8:50 ～ 10:20）		2 時限（10:30 ～ 12:00）		3 時限（13:00 ～ 14:30）	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	峯	漢字 E	早 川	中級読解*	太 田
	B	笹 原	漢字 F	藤 田		
	E	小 西	初級読解	斉 木		
	作文*	長 野	講義聴解*	太 田		
	上級読解*	三 浦				
火	D	櫻 田	A	河 内		
	漢字 B	河 内	C1	笹 原		
	漢字 C	一 瀬	C2	一 瀬		
			E	古 本		
水	B	苗 田	A	櫻 田		
	C2	笹 原	D	笹 原		
	F	島	漢字 C	一 瀬		
	レポート*	ルチラ	口頭発表*	峯		
木	C1	浅 野	A	早 川		
	コンピュータ	岡 沢	B	浅 野		
			E	峯		
			F	古 本		
金	C1	長 野	A	宮 本		
	C2	山 口	B	櫻 田		
	D	早 川	漢字 D	太 田		
	F	櫻 田				

【小立野キャンパス】

曜 日	1 時限（8:50 ～ 10:20）		2 時限（10:30 ～ 12:00）		3 時限（13:00 ～ 14:30）		4 時限（14:40 ～ 16:10）	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月			A	越野	B	越野		
火			A	寺下	C1	寺下		
水	C1	長野	B	河内	A	山口		
木			A	河内			B	苗田
金			A	峯	B	敷田	C1	苗田

【平成 17 年度秋学期】

授業期間：平成 17（2005）年 10 月 11 日（火）～ 平成 18（2006）年 2 月 10 日（金）

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限（8:50 ～ 10:20）		2 時限（10:30 ～ 12:00）		3 時限（13:00 ～ 14:30）	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	越 野	B	河 内	中級読解*	太 田
	作文*	長 野	漢字 F	藤 田		
	上級読解*	三 浦	初級読解	斎 木		
			講義聴解*	太 田		
	AA	敷田 /11	AA	敷 田		
火	A	櫻 田	漢字 C	一 瀬	専門読解**	笹 原
	C1	寺 下	B	寺 下		
	漢字 E	早 川	E	長 野		
	C2	峯	F	島		
	AA	小 西	AA	小 西		
水	A	苗 田	C1	笹 原	専門聴解**	太 田
	B	長 野	C2	苗 田		
	レポート*	ルチラ	D	早 川		
			口頭発表*	峯		
	AA	山 口	AA	三 浦		
木	A	河 内	漢字 B	河 内	専門読解**	古 本
	C1	浅 野	週一 C2	浅 野		
	E	古 本	D	一 瀬		
	コンピュータ	岡 沢	F	峯		
	AA	笹原 /11	AA	笹原 /11		
金	C2	早川 /3	B	宮本 /2		
	週一 D	櫻田 /1	漢字 D	太田 /4		
	D	峯 /2	F	櫻田 /3		
	E	小西 /4	A	峯 /1		
	AA	山口 /11	AA	山口 /11		

【平成 18 年度春学期】

授業開始:平成 18 (2006) 年 4 月 12 日 (水) ～ 授業終了:平成 18 (2006) 年 7 月 31 日 (月)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	河 内	漢字 F	藤 田	中級読解*	太 田
	C2	櫻 田	B	河 内		
	コミュ上	峯	漢字 D	太 田		
			コミュ下	長 野		
	AA	山 口	AA	山 口		
火	B	寺 下	A	深 川		
	E	小 西	D	一 瀬		
	初級読解*	芹 木	C1	寺 下		
			F	島		
	AA	深 川	AA	小 西		
水	レポート*	ルチラ	F	峯		
	C2	浅 野	C1	浅 野		
	A	苗 田	E	島		
	D	長 野	B	苗 田		
	AA	山 口	AA	三 浦		
木	コンピュータ	岡 沢	講義聴解	太 田		
	作文*	長 野	上級読解*	三 浦		
	漢字 B	河 内	A	峯		
	口頭発表*	峯	漢字 C	一 瀬		
	AA	笹 原	AA	笹 原		
金	E	古 本	C2	笹 原		
	C1	笹 原	漢字 E	早 川		
	D	早 川	F	櫻 田		
	B	敷 田	A	敷 田		
	AA	苗 田	AA	三 浦		

【宝町キャンパス】医学部補講：櫻田（火曜 1 限），越野（木曜 1 限）

【平成 18 年度秋学期】

授業開始：平成 18 (2006) 年 10 月 10 日 (火) ～ 授業終了：平成 18 (2007) 年 2 月 9 日 (金)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教 官	クラス	教 官	クラス	教 官
月	A	河 内	漢字 D	太 田	中級読解*	太 田
	B	長 野	漢字 F	藤 田		
	F	峯	初級読解	斎 木		
	AA	山 口	AA	山 口		
火	A	寺 下	B	寺 下		
	E	小 西	C2	笹 原		
	漢字 B	河 内	D	深 川		
	コミュ下	長 野	討論	長 野		
	AA	深 川	AA	島		
水	A	長 野	C2	浅 野		
	B	河 内	D	一 瀬		
	C1	浅 野	F	島		
	レポート*	ルチラ	口頭発表*	峯		
	AA	苗 田	AA	苗 田		
木	コンピュータ	岡 沢	講義聴解*	太 田		
	作文*	長 野	B	早 川		
	C1	笹 原	E	峯		
	A	峯	漢字 C	一 瀬		
	上級読解*	三 浦				
	AA	山 口	AA	三 浦		
金	A	河 内	C1	敷 田		
	C2	敷 田	漢字 E	早 川		
	D	早 川	F	櫻 田		
	E	櫻 田	コミュ上	峯		
	AA	小 西	AA	小 西		

【宝町キャンパス】 医学部補講：櫻田（火曜 1 限），越野（木曜 1 限）

【平成 19 年度春学期】

授業開始:平成 19 (2007) 年 4 月 11 日 (水) ～ 授業終了:平成 19 (2007) 年 7 月 30 日 (月)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室
月	B	河内 /1	A	河内 /1	中級読解*	太田 /9
	E	櫻田 /3	漢字 D	太田 /4		
			F	櫻田 /3		
			初級読解	斉木 /2		
	AA	山口 /11	AA	山口 /11		
火	B	寺下 /1	A	寺下 /1		
	C2	小西 /3	C1	峯 /2		
			D	一瀬 /4		
			E	島 /3		
	AA	三浦 /11	AA	小西 /11		
水	レポート*	ルチラ /7	F	島 /3		
	漢字 B	河内 /3	漢字 C	一瀬 /2		
	A	苗田 /1	口頭発表*	峯 /5		
			B	苗田 /1		
			D	早川 /4		
	AA	笹原 /11	AA	笹原 /11		
木	B	深川 /1	講義聴解	太田 /8		
	C1	敷田 /2	上級読解*	三浦 /10		
	作文*	峯 /4	A	峯 /1		
	コンピュータ	岡沢 /6	C2	敷田 /2		
			漢字 E	早川 /3		
	AA	八木 /11	AA	深川 /11		
金	A	苗田 /1	C2	笹原 /2		
	C1	笹原 /2	D	深川 /1		
	E	小西 /4	漢字 F	藤田 /3		
	F	峯 /3				
	AA	山口 /11	AA	三浦 /11		

【宝町キャンパス】: (櫻田) 火曜 1 限, (越野) 木曜 1 限

【平成 19 年秋学期】

授業開始:平成 19 (2007) 年 10 月 9 日 (火)～授業終了:平成 19 (2008) 年 2 月 12 日 (火)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室
月	A	河内 /1	B	河内 /1	中級読解*	太田 /7
	D	峯 /4	漢字 D	太田 /4		
	E	櫻田 /3	F	櫻田 /3		
			初級読解	斉木 /2		
	AA	山口 /8	AA	山口 /8		
火	A	寺下 /1	B	寺下 /1		
	C2	長野 /4	C1	長野 /4		
	漢 B	河内 /3	D	一瀬 /3		
	AA	小西 /8	AA	小西 /8		
水	B	長野 /1	A	越野 /1		
	C2	苗田 /4	漢字 C	一瀬 /3		
	E	峯 /5	口頭発表*	峯 /5		
	F	八木 /3				
	AA	笹原 /8	AA	苗田 /8		
木	C1	敷田 /3	A	早川 /1		
	漢 E	早川 /1	B	越野 /4		
	作文*	長野 /4	C2	敷田 /3		
	コンピュータ	岡沢 /6	講義聴解	太田 /7		
			上級読解*	三浦 /5		
	AA	八木 /8	AA	八木 /8		
金	C1	笹原 /1	A	峯 /1		
	D	早川 /2	漢字 F	藤田 /3		
	E	小西 /3	レポート*	ルチラ /5		
	F	峯 /4				
	AA	山口 /8	AA	三浦 /8		

【宝町キャンパス】 医学部補講：櫻田（火曜 1 限），櫻田（金曜 1 限）

【平成 20 年度春学期】

授業開始：平成 20 (2008) 年 4 月 10 日 (木) ～ 授業終了：平成 20 (2008) 年 7 月 29 日 (火)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室
月	A	河内 /1	B	河内 /1	中級読解*	太田 /9
	E	櫻田 /3	C2	長野 /4		
			F	櫻田 /3		
			初級読解	斉木 /2		
	AA	敷田 /8	AA	八木 /8		
火	A	寺下 /1	B	寺下 /1		
	C2	笹原 /4	C1	深川 /10		
	漢 B	河内 /3	D	笹原 /3		
	口頭発表*	峯 /5				
	AA	深川 /8	AA	小西 /8		
水	A	峯 /1	B	長野 /1	クラス	教員 / 講義室
	C1	長野 /2	C2	苗田 /3		
	漢 D	太田 /4	D	一瀬 /9		
	漢 E	八木 /3	F	八木 /4		
	AA	苗田 /8	AA	(三浦) /8		
木	C1	笹原 /3	A	山口 /1	日本事情**	岡沢 /1
	E	深川 /1	漢 C	一瀬 /9		
	作文*	長野 /9	講義聴解	太田 /7		
	コンピュータ	岡沢 /6	上級読解*	三浦 /5		
	AA	敷田 /8	AA	笹原 /8		
金	D	櫻田 /1	A	小西 /1		
	E	小西 /3	B	山口 /4		
	F	峯 /4	漢字 F	藤田 /3		
			レポート*	ルチラ /5		
	AA	山口 /8	AA	三浦 /8		

【宝町キャンパス】

下クラス：火曜 1 限 (深澤)，木曜 1 限 (峯)

上クラス：月曜 1 限 (越野)，水曜 3 限 (越野)

【平成 20 年度秋学期】

授業開始:平成 20 (2008) 年 10 月 8 日 (水) ～ 授業終了:平成 21 (2009) 年 2 月 12 日 (木)

【角間キャンパス】

曜日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)		4 時限 (14:45 ～ 16:15)	
	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室
月	B	河内 /3	A	田中 /1	中級読解*	太田 /5	討論**	三浦 /9
	C1	田中 /2	F	櫻田 /3				
	D	峯 /4	漢 D	太田 /4				
	E	櫻田 /1	初級読解	斉木 /2				
	AA	八木 /8	AA	八木 /8	4 時限 (14:45 ～ 16:15)			
火	A	寺下 /1	B	寺下 /3	火		クラス	教員 / 講義室
	C1	深川 /3	E	小西 /4			専門読解***	太田 /4
	C2	笹原 /4	F	峯 /2				
			漢 C	一瀬 /1				
	AA	小西 /8	AA	深川 /8				
水	A	笹原 /1	B	河内 /3				
	F	ルチラ /4	C2	苗田 /1				
	漢 B	河内 /3	D	一瀬 /4				
	漢 E	八木 /2	口頭発表*	峯 /5				
	AA	苗田 /8	AA	三浦 /8	3 時限 (13:00 ～ 14:30)			
木	C1	笹原 /2	A	山口 /1	クラス	教員 / 講義室		
	作文*	太田 (櫻田) /5	C2	小西 /4	専門読解***	深澤 /4		
	コンピュータ	岡沢 /6	講義聴解*	太田 /7				
			上級読解*	三浦 /5				
	AA	三浦 /8	AA	笹原 /8				
金	D	小西 /1	A	峯 /1				
	E	峯 /4	B	田中 /3				
			漢字 F	藤田 /4				
			レポート*	ルチラ /5				
	AA	山口 /8	AA	山口 /8				

【宝町キャンパス】

下クラス:火曜 1 限 (深澤), 木曜 1 限 (峯)

上クラス:月曜 1 限 (越野), 水曜 1 限 (越野)

【平成 21 年度春学期】

授業開始:平成 21 (2009) 年 4 月 10 日 (金) ～ 授業終了:平成 21 (2009) 年 7 月 30 日 (木)

【角間キャンパス】

曜 日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)	
	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室	クラス	教員／講義室
月	A	河内 /1	C1	八木 /3	中級読解*	太田 /9
	E	櫻田 /4	F	櫻田 /4		
	初級読解	彦木 /3	漢字 B	河内 /1		
			漢字 D	太田 /5		
	AA	敷田 /8	AA	敷田 /8		
火	A	寺下 /1	B	寺下 /1		
	C1	長野 /3	C2	笹原 /2		
	D	笹原 /4	E	小西 /4		
			F	ルチラ /3		
	AA	深川 /8	AA	深川 /8		
水	A	敷田 /1	C2	敷田 /2	クラス	教員 / 講義室
	B	長野 /3	D	一瀬 /1	日本事情**	岡沢 /1
	E	峯 /10	口頭発表*	峯 /5		
	AA	笹原 /8	AA	三浦 /8		
木	C1	笹原 /3	A	河内 /1	クラス	教員 / 講義室
	C2	長野 /2	B	田中 /4	専門読解*	深澤 /1
	漢 E	八木 /5	漢 C	一瀬 /3		
	コンピュータ	岡沢 /6	講義聴解*	太田 /7		
			上級読解*	三浦 /5		
	AA	三浦 /8	AA	八木 /8		
金	D	小西 /4	A	峯 /1		
	F	峯 /1	B	八木 /2		
			漢字 F	藤田 /3		
			レポート*	ルチラ /4		
	AA	鶴町 /8	AA	小西 /8		

【宝町キャンパス】

下クラス:火曜 1 限 (深澤), 木曜 1 限 (峯)

上クラス:月曜 1 限 (越野), 水曜 1 限 (越野)

【平成 21 年度秋学期】

授業開始:平成 20 (2009) 年 10 月 8 日 (木) ～ 授業終了:平成 21 (2010) 年 2 月 10 日 (水)

【角間キャンパス】

曜日	1 時限 (8:45 ～ 10:15)		2 時限 (10:30 ～ 12:00)		3 時限 (13:00 ～ 14:30)		4 時限 (14:45 ～ 16:15)	
	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室	クラス	教員 / 講義室
月	D	峯 /A2	A	峯 /A2	中級読解*	太田 /B2	討論**	三浦 /B10
	E	櫻田 /B5	C1	八木 /A3				
	初級読解	斉木 /A3	C2	苗田 /B5				
			F	櫻田 /C11				
	AA	鶴町 /D13	AA	鶴町 /D13	4 時限 (14:45 ～ 16:15)			
火	A	寺下 /A2	B	寺下 /A2	火		クラス	教員 / 講義室
	C2	笹原 /C11	D	深川 /A3			専門読解***	太田 /C11
	漢 B	河内 /A3	E	小西 /B5				
			F	櫻田 /C11				
	AA	深川 /D13	AA	苗田 /D13				
水	C1	鶴町 /A3	A	河内 /A2				
	E	峯 /A2	B	田中 /A3				
			口頭発表*	峯 /B11				
	AA	笹原 /D13	AA	三浦 /D13	3 時限 (13:00 ～ 14:30)			
木	C1	笹原 /A3	A	田中 /A2	クラス	教員 / 講義室		
	漢 D	太田 /B2	B	笹原 /B14	専門読解*	深澤 /A3		
	コンピュータ	岡沢 /メディア 基盤センター	漢 C	一瀬 /A3				
			講義聴解*	太田 /D14				
			上級読解*	三浦 /B11				
	AA	三浦 /D13	AA	八木 /D13				
金	A	河内 /A2	B	八木 /B14				
	C2	鶴町 /A3	D	小西 /A2				
	F	峯 /C11	漢字 F	藤田 /A3				
	漢 E	八木 /B5	レポート*	ルチラ / B11				
	AA	小西 /D13	AA	三浦 /D13				

【宝町キャンパス】

下クラス:火曜 1 限 (深澤), 木曜 1 限 (峯)

上クラス:月曜 1 限 (越野), 水曜 1 限 (越野)

3. 1. 1. 4 評価方法・成績

a. 単位の認定

総合コースでは、すべての開講科目において成績評価と合格・不合格の判定を行っている。総合コースの授業は単位としては認定されないで、合否の判定は学生が次のレベルに進級できるかどうかを決定するために行われる。

金沢大学と短期の交換留学の協定を結んでいる協定校の中には、総合コースの授業を単位として認定している大学もあるので、その場合は学生の必要に応じて受講証明書や成績証明書を発行している。

b. 合格の条件（出席について）

合格するためには、登録しているクラスの全授業日数の3分の2以上に出席することが必要である。ただし、留学生センターが正当と認める理由によって十分な出席が出来なかった場合は、出席が3分の2未満でも、総合的に合格点に達すれば合格できる場合がある。30分以上の遅刻3回は1回の欠席、45分以上の欠席2回は1回の欠席と見なされる。以上の取り決めについては、日本語版・英語版・中国語版を作成・配布して学生に周知徹底を図っている。

c. 成績評価と合格判定

成績評価は、「出席点」「平常点」（小テスト、宿題などの提出物、授業中のクラス活動への参加度など）「定期試験」（中間試験と期末試験）によってなされる。この三つの基準の総合評価における割合は原則次の通りである。

＜通常クラスA～Dレベル／漢字クラス＞

出席点：平常点：定期試験＝10：20：70

＜通常クラスE・Fレベル／技能別クラス＞

出席点：平常点：定期試験＝10：30：60

技能別クラスにおいては、その教授内容の特性に応じて、割合を変えている場合もある。上記のように算出された総合得点は、次のように評価・判定される。

総合得点	評価	判定
90 以上～ 100	S	合格（次学期は一つ上のレベルに進級できる。ただし、B から進級する場合だけは、C2 に飛び級することが認められる場合がある。）
80 以上～ 90 未満	A	
70 以上～ 80 未満	B	
60 以上～ 70 未満	C	
0 ～ 60 未満	D	不合格（次学期は現在のレベルから受講する）

3. 1. 1. 5 問題点とそれに対する取り組み

a. クラス数削減の取り組みとクラス編成の見直し

平成 14 年度秋学期から平成 21 年度秋学期までの取り組みとしては、非常勤講師予算の削減に伴うクラス数およびクラス編成の改編があった。国立大学の国立行政法人化以来、常に非常勤講師によるクラス数の削減が求められてきたが、プログラム全体のレベルを落とすことのないように努力してきた。

まず、平成 15 年春学期から、それまで総合コースとは別に提供してきた共通教育（旧教養教育）言語科目の日本語 B をやめ、総合コースの技能別クラスのいくつかを「日本語 B」として学部留学生に開放することとした。学部向けであるため、D レベル（中級後半）以上のクラスである、作文、聴解、口頭発表、レポート作成、それに新たに上級および中級読解クラスを設けた。それまでの日本語 B は、読解中心の授業になっていたため、結果的に学部留学生に多様なクラスを提供することが出来るようになった。

平成 15 年秋学期には、工学部が小立野キャンパスから角間キャンパスに移転し、小立野キャンパスでの通常クラスが必要なくなった。しかしすべてのコマを削減せずに、週 1 回の通常クラス（C2 および D レベル）に転用した。ある程度の学生が受講し、ニーズはあると思われたが、これもさらなる削減が求められ、結局週一回の通常クラスは、平成 18 年秋学期を以て姿を消した。

しかし、決してコマ数削減にのみ取り組んだわけではなく、クラス編成の効率化、更なるニーズへの対応にも尽力した。総合コースに日本文化そのものを学習対象にしたクラスがなかったこと、また、日本語での質疑応答能力を向上させたいというニーズがあることを踏まえ、平成 18 年度秋学期から技能別クラスとして「討論クラス」を始め⁵、平成 20 年春学期からは共通教育のテーマ別科目であった日本事情 I および II を、総合コースの上級レベルクラスとして総合コースの受講生に開放した（前期：日本事情⁶、後期：討論として開講）。

また、小立野キャンパスでの総合コースが無くなったことにより、医学部補講ができたことは上述の通りだが、平成 20 年度春学期からは、国際学類の専任教員の授業提供を受けることができ、医学部補講は週 2 回だけのクラスから、週 2 回のクラスを 2 レベルで開講することが出来るようになった（医学部上クラス・下クラスの開講）。また、平成 20 年度秋学期からは、医学部でご協力いただいている国際学類の教員の日本語 B を総合コースとしても開講していただけることとなった（専門読解）。

このようにクラス数の削減に努める傍ら、学生のニーズに少しでも応えられるよう努力している⁷。

5 この授業は担当教員の健康状態のため、この学期だけの開講となった。

6 クラス数削減のため、もともとの「討論」クラスが無くなったが、日本事情 II のクラスは討論の要素があったため（留学生と日本人学生のディスカッション中心の授業だった）、共通教育としては「日本事情 II」だが、総合コースとしては「討論」クラスとして開講することにした。

7 しかし、平成 21 年度秋学期からは、大学の方針から留学生数が急増することとなり、平成 22 年度からは逆に、クラス数の増加、クラス編成の多様化が図られることとなった。これについては次回の自己点検で評価をしたい。

b. レベル設定の問題

前回の自己点検で、コースの当初の計画と実際の学生のニーズに多少の違いがあるとの記述があった。総合コース設立当初は、最終的な到達目標が日本語能力試験の2級合格程度となっていたが、現実には2級や1級取得者も上級に在籍している。このことを踏まえ、現在では目安としてEレベルを2級程度、それ以上をFレベルというように設定している。ただし年度によりレベルが多少上下する（クラスの人数の調整をするため）。

c. ニーズの異なる学生の混在による問題点

学生のニーズの違いは、さまざまなプログラムの学生と一緒に教えるという総合コースの性質上、避けることは出来ない。ニーズの違う学生が混在する教室の様々な問題の解決のために工夫していることは、チームティーチングをしている教師間の連絡の緊密化である。つまり、

- 1) チームティーチングで、つまり複数の教員が連携して授業を担当することで、学生の抱える問題の見落としを防ぐ。
- 2) 学期の前後に行う、打ち合わせ会や反省会の実施、授業後の報告などで常勤・非常勤の教師間の情報の共有を図る。

という工夫を行っている。このことは、それぞれの教師にとってはかなりの負担になるという負の側面も持っている。現在は個々の教師の負担の上に総合コースが運営されているが、平成21年度後期から学生数が急増していることもあり、個人の努力に頼るという方法⁸でなく、システムとしてうまく運営していく方策を考えなければならないと考えている。

d. プレースメントテストの問題

プレースメントテストの内容については上述(3.1.4.1 e.1)の通りであるが、一つの問題点は、この形式のテストに慣れていない学生が、実力を発揮できない場合があるということである。特に、欧米の学生にこの傾向があるように思われる。総合コースの教科書準拠の問題が出されているため、漢字の多さに戸惑うようである。とはいえ、総合コースで勉強していくことを考えるとこの形式を大幅に変えることも適当ではないように思われる。そこで、来日前に多少なりともこの形式に慣れてもらうため、また出来れば来日前に、多少なりともレベルについてのデータを得るために、試験的に渡日前プレースメントテストを作成した⁹。

これまでのところ、来日後の学生の実力診断の補助に使ってテストのレベルを確認している段階であり、まだ当初予定したとおりの使い方では使用していない。

また、今後学生数が増えていくことが予想される中、これまでのような記述式では採点に

8 この問題について、詳しくは、峯正志・長野ゆり（2010）「留学生センター「総合日本語コース」の日本語教育——チームティーチングによるコース運営を中心として——」金沢大学留学生センター紀要第13号を参照のこと。平成22年度春学期からは、学生のコースへの登録、教師間の連絡等がすべてオンライン履修登録システムで行われることとなり、事務的な面でかなり負担が軽減されたことをここに付記する。

9 内容の詳細については、太田亨（2008）「ディジタル版自己診断型「渡日前日本語診断テスト」制作について」金沢大学留学生センター紀要第11号を参照のこと。

非常に手間がかかるという問題点もあり、今後も見直しが必要である。

e. 医学部補講

医学部補講における問題点は、以下の2点である。

まず最も大きい問題は、来日する学生の日本語レベルが様々なものにも関わらず、当初は1レベル、現在でも2レベルしかないため、クラスのレベル設定が困難であることである。学期前にその学期に受講が予想される学生のレベルを予想し、予めクラス編成を考えるが、学期が始まってから予想と異なるレベルの学生が現れたりしてクラス編成を改めたこともあった。1レベルの時は複式授業方式を採ることもあったが、2レベルになってからは複式授業を取ることはしなくなったが、レベルの違いから受講を諦める学生がいることも確かである。

これに対する取り組みとして、医学部の事務の協力を仰いで、事前に来れるだけ多くの（限界はあるものの）学生の日本語能力に関するデータを収集しクラス編成を行ったことがあげられる。多少は改善したものの問題の解決には至っていない。

もう一つの問題は（これも学生のレベルの問題だが）、2レベルの授業しか開講できないことである。実際には医学部でも少なくとも4レベル程度（角間キャンパスにおけるA～C2レベルまで）は必要ではないかと考えているが、これ以上のレベル設定は物理的に不可能である。これに対する取り組みとしては、国際学類との連携がある。国際学類の教員には毎学期1コマ授業を提供していただいているが、国際学類の日本語教育主専攻の意欲ある日本人学生にも、教員の指導の下、留学生への日本語指導を手伝って貰っている。開講されたクラスが自分のレベルに合わないといって諦める留学生もいるが、どうしても（例えレベルが多少合っていないくても）授業に出たいという留学生が毎学期一人二人は出てくる。そのような学生に対して、日本人学生が手助けをしているのである。手伝って貰っている学生は少なくとも学部4年生以上で、事前に教案を作成しそれを医学部補講担当の教員がチェックし助言を与えた後、留学生の指導をする。年の近い日本人学生の指導は、留学生にとっても新鮮なものようである。また、日本人学生にとっても自分の専攻の勉強に非常に役に立っている。現在では希望する日本人学生だけに依頼しているが、この方法をもっと系統的に発展させていく可能性もあると思われる。

（峯 正志）

3. 1. 2 大学院入学前予備教育（日本語研修コース）

第15期（平成14（2002）年度後期）より第29期（平成21（2009）年度後期）について報告する。¹⁰

本コースは、平成7（1995）年10月に第1期を開始し、独立法人化初年の平成16（2004）年度前期（第18期）に従来のシステムを変更し、それ以降も適宜改良を加えた。システム

¹⁰ 第1期から14期までは自己点検評価2003で報告した。

の主な変更点をここに記す。

a. 参加資格

平成 16（2004）年度（第 18 期）より参加資格の枠を広げた。従来のコース正規生（大使館推薦の国費研究留学生と教員研修留学生）に加え，大学推薦の国費研究留学生，私費研究留学生，短期交換留学生（KUSEP），及びその他センター長の認めた者も受け入れることとした。平成 16 年度 18 期，平成 17 年度 20 期，平成 18 年度 22 期には，社会人留学生（韓国全羅北道道庁より石川県庁に派遣された課長職）も受け入れた。

b. 一般日本語と専門日本語基礎

枠を広げて受け入れた学生のために，一般日本語（午前の 2 コマ）を必修，それ以外の授業（午後の授業）を選択性とした。コース正規生は，空手実習以外の全ての科目を，従来通り必修とした。

c. 一般日本語演習の内容と密度

平成 16（2004）年度後期（19 期）からは，一般日本語演習の時間数削減に伴い，その内容と密度も薄くせざるを得なくなった。即ち，応用タスク練習，漢字，読解，作文にかける時間数を減らした。

d. 午前の一般日本語：初級日本語集中クラス（A A クラス）第 20 期より

第 20 期（平成 17（2005）年度前期）より，上記午前 2 コマの一般日本語授業を「総合日本語コース」から出すことになった。従来，本コースは，総合日本語コースとは別立てのプログラムを出し，コース生全員に対し 1 日 3 ないし 4 コマ，週 5 日の必修（週 18 から 20 コマ必修），1 学期 17 週間を課していた。変更後は，一般日本語授業の部分が総合日本語コースに組み入れられ，1 日 2 コマの「初級集中コース（A A クラスとよぶ）」として，15 週間の日本語授業が行われるようになった。学内公募で学生を募る。この初級集中クラス（A A クラス）には，従来のコース生も A A クラスのみを履修する学生も出席する。午前の 2 コマを使う。

e. 午後の専門日本語基礎

第 20 期（平成 17（2005）年度前期）より，午後はコース正規生のためのアカデミックジャンプに特化した。即ち，「専門への橋渡しとしての口頭研究発表プロジェクト」，コンピュータクラス，日本人学生との協働クラス（VOTAK），日本語のブラッシュアップ（作文，会話，ビデオクラス等）である。

f. 非常勤講師料削減

従来は、17 週間を専任と非常勤で担当していたが、非常勤講師と専任教員がチームで担当するのは15 週間のみとし、その後約2 週間をコース正規生のための「専門への橋渡しとしての口頭研究発表プロジェクト」として、1 日3 から4 コマを専任教員のみが担当する。これにより、専任教員の負担が増えたが、15 期以前の実績と比べて非常勤講師料が一学期につき二週間分削減された。

また、毎日の授業コマ数自体の削減も行った。18 期までは1 日4 コマ（火曜日は選択科目空手実習を入れて5 コマ）、一週間で21 コマを標準としていたが、19 期からは1 日3 ～4 コマ、一週間で16 ～18 コマとした。

3. 1. 2. 1 コース概要

a. 対象

本コースは、当初は修了後本学及び石川¹¹県の大学院に配属される国費外国人留学生を主たる対象とし、コース修了後大学院に進学する学生が研究活動を行うための基礎力をつけるためのコースであったが、3.1.1 のaで示したように、参加資格枠を広げた。

対象者の日本語力は、大半の者は日本語学習歴が全くないか初歩のレベルで来日する。すでに中級以上のレベルに達していると認められた者は、留学生センター総合日本語コースでの日本語学習、あるいは進学予定研究科等への直接進学が認められる。

初級クラス修了時の日本語力は、初級修了程度である。修了者の約半数が日本語能力試験3 級模擬試験に合格した実績をもつ。日本語学習を続ける者は、総合日本語コースのプレースメントテストを受け、成績が良ければ初中級レベル（C 1 クラス）以上に進む。成績のよくなかった者は初級後期レベル（B クラス）に入る。

b. クラス・定員・開講時期

毎年4 月と10 月に新たなコースが開講される。開講期間は、前期は4 月から9 月、後期は10 月から3 月の各6 ヶ月（17 週間）である。コースの定員は30 名であるが、実績は、4 名から15 名である。

3. 1. 2. 2 カリキュラム

a. 科目

i) 初級クラス 平成14（2002）年後期（15 期）～平成16（2004）年前期（18 期）

この時期の初級クラスは月曜日から金曜日まで週5 日、17 週間、1 日3 コマから4 コマ（1 コマは90 分）、午前8 時50 分から午後4 時までであった。1 週間あたりの授業の内訳は、以下のとおりである。

11 近隣県に留学生センター設立される前は、それらの県の大学院進学予定者も本留学生センターが引き受けていた。

初級 平成 14 (2002) 年 後期 (15 期) 平成 15 (2003) 年 前期 (16 期)
 平成 15 (2003) 年 後期 (17 期) 平成 16 (2004) 年 前期 (18 期)

科目名	必修／選択	コマ数／週 (1 コマは 90 分)
初級日本語演習	必修	15 コマ (内 1 コマは試験) 22.5 時間
コンピュータ演習	必修	2 コマ 3.0 時間
口頭発表プロジェクト (専門への橋渡し)	必修	2 コマ 3.0 時間
日本人学生との共同活動 VOTAK	必修	1 コマ 1.5 時間
空手実習	選択	1 コマ 1.5 時間
		計 21 コマ 31.5 時間

初級 平成 16 (2004) 年 後期 (19 期)

週 10 コマ (15 時間／週) の必修日本語科目と、6 コマ (9 時間／週) の選択科目とした。¹²

科目名	必修／選択	コマ数／週 (1 コマは 90 分)
初級日本語演習	必修	10 コマ (内 1 コマは試験) 15 時間
コンピュータ演習	選択	2 コマ 3.0 時間
ビデオ・会話演習	選択	1 コマ 1.5 時間
自主研究 (専門への橋渡し)	選択	1 コマ 1.5 時間
日本人学生との共同活動 VOTAK	選択	1 コマ 1.5 時間
空手実習	選択	1 コマ 1.5 時間
		計 16 コマ 24 時間

初級 平成 17 (2005) 年 前期 (20 期) 平成 17 (2005) 年 後期 (21 期)
 平成 18 (2006) 年 前期 (22 期) 平成 18 (2006) 年 後期 (23 期)
 平成 19 (2007) 年 前期 (24 期) 平成 19 (2007) 年 後期 (25 期)
 平成 20 (2008) 年 前期 (26 期) 平成 20 (2008) 年 後期 (27 期)
 平成 21 (2009) 年 前期 (28 期) 平成 21 (2009) 年 後期 (29 期)

¹² 2004 年後期 (第 19 期) は、正規の研修コース生数がゼロであったため、留学生センター教員会議の議を経て、大学推薦の研究留学生と短期プログラム (KUSEP) 学生を受け入れ、カリキュラムの変更を行った。即ち、日本語クラスは午前中の 2 コマのみ (必修) とし、その他の授業を午後に行い、選択科目とした。

1 週間の授業の内訳は、学期によって多少の変化はあるが、ほぼ以下の要領で行った。

科目名	必修／選択	コマ数／週（1 コマは 90 分）	
初級日本語演習	全員必修	10 コマ（内 1 コマは試験）	15 時間
コンピュータ演習	AA クラス生は 選択	2 コマ	3.0 時間
ビデオ・会話演習	AA クラス生は 選択	1 コマ	1.5 時間
作文演習	AA クラス生は 選択	1 コマ	1.5 時間
コミュニケーション会話演習	AA クラス生は 選択	1 コマ	1.5 時間
口頭発表プロジェクト （専門への橋渡し）	AA クラス生は 選択	1 コマ	1.5 時間
日本人学生との共同活動 VOTAK	AA クラス生は 選択	1 コマ	1.5 時間
空手実習	全員選択	1 コマ	1.5 時間
		計 18 コマ	27 時間

ii) 中級クラス 2003 年前期（研修コース 16 期）のみ

中級クラスの人数は少ない。日本語授業を総合日本語コースで受講するが、日本語以外の授業に関しては、初級クラスに合流する。また、指導教官の許可があれば専門課程の授業にも個別に出席できる。

科目名	必修／選択	コマ数／週（1 コマは 90 分）	
中級日本語演習	必修	1 コマ～5 コマ	1.5 ～ 7.5 時間
コンピュータ演習	必修	2 コマ	3.0 時間
口頭発表プロジェクト （専門への橋渡し）	必修	2 コマ	3.0 時間
日本人学生との共同活動 VOTAK	必修	1 コマ	1.5 時間
空手実習	選択	1 コマ	1.5 時間
		計 7 ～ 11 コマ	10.5 ～ 16.5 時間

b. 授業内容と達成目標

日本語研修コースにおける各科目の授業内容は以下のとおりである。

i) 初級日本語演習

目標：基礎的な聞く・話す・読む・書く力と同時に現実場面での運用力を養成する。

内容：文法解説，文型練習，応用タスク練習，会話練習，仮名・漢字，発音練習，ディクテーション，視聴覚演習，読解演習，作文演習など。

ii) 中級日本語演習

目標：基礎日本語力を土台に、やや高度な文型、語彙・表現を使った、聞く・話す・読む・書く力と同時に現実場面での運用力を養成する。

内容：文型練習、会話練習、視聴覚演習、読解演習、作文演習など。

iii) コンピュータ演習

目標：日本語の各種ソフトを使ったコンピュータ操作能力を養成する。

内容：Microsoft Word を使った日本語ワープロ、Excel を使った表計算・グラフ作成、統計ソフトを使った統計解析、インターネットなどからのデータ取り込み、Power Point を使った発表用スライド作成など。作文授業や口頭発表プロジェクトと連動している。

iv) プロジェクト専門への橋渡し：口頭研究発表プロジェクト

目標：専門分野での活動の練習として、初級日本語を駆使した調査・研究を行い、発表する。

内容：各人の興味あるテーマを決め、日本人にアンケート調査をし、そのデータをパソコンを使って分析し、それを研究発表の形で対外に発表できるようにまとめ、Power Point を使って個別に口頭発表（修了発表）を行う。その後、発表したものをまとめ、写真を添えて、コース生が編集し文集を作る。

本コースでは、このプロジェクトを第1期以来続け、内容に改善を加えてきた。本プロジェクトは、単なる「日本語でスピーチする」ものとは異なる。狙いは、専門課程での研究に役立つ方法論を学生が身につけることである。（国・専門による差はあるが、概して発展途上国の大学の研究のあり方は日本のそれと大きく異なる。）そのため、敢えて初級の段階からこのようなプロジェクトを行い、テーマの決定・調査・分析・口頭発表の方法を、学生のレベルに合わせて丁寧に指導している。

平成18（2006）年には、それまでの口頭発表プロジェクト指導の成果を市販の教科書として出版し、¹³ 授業で使用している。

v) ハイブリッド・ドラマプロジェクト（15期）

研究発表に不慣れな教員研修生が多い後期には、単独で研究発表する口頭発表プロジェクトよりも、集団で行うドラマプロジェクトを、第9期、11期、13期、15期と行った。¹⁴ これは、日本語と日本事情を楽しく学びながら、同時に専門への橋渡しとなる集団

13 『アカデミック・プレゼンテーション入門 - 最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための』、三浦香苗、岡沢孝雄、深澤のぞみ、小林・ヒルマン・恭子、ひつじ書房、2006

14 9、11、13期のドラマプロジェクト発表については、自己点検評価1『金大キャンパスの国際化を考える』で詳しく述べた。15期より後は、教員研修生の数が減ったため、個別の研究発表を再開した。

発表である。すなわち、日本語力中級の者が上記の口頭発表プロジェクトの要領で研究し発表するが、初級の者はその発表の一部として発表を補完するかたちで寸劇を演じる。日本事情の研究と報告、そして動作や表情を含んだ日本語の表現が一体となって、ひとつの発表を構成することになる。その意味で、研究報告と舞台表現とを有機的に統合したものである。舞台表現としては登場人物の生き生きとした表現力が求められる「喜劇」とするとともに、日本の家族像をメインテーマとすることから、研究の素材として『サザエさん』をはじめとした漫画の諸場面を用いることで興味を増すように配慮した。

vi) 日本人学生との共同活動（VOTAK 活動）：

目標：研修生と日本人学生が互いに世界に対する知識を広げ、深めることによる異文化理解を目的とする。それと同時に、交際の範囲の狭いコース生が一般日本人学生と会話することによる日本語力の向上も期待される。また、日本人学生は、その多くが日本語教育主専攻の学生であるため、初級日本語学習者の言語活動の特徴に触れることは、非常に有益である。

内容：日本人学生が企画した「日本文化紹介」、コース生の「私の国」発表、「私の国の言葉」授業、両者で決めたテーマについての日本語と英語によるディスカッション。

vii) 空手実習

目標：日本の武道を体験し、武道の精神と日本らしさを身に付け、身体を鍛える。運動不足の解消も兼ねる。

内容：空手の初歩から実習する。

その他の活動

viii) 1 日アクティビティー（着物体験とインタビュー調査） 14 期から 24 期まで

目標：着物を着て日本文化を肌で感じる。

教室外で一般市民にインタビューすることにより、日本語の練習をし、見聞を広める。

内容：加賀友禅会館で和服を着る。和服を着ない者は友禅染めを作る。兼六園で複数の観光客にインタビューする。インタビューの内容は、自分で考えた質問をして、答えてもらい、聞き取るというものである。そして、大学に戻って、その結果をまとめ、発表する。

ix) 研究室訪問 (2004 年前期 (18 期) のみ)¹⁵⁾

目標：日本語力を駆使して、日本語で専門的な内容に関する会話をする。

内容：専門課程の研究室へ赴き、教員や学生から日本語による研究内容の説明を受け、質問する。ゼミに参加して、英語または日本語で意見を述べる。

viii) 課外活動：五箇山・白川郷、加賀時代村観光等

目標：世界遺産である白川郷、江戸時代の町を再現した時代村を訪ね、日本文化に触れ、楽しみ、クラスメートと日本人学生 (VOTAK) との親睦をはかる。

内容：大学のバスで 1 日を使って出かける。後日、日記風の感想文を書く。

c. 使用教材

日本語研修コースにおける教材・機器の使い方には次の特徴がある。

- ・「初級日本語演習」は主教科書に沿って行うが、主教科書は文法・文型に主眼がおかれているため、副教材または自主教材を使って運用 (コミュニケーション) 力を養う練習を補っている。漢字、作文、読解、視聴覚にもそれぞれふさわしい教材を選んで使用する。
- ・主教科書を補うために副教材も多く使う。市販されている教科書や教材、大学等教育機関作成のもの、自作教材などを組み合わせて使用する。
- ・「中級日本語演習」には学生のレベルと傾向と要望に応じた担当教師の手作り教材、または学生が希望する専門書を使用する。
- ・「プロジェクトワーク」(口頭研究発表プロジェクト)「コンピュータ演習」「発音練習」には、独自に編纂した教科書・教材を使用する。

以下は、使用した教科書・教材である。

初級主教科書 第 15 ～ 29 期

『みんなの日本語』, 海外技術者研修協会, スリーエーネットワーク, 1999

初級漢字教科書 第 15 ～ 29 期

『基本漢字 500』加納千恵子他, 凡人社, 1989

口頭発表プロジェクト教科書 第 15 ～ 17 期

『5 ヶ月で口頭発表試作版』三浦ほか, 金沢大学留学生センター, 1998

口頭発表プロジェクト教科書 第 18 ～ 22 期

『日本語学習者のためのアカデミック・プレゼンテーション入門』(試作版), 三浦香苗, 岡沢孝雄, 深澤のぞみ, 小林・ヒルマン・恭子, 2004

口頭発表プロジェクト教科書 第 23 ～ 29 期

15) 2004 年前期 (18 期) は、コース生の日本語力が高めであったため、コース後半に、研究室訪問を試みた。工学部 (中山謙二教授), 理学部 (廣瀬幸雄教授) の研究室を訪問し、日本語で話すことができた。経済学部 (堀林巧教授) ではゼミに参加した。このゼミは留学生と日本人が参加するもので、英語と日本語の二ヶ国語が使われ、コース生も内容に対するコメントを述べることができた。

『アカデミック・プレゼンテーション入門－最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための』, 三浦香苗, 岡沢孝雄, 深澤のぞみ, 小林・ヒルマン・恭子, ひつじ書房, 2006

発音練習用教材

『金沢大学留学生センター発音教材』三浦香苗・小西光子・敷田紀子, 金沢大学留学生センター, 2004

d. 使用機器

ほぼ毎時間, テープレコーダー, CD/DVD プレーヤー, ビデオ, O H C (実物投影機), パソコン, プロジェクターなどを駆使した授業を行っている。また, コンピュータ演習, 作文などの時間には教室から無線LANに接続して, インターネットからの情報や画像の取り込み, web 上の辞書や添削ソフトの使用なども指導している。

コース生にはコース中, ノートパソコンを貸与する。

3. 1. 2. 3 教育活動実績

授業時間: (第 15,16,17,18 期は同様)

1 限目	8:50-10:20
2 限目	10:30-12:00
3 限目	12:50-14:20
4 限目	14:30-16:00

a. 第 15 期: 平成 14 (2002) 年 10 月～平成 15 (2003) 3 月

開講期間: 2002.10.10 (木) ～ 2003.3.7 (金)

修了発表 (ドラマ発表): 2003.3.4 (火)

冬季休暇: 2002.12.24 (火) ～ 2003.1.9 (木)

講義室は, 大学教育開放センター 2 階 講義室

	1 限目 8:50-10:20	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:40-16:10	5 限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	
火	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (* 小西光子)	ビデオ & 会話 (* 苗田敏美)	空手演習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習試験 (隔週) (* 山口実千代)	日本語演習文法講義 (隔週ドラマ) (三浦香苗)	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本人学生との 協働活動 VOTAK (* 山口実千代・三浦香苗)	
木	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 島弘子)	日本事情 (* 島弘子)	
金	ドラマ (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (太田亨)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

a. 第 16 期： 平成 15（2003）年 4 月～ 9 月

開講期間：2003.4.10（木）～ 2003.9.12（金）

修了発表：2003.9.9（火）

夏季休暇：2003.8.1（金）～ 2003.8.31（日）

曜日	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	
月	初級日本語演習 （＊山口実千代）	初級日本語演習 （＊山口実千代）	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	コンピュータ演習 （岡澤孝雄）	
火	初級日本語演習 （＊笹原幸子）	初級日本語演習 （＊苗田敏美）	初級日本語演習 （＊島弘子）	初級日本語演習(ビデオ) （＊島弘子）	空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	初級日本語演習 （＊山口実千代）	プロジェクト 専門への橋渡し 三浦・島＊	初級日本語演習 （＊笹原幸子）	日本人学生と の共同活動 VOTAK (三浦香苗)	
木	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	プロジェクト 専門への橋渡し (峯正志)	
金	初級日本語演習 （＊小西光子）	初級日本語演習 （＊小西光子）	初級日本語演習 (峯正志)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)	

＊＝非常勤講師 灰色＝選択科目

b. 第 17 期： 平成 15（2003）年 10 月～平成 16（2004）年 3 月

開講期間：2003.10.9（木）～ 2004.3.5（金）

修了発表：2004.3.2（火）

冬季休暇：2003.12.20（土）～ 2004.1.4（日）

曜日	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	
月	初級日本語演習 （＊笹原幸子）	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	初級日本語演習 （＊笹原幸子）	コンピュータ演習 （岡澤孝雄）	
火	初級日本語演習 （＊苗田敏美）	初級日本語演習 （＊苗田敏美）	初級日本語演習 （＊島弘子）	初級日本語演習(ビデオ) （＊島弘子）	空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	初級日本語演習 （＊山口実千代）	プロジェクト 専門への橋渡し (三浦香苗・＊島弘子)	初級日本語演習 (表現法) （＊山口実千代）	日本人学生と の共同活動 VOTAK (三浦香苗)	
木	初級日本語演習 （＊小西光子）	初級日本語演習 （＊小西光子）	初級日本語演習 （＊敷田紀子）	プロジェクト 専門への橋渡し (峯正志)	
金	初級日本語演習 （＊山口実千代）	初級日本語演習 （＊山口実千代）	初級日本語演習 (太田亨)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)	

＊＝非常勤講師 灰色＝選択科目

c. 第 18 期： 平成 16 (2004) 年 4 月～ 9 月

開講期間：2004.4.7 (水) ～ 2004.9.10 (金)

修了発表：2004.9.8 (水)

夏季休暇：2004.7.30 (金) ～ 2004.8.31 (火)

曜日	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	
月	初級日本語演習 (* 笹原幸子)	初級日本語演習 (* 敷田紀子)	初級日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)	
火	初級日本語演習 (* 苗田敏美)	初級日本語演習 (* 苗田敏美)	初級日本語演習 (* 島弘子)	初級日本語演習(ビデオ) (* 島弘子)	空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	初級日本語演習 (* 山口実千代)	プロジェクト 専門への橋渡し (三浦香苗)	初級日本語演習 (* 島弘子)	プロジェクト 専門への橋渡し (三浦香苗)	
木	初級日本語演習 (* 小西光子)	初級日本語演習 (* 小西光子)	初級日本語演習 (* 敷田紀子)	日本人学生との 共同活動 (三浦香苗)	
金	初級日本語演習 (* 山口実千代)	初級日本語演習 (三浦香苗)	初級日本語演習(作文) (太田亨)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

d. 第 19 期： 平成 16 (2004) 年 10 月～平成 17 (2005) 年 2 月

開講期間：2004.10.8 (金) ～ 2005.2.18 (金)

修了発表：なし

冬季休暇：2004.12.23 (木) ～ 2005.1.5 (水)

特記事項：本来の研修コース生数がゼロで、AAクラス生のみであったため、研究発表を行わなかった。そのため、学期の長さを従来の 17 週でなく、15 週とした。¹⁶

変更事項：午後の授業時間、必修と選択科目

1 限目	8:50-10:20
2 限目	10:30-12:00
3 限目	13:00-14:30
4 限目	14:40-16:10

16 18 期までは、正規のコース生のために「専門への橋渡し：口頭発表プロジェクト」も課程に組み込んだため、1 学期 17 週を必要としたが、19 期は正規のコース生数がゼロであったため口頭発表プロジェクトの必要度が低く、15 週が適当と判断した。

曜日	1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	
月	初級日本語演習 (* 山口実千代)	初級日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)		
火	初級日本語演習 (* 笹原幸子)	初級日本語演習 (* 島弘子)			空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	初級日本語演習 (* 山口実千代)	プロジェクト 専門への橋渡し (三浦香苗)		初級日本語演習(ビデオ) (* 島弘子)	
木	初級日本語演習 (* 小西光子)	初級日本語演習 (* 小西光子)	個別指導 (三浦香苗)	日本人学生と の共同活動 VOTAK (三浦香苗)	
金	初級日本語演習 (* 小西光子)	初級日本語演習 (* 山口実千代)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

e. 第 20 期：平成 17 (2005) 年 4 月～9 月

開講期間：2005.4.11 (月) ～ 2005.9.9 (金)

修了発表：2005.9.7 (水)

夏季休暇：2005.8.2 (火) ～ 2005.8.26 (金)

第 20 期時間割 (第 1 週～第 15 週)¹⁷

	1 限目 8:50-10:20	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:40-16:10	5 限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)		
火	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (三浦香苗)	ビデオ & 会話 (* 島弘子)	コミュニケーション (* 島弘子)	空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験 (隔週) (* 山口実千代)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	タスク (* 苗田敏美)		
木	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	口頭発表プロジェクト (三浦香苗)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
金	日本語演習 (* 小西光子)	日本語演習 (* 小西光子)	作文 (太田亨)	コンピュータ演習 (岡澤孝雄)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

★これ以降、1～2 限は AA クラス (全員必須)、3～4 限はコース正規生必須、AA クラス生選択、5 限は選択。第 16 週と 17 週は 1 限から 4 限まで口頭発表プロジェクト (専任教員のみによる授業)

¹⁷ 第 20 期から 29 期まで

1～2 限は AA クラス (全員必須)、3～4 限はコース正規生必須、AA クラス生選択、5 限は選択。第 16 週と 17 週は 1 限から 4 限まで口頭発表プロジェクト (専任教員のみによる授業)。

f. 第21期：平成17(2005)年10月～平成18(2006)年3月

開講期間：2005.10.6(木)～2006.2.24(金)

修了発表：2006.2.22(水)

冬季休暇：2005.12.23(金)～2006.1.6(金)

第21期時間割(第1週～第15週)

	1限目 8:50-10:20	2限目 10:30-12:00	3限目 13:00-14:30	4限目 14:40-16:10	5限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 小西光子)	日本語演習 (* 小西光子)	ビデオ&会話 (* 島弘子)		空手実習 (ピットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験(隔週) (* 山口実千代)	日本語演習 文法講義(隔週) (三浦香苗)	口頭発表プロジェクト (三浦香苗)		
木	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (* 笹原幸子)	作文 (太田亨)	VOTAK(日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
金	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	コミュニケーション (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

g. 第22期：平成18(2006)年4月～9月

開講期間：2006.4.7(金)～2006.9.8(金)

修了発表：2006.9.6(水)

夏季休暇：2006.7.30(日)～2006.8.31(木)

第22期時間割(第1週～第15週)

	1限目 8:50-10:20	2限目 10:30-12:00	3限目 13:00-14:30	4限目 14:40-16:10	5限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	コミュニケーション (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	
火	日本語演習 (* 深川美帆)	日本語演習 (* 小西光子)	作文 (太田亨)		空手実習 (ピットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験(隔週) (* 山口実千代)	日本語演習 文法講義(隔週) (三浦香苗)	ビデオ&会話 (* 島弘子)		
木	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (* 笹原幸子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	VOTAK(日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
金	日本語演習 (* 苗田敏美)	日本語演習 (三浦香苗)	口頭発表プロジェクト (三浦香苗)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

h. 第23期：平成18(2006)年10月～平成19(2007)年2月

開講期間：2006.10.6(金)～2007.2.23(金)

修了発表：2007.2.21(水)

冬季休暇：2006.12.25(月)～2007.1.13(日)

★今期まで、講義室は大学教育開放センター2階大講義室で行った。

第23期時間割(第1週～第15週)

	1限目 8:45-10:15	2限目 10:30-12:00	3限目 13:00-14:30	4限目 14:45-16:15	5限目 16:30-18:00
月	日本語演習 (*山口実千代)	日本語演習 (*山口実千代)	コミュニケーション (*敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	
火	日本語演習 (*深川美帆)	日本語演習 (*島弘子)	ビデオ&会話 (*島弘子)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 (*苗田敏美)	日本語演習 (*苗田敏美)	日本事情 (*島弘子)	VOTAK(日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 試験(隔週) (*山口実千代)	日本語演習 文法講義(隔週) (三浦香苗)	読解 (*笹原幸子)	作文 (太田亨)	
金	日本語演習 (*小西光子)	日本語演習 (*小西光子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	口頭発表プロジェクト (三浦香苗)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

i. 第24期：平成19(2007)年4月～8月

開講期間：2007.4.6(金)～2007.8.17(金)

修了発表：2007.8.10(金)

★今期より、講義室をD-15(総合教育棟北)またはD-13(総合教育棟北)へ移った。

★今期より、8月上旬に修了発表を行い、中旬に閉講式を行うこととした。

第24期時間割(第1週～第15週)

	1限目 8:45-10:15	2限目 10:30-12:00	3限目 13:00-14:30	4限目 14:45-16:15	5限目 16:30-18:00
月	日本語演習 (*山口実千代)	日本語演習 (*山口実千代)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (三浦香苗)	日本語演習 (*小西光子)	作文 (太田亨)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 (*笹原幸子)	日本語演習 (*笹原幸子)	ビデオ&会話 (*島弘子)		
木	日本語演習 (*八木真生)	日本語演習 (*深川美帆)	会話 (*敷田紀子)	VOTAK(日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
金	日本語演習 試験(隔週) (*山口実千代)	日本語演習 文法講義(隔週) (三浦香苗)	口頭発表プロジェクト (三浦香苗)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)	

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

j. 第 25 期： 平成 19 (2007) 年 10 月～平成 20 (2008) 年 2 月

開講期間：2007.10.5 (金) ～ 2008.2.27 (水)

修了発表：2008.2.21 (木)

冬季休暇：2007.12.25 (火) ～ 2008.1.3 (木)

第 25 期時間割 (第 1 週～第 15 週)

	1 限目 8:45-10:15	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:45-16:15	5 限目 16:30-18:00
月	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 小西光子)	日本語演習 (* 小西光子)	作文 (* 苗田敏美)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 (* 笹原幸子)	日本語演習 (* 苗田敏美)	ビデオ&会話 (* 笹原幸子)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 (* 八木真生)	日本語演習 (* 八木真生)	会話 (* 敷田紀子)		
金	日本語演習 試験 (隔週) (* 山口実千代)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

k. 第 26 期： 平成 20 (2008) 年 4 月～ 8 月

開講期間：2008.4.11 (金) ～ 2008.8.12 (火)

修了発表：2008.8.8 (金)

第 26 期時間割 (第 1 週～第 15 週)

	1 限目 8:50-10:20	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:40-16:10	5 限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 八木真生)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 深川美帆)	日本語演習 (* 小西光子)	口頭発表 (三浦香苗)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 (* 苗田敏美)	日本語演習 (三浦香苗)	ビデオ&会話 (三浦香苗)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 笹原幸子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
金	日本語演習 試験 (隔週) (* 山口実千代)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	作文 (太田亨)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

1. 第 27 期： 平成 20 (2008) 年 10 月～平成 21 (2009) 年 2 月

開講期間：2008.10.6 (月) ～ 2009.2.23 (月)

修了発表：2009.2.19 (木)

冬季休暇：2008.12.23 (火) ～ 2009.1.4 (日)

第 27 期時間割 (第 1 週～第 15 週)

	1 限目 8:45-10:15	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:45-16:15	5 限目 16:30-18:00
月	日本語演習 (* 八木真生)	日本語演習 (* 八木真生)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 小西光子)	日本語演習 (* 深川美帆)	口頭発表 (三浦香苗)	タスク・漢字 (三浦香苗 & TA マシニナ・アナスタシア)	空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験 (隔週) (* 苗田敏美)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	作文 (太田亨)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 (三浦香苗 & TA 渡辺真)	日本語演習 (* 笹原幸子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
金	日本語演習 (* 山口実千代)	日本語演習 (* 山口実千代)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

m. 第 28 期： 平成 21 (2009) 年 4 月～ 9 月

開講期間：2009.4.8 (水) ～ 2009.8.11 (火)

修了発表：2009.8.7 (金)

第 28 期時間割 (第 1 週～第 15 週)

	1 限目 8:50-10:20	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:40-16:10	5 限目 16:20-17:50
月	日本語演習 (* 敷田紀子)	日本語演習 (* 敷田紀子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 深川美帆)	日本語演習 (* 深川美帆)	口頭発表 (三浦香苗)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験 (隔週) (* 笹原幸子)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	ビデオ & 会話 (三浦香苗)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 (* 三浦香苗)	日本語演習 (* 八木真生)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
金	日本語演習 (* 鶴町佳子)	日本語演習 (* 小西光子)	作文 (太田亨)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

n. 第 29 期： 平成 21 (2009) 年 10 月～平成 19 (2010) 年 2 月

開講期間：2009.10.7 (水) ～ 2010.2.23 (火)

修了発表：2010.2.18 (木)

冬季休暇：2009.12.25 (金) ～ 2010.1.3 (日)

第 29 期時間割 (第 1 週～第 15 週)

	1 限目 8:45-10:15	2 限目 10:30-12:00	3 限目 13:00-14:30	4 限目 14:45-16:15	5 限目 16:30-18:00
月	日本語演習 (* 鶴町佳子)	日本語演習 (* 鶴町佳子)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		
火	日本語演習 (* 深川美帆)	日本語演習 (* 苗田敏美)	ビデオ & 会話 (* 深川美帆)		空手実習 (ビットマン・ハイコ)
水	日本語演習 試験 (隔週) (* 笹原幸子)	日本語演習 文法講義 (隔週) (三浦香苗)	コミュニケーション (三浦香苗)	VOTAK (日本人 学生との共同活動) (三浦香苗)	
木	日本語演習 (三浦香苗)	日本語演習 (* 八木真生)	作文 (* 八木真生)	口頭発表 (三浦香苗)	
金	日本語演習 (* 小西光子)	日本語演習 (三浦香苗)	コンピュータ演習 (岡沢孝雄)		

* = 非常勤講師 灰色 = 選択科目

3. 1. 2. 4 履修状況

第15期から第29期までに受け入れた研修コース留学生は、111名である。

以下に、今回の報告を含めて、第一期からの履修者数と内訳を記す。第1期から日本語研修コース履修者数（中上級者、AAクラスを含む）と内訳

学 期		内 訳				
		正規研修コース (大使館推薦)		AA クラス		
		1 研究 留学生	2 教員 研修生	3 研究 留学生	4 短期 KUSEP	5 外部
第 1 期:平成 7 (1995) 年後期	6	4	2			
第 2 期:平成 8 (1996) 年前期	9	9	0			
第 3 期:平成 8 (1996) 年後期	10	3	7			
第 4 期:平成 9 (1997) 年前期	16	16	0			
第 5 期:平成 9 (1997) 年後期	8	2	6			
第 6 期:平成 10 (1998) 年前期	10	10	0			
第 7 期:平成 10 (1998) 年後期	14	8	6			
第 8 期:平成 11 (1999) 年前期	15	15	0			
第 9 期:平成 11 (1999) 年後期	14	7	7			
第 10 期:平成 12 (2000) 年前期	13	13	0			
第 11 期:平成 12 (2000) 年後期	9	3	6			
第 12 期:平成 13 (2001) 年前期	9	9	0			
第 13 期:平成 13 (2001) 年後期	11	6	5			
第 14 期:平成 14 (2002) 年前期	5	5	0			
第 15 期:平成 14 (2002) 年後期	6	0	6			
第 16 期:平成 15 (2003) 年前期	7	7	0			
第 17 期:平成 15 (2003) 年後期	4	2	2			
第 18 期:平成 16 (2004) 年前期	5	4	0	0	0	1
第 19 期:平成 16 (2004) 年後期	10	0	0	4	6	0
第 20 期:平成 17 (2005) 年前期	9	6	0	1	1	1
第 21 期:平成 17 (2005) 年後期	6	4	0	0	2	0
第 22 期:平成 18 (2006) 年前期	6	5	0	0	0	1
第 23 期:平成 18 (2006) 年後期	10	6	4	0	0	0
第 24 期:平成 19 (2007) 年前期	7	3	0	3	1	0
第 25 期:平成 19 (2007) 年後期	13	2	0	6	5	0
第 26 期:平成 20 (2008) 年前期	6	4	0	1	1	0
第 27 期:平成 20 (2008) 年後期	8	0	4	0	4	0
第 28 期:平成 21 (2009) 年前期	4	3	0	1	0	0
第 29 期:平成 21 (2009) 年後期	10	0	1	4	5	0
合 計	260	156	56	20	25	3

3. 1. 2. 5 成績評価

a. 修了要件

以下の修了要件を満たした学生に対しては、修了証明書が授与される。

1. 出席と平常点が良好であること
2. 必修の日本語課目試験に合格すること
3. 学期の修了時に口頭研究発表会で研究成果を（口頭で）発表すること
4. 研究レポートを提出すること

※変更事項 ただし、第19期は、本来の研修コース生がゼロであったため、1と2のみ必須で、3と4は希望者のみとした。

b. 成績評価

初級の成績は、学生の身分によって、二種類の方法のいずれかを採用した。

なお、日本語力中・上級の者は、この基準に当てはまらない。

(1) 16～18期：正規研修コース生

- ・隔週のアチーブメントテスト（口頭、聞き取り、筆記）平均点 250
- ・漢字アチーブメントテスト平均点 50
- ・平常点（出席、宿題提出を含む） 100
- ・口頭発表プロジェクト 150

合計 500 点

A（優）＝ 400～500, B（良）＝ 350～399, C（可）＝ 300～349

※変更事項：全学の動きに連動して、18期からAA評価を加えた。

AA（秀）＝ 450以上, A（優）＝ 400～449, B（良）＝ 350～399,
C（可）＝ 300～349

19期の成績評価には、口頭発表プロジェクトは含まれない。

(2) 19期以降の、正規研修コース生でない者（AAクラス生）

- ・隔週のアチーブメントテスト（口頭、聞き取り、筆記）平均点 50
- ・漢字アチーブメントテスト 平均点 20
- ・平常点（出席、宿題提出を含む） 30

合計 100 点

AA（秀）＝ 90以上, A（優）＝ 80～89, B（良）＝ 70～79, C（可）＝ 60～69

本コースでは、第2期以来、初級集中修了時に過去の日本語能力試験3級を受けさせ、日本語力の一応の目安としている。（これは成績評価には反映させない。）第2期から第29期

までの初級受講者をみると、その半数強（207名¹⁸中106名）が合格ラインを超えている。¹⁹

本報告書で扱う範囲は第15期からであるが、参考までに第1期からの成績評価を示す。
なお、AA（秀）評価を採用したのは、第18期からである。

日本語研修コースの成績一覧（初級者のみ）

学期	初級人数	AA	A	B	C	不合格 / 未修了	日検3級 合格
第1期：平成7（1995）年後期	5		2	1	2		—
第2期：平成8（1996）年前期	9		6	1	2		5
第3期：平成8（1996）年後期	9		7	1	1		7
第4期：平成9（1997）年前期	13		8	5	0		5
第5期：平成9（1997）年後期	7		7	0	0		6
第6期：平成10（1998）年前期	7		3	2	2		3
第7期：平成10（1998）年後期	10		6	1	3		6
第8期：平成11（1999）年前期	11		8	3	0		9
第9期：平成11（1999）年後期	8		7	1	0		6
第10期：平成12（2000）年前期	11		7	1	3		8
第11期：平成12（2000）年後期	6		6	0	0		3
第12期：平成13（2001）年前期	4		2	2	0		2
第13期：平成13（2001）年後期	8		4	3	1		0
第14期：平成14（2002）年前期	5		5	0	0		2
第15期：平成14（2002）年後期	6		3	3	0		0
第16期：平成15（2003）年前期	4		2	2	0		2
第17期：平成15（2003）年後期	3		1	1	1		1
第18期：平成16（2004）年前期	3	1	2	0	0		3
第19期：平成16（2004）年後期	10	3	6	1	0		5
第20期：平成17（2005）年前期	8	2	5	1	0		4
第21期：平成17（2005）年後期	5	2	1	1	1		2
第22期：平成18（2006）年前期	6	2	2	1	0	1*	2
第23期：平成18（2006）年後期	9	4	1	1	2	1*	5
第24期：平成19（2007）年前期	7	2	5	1	0		5
第25期：平成19（2007）年後期	12	1	8	1	0	2	4
第26期：平成20（2008）年前期	5	3	2	0	0		2
第27期：平成20（2008）年後期	8	1	5	1	1		1
第28期：平成21（2009）年前期	4	2	1	1	0		2
第29期：平成21（2009）年後期	9	2	4	2	1		6
合計	212	25	126	38	20	4	106

18 第一期は日本語能力試験模擬試験を実施しなかったため、212-5=207名を合計受講者数として計算した。
また、何らかの都合により模擬試験を受けなかった者も初級合計人数に含まれている。従って、合格する実力をもちながら模擬試験を受けなかった学生は、合格者数に入っていない。

19 授業時間数が十分であった18期までと、19期以降（必須時間も減らした上にAAクラスの者には午後を選択制にした）との間で日本語能力試験3級合格率に差があるかを検定してみたが、有意な差はなかった。

* 正規の研修コース生であったが、一人は一時帰国後の再入国が大幅に遅れ、修了発表ができなかった。もう一人は、持病のため欠席がちで、そのため成績も非常に悪かった。他の未修了者2名は、A Aクラスに入った研究留学生であるが、専門課程の研究が忙しかったため、途中で終了した。

3. 1. 2. 6 修了口頭発表

正規の研修コース生の修了要件として期末の口頭発表を課している。以下に発表のタイトルを期ごとに記す。偶数期は、研究留学生のみの構成であるため、研究発表を行う。奇数期は、研究に不慣れな教員研修生が大半を占めるため、「私の国」のような発表も許可している。また、9、11、13、15期には、ハイブリッド・ドラマプロジェクトを実施し、中上級者が研究を行い、その発表を補完するものとして漫画「サザエさん」等から選んだ寸劇を初級者が演じた。

ほとんどがゼロ初級で来日した者であるが、*印は既習者ないし中級レベルである。

[修了口頭発表タイトル]

- 29期 「中国の伝統的『節』」「私の国ロシアー首都モスクワの今」
- 28期 「英語の映画を見ることと留学の関係」「金大生の卒業後の仕事に関する考え」「学生生活プラン」
- 27期 「モンゴルのゲルの歴史と生活」「フィリピンの動植物」「インドの古い王国 コラプール」「モンゴルのナーダムと正月」
- 26期 *「環境問題に関する知識とゴミの分別の関係」「昼ごはんについての実態調査—金沢の場合」「金大生の生活と生活態度」 *「コンビニフード—金大生の態度と考える」
- 25期 「日本のカップルのお互いの呼び方—金沢の場合」「映画の影響について—金沢の場合」
- 24期 「金大生の英語力に関する自己評価と意見」「大相撲についての意見」「金大生の旅行趣味」「携帯電話の健康への影響に関する意識調査—金沢大学の場合」
- 23期 「金沢の人はどんなスポーツをするか」 *「金大生の美術に関する意識」「金大生はサウジアラビアについて何を知っているか」「金大生の音楽のききかた」「金大生の自由な時間の使い方」「金大生のインターネット利用」「タイへ行きましょう!」「ミャンマー」「ミャンマーという私の国」「東洋の真珠」
- 22期 「金大生の海外旅行への関心に関する調査」「金沢大学に関する学生の評価」「日本人は昆虫についてどのぐらい知っているか」「日本人学生の英語力に関する調査」
- 21期 「金大生の飲酒について」「ハイチ紹介」「金大学部生のケータイ利用」

20 正規の研修コース生には学期の半ばで「私の国」発表を、学期末に修了発表を課している。修了発表は、研究留学生は研究発表を行うが、教員研修生には、「私の国」発表の内容を絞り深めたものを以って修了発表とする。

- 20 期 「金大生は卒業後のことをどう考えているか」「金大生はどんな漫画を読み、どんなアニメを見ているか」「金大の学生と化粧品」「近代の学生の『読む』習慣と勉強との関係」「フリーターに思う」「喫煙と健康に関する金大生の意識」
- 19 期 発表なし（正規の研修コース生がいなかったため）
- 18 期 * 「クラブ活動：グループ、先輩・後輩」「金沢市民のゴミ処理についての調査」「金大生の宗教意識」
- 17 期 「ミャンマーの教育」「ワイヤレス＋高速（ATM）ネットワーク」「フィリピンの基礎教育－クオバディス－どこへ行くのか」
- 16 期 * 「金沢市民の EU ヨーロッパユニオンに関する知識」「金大学部生の勉強のしかた」「日本人は誰といっしょに食事するか」「留学生の存在は日本人学生にとってどんな意味があるか」「大学生活と卒業後の人生の関係」「日本人学生と外国人学生のボディランゲージ」「日本の社会における女性の役割」
- 15 期 集団発表（ドラマプロジェクト）「日本の家族像：子供は叱られなくなったか・・・漫画『サザエさん』を中心とした漫画研究とアンケート調査より」
- 14 期 「ゴミの分別について金沢市民はどう考えていますか」「金大日本人学生の英語学習に関する調査」「はんことサインとどちらがいいですか」「金大日本人学生の茶髪と伝統文化の関係」「金大日本人学生にとって成功とは何か」
- 13 期 集団発表（ドラマプロジェクト）「『サザエさん』の文末表現にみられる男言葉・女言葉」
- 12 期 * 「死刑制度に関する金沢市民の意識」「若い人の言葉：“あたし”と“おれ”」「日本人の晩婚に関する調査－30 歳以降の結婚」「阪神大震災と金沢の家の耐震設計」
- 11 期 集団発表（ドラマプロジェクト）「『サザエさん』の言葉遣いからみた夫と妻の距離感」
- 10 期 この期はコースマスターが海外出張のため研究発表の指導ができなかった。そのため、意見ないし感想を発表して修了発表とした。
「日本人と日本語」「日本とフィリピンの裁判」「学生の結婚についての意見」「金沢の幸せな日々の記憶」「日本は完璧な国ではありません」「出る杭は打たれる：日本社会は変わりましたか」「茶道のコースについて」「百万石祭とホームステイ」「日本での研究生活について：留学生の視点から」「日本を選んだ理由」「家族を連れての留学」「私が見た日本」
- 9 期 集団発表（ドラマプロジェクト）「日本の家族像－夫として父としての男性像」
- 8 期 「日本人の長生きのひみつ－金沢の日本人はどう考えているか」「金沢大学の学生のきつえんのしゅうかん」「わかい日本人のふくそう」「けいたいでんわ」「親友関係について」「もし奨学金をもらったら日本人は留学したいですか」「金沢大学学部生の自習」「日本人の好きなスポーツ」「外国人のための女の子講座」「喫煙と自動販売機の関係について」「ふしぎなパタゴニアについて何を知っていますか」「日本人学生とアルバイトの関係について」

- 7 期 「金沢大学の学生および教職員のコミュニケーションの方法について」「日本人の映画の見方」「日本人はラオスを知っていますか」「日本人の長生きと生活について」「日本人の好きな音楽とアメリカ文化の関係」「日本人とパチンコについて」「バス利用について」「金大の学生と勉強」「仕事の選択について」 * 「血液型と人の性格の関係」
- 6 期 「日本人の薬の使い方」「金沢の女の人と家庭」「どうして留学生は日本に来て勉強するのか」「2002 年ワールドカップ」「日露関係」 * 「金大生にきいた“いじめ”の体験」「日本の働く文化」「日本人と広告」 * 「金大生の原子力発電に関する考え」
- 5 期 「若者に一番人気があるテレビ番組」「日本人とタイ料理」「金沢大学の学生と漫画について」「金沢で人気があるペット」「日本人と中国人の正月について」 * 「女性の上司についての考え方」「日本人の長期休暇について」「日本人とフィリピン人の国際結婚について」
- 4 期 金沢大学の学生の英語力」「飲酒とアルコールの害について」「日本式の結婚について」「日本人の若い人の結婚観について」「金沢大学の学生の結婚について」「金沢大学の学生の外国語の能力」「どうしてたくさんの日本人学生がアルバイトをしているか」 * 「若い女性の結婚後に再就職することに対する意見」「日本人の娯楽について」「アルバイトすることについて」「どうして日本の女性は理数系が好きではないか」「金沢大学の学生の海外旅行」 * 「インターネットの使い方：日本の大学生とブラジルの大学生との比較調査」「学生の食習慣」「金沢大学の学生とお酒」 * 「紙のログハウス」
- 3 期 「日本人のたばこについての考え方」「金大生の人生設計について」「日本人の好きな本について」「留学生の勉強に対する印象」「科学の勉強は役に立つか」 * 「学校カウンセリングに関する教師の意識」「日本の教師の仕事と生活について」「日本人の飲酒について」「長い休みに何をするか」「日本人は茶道についてどう思っているか」
- 2 期 「金沢大学の学生について」「金沢大学の学生の暇な時間について」「日本人の大学生が、世界についてどう思っているか」「コンピュータとインターネットを使うことについて」「生活の中でのテレビ」「日本人の大学生のクラブ活動についての調査」「金沢大学への通学方法」「金大生の行ったことのある外国について」「金大の学生の時間の使い方」
- 1 期 口頭発表のかわりに、レポートを修了発表とした。
「日本の学生とミャンマーの学生」「金沢大学の学生」「日本の家族」「学生なのにどうしてアルバイトをするか」「金沢大学の学生の生活とインド人学生の生活」

3. 1. 2. 7 問題点と将来への展望

a. タイプの異なる学生の混在

平成 16 (2004) 年度の法人化に伴う改革により、2004 年前期 (18 期) から受講資格の枠を広げたため、属性が大きく異なる学生がコースに入ることになった。現在までのところ、このことによるマイナス面よりも、むしろプラス面が浮き彫りにされた。つまり、18 期は、年配の韓国人社会人学生による刺激が、若い研究留学生に良い影響を与えた。また、19 期は、本来の研究留学生がゼロであったため、大学内で募集した大学推薦の研究留学生 4 名と、自ら希望して入った若い短期留学生 6 名のクラスとなった。若さによる習得の速さと明るさで楽しい授業ができ、成績も上がった。

KUSEP 学生の年齢が低く、研究留学生や特に教員研修生の年齢が高いことによるプラス面は、クラスに多様性が生まれることにある。話題も広がり、人間面での学びもある。また、若く語学的に優れた学生が多いと、それがクラスの牽引力となって日本語の習得にプラスになる。その反面、年齢も高く語学的センスのない研究留学生が自分だけ遅れをとっていることを自覚したとき、人生初の「劣等生」体験に苦しむことになる。ほとんどの場合は、教師のコンサルテーションや特別補講、クラスメートの理解などによって数週間で順応できるが、どうしても適応できない場合も数例あった。そういう場合は、AA クラスよりコマ数の少ない A クラスに移籍させたり、日本語履修をしばらく休むことを認めたりした。

b. 非常勤講師料の削減による授業コマ数の減少、抜本的改革の必要性

本コースは受講者数が少ない割には非常勤コマが多いという批判を受けるが、言語の集中コースの性格上、それはやむを得ないことである。それにも拘わらず、2005 年度までに週 2～4 の非常勤コマの削減を実現した。更に、専任教員の持ちコマを増やして対応している。今後も年々非常勤コマ削減が課されるという情勢の中で、教育の質を落とすことなくコースを存続させるためには、日本語教育システム全体の抜本的改革が必要である。

一方、コマ数の削減が成績に悪影響を与えたかという点を考えると、学期末の日本語能力試験 3 級模擬試験の合格率を、コマ数削減以前 (2 期から 18 期) と以降 (19 期から 29 期) で比較した場合、平均合格率は、以前は 50% を越え、以降は、50% をやや下回っているが、有意な差はなかった。隔週のアチーブメントテストの点数にも有意な差はみられない。これは、学生の傾向や能力に合わせて、シラバスを常に流動的に運用していることと、タイプの異なる学生の混在が良い方向に作用していること等によるものであろう。

しかし、教師の直観からすると、古い時代の学生の方が、現在よりもずっと正確な基礎力を身に付けていたように思える。少ない時間の中で、如何に効果的で楽しく実力がつけられるクラスを作っていくかを考えねばならない。

本稿執筆中の 2010 年度には、教師側の努力と学生の優秀さだけに依存するのではなく、システムと教育方法を見直そうとしている。すなわち、他のクラスやプログラムとの相互乗り

入れをはかることによる実質コマ数の削減、Can-do statements を使った学生による自己評価をたびたび実施することによる、学生の学習意識の変革などを実施している。次回の点検では、こういった努力の効果を報告できるようにしたいものである。（文責：三浦香苗）

3. 1. 3 日韓共同理工系学部留学生コース（日韓プログラム）

3. 1. 3. 1 コース概要

日韓共同理工系学部留学生事業（以下「日韓プログラム」と称す）開始は、平成 10 年 10 月の故金大中・大韓民国大統領訪日の際に故小渕恵三総理大臣との間で発表された「日韓共同宣言－21 世紀に向けた新たなパートナーシップ－」に付随する付属書「21 世紀に向けた新たな日韓パートナーシップのための行動計画」中の「青少年交流の拡大」²¹項に遡る。同付属書に基づいて、文部省（当時）から全国の国立大学のうち理工系学部と留学生センター等をあわせ持つ大学に日韓プログラム受入れの可否等について打診があったが、金沢大学はこのプログラム受入れを「可」と回答し、留学生センター（予備教育）と工学部（学部教育）の協力で始まったのが、本学における日韓プログラムの始まりである。その後、第 3 期からは理学部も加わり、平成 22 年 3 月現在で第 10 期を迎えている。²²²³

3. 1. 3. 2 カリキュラム

第 3 期（平成 14 年度）

	月	火	水	木	金
1 時限 または 2 時限	総合日本語 作文（長野）	総合日本語	総合日本語	総合日本語	〈日本語 B〉
	総合日本語				総合日本語
3 時限	専門日本語 〔口頭発表〕 （太田）	専門日本語 〔読解〕 （古本）	物理（藤本）	専門日本語 〔読解〕 （古本）	専門日本語 〔レポート〕 （佐藤）
4 時限	化学（佐藤）	数学（勝見）	専門日本語〔聴解〕 （太田）	数学（勝見）	見学または ホームルーム （太田）
5 時限	（日本事情）				

＊プログラム授業の教室は、金曜 3 時限目をのぞき「総合教育棟 4 階 C11 演習室」
金曜 3 時限目は「総合情報処理センター第 3 演習室」

＊太枠内が本コース分、〈 〉は教養的科目、そのほかに学部の専門基礎科目も聴講可能

- 21 両国は、将来のより良い日韓関係のため日韓間の留学生・青少年交流が重要であることを再確認し、韓国の理工系大学学部留学生の派遣・受入れ事業を共同で実施し、今後 10 年を目標に、その時点で日本の理工系大学に在学する韓国人留学生が 1,000 人に達することを目標とする。
- 22 金沢大学は平成 20 年度から 3 学域・16 学類に改編されたため、現在は「留学生センターと理工学域」によるプログラムと位置づけられている。なお、留学生センターにおける日韓プログラムの規程上の位置づけは、大学院予備教育と同様に「日本語研修コース」とされ、日韓プログラムの開始に伴って規程の一部が改正された。
- 23 日韓プログラムは平成 21 年度の第 10 期をもって第 1 次 10 年間が終了し、平成 22 年度からは第 2 次日韓プログラムとして更に 10 年間延長された。したがって、平成 22 年度は第 2 次第 1 期と呼ばれる。

予 定

オリエンテーション・外国人登録：	2002 年 10 月 11 日（金）
総合日本語コース・プレースメントテスト：	2002 年 10 月 15 日（火）
配置先学部学科ご挨拶周り：	2002 年 10 月 16 日（水）
授業開始：	2002 年 10 月 15 日（火）
冬季休業：	2002 年 12 月 24 日（火）～2003 年 1 月 9 日（木）
授業終了：	2003 年 2 月 28 日（金）
口頭発表会（大学院予備教育と合同）：	2003 年 3 月 4 日（火）予定
合同閉講式：	2003 年 3 月 7 日（金）予定

実地見学予定 5 回予定（すべて金曜日午後 2 時半から）

10 月 18 日	兼六園など
11 月 22 日	東山茶屋街, 金箔工芸さくだ 予定
12 月 6 日	コマツ（フォークリフト等製造会社）予定
1 月 24 日	ナナオ（ディスプレイ等製造会社）予定
2 月 7 日	福光屋（日本酒製造会社）予定（大学院予備教育と合同）

ホームルーム（毎月最終金曜日）・その他予定（すべて金曜日午後 2 時半から）

10 月 25 日	10 月 HR
11 月 8 日	特別授業（工学部韓国出身大学院修了・李明和氏による講演）
11 月 15 日	配置先学部学科（研究現場）訪問
11 月 29 日	11 月 HR
12 月 7～8 日	この週末にホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
12 月 20 日	12 月 HR
1 月 1 日	金沢市長宅訪問 予定（大学院予備教育と合同）
1 月 31 日	1 月 HR, 内外学生センター訪問
3 月 7 日	2 月 HR, コース総括（閉講式後）

第4期（平成15年度）

	月	火	水	木	金
1時限 または 2時限	総合日本語 または 日本語B	総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語 または 日本語B
3時限	化学（佐藤）	専門日本語 〔読解〕 （古本）	専門日本語 〔聴解〕 （太田）	専門日本語 〔読解〕 （古本）	専門日本語 〔レポート〕 （佐藤）
4時限	物理（石原）	数学（勝見）	専門日本語 〔口頭発表〕 （太田）	数学（勝見）	見学 または ホームルーム （太田）
5時限	<日本事情>				

* プログラム授業の教室は、金曜3時限目をのぞき「総合教育棟4階C11演習室」

金曜3時限目は「総合情報処理センター第3演習室」

* 太枠内が本コース分、〈 〉は教養的科目、そのほかに学部の専門基礎科目も聴講可

* 化学は11月17日（月）より開講され、3回の補講予定

予 定

総合日本語コース・プレースメントテスト：2003年10月7日（火）

外国人登録・配置先学部学科挨拶回り：2003年10月8日（水）

合同開講式・合同生活オリエンテーション：2003年10月9日（木）

授業開始：2003年10月10日（金）

実地見学旅行：2003年11月5～6日

冬季休業：2003年12月23日（火）～2004年1月4日（日）

授業終了：2004年2月18日（水）

口頭発表会（大学院予備教育と合同）：2004年3月2日（火）

合同閉講式：2004年3月5日（金）

実地見学予定（すべて金曜日午後2時半から）

10月17日 兼六園などの予定

10月24日 医王山ハイキング（大学院予備教育と合同、3時限目なし）

11月21日 東山茶屋街、金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）予定

12月5日 コマツ（フォークリフト等製造会社）予定

1月23日 金沢港大野からくり記念館 予定

2月6日 福光屋（日本酒製造会社）（大学院予備教育と合同）

ホームルーム・その他予定（すべて金曜日午後2時半から）

11月7日 10月HR

11月14日 配置先学部学科（研究現場）訪問 予定

11月28日 11月HR
 12月上旬 ホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
 12月19日 12月HR
 1月1日 金沢市長宅訪問 予定（大学院予備教育と合同）
 1月30日 1月HR, 内外学生センター訪問
 3月5日 コース総括（閉講式後）

第5期（平成16年度）

	月	火	水	木	金
1時限 または 2時限	総合日本語 または 日本語B	総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語 または 日本語B
3時限	専門日本語 [レポート] (佐藤)	専門日本語 [読解] (古本)	専門日本語 [聴解] (太田)	専門日本語 [読解] (古本)	専門日本語 [口頭発表] (太田)
4時限	数学(小林)	物理(梶山)	数学(小林)	専門日本語 [論証日本語] (勝見)	見学 または ホームルーム (太田)
5時限	(日本事情)				

* プログラム授業の教室は、金曜3時限目をのぞき「総合教育棟4階C11演習室」

金曜3時限目は「総合メディア基盤センター第3演習室」

* 太枠内が留学生センター開講分、〈 〉は教養的科目

予 定

総合日本語コース・プレースメントテスト：2004年10月6日（水）予定
 外国人登録・配置先学部学科挨拶回り：2004年10月7日（木）
 合同開講式・合同生活オリエンテーション：2004年10月8日（金）
 授業開始：2004年10月12日（火）
 実地見学旅行：2004年11月4～5日
 冬季休業：2004年12月23日（木）～2005年1月5日（水）
 合同発表会（大学院予備教育と合同）：2005年3月1日（火）
 授業終了：2005年3月3日（木）
 合同閉講式：2005年3月4日（金）

実地見学予定（すべて金曜日午後2時半から）

10月15日 兼六園・金沢城など見学
 10月22日 武家屋敷と尾山神社見学
 11月12日 東山茶屋街、金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）15:00～
 11月19日 中谷宇吉郎雪の科学館見学

12月 3日 コマツ（フォークリフト等製造会社）14:00～
 12月10日 配置先学部学科（研究現場）訪問 予定
 1月 7日 金沢港大野からくり記念館見学
 1月21日 石川県工業試験センター見学
 2月 4日 福光屋（日本酒製造会社）見学予定（他コースと合同）

ホームルーム・その他予定（すべて金曜日午後2時半から）

10月29日 10月 HR
 11月26日 11月 HR
 12月上旬 ホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
 12月17日 12月 HR
 1月 1日 金沢市長宅訪問 予定（大学院予備教育と合同）
 1月28日 1月 HR, 内外学生センター訪問
 3月 3日 コース総括

第6期（平成17年度）

	月	火	水	木	金
1時限 または 2時限	総合日本語 または 日本語B	総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語 または 日本語B
3時限	専門日本語 [レポート] (佐藤)	専門日本語 [読解] (笹原)	専門日本語 [聴解] (太田)	専門日本語 [読解] (古本)	専門日本語 [口頭発表] (太田)
4時限	数学（手崎）	物理（中川）	数学（手崎）	専門英語読解 (斉木)	見学 または ホームルーム (太田)
5時限					

*プログラム授業の教室は、金曜3時限目をのぞき「総合教育棟4階C11演習室」
 金曜3時限目は「総合教育棟3階B3講義室」

*太枠内が留学生センター開講分

*佐藤先生のレポート授業は11月7日（月）開講、1月下旬より3回の補講有り

予 定

合同開講式・総合日本語コース・プレースメントテスト：2005年10月 6日（木）

外国人登録・配置先学部学科挨拶回り：2005年10月5～6日

合同生活オリエンテーション：2005年10月6日（木）

授業開始：2005年10月11日（火）

実地見学旅行：2005年11月2～3日

冬季休業：2005年12月26日（月）～2006年 1月 3日（火）

合同発表会（大学院予備教育と合同）： 2006 年 2 月 22 日（水）

合同閉講式： 2006 年 2 月 24 日（金）

実地見学予定（すべて金曜日午後 2 時半から）

10 月 14 日 兼六園・金沢城など見学
 10 月 28 日 武家屋敷と尾山神社見学（14:35 のバス利用）
 11 月 11 日 東山茶屋街，金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）
 11 月 18 日 中谷宇吉郎雪の科学館見学 14:15 出発
 12 月 2 日 コマツ（フォークリフト等製造会社）13:00 出発
 12 月 9 日 配置先学部学科（研究現場）訪問
 1 月 13 日 金沢港大野からくり記念館見学 14:15 出発
 1 月 27 日 山越教授研究室見学（予定）
 2 月 3 日 福光屋（日本酒製造会社）見学 予定（他コースと合同）

ホームルーム・その他予定（すべて金曜日午後 2 時半から）

11 月 25 日 11 月 HR
 12 月中 ホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
 12 月 16 日 12 月 HR
 1 月 1 日 金沢市長宅訪問 予定（大学院予備教育と合同）
 1 月 27 日 1 月 HR，内外学生センター訪問
 2 月 22 日 コース総括

第 7 期（平成 18 年度）

	月	火	水	木	金
1 時限 または 2 時限	総合日本語コースの各自のレベルから週合計 5 コマまでを受講				
3 時限	専門日本語 [レポート] (佐藤)	専門日本語 [読解] (笹原)	専門英語読解 (斉木)	専門日本語 [読解] (古本)	専門日本語 [口頭発表] (太田)
4 時限	専門日本語[聴解] (太田)	物理 (大橋)			見学 または ホームルーム (太田)
5 時限	<日本事情>		数学* (付属高)	数学* (付属高)	

* プログラム授業の教室は基本的に総合教育棟 4 階 C11 演習室を使うが、「レポート」は総合メディア基盤センター第 3 演習室，「数学」は教育学部付属高校（小立野）で行う。

* 「数学」は付属高校での授業のため，「午後 4 時 30 分から 6 時まで」とする。

* 「レポート」は 11/13 から授業を開始し，1/22，1/29，2/5 に 10 月分 3 回の授業を行なう。

* 「日本事情」は学部の共通教育科目のため選択制とする。

予 定

渡 日：	2006 年 10 月 11 日（水）
外国人登録・総合日本語プレースメントテスト：	2006 年 10 月 12 日（木）
配置学科・付属高校挨拶回り・オリエンテーション：	2006 年 10 月 13 日（金）
プログラム授業開始：	2006 年 10 月 16 日（月）
実地見学旅行：	2006 年 11 月 6～7 日（月・火）
健康診断受診：	2006 年 11 月 10 日（金）
中間発表会（富山大学と合同）：	2006 年 12 月 22 日（金）
冬季休業：	2006 年 12 月 26 日（火）～2007 年 1 月 3 日（水）
プログラム授業終了：	2007 年 2 月 19 日（月）
合同発表会（大学院予備教育と合同）：	2007 年 2 月 21 日（水）
合同閉講式（大学院予備教育と合同）：	2007 年 2 月 27 日（火）

実地見学予定（11/15 を除き基本的に金曜日午後 2 時 45 分から）

10 月 20 日	兼六園・金沢城など見学
10 月 27 日	武家屋敷と尾山神社見学
11 月 22 日（水）	コマツ栗津工場（日本語・日本文化研修プログラムと合同）
11 月 17 日	東山茶屋街、金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）15:00～
12 月 1 日	中谷宇吉郎雪の科学館見学
12 月 8 日	配置先学部学科（研究現場）見学 予定
1 月 12 日	金沢港大野からくり記念館見学
2 月 2 日	福光屋（日本酒製造会社）見学 予定

ホームルーム・その他予定（基本的に金曜日午後 2 時 45 分から）

11 月 1 日（水）	10 月 HR（5 時限目）
11 月 10 日	健康診断受診（14:30～16:00）
11 月 24 日	11 月 HR
12 月 25 日（月）	12 月 HR（5 時限目）
12 月中	ホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
12 月 22 日	富山大学の日韓プログラム生との交流 ①（訪問）
1 月 1 日	金沢市長宅訪問 予定（大学院予備教育と合同）
1 月 26 日	1 月 HR, 内外学生センター等訪問
2 月中	富山大学の日韓プログラム生との交流 ②（受入れ）
2 月 28 日	プログラム全体総括

第8期（平成19年度）

	月	火	水	木	金
1 時限 または 2 時限	総合日本語コースの各自のレベルから週合計5コマまでを受講				
3 時限	専門日本語 [レポート] (佐藤)	専門日本語 [読解] (笹原)	専門英語読解 (斉木)	専門日本語 [読解] (深川)	専門日本語 [口頭発表] (太田)
4 時限	専門日本語[聴解] (太田)	数学（一瀬）	物理（大橋）	数学（一瀬）	見学 または ホームルーム (太田)

* 「レポート」は11/12から授業開始、1/21、1/28、2/4に10月分3回の授業を行なう。

* 「専門日本語（口頭発表）」は大学院予備教育・日本語研修コースとの合同クラス

予 定

渡日・外国人登録・配置学部学科挨拶回り：2007年10月5日（金）

オリエンテーション・総合日本語プレースメントテスト：2007年10月9日（火）

プログラム授業開始（PM）：2007年10月9日（火）

総合日本語授業開始（AM）：2007年10月10日（水）

国際交流後援会主催実地見学：2007年11月5日（月）

健康診断受診（プログラム授業休講）（PM）2007年10月25日（木）

中間発表会（「私の国」発表）：2007年12月14日（金）

冬期休業：2007年12月24日（月）～2008年1月3日（木）

総合日本語授業終了（AM）：2008年2月12日（火）

プログラム授業終了（PM）：2008年2月14日（木）

合同発表会（大学院予備教育と合同）：2008年2月22日（金）

合同閉講式（大学院予備教育と合同）：2008年2月27日（水）

実地見学予定（11/14を除き基本的に金曜日午後2時45分から）

10月12日 兼六園・金沢城など見学

10月19日 武家屋敷と尾山神社見学

11月14日（水）日機装訪問見学（日本語・日本文化研修プログラムと合同）

11月9日 東山茶屋街、金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）15:00～

11月16日 中谷宇吉郎雪の科学館見学

12月7日 配置先学部学科（研究現場）見学 予定

1月11日 金沢港大野からくり記念館見学

2月1日 福光屋（日本酒製造会社）見学 予定

10月26日	10月HR
10月25日(木)	健康診断受診(14:30～16:00)
11月30日	11月HR
12月21日	12月HR
12月中	ホームステイを予定(大学院予備教育と合同)
1月1日	金沢市長宅訪問 予定(大学院予備教育と合同)
1月25日	1月HR, 内外学生センター等訪問
2月27日	プログラム全体総括

	月	火	水	木	金
1 時限 または 2 時限	総合日本語コースの各自のレベルから週合計 5 コマまでを受講				
3 時限	専門日本語 〔レポート〕 (佐藤)	数学（一瀬）	専門英語（斉木）	専門日本語 〔読解〕 (深澤)	専門日本語 〔口頭発表〕 (太田)
4 時限	専門日本語 〔聴解〕 (太田)	専門日本語 〔読解〕 (太田)	物理（大橋）	数学（一瀬）	見学または ホームルーム (太田)

予 定

— 69 —

実地見学予定（11/12を除き基本的に金曜日午後2時45分から）

10月10日 兼六園・金沢城など見学
 10月17日 武家屋敷と尾山神社見学
 11月7日 東山茶屋街，金箔工芸さくだ（金箔工芸体験）15:00～
 11月21日 中谷宇吉郎雪の科学館見学
 12月3日（水）日機装 見学予定（日本語・日本文化研修プログラムと合同）
 12月5日 配置先学部学科（研究現場）見学 予定
 1月9日 金沢港大野からくり記念館見学
 2月6日 福光屋（日本酒製造会社）見学 予定

ホームルーム・その他予定（基本的に金曜日午後2時45分から）

10月24日 10月 HR
 10月21日（火）健康診断受診（13:30～16:00）
 11月28日 11月 HR
 12月19日 12月 HR
 12月中 ホームステイを予定（大学院予備教育と合同）
 2009年
 1月23日 1月 HR，アパート探し開始
 2月23日（月） プログラム全体総括

第10期（平成21年度）

	月	火	水	木	金
1時限 または 2時限	総合日本語コースの各自のレベルから週合計5コマまでを受講				
3時限	数学（北浦）	専門日本語 〔レポート〕 （佐藤）	専門英語読解 （斉木）	専門日本語 〔読解〕 （深澤）	専門日本語 〔口頭発表〕 （太田）
4時限	専門日本語 〔聴解〕 （太田）	専門日本語 〔読解〕 （太田）	物理（大橋）	数学（石本）	見学 または ホームルーム （太田）

*深澤先生の「専門日本語（読解）」は共通教育科目

予 定

渡日・外国人登録： 2009年10月5日（月）

総合日本語プレースメントテスト・配置学部学科挨拶回り：

2009年10月6日（火）

合同開講式・オリエンテーション：

2009年10月7日（水）

総合日本語授業開始 (AM) :	}	2009 年 10 月 8 日 (木)
プログラム授業開始 (PM) :		
健康診断受診 (プログラム授業休講) (PM)		2009 年 10 月 23 日 (金)
中間発表会 (「私の国」発表, 富山大学にて) :		2009 年 12 月 18 日 (金)
冬期休業 :		2009 年 12 月 24 日(木)～2010 年 1 月 3 日(日)
総合日本語授業終了 (AM) :		2010 年 2 月 10 日 (水)
プログラム授業終了 (PM) :		2010 年 2 月 12 日 (金)
合同発表会 (大学院予備教育と合同) :		2010 年 2 月 18 日 (木)
合同閉講式 (大学院予備教育と合同) :		2010 年 2 月 23 日 (火)

実地見学予定 (11/14 を除き基本的に金曜日午後 2 時 45 分から)

10 月 9 日	兼六園・金沢城など見学
10 月 16 日	武家屋敷と尾山神社見学
10 月 30 日	コマツ栗津工場見学 14:30 ～
11 月 13 日	石川県立歴史博物館・伝統産業工芸館・金沢ふるさと偉人館
11 月 20 日	東山茶屋街, 金箔工芸さくだ (金箔工芸体験) 15:00 ～
12 月 4 日	配置先学部学科 (研究現場) 見学 予定
12 月 11 日	中谷宇吉郎雪の科学館見学
1 月 22 日	金沢港大野からくり記念館見学
2 月 5 日	福光屋 (日本酒製造会社) 見学 予定

ホームルーム・その他予定 (基本的に金曜日午後 2 時 45 分から)

10 月 30 日	10 月 HR
10 月 23 日 (金)	健康診断受診 (13:00 ～ 16:00)
11 月 27 日	11 月 HR
12 月 18 日	12 月 HR
1 月 29 日	1 月 HR
2 月 19 日	プログラム全体総括

3. 1. 3. 3 教育活動実績

<受入れ学生>

期・年度	照会数	受入れ数	男女比	配置先学部学科
第3期 平成14年度	4	3	3/0	工学部・電気電子システム工学科
				同・情報システム工学科
				理学部・物理学科 各1名
第4期 平成15年度	4	3	3/0	工学部・電気電子システム工学科
				同・人間・機械工学科
				理学部・数学科 各1名
第5期 平成16年度	2	2	2/0	工学部・土木建設工学科
				理学部・物理学科 各1名
第6期 平成17年度	1	1	0/1	工学部・人間・機械工学科 1名
第7期 平成18年度	3	3	3/0	工学部・電気電子システム工学科
				同・人間・機械工学科
				同・機能機械工学科 各1名
第8期 平成19年度	1	1	1/0	理工学域・数物科学類 1名
第9期 平成20年度	1	1	1/0	理工学域・数物科学類 1名
第10期 平成21年度	5	3	2/1	理工学域・電子情報学類 1名
				理工学域・機械工学類 2名

<授業・活動>

期・年度	総合日本語	専門日本語	専門教科	その他の授業・活動
第3期 平成14年度	日本語C2×3/週 漢字C×1/週 技能別×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 化学×1/週	教養的科目〔聴講〕 日本事情×1/週 専門基礎教育〔聴講〕 1～2/週 日本事情（訪問見学） 全7回 ホームルーム×1/月 特別授業11月×1回 実地見学旅行 11月上旬（1泊2日）
第4期 平成15年度	日本語C2/D ×3/週 漢字C/D×1/週 技能別×1～2/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 化学×1/週	日本事情（訪問見学） 全6回 ホームルーム×1/月 市長宅元日表敬訪問 ホームステイ 12月下旬（1泊2日）
第5期 平成16年度	日本語C2/F ×3/週 漢字C/F×1/週 技能別×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 論証日本語×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週	日本事情（訪問見学） 全7回 ホームルーム×1/月 市長宅元日表敬訪問
第6期 平成17年度	日本語D×3/週 漢字D×1/週 技能別×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 英語×1/週	日本事情（訪問見学）7 回 ホームルーム×1/月 研究室訪問×2
第7期 平成18年度	日本語D/E/F ×3/週 漢字D/E/F× 1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 英語×1/週	日本事情（訪問見学） 全7回 ホームルーム×1/月 研究室訪問×1
第8期 平成19年度	日本語E×3/週 漢字D×1/週 技能別×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 英語×1/週	日本事情（訪問見学） 全8回 ホームルーム×1/月 研究室訪問×1
第9期 平成20年度	日本語E×3/週 漢字E×1/週 技能別×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 英語×1/週	日本事情（訪問見学） 全7回 ホームルーム×1/月 研究室訪問×1
第10期 平成21年度	日本語D×3/週 漢字D×1/週	読解×2/週 聴解×1/週 レポート×1/週 口頭発表×1/週	数学×2/週 物理×1/週 英語×1/週	日本事情（訪問見学） 全7回 ホームルーム×1/月 研究室訪問×1

注）特記事項として次の点が挙げられる。

- ・日韓プログラム用にノート型コンピュータを用意しており、予備教育期間中に必要に応じて1人1台ずつ貸与している。
- ・第3～5期：学部の共通教育専門科目の聴講，ホームステイ，市長宅訪問等の活動を取り入れた。²⁴
- ・第5～6期：専門教科に大学院博士課程の学生をチューターとして充てた。
- ・第6～10期：英語教育を取り入れるとともに，入学先の専攻研究室訪問を取り入れた。

²⁴ その後、学生から活動に参加するのは負担になるとの意見が上がり、これらの活動すべてを取りやめ勉学に集中させるようした。

- ・ 第 7 期：単年度の措置として、数学教育を教育学部附属高等学校に依頼した。
- ・ 第 7 ～ 10 期：専門教科教育を本学自然科学研究科名誉教授に依頼した。

<サポート制度>

日韓プログラムでは、第 1 期から継続して以下のサポート体制を取り入れている。

- ① 謝金チューターの確保
- ② 定期的なカウンセリング（ホームルーム）の実施
- ③ 予備教育終了後のアパート探しについてのアドバイス

①については、第 6 期生以降入学先の学部学科にチューター適任者を推薦してもらうよう入選方法を改善した。その結果、第 8 期から、同専攻の場合、学部に入學した日韓プログラム先輩学生がチューターに就くケースが出てきており、②や③に関する事柄まで後輩の面倒をみってくれるなど、日韓プログラム生同士の間での一体感が生まれている。

③については、第 1 期以降一貫して来日直後から「奨学金のうち毎月 4 万円貯蓄」を勧めており、金沢大学の学生の多くがアパート賃貸している地区の平均的な家賃と諸経費を賄えるよう、予備教育の間から金銭感覚を身につけさせる指導をしている。

3. 1. 3. 4 評価方法・成績

多様な教科の授業を提供する日韓プログラムゆえに統一的な評価基準を立てにくく、担当教員に毎月月報を提出してもらって現状把握をするよう努めてきた。また、渡日直後の第 1 回目の授業ではどの教科でも学力診断テストを行い、教員が来日時点での学生の学力を直接把握できるようにしている。学期中は定期課題または中間テストを織り交ぜ、最終的には到達度測定テストを学期末に行うことで客観評価を行っている。

最終評価の結果は各学生の配置先学部学科（第 8 期から「理工学域各学類」）に送付し、入学時の参考資料として提供している。

3. 1. 3. 5 問題点

第 3 期から第 10 期までに共通する主な問題点は次のものである。

- 1) 金沢大学が法人化されて以降、全学的に非常勤講師を削減する動きが起こり、留学生センターで専門教科教育を運営することができなくなった。そのため、第 5 期からは専門教科担当者を求めて、大学院博士課程在学の学生 T A , 教育学部（当時）附属高等学校数学科教諭、本学自然科学研究科名誉教授へと、入選に大きな困難を伴った。
- 2) 第 7 期以降、日韓プログラムに参加する学生全体の意識に変化が見られるようになり、大都市の大学やいわゆる「有名大学」志向が強くなった。その影響からか、金沢大学に配置される日韓プログラム生数が極端に少なくなり配置自体が危ぶまれる年もあって、学生の安定的な確保が大きな課題となっている。
- 3) 学生数が少数のプログラムゆえ、コストパフォーマンスが常に要求されてきた。1) に

挙げた非常勤講師削減問題のみならず、プログラムを運営する上で留学生センター内の他プログラムと連携するなど、スリム化や効率的な運営が今後も求められる。

- 4) 日韓プログラム生の多くは進学を希望しており、大学院進学時の経済的負担への対応や、男子学生の兵役履行をどのタイミングで行わせるかなど、予備教育開始時から卒業まで継続的に適切なアドバイスを行っていく必要がある。

(文責：太田 亨)

3. 1. 4 短期留学プログラム (KUSEP)

3. 1. 4. 1 コース概要

このプログラムは、1998年から始まった。金沢大学と交流協定を締結している大学等から留学生を受け入れ、日本語教育と主に英語による日本事情・日本文化及び各専門分野の授業科目を提供する、半年または1年間の特別のプログラムである。

プログラムの教育を通じ、また広く世界の学生との交流を進めながら、留学生は日本への理解を深めていくこと及び国際社会で活躍する人材に育つことを期待されている。さらに、この短期留学が、留学生の日本に関する研究あるいは金沢大学で専門的な研究に取り組むきっかけとなることも期待されている。

3. 1. 4. 2 カリキュラム

a. 必修科目：

日本語の能力に応じてクラス分けをし、各学期5単位が必修である。

b. 選択必修科目：

日本事情、日本文化、日本の自然関係を学ぶ科目で、秋学期及び春学期を通じて2科目4単位が必修である。秋学期又春学期の1学期のみ受講する学生は、最低1科目2単位が必修となる。

c. 選択科目：

この選択科目は学生が自由に何科目も受講することができる。

d. 自主研究：

留学生の希望により、留学生自身が定めた研究テーマについて、専門分野教員の指導の下に研究するものである。各学期1テーマ2単位、計4単位の範囲内で、この教育プログラムを修了するための単位として認定する。

e. 一般開講科目：

留学生の日本語能力が高いレベルにあり、留学生が希望する場合は、日本人学生のために開講されている日本語による授業も受講することができる。修得した単位のうち、秋学期2科目4単位、春学期2科目4単位の8単位の範囲内で、この教育プログラムを修了するための単位として認定する。なお、各学部で開講している授業科目の履修を希望する場合は、

あらかじめ授業担当教員の許可を必要とするので、渡日後に留学生センター教員に相談すること。

修了証書の授与

原則として秋学期 10 単位以上、春学期 10 単位以上で計 20 単位以上修得した留学生には、短期留学プログラム修了証書を授与する。

1) 第 V 期 (2002 年 10 月～2003 年 9 月)

a. 必修科

- ・ 日本語:秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター:峯正志, 長野ゆり (留学生センター (以後=留))

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順)

i) 秋学期

- ・ 日本人の心理と思想:2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸 (文学部 (以後=文))
- ・ ディスカッションクラス「文化比較」:2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外国語センター (以後=外))

ii) 春学期

- ・ 日本の会社と法-はじめてのビジネス・ロー:2 単位, 週 1 コマ, 伊勢田道仁 (法学部 (以後=法))
- ・ 日本文化体験Ⅱ:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順)

i) 秋学期

- ・ 行動科学序論 (1):2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸 (文)
- ・ 日本の政治・法制・社会入門:2 単位, 週 1 コマ, 鹿島正裕 (法)
- ・ 国家イデオロギーとしてのマス・メディア:2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法)
- ・ 日本経済-国際的視野から見る日本経済の発展過程-:1 単位, 2 週に 1 コマ, 鄭承衍 (経済学部 (以後=経))
- ・ 日本文化体験Ⅰ:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道Ⅰ:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 日本の言語と文化:2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 数学 A:2 単位, 週 1 コマ, 石本浩康 (理学部 (以後=理))
- ・ 化学課題研究:3 単位, 週 1 コマ, 本浄高治 (理)
- ・ 植物と環境:2 単位, 週 1 コマ, 和田敬四郎 (理)

- ・生物学実験：3単位，週1コマ，東（遠藤）浩（理）
- ・計算科学 A：代数的方法：2単位，週1コマ，伊藤達郎（理）
- ・近代薬学の発展：2単位，週1コマ，鈴木永雄（薬学部（以後＝薬））
- ・比較政治学：2単位，週1コマ，ビートン アンドリュウ（法）

ii) 春学期

- ・現代日本の文化と社会：2単位，週1コマ，鹿野勝彦，鏡味治也ほか（文）
- ・カズオ・イシグロの世界：2単位，週1コマ，大藪加奈（外）
- ・武道 I：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・武道 II：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・数学 B：2単位，週1コマ，一瀬孝（理）
- ・物質化学概論：2単位，週1コマ，櫻井武（理）
- ・Invertebrate Metamorphosis（無脊椎動物の変態）：2単位，週1コマ，櫻井勝（理）
- ・計算科学 B：2単位，週1コマ，西川清（理）
- ・電気・電子・情報工学の技法：2単位，週1コマ，佐々木公洋（工学部（以後＝工））
- ・土木建設工学総論：2単位，週1コマ，関平和（工）
- ・流体力学と伝熱－環境と地球物理への応用－：2単位，週1コマ，木村繁男（工）

d. 自主研究

表 1. 1：秋学期 2002.10-2003.3 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 12:50-14:20	4 限 14:30-16:00	5 限 16:10-17:40
月曜日	日本語	日本語	日本人の心理と思想 小島治幸 他 2 名	比較政治学 ビートン アンドリュウ	
火曜日	日本語	日本語	近代薬学の発展 鈴木 永雄	植物と環境 和田 敬四郎	数学 A 石本浩泰 他 2 名
水曜日	日本語	日本語	国家イデオロギーと としてのマスメディア 楠根 重和	ディスカッションクラス 「文化比較」 大藪 加奈	日本経済 鄭 承衍
				計算科学 A 伊藤 達郎	
			化学課題研究 本浄高治他 8 名		
木曜日	日本語	日本語		日本の政治・法制・ 社会入門 鹿島正裕 他 2 名	
			日本文化体験 I 岡澤 孝雄		
金曜日	日本語	日本語		日本の言語と文化 パリハワダナ ルチラ	武道 I ビットマン ハイコ
		行動科学序論 (I) 小島 治幸	生物学実験 東 (遠藤) 浩		

表 1. 2：春学期 2003.4-2003.9 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 12:50-14:20	4 限 14:30-16:00	5 限 16:10-17:40
月曜日	日本語	日本語	流体力学と伝熱 木村 繁男	土木建設工学総論 関 平和 カズオ・イシグロの世界 大藪 加奈	
火曜日	日本語	日本語			数学B 一瀬 孝
			日本文化体験Ⅱ 岡澤 孝雄		
水曜日	日本語	日本語		物質化学概論 櫻井 武	計算科学B 西川 清
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会 鹿野 勝彦 鏡味 治也	日本の会社と法 -はじめてのビジネス・ロー- 伊勢田 道仁	電気・電子・ 情報工学の技術 佐々木 公洋 無脊椎動物の変態 櫻井 勝
金曜日	日本語	日本語		武道Ⅱ ビットマン ハイコ	武道Ⅰ ビットマン ハイコ

2) 第 VI 期 (2003 年 10 月～2004 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語：秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター：峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と心理：2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸, ホルナートポール, 他 (文)
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス)：2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外)

ii) 春学期

- ・ 国家イデオロギーとしてのマス・メディア：2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法)
- ・ セミナー：英語で読む現代日本文学：2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外)

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学：2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (法)
- ・ 日本経済－国際的視野から見る日本経済の発展過程－：1 単位, 2 週に 1 コマ, 鄭承衍, 堀林巧, 他 (経)
- ・ 日本文化体験Ⅰ：2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)

- ・ 武道Ⅰ：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・ 日本の言語と文化：2単位，週1コマ，パリハワダナ ルチラ（留）
- ・ 化学課題研究：3単位，週1コマ，櫻井武（理）
- ・ 生物学実験：3単位，週1コマ，東（遠藤）浩（理）
- ・ 日本社会における医療時事：1単位，2週に1コマ，俵 友恵，ほか（医学部保健学科（以後＝医））
- ・ 近代薬学の発展：2単位，週1コマ，鈴木永雄（薬）
- ・ 環境モニタリングとその保全 - マルチスケールモニタリング技法 -：2単位，週1コマ，村本健一郎，ほか（工，理，薬）
- ・ 日本の環境と文学：2単位，週1コマ，結城正美（外）

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会：2単位，週1コマ，鏡味治也，ほか（文）
- ・ 20世紀の日本大衆音楽史：2単位，週1コマ，三井徹（教育学部（以後＝教））
- ・ 日本における国際取引と法：2単位，週1コマ，陳 一（法）
- ・ 日本文化体験Ⅱ：2単位，週1コマ，岡澤孝雄（留）
- ・ 武道Ⅰ：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・ 武道Ⅱ：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・ 無脊椎動物の変態：2単位，週1コマ，櫻井勝（理）
- ・ 物質化学概論：2単位，週1コマ，遠藤一央（理）
- ・ 流体力学と伝熱：2単位，週1コマ，木村繁男（工）
- ・ 電気・電子・情報工学の技法：2単位，週1コマ，山根智（工）
- ・ 土木建設工学総論：2単位，週1コマ，川上光彦（工）

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表 2. 1：秋学期 2003.10-2004.3 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 12:50-14:20	4 限 14:30-16:00	5 限 16:10-17:40
月曜日	日本語	日本語	日本人の思想と心理 小島 治幸, ホールナルト ポール他	日本の環境と文学 結城 正美	
火曜日	日本語	日本語	近代薬学の発展 鈴木 永雄	化学課題研究 櫻井 武	
水曜日	日本語	日本語	日本社会における 医療時事 俵 友恵	文化比較 (ディスカッションクラス) 大藪 加奈 比較政治学 ビートン アンドリュウ	日本経済 —国際的視野から見る 日本経済の発展過程— 鄭 承衍, 堀林 巧, 他
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験 I 岡澤 孝雄		
金曜日	日本語	日本語	環境モニタリングと その保全 —マルチスケールモ ニタリング技法— 村本 健一郎, 他	日本の言語と文化 パリハワダナ ルチラ	武道 I ビットマン ハイコ
			生物学実験 東 (遠藤) 浩		

表 2. 2：春学期 2004.4-2004.9 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 12:50-14:20	4 限 14:30-16:00	5 限 16:10-17:40
月曜日	日本語	日本語	国家イデオロギーと としてのマス・メディア 楠根 重和	流体力学と伝熱 木村 繁男	物質化学概論 遠藤 一央
火曜日	日本語	日本語	日本文化体験 II 岡澤 孝雄		
水曜日	日本語	日本語	日本における 国際取引と法 陳 一	セミナー：英語で 読む現代日本文学 大藪 加奈	無脊椎動物の変態 桜井 勝
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会 鏡味 治也 ほか		電気・電子・ 情報工学の技法 山根 智
金曜日	日本語	日本語	20 世紀の日本大衆音楽史 三井 徹 土木建設工学総論 川上 光彦	武道 II ビットマン ハイコ	武道 I ビットマン ハイコ

3) 第 VII 期 (2004 年 10 月～2005 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語: 秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター: 峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と心理: 2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸, ホルター・ポール, 他 (文)
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス): 2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外)

ii) 春学期

- ・ 国家イデオロギーとしてのマス・メディア: 2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法) *
- ・ セミナー: 英語で読む現代日本文学: 2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ * = ジョイントクラス (日本人学生と一緒に授業を受ける)

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学: 2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュウ (法)
- ・ 日本経済 - 国際的視野から見る日本経済の発展過程 -: 1 単位, 2 週に 1 コマ, 星野伸明, 堀林巧, 他 (経)
- ・ 環境をめぐる言説と文学: 2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外)
- ・ 日本文化体験 I: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 生物学実験: 3 単位, 週 1 コマ, 東 (遠藤) 浩 (理)
- ・ 日本社会における医療時事: 2 単位, 週 1 コマ, 俵 友恵, ほか (医)
- ・ 近代薬学の発展: 2 単位, 週 1 コマ, 鈴木永雄 (薬)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会: 2 単位, 週 1 コマ, 鏡味治也, 他 (文) *
- ・ 比較文化: 2 単位, 週 1 コマ, 岡崎文明 (教) *
- ・ 日本の言語と文化: 2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 日本文化体験 II: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 流体力学と伝熱: 2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (工)
- ・ 土木建設工学総論: 2 単位, 週 1 コマ, 川上光彦 (工)

- ・日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -: 2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川 和一, 他 (工, 理, 薬)
- ・電気・電子・情報工学の技法: 2 単位, 週 1 コマ, 田中 康規 他 (工)

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－ 3. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2004.10-2005.3 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:40-16:10	5 限 16:20-17:50
月曜日	日本語	日本語	日本人の思想と心理 小島 治幸, ホルナルト ポール他		
火曜日	日本語	日本語	近代薬学の発展 鈴木 永雄		
水曜日	日本語	日本語	比較政治学 ビートン アンドリユー 環境をめぐる言説と 文学 結城 正美	文化比較 (ディスカッションクラス) 大藪 加奈	日本経済 一国際的視野から見る 日本経済の発展過程一 星野 伸明, 堀林 巧他
木曜日	日本語	日本語	日本社会における 医療時事 俵 友恵 他	日本文化体験Ⅰ 岡沢 孝雄	
金曜日	日本語	日本語			武道Ⅰ ビットマン ハイコ
			生物学実験 東 (遠藤) 浩		

表－ 3. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2005.4-2005.9 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:40-16:10	5 限 16:20-17:50
月曜日	日本語	日本語	国家イデオロギーとし てのマス・メディア* 楠根 重和	日本の言語と文化 バリハワダナ ルチラ	日本の自然と国土 - 環境 モニタリングと保全 - 村本 健一郎 他
火曜日	日本語	日本語	日本文化体験Ⅱ 岡澤 孝雄		
水曜日	日本語	日本語	セミナー：英語で読む 現代日本文学* 結城 正美	比較文化* 岡崎 文明	流体力学と伝熱 木村 繁男
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会* 鏡味 治也 他		電気・電子・ 情報工学の技法 田中 康規 他
金曜日	日本語	日本語	土木建設工学総論 川上 光彦	武道Ⅱ ビットマン ハイコ	武道Ⅰ* ビットマン ハイコ

4) 第 VIII 期 (2005 年 10 月～2006 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語: 秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター: 峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と文化: 2 単位, 週 1 コマ, 島岩, ホルホルトホル, 他 (文) *
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス): 2 単位, 週 1 コマ, フランシオシ スティーブン (外) *

ii) 春学期

- ・ 国家イデオロギーとしてのマス・メディア: 2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法) *
- ・ セミナー: 英語で読む現代日本文学: 2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学: 2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュウ (法) *
- ・ 環境をめぐる言説と文学: 2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本文化体験 I: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 日本社会における医療時事: 2 単位, 週 1 コマ, 稲垣美知子, 他 (医)
- ・ 近代薬学の発展: 2 単位, 週 1 コマ, 鈴木永雄 (薬)
- ・ 日本地学めぐり: 2 単位, 週 1 コマ, 石渡明, ほか (理)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会: 2 単位, 週 1 コマ, 鏡味治也, 他 (文) *
- ・ 日本の言語と文化: 2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 日本文化体験 II: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留) *
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 流体力学と伝熱: 2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (工)
- ・ 土木建設工学総論: 2 単位, 週 1 コマ, 関平和 (工)
- ・ 日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -: 2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川 和一, 他 (工, 理, 薬)
- ・ 電気・電子・情報工学の技法: 2 単位, 週 1 コマ, 北川章夫 (工)
- ・ 生物学実験: 3 単位, 週 1 コマ, 東 (遠藤) 浩 (理)

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－ 4. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2005.10-2006.3 時間割

	1 限 8:50-10:20	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:40-16:10	5 限 16:20-17:50
月曜日	日本語	日本語	日本人の思想と文化＊ 島 岩, ホールナルト ポール他 比較政治学＊ ビートン アンドリュウ	日本社会における 医療時事 稲垣 美知子 他	
火曜日	日本語	日本語	近代薬学の発展 鈴木 永雄		
水曜日	日本語	日本語	環境をめぐる言説と文学＊ 結城 正美	文化比較＊ (ディスカッションクラス) フランシオン スティーブン	日本地学めぐり 石渡 明
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験Ⅰ 岡沢 孝雄		
金曜日	日本語	日本語			武道Ⅰ ビットマン ハイコ

表－ 4. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2006.4-2006.9 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	国家イデオロギーとしての マス・メディア＊ 楠根 重和	日本の言語と文化 バリハワダナ ルチラ	
火曜日	日本語	日本語	日本文化体験Ⅱ＊ 岡澤 孝雄		
水曜日	日本語	日本語	電気・電子・ 情報工学の技法 北川 章夫 他	セミナー：英語で読 む現代日本文学＊ 結城 正美	流体力学と伝熱 木村 繁男
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会＊ 鏡味 治也 他		日本の自然と国土・環境 モニタリングと保全・ 村本 健一郎 他
金曜日	日本語	日本語	土木建設工学総論 関 平和 他	武道Ⅱ ビットマン ハイコ	武道Ⅰ＊ ビットマン ハイコ
			生物学実験 東（遠藤）浩		

5) 第 IX 期 (2006 年 10 月～2007 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語:秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター:峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と文化:2 単位, 週 1 コマ, 島岩, 小島治幸, 他 (文) *
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス):2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

ii) 春学期

- ・ マス・メディアと国際コミュニケーション:2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法) *
- ・ セミナー:英語で読む現代日本文学:2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学:2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (法) *
- ・ 環境をめぐる言説と文学:2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本文化体験 I:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 近代薬学の発展:2 単位, 週 1 コマ, 鈴木永雄 (薬)
- ・ 日本地学めぐり:2 単位, 週 1 コマ, 石渡明, ほか (理)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会:2 単位, 週 1 コマ, 鏡味治也, 他 (文) *
- ・ 現代文化論:2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本の言語と文化:2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 日本文化体験 II:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留) *
- ・ 武道 I:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 生物学実験:3 単位, 週 1 コマ, 東 (遠藤) 浩 (理)
- ・ 流体力学と伝熱:2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (工)
- ・ 土木建設工学総論:2 単位, 週 1 コマ, 関平和 (工)
- ・ 日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -:2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川 和一, 他 (工, 理, 薬)

- ・電気・電子・情報工学の技法：2単位，週1コマ，堀田英輔（工）

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－5. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2006.10-2007.3 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	日本人の思想と文化* 島 岩, 小島 治幸 他 比較政治学* ビートン アンドリュウ		
火曜日	日本語	日本語		近代薬学の発展 鈴木 永雄	
水曜日	日本語	日本語	環境をめぐる言説と文学* 結城 正美	文化比較* (ディスカッションクラス) 大藪 加奈	日本地学めぐり 石渡 明
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験Ⅰ 岡沢 孝雄		
金曜日	日本語	日本語			武道Ⅰ ビットマン ハイコ

表－5. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2007.4-2007.9 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	マス・メディアと国際コ ミュニケーション* 楠根 重和	日本の言語と文化 パリハワダナ ルチラ	流体力学と伝熱 木村 繁男
火曜日	日本語	日本語	セミナー：英語で読 む現代日本文学* 大藪 加奈	日本文化体験Ⅱ* 岡沢 孝雄	
水曜日	日本語	日本語	現代文化論* 結城 正美		
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会* 鏡味 治也 他	電気・電子・ 情報工学の技法 堀田 英輔 他	
金曜日	日本語	日本語	土木建設工学総論 関 平和 他	武道Ⅱ ビットマン ハイコ	武道Ⅰ* ビットマン ハイコ
			生物学実験 東（遠藤）浩		

6) 第 X 期 (2007 年 10 月～2008 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語: 秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター: 峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と文化: 2 単位, 週 1 コマ, 島岩, 小島治幸, 他 (文) *
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス): 2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

ii) 春学期

- ・ マス・メディアと国際コミュニケーション: 2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法) *
- ・ セミナー: 英語で読む現代日本文学: 2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学: 2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (法) *
- ・ 日本文化体験 I: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会: 2 単位, 週 1 コマ, 鏡味治也, 他 (文) *
- ・ 日本の言語と文化: 2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 日本文化体験 II: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留) *
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 流体力学と伝熱: 2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (工)
- ・ 土木建設総論: 2 単位, 週 1 コマ, 川上光彦, 他 (工)
- ・ 日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -: 2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川 和一, 他 (工, 理, 薬)
- ・ 電気・電子・情報工学の技法: 2 単位, 週 1 コマ, 山根智, 他 (工)

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－ 6. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2007.10-2008.3 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	比較政治学* ビートン アンドリュウ	日本人の思想と文化* 小島 治幸 他	
火曜日	日本語	日本語	文化比較* (ディスカッションクラス) 大藪 加奈		
水曜日	日本語	日本語			
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験 I 岡沢 孝雄		
金曜日	日本語	日本語			武道 I ビットマン ハイコ

表－ 6. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2008.4-2008.9 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	マス・メディアと国際 コミュニケーション* 楠根 重和	日本の言語と文化 バリハワダナ ルチラ	流体力学と伝熱 木村 繁男
火曜日	日本語	日本語	日本文化体験 II * 岡澤 孝雄		
水曜日	日本語	日本語			電気・電子・ 情報工学の技法 山根 智 他
木曜日	日本語	日本語	現代日本の文化と社会* 鏡味 治也 他	セミナー：英語で読 む現代日本文学* 大藪 加奈	日本の自然と国土 - 環 境モニタリングと保全 - 村本 健一郎 他
金曜日	日本語	日本語	土木建設総論 川上 光彦 他	武道 II ビットマン ハイコ	武道 I * ビットマン ハイコ

7) 第 XI 期 (2008 年 10 月～2009 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語: 秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター: 峯正志, 長野ゆり (留)

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と文化: 2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸, 他 (文) *
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス): 2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

ii) 春学期

- ・ マス・メディアと国際コミュニケーション: 2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (法) *
- ・ セミナー: 英語で読む現代日本文学: 2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学: 2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (法) *
- ・ 環境をめぐる言説と文学: 2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本文化体験 I: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 日本人類学: 2 単位, 週 1 コマ, アートル ジョーン (外) *
- ・ 空手道: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会: 2 単位, 週 1 コマ, 鏡味治也, 他 (文) *
- ・ 日本の言語と文化: 2 単位, 週 1 コマ, パリハワダナ ルチラ (留)
- ・ 日本文化体験 II: 2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留) *
- ・ 武道 I: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II: 2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 流体力学と伝熱: 2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (工)
- ・ 土木建設総論: 2 単位, 週 1 コマ, 川上光彦, 他 (工)
- ・ 日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -: 2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川 和一, 他 (工, 理, 薬)
- ・ 電気・電子・情報工学の技法: 2 単位, 週 1 コマ, 松田吉雄, 他 (工)
- ・ 日本人類学: 2 単位, 週 1 コマ, アートル ジョーン (外) *
- ・ 北米人類学: 2 単位, 週 1 コマ, アートル ジョーン (外) *
- ・ ヨーロッパ生活論: 2 単位, 週 1 コマ, アーベルト オリヴァー (人間社会研究域・歴史言語文化系) *

- ・ 空手道：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－ 7. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2008.10-2009.3 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	比較政治学* ピートン アンドリュウ	日本人の思想と文化* 小島 治幸 他	日本人類学* アートル ジョーン
火曜日	日本語	日本語	日本文化体験 I 岡沢 孝雄		
					空手道（自主研究） ビットマン ハイコ
水曜日	日本語	日本語			
木曜日	日本語	日本語		文化比較* (ディスカッションクラス) 大藪 加奈 環境をめぐる言説と文学* 結城 正美	
金曜日	日本語	日本語			武道 I ビットマン ハイコ

表－ 7. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2009.4-2009.9 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	マス・メディアと国際 コミュニケーション* 楠根 重和	日本の言語と文化 パリハワダナ ルチラ	流体力学と伝熱 木村 繁男 日本人類学* アートル ジョーン
火曜日	日本語	日本語	セミナー：英語で 読む現代日本文学* 大藪 加奈		空手道（自主研究） ビットマン ハイコ
水曜日	日本語	日本語	日本の自然と国土・環 境モニタリングと保全 - 村本 健一郎 他	現代日本の文化と社会* 鏡味 治也 他	電気・電子・ 情報工学の技法 松田 吉雄 他 北米人類学* アートル ジョーン
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験 II * 岡澤 孝雄		
金曜日	日本語	日本語	土木建設総論 川上 光彦 他	武道 II ビットマン ハイコ	武道 I * ビットマン ハイコ ヨーロッパ生活論* アーベルト オリヴァー

8) 第 XII 期 (2009 年 10 月～2010 年 9 月)

a. 必修科目

- ・ 日本語:秋学期 5 単位, 春学期 5 単位, 週 5 コマ, コーディネーター:峯正志, 長野ゆり (留)
(長野は 2010 年 3 月まで)。

b. 選択必修科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 日本人の思想と文化:2 単位, 週 1 コマ, 小島治幸, 他 (人間社会研究域 (以後から「人
社」)・人間科学系) *
- ・ 文化比較 (ディスカッションクラス):2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

ii) 春学期

- ・ マス・メディアと国際コミュニケーション:2 単位, 週 1 コマ, 楠根重和 (人社・法学系) *
- ・ セミナー:英語で読む現代日本文学:2 単位, 週 1 コマ, 大藪加奈 (外) *

c. 選択科目 (科目名, 単位, 週のコマ数, コーディネーターの順 - * = ジョイントクラス)

i) 秋学期

- ・ 比較政治学:2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (人社・法学系) *
- ・ 日本政治・外交論:2 単位, 週 1 コマ, ビートン アンドリュー (人社・法学系) *
- ・ 環境をめぐる言説と文学:2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本文化体験 I:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留)
- ・ 武道 I:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 日本人類学:2 単位, 週 1 コマ, アートル ジョーン (外) *
- ・ 空手道:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)

ii) 春学期

- ・ 現代日本の文化と社会:2 単位, 週 1 コマ, 轟亮, 鏡味治也, 他 (人社・人間科学系) *
- ・ 環境をめぐる言説と文学:2 単位, 週 1 コマ, 結城正美 (外) *
- ・ 日本文化体験 II:2 単位, 週 1 コマ, 岡澤孝雄 (留) *
- ・ 武道 I:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留) *
- ・ 武道 II:2 単位, 週 1 コマ, ビットマン ハイコ (留)
- ・ 流体力学と伝熱:2 単位, 週 1 コマ, 木村繁男 (環日本海域環境研究センター エコテク
ノロジー研究部門)
- ・ 日本の環境基盤整備:2 単位, 週 1 コマ, 川上光彦, 他 (理工研究域 (以後から「理工」)・
環境デザイン系)
- ・ 日本の自然と国土 - 環境モニタリングと保全 -:2 単位, 週 1 コマ, 村本健一郎, 早川和一,
他 (理工・電子情報学系, 医薬保健研究域・薬学系)

- ・電気・電子・情報工学の技法：2単位，週1コマ，今村幸祐，他（理工・電子情報学系）
- ・日本人類学：2単位，週1コマ，アートル ジョーン（外）＊
- ・北米人類学：2単位，週1コマ，アートル ジョーン（外）＊
- ・ヨーロッパ生活論：2単位，週1コマ，アーベルト オリヴァー（人社・歴史言語文化系）＊
- ・空手道：2単位，週1コマ，ビットマン ハイコ（留）
- ・日本映画史：2単位，週1コマ，水野祥子（セメスタ・プログラム（以後から「セ」）提供授業）
- ・現代日本社会：2単位，週1コマ，俵希實（セ）
- ・日本物語 - 留学生のための日本史概説：2単位，週1コマ，フィリップス ジェレミー（セ）

d. 自主研究

e. 一般開講科目

表－8. 1：短期留学プログラム（KUSEP）秋学期 2009.10-2010.3 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	比較政治学＊ ビートン アンドリュウ 日本人の思想と文化＊ 小島 治幸 他		日本人類学＊ アートル ジョーン
火曜日	日本語	日本語		文化比較＊ （ディスカッションクラス） 大藪 加奈	空手道（自主研究） ビットマン ハイコ
水曜日	日本語	日本語		環境をめぐる言説と文学＊ 結城 正美	
木曜日	日本語 日本政治・ 外交論＊ ビートン アンドリュウ	日本語	日本文化体験Ⅰ 岡沢 孝雄		
金曜日	日本語	日本語			武道Ⅰ ビットマン ハイコ

表－ 8. 2：短期留学プログラム（KUSEP）春学期 2010.4-2010.9 時間割

	1 限 8:45-10:15	2 限 10:30-12:00	3 限 13:00-14:30	4 限 14:45-16:15	5 限 16:30-18:00
月曜日	日本語	日本語	マス・メディアと国際 コミュニケーション＊ 楠根 重和	環境をめぐる言説と文学＊ 結城 正美	流体力学と伝熱 木村 繁男 日本人類学＊ アートル ジョーン
火曜日	日本語	日本語	セミナー：英語で読 む現代日本文学＊ 大藪 加奈		空手道（自主研究） ビットマン ハイコ
水曜日	日本語	日本語	日本の自然と国土・環境 モニタリングと保全・ 村本 健一郎 他 日本映画史 水野 祥子	現代日本の文化と社会＊ 轟 亮, 鏡味 治也 他	日本物語：留学生の ための日本史概説 フィリップス ジェレミー
木曜日	日本語	日本語	日本文化体験Ⅱ＊ 岡澤 孝雄		
				北米人類学＊ アートル ジョーン	電気・電子・ 情報工学の技法 今村 幸祐 他
金曜日	日本語	日本語	日本の環境基盤整備 川上 光彦 現代日本社会 俵 希實	武道Ⅱ ビットマン ハイコ	武道Ⅰ＊ ビットマン ハイコ ヨーロッパ生活論＊ アーベルト オリヴァー

3. 1. 4. 3 教育活動実績・評価

表 1～8 を参照。

3. 1. 4. 4 評価方法・成績

原則として 1 年間の留学で秋学期 10 単位以上，春学期 10 単位以上で計 20 単位以上履修した留学生には，短期留学プログラム修了証書を授与する。

1) 第 V 期（2002 年 10 月～2003 年 9 月）

受講生人数：28 名：1 年間：23 名，半年：5 名
1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：23 名
半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：5 名

2) 第 VI 期（2003 年 10 月～2004 年 9 月）

受講生人数：25 名：1 年間：22 名，半年：3 名
1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：21 名
半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：2 名

3) 第 VII 期 (2004 年 10 月～2005 年 9 月)

受講生人数：32 名：1 年間：28 名，半年：4 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：25 名

半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：3 名

4) 第 VIII 期 (2005 年 10 月～2006 年 9 月)

受講生人数：33 名：1 年間：28 名，半年：5 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：26 名

半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：4 名

5) 第 IX 期 (2006 年 10 月～2007 年 9 月)

受講生人数：34 名：1 年間：32 名，半年：2 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：28 名

半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：2 名

6) 第 X 期 (2007 年 10 月～2008 年 9 月)

受講生人数：32 名：1 年間：30 名，半年：2 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：30 名

半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：2 名

7) 第 XI 期 (2008 年 10 月～2009 年 9 月)

受講生人数：34 名：1 年間：34 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：33 名

8) 第 XII 期 (2009 年 10 月～2010 年 9 月)

受講生人数：39 名：1 年間：38 名，半年：1 名

1 年間の留学で取得単位合計 20 単位以上：38 名

半年の留学で取得単位合計 10 単位以上：1 名

3. 1. 4. 5 問題点

a. 奨学金

金沢大学と交流協定を結ぶ海外の大学も年々増え，短期留学プログラムへの留学希望者も増加している。しかし，JASSO の奨学金の受給者の人数は現在横ばい状況にある。

b. 日本人との交流

KUSEP の学生は外国人留学生専用の国際交流会館に住み，共通語はほとんど英語である。

日本人との KUSEP 授業（ジョイント・クラス）は特に 2008 年度から増えてきたが、日常生活においては日本人との交流の機会は少ない。交流を増やすための対策として年々充実してきたチューター制度のさらなる拡充や日本人学生や留学生の混住の寮の整備等があげられる。

c. 寮

増加している留学希望者に、寮の部屋が足りない。また、国際理解（促進）及び交流のために日本人学生と留学生の混住の寮が望ましい。

d. プログラムの受け入れ人数

金沢大学と交流協定を結んでいる海外の高等教育機関数が増加している。定員 20 名で始まった KUSEP も参加者が年々に増え、2010 年度は KUSEP 学生の人数は 40 名を越え、クラス編成や特に文化体験には、クラス内の先生の指導が行き渡らないなど、幾つかの困難が生じている。

（文責：岡澤孝雄，ビットマン・ハイコ）

3. 1. 5 日本語・日本文化研修プログラム

3. 1. 5. 1 プログラム概要

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは、留学生センターが設置された1995年の10月に開設された。

a. プログラムの概要及び目的

本プログラムの開講目的は受講者の日本語能力の向上及び日本社会・文化に対する理解の促進である。プログラムの教育内容は日本語、日本文化及び修了研究という三つの柱から成るが、日本語は総合日本語コースの上級クラスを履修する形を取っている。日本語クラスの到達目標は、単なる「読む、書く、聞く、話す」という4技能の上達のみならず、様々な教室活動を通し、日本語の応用力を身に付け、日本語を通した高度な学術活動が可能なレベルに到達することである。

一方、日本文化は本プログラム専用の教育課程として編成されており、様々な角度から日本社会・文化について考察する機会を受講者に与えている。身に付けた日本語及び日本に対する知識などを生かしながら、日本研究を行い、プログラム修了時に修了研究発表をし、研究レポートを作成することが義務付けられている。

更に、プログラムの一環として日本人学生との合同調査・研究を行う機会も設けている。日本人の若者の考え方に直接触れ、共に学びながら、刺激し合う機会を与えるためである。また、日本文化体験実習、及び実地研修を通して、大学所在地である金沢の豊かな文化に触れる機会を数多く設けている。

b. 対象学生

受講者として受け入れるのは原則として大使館推薦、及び大学推薦の国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）である。しかし、協定校から推薦された私費留学生や国費の奨学金に申請できない地域の学生（台湾出身者）、あるいは以下に記す全ての資格を満たす優秀な日本学専攻の学生から申請があった場合は、受け入れ定員に余裕があれば、国費大学推薦日本語・日本文化研修生と同じ選考を行い、合格者を受け入れている。

本プログラムの受講資格として以下に挙げる四つを設けている。

- i) 日本語能力試験 N2 レベル合格以上の日本語力
- ii) 海外の大学において3, 4年次に在学中の者
- iii) 海外の大学において、日本語・日本文化を専攻にしている者
- iv) 日本研究に対して意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本プログラムの学習に専念する意志を有する者

なお、プログラムの現在の受け入れ定員は20名である。

c. 2003 年 10 月～2010 年 9 月までの受講者数

第 9 期から第 15 期までの受講者数は以下の通りである。

表 3. 1. 5 - 1 日本語・日本文化研修プログラム受講者数

受け入れ年度	国費留学生		その他 (私費留学生等)	合計
	大使館推薦	大学推薦		
第 9 期 (2003.10 ～ 2004.9)	6	5	1	12
第 10 期 (2004.10 ～ 2005.9)	5	5	0	10
第 11 期 (2005.10 ～ 2006.9)	7	5	4	16
第 12 期 (2006.10 ～ 2007.9)	8	6	0	14
第 13 期 (2007.10 ～ 2008.9)	3	5	3	11
第 14 期 (2008.10 ～ 2009.9)	2	4	2	8
第 15 期 (2009.10 ～ 2010.9)	2	7	6	15
合計	33	37	16	86

d. 受講者の所属先、及び身分

受講者の所属は留学生センターとなるが、受け入れ身分は科目等履修生、または特別聴講学生になる。金沢大学の協定校からの留学生は科目等履修生として、それ以外の大学からの大使館推薦の国費留学生、または私費留学生は、特別聴講生として受け入れる。

e. 里親交流プログラム、及び日本人学生との交流

日本語・日本文化研修生に日本社会を直接体験する機会を与えることを目的に、第 5 期 (1999 年 10 月) から里親プログラムを実施している。地域住民の協力の下実施しているこのプログラムでは、1 年間に渡って交流を行う地元の家族を里親家族として各学生に紹介している。里親との交流を通じて地域に溶け込み、日本の家庭生活を直接知る機会となっている (日本語・日本文化研修プログラム里親交流プログラムの詳細については、3.1.5.6 地域との交流——里親プログラムを参照)。

また、日本語・日本文化研修生と交流を行いながら、勉学、または生活の面で手助けをしてくれる日本人学生チューター¹を紹介している。チューターの選定は希望者を優先にし、不足する場合学内募集を行う形で実施している。日本語などの面でサポートが必要とする者及びサポートを希望する日研生に優先的にチューターをつけている。チューターとの一対一の交流は、日本の若者の考え方に触れる有益な機会であり、同時に日本人学生にとっても日研

¹ 独立法人化以前は日本語・日本文化研修生に謝金チューターをつけることが認められていなかった。独立法人化後は各大学の裁量に任されており、多くの受け入れ大学 (53.6% 以上) でチューターをつけているが、金沢大学では同様な処置が未だに認められていない。しかし、日本語のみでの学習活動継続のためチューターが必要な受講生もいるので、日本人学生の協力者に依頼する形を続けている。

生から多くの刺激を受ける機会となっている。

3. 1. 5. 2 カリキュラム

プログラムの受講期間は10月から翌年の9月までの1年間である。現在日本語・日本文化研修プログラムの教育課程は各学期必修科目10科目からできており、年間の合計必修授業科目数は20科目(30単位)である。

表 3. 1. 5 - 2 日本語・日本文化研修プログラム教育課程

科目群	授業科目	1週間当たりのコマ(1コマ=90分)数(単位数)		
		秋学期	春学期	計
日本語科目	日本語	3 (3)	3 (3)	6 (6)
	技能別日本語	1 (1)	1 (1)	2 (2)
	漢字	1 (1)	1 (1)	2 (2)
日本文化科目	日本文化演習Ⅰ	1 (2)	1 (2)	2 (4)
	日本文化演習Ⅱ	1 (2)	1 (2)	2 (4)
	日本文化体験実習	1 (2)	1 (2)	2 (4)
修了研究科目	調査実習	1 (2)	1 (2)	2 (4)
	修了研究演習	1 (2)	1 (2)	2 (4)
合計コマ(単位)数		10 (15)	10 (15)	20 (30)

これらの授業科目のシラバスについては3. 1. 5. 3 教育活動実績を参照されたい。

上述のプログラム専用の科目以外にも日本人学生向けに開講されている科目の履修も可能である。日本語・日本文化研修生の母国大学における専攻は日本語、国際関係、日本文学、歴史、経済学などと多様である。それぞれの専攻に関連のある科目を1学期2、3科目程度履修可能である。各学期の初めに一般授業科目履修ガイダンスを行い、日本語・日本文化研修生に推薦科目を紹介し、1学期当たり、2科目程度の一般授業科目の履修を薦めている。

表 3. 1. 5. 3 日本語・日本文化研修プログラム 時間割

曜日 時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限		日本語	週5コマ	履修	
2限					
3限		日本文化 演習Ⅱ	日本文化 体験実習		日本文化 演習Ⅰ
4限		調査実習	日本文化 体験実習		修了研究演習

3. 1. 5. 3 教育活動実績

ここでは、本プログラムの教育活動の詳細を科目群別に取り上げる。なお、本プログラムのカリキュラム編成、実施運営並びにプログラム受講生の指導教員（修了研究指導を含む）を務めたプログラム担当者は以下の通りである。

表 3. 1. 5 - 4 日本語・日本文化研修プログラム担当者

担当期間	担当者名
第9期～第15期前半 (2003.10～2010.3)	ルチラ パリハワダナ（留学生センター准教授）

i) 日本語科目（必修科目、週5コマ）

受講者はそれぞれの日本語能力に応じ、金沢大学総合日本語コースに合流し、中・上級レベルの日本語クラスを履修する。日本語はメインコースに加えて、漢字、及び技能別日本語の授業が履修できる。技能別日本語として読解（複数レベル）、講義の聴解、作文、レポート作成、口頭発表技術練習、コンピューターを使った論文資料作成などが用意されているが、各学期その中から各自のレベルやニーズに合ったものが1つ、乃至2つ選択できる。

以下の表が示している通り、対象期間における本プログラム受講者の渡日前の平均日本語学習歴は3.97年で、全国平均の3.6年をやや上回っている²。渡日の段階で既に、旧日本語能力試験1級、または2級を合格している者は43.02%に上る。

2005年頃から事前学習歴の2極化が見られ始めた。学習歴が非常に長い学生が応募してくるようになった反面、特に中国出身の学生で、日本語学科に在籍し、大学入学後から学び初めて、2年間の学習を終え、3年生として渡日する学生も増え始めた。後者のタイプの学生（主に大学推薦の応募者）には、原籍大学の選抜試験で1位となった学生が多く、プレースメントテストの結果、1学期目から最上級のFクラスから履修を始める学生も少なくない。

本プログラム専用の日本文化・修了研究科目はナチュラルスピードの日本語で行っており、それらについて行けるためには2級（N2）レベル合格程度の日本語力が必要となる。プレースメントテストの結果に基づく、1学期目の配置レベルは、C2レベルは4.65%、Dレベルは24.42%、Eレベルは46.51%、Fレベルは24.42%であった。即ち、1学期目（秋学期）にEレベルに配置される学生が最も多く、このレベルの学生の1年間の伸び率も非常に高いと考えられる。一方、2学期目（春学期）の受講レベルとして最上級のFレベルが1位を占め、全受講者の63.55%がFレベルに集中する。

1学期目から最上級のFレベルを受講する学生も増えてきており、1学期目の受講率として2位を占める（24.42%）。このタイプの学生の場合、日本語5コマの単位修得が必修であるにも拘わらず、2学期目に進級できるレベルが開講されていない。これらの学生のための

2 全国平均については森 眞理子、ルチラ パリハワダナ他 2008『日本語・日本文化研修プログラム 2007 年修了時全国アンケート調査報告書』石田大成社を参照。

表 3. 1. 5 - 5 日本語・日本文化研修生の渡日前の日本語学習歴及び渡日後の
受講日本語レベル

事前の日本語学習歴 及び受講レベル 期 間	渡日前の 日本語学習歴		C2		D		E		F ³	
	平均学習 期間	1,2 級 合格 者数	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
第 9 期 (2003.10 ~ 2004.9)	2.96 年間	4	2	—	3	2	6	3	1	7
第 10 期 (2004.10 ~ 2005.9)	3.55 年間	4	—	—	2	—	6	2	2	8
第 11 期 (2005.10 ~ 2006.9)	4.58 年間	8	2	—	4	2	7	4	3	10
第 12 期 (2006.10 ~ 2007.9)	3.96 年間	3	—	—	4	—	8	4	2	8
第 13 期 (2007.10 ~ 2008.9)	3.83 年間	5	—	—	3	—	4	3	4	4
第 14 期 (2008.10 ~ 2009.9)	5.13 年間	6	—	—	2	—	2	2	4	6
第 15 期 (2009.10 ~ 2010.9)	3.79 年間	8	—	—	3	—	7	3	5	12
平均学習歴及び %	3.97 年間	43.02%	4.6%		24.4%		46.5%	24.4%	24.4%	63.5%

特別措置として、Fクラスの授業内容を変え、秋学期とは異なる内容を春学期に取り上げるようにしている。しかし、春学期のFクラスの主たる対象学生はEレベルから上がってくる学生やプレースメントテストでFに配置された新規受講者であるので、難易度を引き上げる訳にはいかない。このように、1学期目から最上級レベルを受講する優秀な学生の日本語のニーズに充分に応えられていないというのが本プログラムの一つの大きな課題と言える。各学期、5コマの日本語履修がプログラムの修了要件となっているので、代替措置として、日本人学生用の一般授業科目の中の日本語に関するものの全面的、または部分的振り替えを認めている。⁴

C2レベルからのスタートとなった4名にとり、とりわけ1学期目における本プログラムの受講は困難であったと考えられる。C2レベルは初級と中級の橋渡しのレベルとして位置づけられており、プログラム専用の日本語のみで行われる授業の履修には日本語能力が充分でないからである。チューターをつけることや個別指導を行うことなどの処置をとり、2学期目にはどうにかついて行けるようになった。書類選考の段階で日本語力が不十分であることが判明した場合、他の選択肢を提示するなどの対策を講じることで、このような受講者が減少した。

受講者は日本語のクラスに関して概ね満足していると思われるが、上級レベルの実用的な

3 部分的履修者を含む。

4 未履修の技能別科目と日本人学生用の科目の組み合わせを選択する学生が多い。

会話クラス、翻訳・通訳のクラス、日本語能力試験対策クラスを開設してほしいという要望が多い。

ii) 日本文化科目（必修科目、週3コマ）

日本語・日本文化研修生専用の日本文化科目として日本文化演習Ⅰ・Ⅱ、及び日本文化体験実習の3科目が開講されている。これらの授業科目は日本社会・文化についての理解を深めながら、直接日本社会・文化に触れる機会を与えることを目的としたものである。

i) 日本文化演習Ⅰ

日本文化演習Ⅰでは、社会、生活、政治、経済、言語、ジェンダー、若者の文化等の観点から日本社会・文化について概観する。学内外の専門家が日本社会・文化の諸局面について講義を行う形でこの授業は編成されている。また、セクション毎に討論会や発表等も組み込まれ、学生参加型の授業形態が試みられている。

ii) 日本文化演習Ⅱ

この科目は後述する日本文化体験実習と連結する形で構成されている。体験実習で行う文化体験や実地研修を理解する上で必要とされる日本の歴史、文化、宗教、教育、社会、技術、産業、伝統工芸、伝統芸能、文学等についての予備知識を与えることを目的とする。とりわけ＜歴史＞及び＜地域＞という二つの軸に関連づけながら編成し、学内外の各分野の専門家に講義を依頼している。

iii) 日本文化体験実習

この授業の目的は、金沢の豊かな伝統文化を直接体験する機会を与えること、及び実地研修を通して現代日本社会について学ぶ機会を与えることである。人間国宝を初めとする金沢の著名な芸術家・伝統工芸職人などの協力の下、日本庭園見学、加賀友禅体験、蒔絵体験、和紙漉き体験、金箔工芸体験、美術館見学、工場見学、学校訪問、日本料理体験、和菓子作り体験、茶道体験、座禅体験、琴弾き体験、能楽体験、俳句作り等の体験を実施している。なお、文化体験は平均的に3時間ほど要するものであるので、一つの体験を2コマ分の授業としてカウントする。

日本文化演習Ⅰ、Ⅱではいくつかのサブセクションを設け、日本社会・文化を概観する。プログラム全体の構成は担当教員が編成し、テーマ毎に学内のその専門の教員に講義依頼を行う。実社会になるべく触れ、リアルな日本を知ってもらうために非常勤講師として企業や団体などの方にも講義担当を依頼している。講義担当者がそれぞれの専門的立場から豊富な内容の講義を実施してくれることが多く、年間約45名に上る担当者からの多様なインプットが金沢大学日本語・日本文化研修プログラムの大きな特徴となっている。

サブセッション毎に討論会を設けており、各受講者にいずれかの討論会の時に5分程度の発表をしてもらい、その原稿を提出してもらっている。成績評価は、発表（及び原稿）、授業参加度合い、出席に基づいて行っている。

発表は、取り挙げる1)現象に対する（文献調査に基づいた）実態報告、2)原因解明や問題点指摘などの考察及び3)母国との比較という三点を含むものを要求している。日研生の発表は高水準のものが多く、一人15分程度続く意欲的なものであることも多い。討論会はサブセッション全体をまとめる役割を果たしている。その上、発表や討論を通して問題や事象を身近なものとして、そして母国との相対的なものとして捉えることができるので、討論会は日本に関する理解や関心を深めている効果を発揮していると考えられる。

日本文化体験実習は直接文化に触れる機会を与えることで、日本文化演習科目で学んだ智意識を補い、その裏付けを行うために実施している。以下のシラバスが示している通り、伝統工芸・芸能・文化の第一人者とも言えるべき職人や芸術家が授業を担当してくれており、本格的な体験の機会の提供のみならず、自らの若き頃の経験や志などについて学生に語ってくれる。何代にも亘って一つの道を究めてきた芸術家の生き様に触れる機会は言うまでもなく大変貴重な機会であり、協力してくださった方々のおかげで、多様で、豊かな教育を実施することができた。

日本文化体験実習は、前述したように1回の授業が3時間を超えることが多いので、各学期大抵8～9回の構成となっている。成績評価のためには、秋学期はレポート提出を課題とし、日研生の修了研究の負担が大きい春学期は一人5分の発表と原稿提出を課題としている。これらと、授業参加度合い及び出席状況を総合して成績評価を行っている。

これらの科目は学内外の専門家が講義を担当する形で実施する。年度ごとの各科目の講義内容は次の通りである。

a. 第9期（1995年10月～1996年9月）を対象にした日本文化教育

9期生を対象にした日本文化演習Ⅰでは、秋学期は経済、経営、職業・生活観、国際論、公害問題などを取り上げ、春学期は言語、情報、報道、コミュニケーションなどを取り挙げた。

表 3. 1. 5 - 6 2003 年秋学期日本文化演習 I 「日本社会・文化への視点」 シラバス

サブテーマ	日程	担当教官	講義題目
	2003/10/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
不景気と 「日本的経営」	2003/10/17	田口直樹 (経済学部助教授)	企業体制の変化
	2003/11/13 【3 限】	松川治彦 (ニュー三久社長 非常勤講師)	不景気と消費者行動 ——ニュー三久を例に——
	2003/11/7	富田 勝 (トヨタ部品石川共販 株式会社社長 非常勤講師)	トヨタ成功の秘訣
	2003/11/14	畑 安次 (副学長, 法学部教授)	民営化の功罪 ——国立大学の独立法人化——
	2003/11/21	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「不景気と社会」
雇用と現代人の 職業観	2003/11/28 【5 限】	伍賀一道 (経済学部教授)	リストラ, 失業と自殺
	2003/12/5 【5 限】	伍賀一道 (経済学部教授)	過労死
	2003/12/12	名古道功 (法学部教授)	変化する現代人の職業観 ——働くことの意義——
	2003/12/19	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「仕事, 生き甲斐と人生」
犠牲と反省	2004/1/9	古畑 徹 (文学部教授)	第二次世界大戦と近隣国の犠牲者達
	2004/1/23	鹿島 正裕 (法学部教授)	広島・長崎と日本の平和運動
	2004/1/30	加藤喜代志 (元法学部教授 非常勤講師)	水俣 ——高度経済成長の犠牲者達
	2004/2/6	加藤喜代志 (元法学部教授 非常勤講師)	犠牲・反省と ナショナル・アイデンティティ
	2004/2/13	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 3 「犠牲・反省と日本社会」

表 3. 1. 5 - 7 2004 年春学期日本文化演習Ⅰ「日本社会・文化への視点」シラバス

サブテーマ	日程	担当教官	講義題目
言語と文化	2004/4/9	西嶋 義憲 (経済学部教授)	言語行動と話し手—聞き手
	2004/4/16	長野 ゆり (留学生センター助教授)	命令・依頼表現と話し手—聞き手
	2004/4/23	新田 哲夫 (文学部助教授)	やりもらい表現と話し手—聞き手
	2004/5/7	峯 正志 (留学生センター助教授)	終助詞と話し手—聞き手
	2004/5/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	コミュニケーションと 話し手—聞き手
	2004/5/21	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「言語と視点」
情報と教養	2004/5/28	三好 義昭 (教育学部教授)	情報とリテラシー
	2004/6/4	笹原 忠義 (MRO アナウンス部長 非常勤講師)	テレビと世論
	2004/6/11	井上正男 (北國新聞社論説委員 非常勤講師)	新聞とその社会的影響
	2004/6/18	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「若者と情報源」
若者	2004/6/25	加藤和夫 (教育学部教授)	若者とコミュニケーション ——表現と非表現化——
	2004/7/2 【4 限】	木越 治 (文学部教授)	若者の文学
	2004/7/9 【4 限】	西嶋愉一 (外国語教育研究センター助教授)	若者と I.T. 技術
	2004/7/16	山形 恭子 (法学部教授)	個性と同調性
	2004/7/23	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 3 「若者の葛藤」

9 期生を対象にした秋学期の日本文化演習Ⅱ科目は大学所在地を切り口としながら、地域の歴史及び地理、伝統文化、宗教を主題とするものとして編成した。春学期は現代日本社会に焦点を当てながら、家族、青少年問題、揺らぐ価値観、教育などを取り挙げた。

表 3. 1. 5 - 8 2003 年秋学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化への視点」シラバス

サブテーマ	日程	担当教官	講義題目
	2003/10/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
金沢と文化	2003/10/21	梶川勇作 (文学部教授)	都市構造を通して見る城下町の面影
	2003/10/28	前田久徳 (教育学部教授)	文学と金沢
	2003/11/11	中村浩二 (理学部教授)	金沢の環境変化とその保護策
	2003/11/18	加藤和夫 (教育学部教授)	金沢方言の特徴
	2003/11/25	梶川勇作 (文学部教授)	加賀藩の百万石文化
伝統文化	2003/12/2	西村 聡 (文学部教授)	能楽を通して見る日本人の感情表現 ——感情の抑制と噴出——
	2003/12/3 【3 限】	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	文化と笑い——加賀万歳——
	2003/12/16	山崎達文 (金沢学院大学助教授 非常勤講師)	煌く箔打ち紙——金箔と和紙——
	2004/1/6	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	職人——洗練された技術と芸術——
	2004/1/13	村上 貢 (夕日寺県民自然公園 園長 非常勤講師)	日本庭園の成り立ち
文化と宗教	2004/1/20	戸石久徳 (金沢職人大学校講師 非常勤講師)	神社仏閣の建築様式
	2004/1/27	清水邦彦 (文学部助教授)	日本人の死生観と宗教
	2004/2/3	森 雅秀 (文学部助教授)	座禅と悟り
	2004/2/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

表 3. 1. 5 - 9 2004 年春学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化への視点」シラバス

サブテーマ	日程	担当教官	講義題目
社会と変化	2004/4/13	鹿野勝彦 (文学部長 教授)	生活水準の向上と価値観の変化
	2004/4/20	楠根重和 (法学部教授)	マスメディアの発達と社会の変化
家族と社会	2004/4/27	橋本和幸 (文学部教授)	現代社会における家族の有り方
	2004/5/11	横山壽一 (経済学部教授)	少子化と社会の高齢化
	2004/5/18	高橋涼子 (法学部助教授)	「バラサイト・シングル ——晩婚化と日本人の結婚観」
	2004/5/25	綿引伴子 (教育学部助教授)	仕事・家庭と女性の生き方
	2004/6/1	久保拓也 (教育学部助教授)	サラリーマンの人生観 ——男性の生き方——
	2004/6/8	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「家族の意味」
自己と社会	2004/6/16 【3 限 /B5】	砂原陽一 (文学部教授)	傷付けられたくない「自分」と 傷付けたくない「他人」
	2004/6/22	松川順子 (文学部教授)	バーチャル化の心理 ——現時と非現実——
	2004/6/29	柴田正良 (文学部教授)	青少年問題
教育と社会	2004/7/6	三益隆一 (外国語教育センター センター長 教授)	学ぶことの意義
	2004/7/13 【3 限】	石原多賀子 (金沢市教育長 非常勤講師)	学校教育の意義
	2004/7/13 【4 限】	石原多賀子 (金沢市教育長 非常勤講師)	人間形成と学校教育
	2004/7/27	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「自己、社会と教育」

日本文化体験実習は、日本理解を深めるための代表的な日本文化体験や金沢（または石川県）でしかできない地域特有の文化体験から構成されている。

表 3. 1. 5 - 10 2003 年秋学期日本文化体験実習「日本社会・文化への視点」シラバス

日程	担当教官	講義題目
2003/10/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
2003/10/22	泉 紫像(静夫) (俳人協会石川県部長 非常勤講師)	俳句作りと句会
2003/11/12	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験, 及び友禅工房見学
2003/11/26	大島宗翠 (茶道裏千家教場裏松舎主宰 非常勤講師)	茶道体験
2003/12/10	寺田成秀 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験
2004/1/7	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	金箔工芸体験
2004/1/21	加藤重和 (青木クッキングスクール教頭 非常勤講師)	加賀料理体験
2004/2/4	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	九谷焼体験Ⅰ
2004/2/18	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	九谷焼体験Ⅱ

表 3. 1. 5 - 11 2004 年春学期日本文化体験実習「日本社会・文化への視点」シラバス

場所	日程	担当教官	講義題目
2004/4/14 ゲストハウス		北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴弾き体験
2004/4/28 B5		大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2004/5/19 ゲストハウス		河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2004/5/26 調理室		水本 寛 (水本和菓子店店長 非常勤講師)	和菓子作り体験
2004/6/2 校外		川北良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗 ——川北工房見学——
2004/6/9 校外		引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	座禅体験, 及び大乘寺見学
2004/6/23 校外		坂本宗一郎 (紙衣作家 非常勤講師)	和紙工房見学, 及び和紙漉き体験
2004/7/14 校外		石原多賀子 (金沢市教育長 非常勤講師)	中学・高校訪問
2004/7/21 B5		ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

a. 10 期生（2004.10 ～ 2005.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 12 2004 年秋学期日本文化演習 I 「内・外から見た日本社会と文化」シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教官	講義題目
	2004/10/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
企業と雇用の あり方	2004/10/22	名古屋功 (法学部教授)	日本人の職業観の多様化
	2004/10/29	澤田 幹 (経済学部教授)	日本企業の特徴
	2004/11/12 【4 限】	白石弘幸 (経済学部教授)	日本の職場における「歯車」— 能力, 協調性と社内の人間関係
	2004/11/19	富田 勝 (トヨタ部品石川共販 株式会社社長 非常勤講師)	社員から見た企業と企業から見た販売 客——トヨタの場合
	2004/11/26	青野 透 (大学教育開発・支援 センターセンター長)	企業における不祥事と内部告発
	2004/12/2 【木 3 限】	伍賀一道 (経済学部教授)	疲労, 過労死と過労自殺
	2004/12/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「会社・仕事と人生」
日本の 国際関係	2004/12/17	鹿島 正裕 (法学部教授)	対米関係から見た日本の外交史
	2005/1/7	古畑 徹 (文学部教授)	日中, 及び日韓関係から見た日本
	2005/1/21	鶴園 裕 (経済学部教授)	拉致問題を通して見る日本の外交関係
	2005/1/28	畑 安次 (法科大学院長, 法 学部教授)	グローバリゼーションの行方— 国家 と国際社会
	2005/2/4	有賀秀夫 (JICA 北陸支部支部長 非常勤 講師)	JICA の活動を通して見る日本の国際 貢献
	2005/2/16 【水】	平田公明 (文部科学省国費留学 生第二係長)	日本の国費留学制度の意義
	2005/2/18	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「母国と日本との外交関係」

表 3. 1. 5 - 13 2005 年春学期日本文化演習 I 「内・外から見た日本社会と文化」 シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教官	講義題目
言語と行動	2005/4/8	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
	2005/4/15	西嶋 義憲 (経済学部教授)	ポライトネスと視点
	2005/4/22	新田 哲夫 (文学部助教授)	情報構造と聞き手に対する配慮 ——終助詞を例に
	2005/5/6	峯 正志 (留学生センター助教授)	言語から見た話し手と聞き手との 心的距離の伸縮
	2005/5/13	加藤和夫 (教育学部教授)	共通語と方言のコードスイッチング
	2005/5/20	入江浩司 (文学部助教授)	日本語を通して見る「である文化」 ——受動・自発・自動表現
	2005/5/27	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	ノンバーバルコミュニケーション
	2005/6/3	高山知明 (文学部助教授)	日本語の文字を通して見る書き言葉の 特徴
	2005/6/10	山形恭子 (法学部教授)	マンウォッチング——日本人の行動 様式としての異性間の振る舞い
	2005/6/17	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「言語と文化」
情報と 豊かさ	2005/6/24	三好 義昭 (教育学部教授)	情報化とメディアの発達
	2005/7/1	楠根重和 (法学部教授)	マスメディアと世論
	2005/7/8	西嶋愉一 (外国語教育研究センター助教授)	メディアと匿名性
	2005/7/15	田中一郎 (教養教育機構長 工学部教授)	科学技術の発展と人間の心の発達
	2005/7/22	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「豊かさとは？」

表 3. 1. 5 - 14 2004 年秋学期日本文化演習Ⅱ「内・外から見た日本社会と文化」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教官	講義題目
	2004/10/12	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
金沢の文化	2004/10/19	梶川勇作 (文学部教授)	金沢城下町とその文化
	2004/10/26	加藤和夫 (教育学部教授)	方言を通してみる金沢の特徴
	2004/11/9 [12 時過ぎから]	中村浩二 (理学部教授)	金沢の自然美
宗教とその 文化への反映	2004/11/16	戸石久徳 (金沢職人大学校 講師 非常勤講師)	神社・仏閣の建築様式の特徴
	2004/11/30	森 雅秀 (文学部助教授)	北陸地方の仏像美術
	2004/12/7	森 雅秀 (文学部助教授)	禅と悟り
	2004/12/14	大久保英哲 (教育学部教授)	禅と武道
	2004/12/21	村上 貢 (夕日寺県民自然公園 園長 非常勤講師)	日本の庭と茶の文化
芸術としての言 語使用	2005/1/11	木越治 (文学部教授)	俳句で見る日本人の文学観
	2005/1/18	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	加賀万歳— 言葉遊びと文化
	2005/1/25	西村 聡 (文学部教授)	台詞を通して見た狂言の世界
伝統文化の 継承	2005/2/1	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	師匠から弟子への技の伝授 ——大樋焼きを例に
	2005/2/8	山崎達文 (金沢学院大学 助教授 非常勤講師)	和紙の役割 ——伝統産業の保存と継承
	2005/2/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

表 3. 1. 5 - 15 2005 年春学期日本文化演習Ⅱ「内・外から見た日本社会と文化」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教官	講義題目
	2005/4/12	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
家族と 生活	2005/4/19	轟 亮 (文学部助教授)	対人関係構造と日本人のアイデンティティ
	2005/4/26	久保拓也 (教育学部 助教授)	現代男性の意識とライフスタイル
	2005/5/10	綿引伴子 (教育学部助教授)	現代女性の意識とライフスタイル
	2005/5/17	橋本和幸 (文学部教授)	現代日本における親と子の関係
	2005/5/24	横山壽一 (経済学部教授)	日本の高齢者の生き方
	2005/5/31	眞鍋知子 (法学部助教授)	家族・社会の変化と希薄化する帰属意識
	2005/6/7	鹿野勝彦 (副学長 文学部教授)	日本人の生活の変化と生き甲斐
	2005/6/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1「『家』と家族」
教育と子供の悩み	2005/6/21	原田克巳 (教育学部附属教育実 践総合センター講師)	引きこもり
	2005/6/28 (16 日に変更)	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	高校生から見たいじめ (高校生とのディスカッション)
	2005/7/5	鈴木健一 (保健管理センター助教授)	キレル若者—14 歳・17 歳の心
	2005/7/12	石原多賀子 (金沢市教育長 非常勤講師)	教師と生徒の人間関係
	2005/7/19	石原多賀子 (金沢市教育長 非常勤講師)	知識, 知的訓練と心の教育
	2005/7/26	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「子供の存在場所としての学校と家庭」

表 3. 1. 5 - 16 2004 年秋学期日本文化体験実習「内・外から見た日本社会と文化」シラバス

日程 (水/3・4 限) [場所]	担当教官	講義題目
2004/10/13 [B5]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
2004/10/27 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	座禅体験と大乘寺見学
2004/11/10 [校外]	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験, 及び友禅工房見学
2004/11/17 [校外]	大島宗翠 (茶道裏千家教場裏松舎主宰 非常勤講師)	茶道体験
2004/12/8 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	九谷焼体験Ⅰ
2004/12/22 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	九谷焼体験Ⅱ
2005/1/12 [B5]	泉 紫像(静夫) (俳人協会石川県部長 非常勤講師)	俳句作りと句会
2005/1/26 [校外]	寺田成秀 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験
2005/2/9 [調理室]	加藤重和 (青木クッキングスクール教頭 非常勤講師)	加賀料理体験

表 3. 1. 5 - 17 2005 年春学期日本文化体験実習「内・外から見た日本社会と文化」シラバス

日程 (水/3・4 限) [場所]	担当教官	講義題目
2005/4/13 [作田工芸室]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	金箔工芸体験
2005/4/27 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴体験
2005/5/11 [B5 教室]	本江和美(竹工芸作家)	竹細工
2005/5/25 [調理室]	水本 寛(水本和菓子店店長 非常勤講師)	和菓子体験
2005/6/8 [川北工房]	川北良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗 ——川北工房見学——
2005/6/15 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2005/6/29 [B5 教室]	大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2005/7/13 [二俣]	坂本宗一郎 (紙衣作家 非常勤講師)	和紙工房見学, 及び和紙漉き体験
2005/7/20 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

b. 11 期生（2005.10 ～ 2006.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 18 2005 年秋学期日本文化演習 I 「日本社会・文化の多様化と不変化」シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教官	講義題目
	2005/10/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
戦後 60 年の 日本の歩み	2005/10/21	奥田晴樹 (教育学部教授)	日本の外来文化受容 ——幕末から明治期まで——
	2005/10/28 【金 /4 限】	古畑 徹 (文学部教授)	対中・韓関係から見た戦後 60 年
	2005/11/18	加藤喜代志 (前法学部教授非常勤講師)	歴史認識のあり方
	2005/11/18 【金 /4 限】	加藤喜代志 (前法学部教授非常勤講師)	戦後日本の環境意識
	2005/11/25	杉原敏雄 (JICA 北陸支部長 非常勤講師)	ODA を通してみる戦後日本の歩み
	2005/12/2	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「過去・現在と未来の平和」
経済大国に おける 企業と社員	2005/12/8 【木 /3 限】	中島文雄 (大学院法務研究科教授)	株式会社は誰のものか？
	2005/12/16	松浦義昭 (経済学部講師)	競争・開発と日本企業の経営方針
	2006/1/6	澤田 幹 (経済学部教授)	企業内部の組織構造
	2006/1/13	正木 響 (経済学部助教授)	グローバル化と日本企業
	2006/1/26 【木 /3 限】	佐賀一道 (経済学部教授)	人材管理と成果主義
	2006/2/3	森 勝美 (松下電器産業半導体 社魚津環境管理チーム主事 非常勤講師)	松下電器の環境経営取り組み
	2006/2/7	名古屋功 (法学部教授)	職業観から見た日本人の生活意識と ライフスタイル
	2006/2/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「会社・生活と労働意識」

表 3. 1. 5 - 19 2006 年春学期日本文化演習 I 「日本社会・文化の多様化と不変化」シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教官	講義題目
社会組織・ 個人の 多様化	2006/4/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
	2006/4/21	横山壽一 (経済学部教授)	少子高齢化と人口減少社会
	2006/4/28	高橋涼子 (法学部教授)	晩婚化・未婚化と男女の アイデンティティ
	2006/5/12	久保拓也 (教育学部助教授)	日本人男性の一生とその心理
	2006/5/17 【水 /4 限】	三上純子 (外国語教育研究センター教授)	日本人女性の一生とその心理
	2006/5/26	橋本和幸 (文学部教授)	変化する家族観
	2006/6/2	轟 亮 (文学部助教授)	人間関係の希薄化と日本人の アイデンティティ
	2006/6/9 【金 /4 限】	溝部明男 (文学部教授)	日本人の様々な「顔」
	2006/6/16	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「生きることの『公』と『私』」
若者文化と コミュニケーション	2006/6/21 【水 /3 限】	山本敏郎 (教育学部助教授)	社会変動と学校の役割
	2006/6/29 【木 /3 限】	原田克巳 (教育学部附属教育 実践総合センター 講師)	高校生の自己表現
	2006/7/7	眞鍋知子 (法学部助教授)	ゲーム・アニメと若者文化
	2006/7/14	楠根重和 (法学部教授)	情報化社会における コミュニケーション変化
	2006/7/21	西嶋愉一 (外国語教育研究センター助教授)	I.T. コミュニケーションの 多様化とその社会的影響
	2006/7/28	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「若者とコミュニケーション」

表 3. 1. 5 - 20 2005 年秋学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化の多様化と不変化」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教官	講義題目
	2005/10/11	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
空間の形式と表現	2005/10/18	戸石久徳 (金沢職人大学校講師 非常勤講師)	日本伝統の建築様式
	2005/10/25	村上 貢 (夕日寺県民自然公園 園長 非常勤講師)	日本庭園の空間表現
	2005/11/1	梶川勇作 (文学部教授)	都市構造に見る城下町の名残
	2005/11/8	中村浩二 (理学部教授)	角間の里山と自然
伝統・地域文化 の表現形式	2005/11/15	鏡味治也 (文学部教授)	日本伝統祭礼文化の形式 ——能登祭りを例に——
	2005/11/22	深見和夫 (児童文学作家 非常勤講師)	加賀能登地方の民話の形式
	2005/11/29	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	加賀万歳の形式
	2005/12/6	西村 聡 (文学部教授)	能と狂言の形式
	2005/12/13	大久保英哲 (教育学部教授)	武道の形式と精神
	2005/12/20	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1「文化の形式と表現」
文化と思想	2006/1/10	鹿野勝彦 (副学長 文学部教授)	農村における生活世界観
	2006/1/17	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	職人意識と創作活動
	2006/1/24	山崎達文 (金沢学院大学教授 非常勤講師)	職人の拘り
	2006/1/31	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2「生活、文化と考え方」

表 3. 1. 5 - 21 2006 年春学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化の多様化と不変化」
シラバス

サブテーマ	日程 (火/3限)	担当教官	講義題目
	2006/4/18	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
言語と伝達	2006/4/25	近藤 明 (教育学部教授)	古典語の特徴
	2006/5/2	柘植洋一 (文学部教授)	日本語の音声と伝達の社会・文化的側面
	2006/5/9	加藤和夫 (教育学部教授)	日本の方言地図
	2006/5/16	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	丁寧さ、心的距離と待遇表現
	2006/5/23	高山知明 (文学部助教授)	語種から見た日本語の文字
	2006/5/30	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1「日本語の特徴」
文学, ジャーナリズム と時代背景	2006/6/6	木越 治 (文学部教授)	日本古典文学の流れ
	2006/6/13	上田正行 (文学部教授)	明治期の日本文学の特徴
	2006/6/20	前田久徳 (教育学部教授)	大正期の日本文学の特徴
	2006/6/27	森 英一 (教育学部教授)	昭和期の日本文学の特徴
	2006/7/4	木越 治 (文学部教授)	歌詞の文学性と時代背景
	2006/7/11	井上正男 (北國新聞社論説員非常勤講師)	ジャーナリズムと世論
	2006/7/18	北山弘幸 (テレビ金沢報道センターみつ ばち部部长非常勤講師)	テレビ報道の役割と特徴
	2006/7/25	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「文学・報道を通して見る日本」

表 3. 1. 5 - 22 2005 年秋学期日本文化体験実習「日本社会・文化の多様化と不変化」
シラバス

日程（水 / 3・4 限） [場所]	担当教官	講義題目
2005/10/12 [B5]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
2005/10/19 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	座禅体験と大乘寺見学
2005/11/9 [校外]	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験, 及び友禅工房見学
2005/11/16 [校外]	大島宗翠 (茶道裏千家教場裏松舎主宰非常勤講師)	茶道体験
2005/11/30 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	小松製作所見学
2005/12/14 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	北國新聞社半日インターンシップ ——新聞記事編集体験
2006/1/11 [B5]	泉 紫像(静夫) (俳人協会石川県部長 非常勤講師)	俳句作りと句会
2006/1/25 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	石川県歴史博物館見学
2006/2/8 [校外]	寺田成秀 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験

表 3. 1. 5 - 23 2006 年春学期日本文化体験実習「日本社会・文化の多様化と不変化」
シラバス

日程（水 / 3・4 限） [場所]	担当教官	講義題目
2006/4/12 [今井金箔]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	金箔工芸体験 及び 石川県立歴史博物館見学
2006/4/26 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴体験
2006/5/10 [ゲストハウス]	作本庚悦 (石川県民謡協会会長 非常勤講師)	石川県の民謡体験
2006/5/24 [調理室]	水本 寛 (水本和菓子店店長非常勤講師)	和菓子体験
2006/5/31 [川北工房]	川北良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗 ——川北工房見学——
2006/6/14 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2006/6/28 [B5 教室]	大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2006/7/12 [二俣]	齊藤 博 (和紙職人 非常勤講師)	和紙工房見学, 及び和紙漉き体験
2006/7/26 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

c. 12 期生（2006.10 ～ 2007.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 24 2006 年秋学期日本文化演習 I 「日本社会・文化へのキーワード」
シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教員	講義題目
	2006/10/13	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
家族・ジェンダー と社会のあり方	2006/10/20	岡沢孝雄 (留学生センター教授)	日本人男性の社会的立場とジェンダー アイデンティティ
	2006/10/27	三上純子 (外国語教育研究センター教授)	日本人女性の社会的な地位とジェンダー アイデンティティ
	2006/11/10	中野節子 (文学部助教授)	近世における女性像
	2006/11/17	橋本和幸 (文学部教授)	熟年離婚と団塊の世代
	2006/11/24	横山壽一 (経済学部教授)	少子化と家族の絆の変容
	2006/12/1	原田克巳 (教育学部附属教育実 践総合センター講師)	家族間の殺人事件とその心理的背景
	2006/12/8	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	家族の絆——親と子の関係—— 日本人学生とのディスカッション
	2006/12/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「社会基盤としての家族の役 割」
日本社会に おける人間関係	2006/12/22	長峰伸治 (教育学部助教授)	他者との関係からの逃避—— 「引きこもり」「不登校」問題——
	2007/1/5	轟 亮 (文学部助教授)	日本社会における人間関係 ——上下・ウチ・ソト関係——
	2007/1/12	伍賀一道 (経済学部教授)	企業内の人間関係
	2007/1/26	鏡味治也 (文学部教授)	コミュニティの結束度
	2007/2/2	杉原敏雄 (JICA 北陸支部長 非常勤講師)	人, 社会と国際貢献
	2007/2/9	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「自己アイデンティティと人間関係」

表 3. 1. 5 - 25 2007 年春学期日本文化演習 I 「日本社会・文化へのキーワード」
シラバス

サブテーマ	日程 (金/3 限)	担当教員	講義題目
揺らぐ「常識」 と価値観	2007/4/13	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
	2007/4/27 【4 限】	鹿島正裕 (法学部教授)	安全保障と日米同盟
	2007/5/18 【3 限】	古畑 徹 (共通教育機構長, 文学部教授)	靖国神社参拝に関する世論を 通してみた歴史認識のあり方
	2007/5/11	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	日本人の人権意識
	2007/5/11	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	日本人の環境意識
	2007/5/25	北浦勝 (留学生センター長自然科学研究科教授)	耐震偽造問題
	2007/6/1	中島健二 (経済学部教授)	ナショナリズムと日本社会の国際観
	2007/6/8	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1 「社会常識と価値観の変動」
変化する企業 体制, 職業観と 豊かさ観	2007/6/15	正木 響 (経済学部助教授)	世界経済の流れと日本経済の動向
	2007/6/22	澤田 幹 (経済学部教授)	バブル崩壊後の日本企業
	2007/6/29	梁井宏 (福光屋常務取締役 非常勤講師)	金沢の中小企業と職人技術の伝承
	2007/7/6	名古道功 (法務研究科教授)	会社への帰属意識の希薄化と職業観
	2007/7/13	海野八尋 (経済学部教授)	ヒルズ族に象徴される新豊かさ観
	2007/7/20	西嶋愉一 (外国語教育研究センター助教授)	情報通信の発達と日本社会の変化
	2007/7/27	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2 「職業観, 豊かさ観と社会のあり方」

表 3. 1. 5 - 26 2006 年秋学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化へのキーワード」

シラバス

サブテーマ	日程 (火/3限)	担当教員	講義題目
	2006/10/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
自然観	2006/10/17	中村浩二 (理学部教授)	里山を通して見る日本人の自然観
	2006/10/24	戸石久徳 (金沢職人大学校講師 非常勤講師)	気候と日本の住まい
	2006/10/31	村上 貢 (夕日寺民自然 公園園長 非常勤講師)	庭園に見る日本人の自然観
	2006/11/17 【4 限】	島 岩 (文学部教授)	宗教意識を通して見る日本人の自然観
	2006/11/21	結城雅美 (外国語教育研究センター助教授)	文学に見る日本人の自然観
	2006/11/28	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1「日本文化における自然の 捉え方と表現形式」
型・形式と 日本文化	2007/1/17	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	日本文化における形
	2007/1/31	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	千利休の茶の湯
	2006/12/19	西村 聡 (文学部教授)	能と狂言の型
	2007/1/9	後藤祐自 (非常勤講師 能面作家)	能面の表情の型
	2007/1/16	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	加賀万歳の型
	2007/1/23	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2「型・形式と文化」
通事的・空間的 広がりとしての 日本文化	2007/1/30	梶川勇作 (文学部教授)	前田利家と城下町金沢
	2007/2/6	山崎達文 (金沢学院大学教授 非常勤講師)	シルクロードと日本の伝統工芸

表3. 1. 5 - 27 2007 年春学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化へのキーワード」

シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教官	講義題目
	2007/4/17	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
文学の描く世界のリアリズムと非リアリズム	2007/4/24	木越 治 (文学部教授)	松尾芭蕉の紀行文
	2007/5/1	上田正行 (文学部教授)	日本近代詩の展開
	2007/5/8	前田久徳 (教育学部教授)	私小説における事実と虚構
	2007/5/24 (木) 3 限	森 英一 (教育学部教授)	関東大震災後の文学
	2007/5/22	ルチラ パリハワダナ [引率] (留学生センター助教授)	泉鏡花記念館見学
	2007/5/29	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 1「日本文学の表現形式」
言語と 言語外現実	2007/6/5	加藤和夫 (教育学部教授)	方言意識と言語行動
	2007/6/12	柘植洋一 (文学部教授)	言語の恣意性
	2007/6/19	守屋哲治 (教育学部助教授)	現実に対する言語の見方 ——モダリティ表現を例に——
	2007/6/26	近藤 明 (教育学部教授)	時間表現と現実
	2007/7/3	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	否定表現と現実
	2007/7/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	討論会 2「言語と多様な現実」
メディアと 広がる世界観	2007/7/17	楠根重和 (法学部教授)	情報源の多様化と広がる世界観
	2007/7/24	小倉政人 (北國新聞社論説副委員長非常勤講師)	新聞と世界観

表 3. 1. 5 - 28 2006 年秋学期日本文化体験実習「日本社会・文化へのキーワード」

シラバス

日程 (水 / 3・4 限) [場所]	担当教員	講義題目
2006/10/11 [B5]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	オリエンテーション
2006/10/18 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	座禅体験と大乘寺見学
2006/11/1 [校外]	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験 及び 友禅工房見学
2006/11/22 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	小松製作所見学
2006/11/29 [校外]	大島宗翠 (茶道裏千家教場裏松舎主宰 非常勤講師)	茶道体験
2006/12/13 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	金箔工芸体験 及び 金沢市立安江金箔工芸館見学
2007/1/10 [B5]	泉 紫像 (静夫) (俳人協会石川県部長 非常勤講師)	俳句作りと句会
2007/1/24 [校外]	藪 俊彦 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験
2007/2/7 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴体験

表 3. 1. 5 - 29 2007 年春学期日本文化体験実習「日本社会・文化へのキーワード」

シラバス

日程 (水 / 3・4 限) [場所]	担当教員	講義題目
2007/4/11 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	石川県歴史博物館見学
2007/4/18 [ゲストハウス]	作本庚悦 (石川県民謡協会会長 非常勤講師)	石川県の民謡体験
2007/6/7 (木) [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	裁判所見学
2007/5/23 [調理室]	水本 寛 (水本和菓子店店長 非常勤講師)	和菓子体験
2007/6/6 [川北工房]	川北良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗——川北工房見学——
2007/6/13 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2007/6/27 [B5 教室]	大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2007/7/11 [二俣]	齊藤 博 (和紙職人 非常勤講師)	和紙工房見学, 及び和紙漉き体験
2007/7/18 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター助教授)	発表会

d. 13 期生（2007.10 ～ 2008.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 30 2007 年秋学期日本文化演習 I 「現代日本を考える」 シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教員	講義題目
	2007/10/12	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
現代日本の 25 社会問題	2007/10/18 [木 3] B12	横山 壽一 (経済学部教授)	少子高齢化社会の様々な課題
	2007/10/26	轟 亮 (文学部准教授)	格差社会の実態と問題点
	2007/11/15 [木 3] B12	原田克巳 (教育学部附属教育 実践総合センター講師)	若者の心の問題
	2007/11/16	中山謙二 (自然科学研究科教授)	情報化社会の功罪
	2007/11/30 [金 4 限]	鶴園 裕 (経済学部教授)	部落の形成と社会的位置付け
	2007/12/14	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	市民運動と環境問題
	2007/12/14	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	市民運動と「憲法 (改正)」
	2007/12/21	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「現代日本の社会問題」
歴史と現在	2008/1/10 [木 3] B12	奥田晴樹 (教育学部教授)	石川県に見る幕藩体制の名残
	2008/1/10 [木 4] B12	奥田晴樹 (教育学部教授)	文明開化における伝統・ 西洋思想の融合
	2008/1/25	能川泰治 (文学部准教授)	戦前日本のデモクラシーと民衆
	2008/1/30	能川泰治 (文学部准教授)	戦前日本の大衆社会と民衆
	2008/2/1	古畑 徹 (共通教育機構長, 文学部教授)	第二次世界大戦の影
	2008/2/8	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2 「時代変化と社会思想」

表 3. 1. 5 - 31 2008 年春学期日本文化演習 I 「現代日本を考える」 シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教員	講義題目
日本人の アイデンティティ	2008/4/11	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
	2008/4/18	楠根重和 (法学部教授)	個人意識における国家のフレーム
	2008/4/25	中島健二 (経済学部教授)	日本人のナショナル・アイデンティティ
	2008/5/2	中野節子 (文学部准教授)	近世におけるジェンダー アイデンティティ
	2008/5/9	三上純子 (外国語教育研究センター教授)	現代日本人のジェンダー アイデンティティ
	2008/5/16	岩本健良 (文学部准教授)	日本人の帰属意識
	2008/5/22 [木 3 限]	轟 亮 (文学部准教授)	若者のアイデンティティとその表現法
	2008/5/30	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「社会変動と個人のアイデンティティ」
経済・産業界の 新展開と地球社会 の課題	2008/6/6	森 勝美 (松下電器産業半導体社魚津環境 管理チーム主事 非常勤講師)	松下電器の環境対策
	2008/6/13	杉原敏雄 (JICA 北陸支部長 非常勤講師)	地球社会の課題と取り組み ——JICA の取り組みを例に——
	2008/6/20	千葉敏昭 (日機装医療機器カンパニー 金沢工場工場長 非常勤講師)	生命と医療
	2008/6/27	澤田 幹 (経済学部教授)	日本企業の経営スタイルの変化
	2008/7/4	佐藤秀樹 (経済学部講師)	世界経済の流れから見た日本経済の課題
	2008/7/11	伍賀一道 (経済学部教授)	雇用スタイルと職業意識の変化
	2008/7/18	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2 「地球社会の課題と挑戦」

表 3. 1. 5 - 32 2007 年秋学期日本文化演習Ⅱ「現代日本を考える」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教員	講義題目
	2007/10/9	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
日本文化における美と様式	2007/10/16	村上 貢 (夕日寺県民自然公園 園長 非常勤講師)	庭園文化の様式と表現形式
	2007/10/23	宮下孝晴 (教育学部教授)	日本特有の美意識
	2007/10/30	戸石久徳 (金沢職人大学校講師 非常勤講師)	日本の歴史的建造物
	2007/11/6	森 雅秀 (文学部教授)	仏像の表情 ——美術と信仰の関わり合い
	2007/11/13	鷺山 靖 (教育学部教授)	器と日本の美
	2007/11/22 [木/3 限]	中村浩二 (理学部教授)	里山と自然保護
	2007/11/27	梶川勇作 (文学部教授)	幕藩体制と伝統文化の関わり ——金沢を例に
	2007/12/4	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1「文化の様式と人々の意識」
文化の担い手と伝達	2007/12/18	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	加賀万歳から見た言葉の芸術的使用
	2008/1/8	西村 聡 (文学部教授)	能から見た「人間」
	2008/1/15	後藤祐自 (非常勤講師能面作家)	能面が伝える感情と品位
	2008/1/16 [水/4 限]	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	和敬静寂
	2008/1/22	山崎達文 (金沢学院大学教授 非常勤講師)	金沢と金箔
	2008/2/5	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2 「伝統文化から見た日本文化の真髄」

表 3. 1. 5 - 33 2008 年春学期日本文化演習Ⅱ「現代日本を考える」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3限)	担当教官	講義題目
	2008/4/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
文学と時代背景	2008/4/22	木越 治 (文学部教授)	井原西鶴の作品から見た近世社会と人間
	2008/5/13	上田正行 (文学部教授)	漱石とその時代
	2008/5/22 [木/3限]	森 英一 (教育学部教授)	戦争と文学
	2008/5/27 (交渉中)	前田久徳 (教育学部教授)	昭和十年代の文学における西洋思想
	2008/6/3	結城雅美 (外国語教育研究センター准教授)	日本文学における自然
	2008/6/10	小林輝冶(金沢市文化専門員 元北陸大学教授非常勤講師)	3文豪の地域との関わり
	2008/6/17	藤島秀隆 (金沢工業大学名誉教授)	北陸地方の民俗文学
	2008/6/24	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会1「文学・社会と人間」
言語の社会・ 文化的側面	2008/7/1	新田哲夫 (文学部教授)	日本語の人称表現
	2008/7/8	加藤和夫 (教育学部教授)	若者の言葉と文化
	2008/7/15	近藤 明 (教育学部教授)	日本語の配慮表現
	2008/7/22	守屋哲治 (教育学部教授)	日本語の授受表現
	2008/7/25	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	日本語の挨拶表現
	2008/7/29	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会2「言語と文化の関わり合い」

表3. 1. 5 - 34 2007 年秋学期日本文化体験実習「現代日本を考える」シラバス

日程（水 /3・4 限） [場所]	担当教員	講義題目
2007/10/10 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
2007/10/17 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	座禅体験と大乘寺見学
2007/10/31 [校外]	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験, 及び友禅工房見学
2007/11/8 [木 3.4 限校外]	出村 宗貞 (茶道表千家 非常勤講師)	茶道体験
2007/11/14 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	日機装金沢製作所工場・宗桂会館見学
2007/12/5 [校外]	藪 俊彦 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験
2007/12/19 [B5 教室]	泉 紫像(静夫) (俳人協会石川県部長 非常勤講師)	俳句作りと句会
2008/1/9 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	金箔工芸体験及び 金沢市立安江金箔工芸館見学
2008/1/23 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴体験

表3. 1. 5 - 35 2008 年春学期日本文化体験実習「現代日本を考える」シラバス

日程（水 /3・4 限） [場所]	担当教員	講義題目
2008/4/16 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	石川県歴史博物館及び近代文学館見学
2008/4/30 [ゲストハウス]	作本庚悦 (石川県民謡協会会長 非常勤講師)	石川県の民謡体験
2008/5/7 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	裁判所見学
2008/5/21 [調理室]	水本 寛 (水本和菓子店店長 非常勤講師)	和菓子体験
2008/6/4 [川北工房]	川北良造(轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗——川北工房見学——
2008/6/18 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2008/7/2 [B5 教室]	大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2008/7/16 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	発表会
2008/7/23 [B5 教室]	竹中 幸生 (水墨画家 非常勤講師)	墨絵体験

e. 14 期生（2008.10 ～ 2009.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 36 2008 年秋学期日本文化演習 I 「日本社会・文化の諸相」シラバス

サブテーマ	日程 (金 /3 限)	担当教員	講義題目
	2008/10/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
変化する社会 構成と価値観	2008/10/17 【4 限】	轟 亮 (人間社会研究域准教授)	若者の価値観と生活文化
	2008/10/24	倉田 徹 (人間社会研究域准教授)	若者のコミュニケーションの特徴
	2008/11/7 【4 限】	岡田 努 (人間社会研究域教授)	「良い子」の心理
	2008/11/14	山本 卓 (人間社会研究域准教授)	日本人にとっての英語
	2008/11/21	松下良平 (人間社会研究域教授)	社会の変容から見た教育の問題
	2008/11/28	名古屋功 (人間社会研究域教授)	日本人の若者の進路選択
	2008/12/5	横山壽一 (人間社会研究域教授)	人口ピラミッドの変容とその要因
	2008/12/12	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「社会変化に伴う価値観の変化」
歴史的変化の 要因ときっかけ	2008/12/19	奥田晴樹 (人間社会研究域教授)	鎖国時代における外国からの影響
	2009/1/9	奥田晴樹 (人間社会研究域教授)	鎖国の閉幕と近代化へのプロセス
	2009/1/23	古畑 徹 (人間社会研究域教授)	敗戦による日本社会の思想的変化
	2009/1/30	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	戦後日本のイデオロギー
	2009/1/30 【4 限】	加藤喜代志 (元法学部教授非常勤講師)	戦後の環境問題
	2009/2/6	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2「社会の変動とその要因」

表 3. 1. 5 - 37 2009 年春学期日本文化演習 I 「日本社会・文化の諸相」 シラバス

サブテーマ	日程 (金/3 限)	担当教員	講義題目
社会の仕組みと 役割	2009/4/10	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
	2009/4/17	中野節子 (人間社会研究域教授)	近世を支えた女性達 ——近世女性の生き方と社会的役割
	2009/4/24	西本陽一 (人間社会研究域准教授)	日本のコミュニティの特徴と役割
	2009/5/1	中島健二 (人間社会研究域教授)	ナショナル・アイデンティティから見た 経済の仕組み
	2009/5/15	倉田 徹 (人間社会研究域准教授)	「いじめ」から見た集団意識形成の仕 組み
	2009/5/15 4 限	楠根重和 (人間社会研究域教授)	情報化時代の意見形成
	2009/5/22	神谷浩夫 (人間社会研究域教授)	社会問題と NGO の役割
	2009/5/29	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「日本社会の仕組み ——「社会」、「一員」と「個人」
時代変化と 企業社会	2009/6/5	鈴木達男 (JICA 北陸支部長 非常勤講師)	次世代のためのグローバルコミュニテ ィ作り——JICA を通して
	2009/6/12	森 勝美 (パナソニック株式会社セミコン ダクター社魚津工場環境・施設 技術チーム主事 非常勤講師)	パナソニック (株) の環境取り組み ——その意義と社会的必要性
	2009/6/19	林清秀 (日機装株式会社 金沢製作所所長 非常勤講師)	技術開発と生命
	2009/6/26	澤田 幹 (人間社会研究域教授)	時代と企業の経営理念
	2009/7/3	伍賀一道 (人間社会研究域教授)	若者の雇用問題
	2009/7/10	佐藤秀樹 (人間社会研究域講師)	日本人の消費意識
	2009/7/17	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2 「企業・社会の動向と理念」

表 3. 1. 5 - 38 2008 年秋学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化の諸相」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3限)	担当教員	講義題目
	2008/10/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
自然・地域と 生活思想	2008/10/21	梶川勇作 (人間社会研究域教授)	城下町金沢の形成
	2008/10/28	青木賢人 (人間社会研究域准教授)	金沢の景観と生活文化
	2008/11/13 【3限/3～4限】	中村浩二(教授 環日本海域環 境研究センター長)	里山との暮らし
	2008/11/25	戸石久徳(金沢職人大学校講師 非常勤講師)	伝統建築に見る日本人の自然観
	2008/11/26 【水/1限】	村上 貢(夕日寺県民自然公園 園長 非常勤講師)	庭園に見る日本人の世界観
	2008/12/2	佐々木達雄 (人間社会研究域教授)	日本の古墳文化
	2008/12/9	鏡味治也 (人間社会研究域教授)	伝統祭りと民俗思想
	2008/12/16	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会1「日本人の生活世界観」
文化・芸能の 伝達内容	2009/1/6	西村 聡 (人間社会研究域教授)	能のモチーフ
	2009/1/13	後藤祐自 (能面作家 非常勤講師)	能面の感情表現
	2009/1/20	田中久雄 (加賀万歳師 非常勤講師)	加賀万歳の万歳性
	2009/1/27	山崎達文 (金沢学院大学教授 非常勤講師)	伝工芸のモチーフ
	2009/2/3	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会2「伝統文化による表現」
	2009/2/10	大樋年雄 (陶芸作家 非常勤講師)	温故知新

表 3. 1. 5 - 39 2009 年春学期日本文化演習Ⅱ「日本社会・文化の諸相」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3 限)	担当教官	講義題目
	2009/4/14	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
文学を通して みた人間	2009/4/21	木越 治 (人間社会研究域教授)	浄瑠璃の作品に見る 近世社会の人間関係
	2009/4/28	杉山欣也 (人間社会研究域准教授)	太宰治の「人間失格」に見る 人への問い
	2009/5/12	穴倉玉日 (非常勤講師 泉鏡花記念館学芸員)	泉鏡花の作品を通してみる人間
	2009/5/21 【木/3 限】	森 英一 (人間社会研究域教授)	私小説における「私」
	2009/5/26	勝尾金弥 (愛知県立大学名誉教授 非常勤講師)	民話における人間描写
	2009/6/2	杉山欣也 (人間社会研究域准教授)	三島由紀夫 「潮騒」の自然へのまなざし
	2009/6/9	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「文学を通して見る人間と社会」
日本語の諸特徴	2009/6/16	峯 正志 (留学生センター准教授)	漢字の特性
	2009/6/23	高山知明 (人間社会研究域教授)	日本語の音声の諸相
	2009/6/30	加藤和夫 (人間社会研究域教授)	日本語の変化
	2009/7/7	近藤 明 (人間社会研究域教授)	日本語の配慮機能
	2009/7/14	守屋哲治 (人間社会研究域教授)	日本語を通してみるウチ・ソト関係
	2009/7/21	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	日本語のフィラー表現
	2009/7/28	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2「日本語の特徴」

表 3. 1. 5 - 40 2008 年秋学期日本文化体験実習「日本社会・文化の諸相」シラバス

日程（水 /3・4 限） [場所]	担当教員	講義題目
2008/10/15 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
2008/10/29 [校外]	鶴見保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験 及び 友禅工房見学
2008/11/10 月 /3・4 [校外]	井奈宗孝 (裏千家茶道家 非常勤講師)	茶道体験
2008/11/12 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	座禅体験と大乘寺見学
2008/12/3 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	日機装金沢製作所工場・宗桂会館見学
2008/12/17 [校外]	藪 俊彦 (能楽師 非常勤講師)	能楽体験
2009/1/7 [B5 教室]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	金箔工芸体験 及び 金沢市立安江金箔工芸館見学
2009/1/21 [校外]	宮田 勝 (俳人 石川県俳文学協会常任理事 非常勤講師)	俳句作りと句会
2009/1/28 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	琴体験

表 3. 1. 5 - 41 2009 年春学期日本文化体験実習「日本社会・文化の諸相」シラバス

日程（水 /3・4 限） [場所]	担当教員	講義題目
2009/4/15 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	石川県立歴史博物館及び天徳院
2009/4/22 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	尾山神社見学及び三味線体験
2009/5/13 [校外]	作本庚悦 (石川県民謡協会会長 非常勤講師)	石川県の民謡体験
2009/5/27 [調理室]	水本 寛 (水本和菓子店店長 非常勤講師)	和菓子体験
2009/6/10 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2009/6/17 [川北工房]	川北良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗——川北工房見学——
2009/6/24 [B5 教室]	大向 稔 (大向高洲堂社長 非常勤講師)	輪島塗・蒔絵体験
2009/7/8 [B5 教室]	竹中 幸生 (水墨画家 非常勤講師)	墨絵体験
2009/7/22 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	発表会

f. 15 期生（2009.10 ～ 2010.9）を対象にした日本文化教育

表 3. 1. 5 - 42 2009 年秋学期日本文化演習 I 「社会変動と次世代の日本」シラバス

サブテーマ	日程 (金/3 限)	担当教員	講義題目
	2009/10/9	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
若者の生き方と文化	2009/10/16	轟 亮 (人間社会研究域 人間科学系准教授)	若者の価値観と文化
	2009/10/23	倉田 徹 (人間社会研究域 法学系准教授)	若者の人間関係
	2009/10/30	伍賀一道 (人間社会研究域 経済学経営学系教授)	社会底辺の若者達
	2009/11/13	加藤和夫 (人間社会研究域 歴史言語文学系教授)	若者ことばの傾向性から見た若者の意識
	2009/11/13 【4 限】	杉山欣也 (人間社会研究域 歴史言語文化学系准教授)	若者の文学
	2009/11/20	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	若者の生き方—— 金沢大学生とのディスカッション
	2009/11/27	名古屋道功 (人間社会研究域法学系教授)	進路選択から見た若者の生き方
	2009/12/4	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1 「若者の生き方と文化」
意識・志向を 通して見た 社会変化	2009/12/11	岡田 浩 (人間社会研究域法学系教授)	政権交代に反映された民意
	2009/12/18 【4 限】	横山寿一 (人間社会研究域経済学経営学 教授)	高齢者の生活意識
	2010/1/8	橋本哲也 (金沢公共職業安定所 主任就職促進指導官)	失業と再チャレンジ——「ハローワーク」 を通して見た社会の実態
	2010/1/22	倉田 徹 (人間社会研究域法学系准教授)	日本人の恋愛と婚姻意識
	2010/1/29	足立由美 (保健管理センター講師)	健康志向と自己意識
	2010/2/5	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2 「意識・志向と社会変化」

表 3. 1. 5 - 43 2009 年秋学期日本文化演習Ⅱ「伝統・地域文化」シラバス

サブテーマ	日程 (火/3限)	担当教員	講義題目
	2009/10/13	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
地域から学ぶ 歴史と文化	2009/10/20	戸石久徳 (金沢職人大学校講師)	日本伝統の建築様式
	2009/10/27	塚脇信二 (環日本海域環境研究 センター 准教授)	北陸の自然と地質
	2009/11/10	小林史彦 (理工研究域 環境デザイン学系講師)	金澤町家を生かした町づくり
	2009/11/17	村上 貢 (夕日寺県民 自然公園園長)	庭園に見る日本人の美意識
	2009/11/30 【月/3限】	梶川勇作 (元人間社会研究域 歴史言語文化学系教授)	城下町金沢の都市構造に見る 江戸の名残
	2009/12/1	佐々木達夫 (人間社会研究域 歴史言語文化学系教授)	古墳から見た古代人の死生観
	2009/12/8 (伝産業工芸館)	吉野和宏 (石川県伝統 産業振興室室長)	石川県の伝統産業の課題と展望
	2009/12/15	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 1「文化の文化たる所以」
伝統芸能・ 工芸の謎	2009/12/22	西村聡 (人間社会研究域 歴史言語文化学系教授)	能における男女の描かれ方
	2010/1/5	後藤祐白 (能面作家)	能面から見た日本人の表情
	2010/1/12	田中久雄 (加賀万歳師)	加賀万歳で行く「旅」
	2010/1/19	山崎達文 (金沢学院大学教授)	日本の「職人文化」
	2010/1/26	大樋年雄 (大樋家 11 代目 陶芸作家)	茶道における茶碗の存在
	2010/2/9	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	討論会 2「伝統文化の不思議」

表 3. 1. 5 - 44 2009 年秋学期日本文化体験実習「日本文化探訪」シラバス

日程（水 / 3・4 限） [場所]	担当教員	講義題目
2009/10/14 [B5 教室]	ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	オリエンテーション
2009/10/28 [校外]	井奈 宗孝 (裏千家茶道家 非常勤講師)	茶道体験
2009/11/25 [B5 教室]	村上 浩堂 (加賀象嵌作家)	加賀象嵌体験
2009/11/26 [B5 教室]	村上 浩堂 (加賀象嵌作家)	加賀象嵌体験
2009/12/9 [校外]	川北 良造 (轆轤作家 人間国宝 非常勤講師)	山中塗——川北工房見学
2009/12/16 [校外]	鶴見 保次 (加賀友禅作家 非常勤講師)	加賀友禅体験、及び友禅工房見学
2010/1/13 [校外]	引率 ルチラ パリハワダナ (留学生センター准教授)	北陸銀行見学及び業務体験
2010/1/27 [ゲストハウス]	河崎幸甫 (嵯峨御流師範 非常勤講師)	華道体験
2010/2/10 [ゲストハウス]	北村雅楽弓 (琴師範 非常勤講師)	箏体験

iii) 修了研究科目（必修科目，週 2 コマ）

a. 調査実習科目を通した日本人学生との共学

調査実習は、日本人学生を交えた少人数グループで研究調査やプロジェクトを合同で行う実習科目である。各グループで日本社会・文化についてのテーマを選択し、1 学期に渡って調査・研究を行い、学期末に発表会を行う。実習や訓練を通して、研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得を目指す。また、日本人学生との共同作業を通して、より日常的なレベルでの日本社会の理解を深め、同時に自国文化の再確認を試みる。この授業は金沢大学の日本人学生との国際交流も主眼においた学生参加型授業である。

なお、この授業科目は共通教育科目ゼミ／留学生との合同言語・文化調査実習Ⅰ・Ⅱとしても開講されており、日本人学生にとっても単位になる。

日本学を専攻し、中・上級の日本語力を有する日研生に日本人学生と共に学ぶ機会を提供する目的に第 6 期（2000 年秋学期）からこの科目を開講している。日本学生に対しては共通教育科としての提供となっており、学年の制限は設けていない。多文化・多言語の環境を生かしながら、日研生と日本人学生の混合グループを作り、1 学期に亘って言語または文化に関するテーマについて合同で調査・研究を行う。合同で言語・文化に関する調査を行うことにより、様々なものの見方・考え方に触れ、それらを生かしながらも、同じ物事を客観的に捉え、位置付ける方法を身に付けることを目的としている。この授業の履修目標は、1. 提起した問題を解決するための研究方法論を身に付けること、2. 同じ物事を捉える様々な見方に触れ、それらを位置付けることにより、多角的なものの見方を身につけること、3. 異なる

言語・文化の属性や仕組みを客観的に理解することにより自らの言語・文化を再認識することとして設定されている。

日研究生は原籍大学の3、4年生で研究経験を有さないことが一般的である。しかも、修了論文は日本語で作成しなければならないので、精神的負担が大きい。このような精神的妨げを除外し、質の高い研究をしてもらうための方策としてこの科目を開設した。修了研究を遂行する上で最も困難となるのは、そのために必要な（日本語の論文のスタイルや特有の表現方法などを含む）語彙・文体の獲得、及び研究方法論の修得である。

日本人学生と合同グループで研究の実践を秋学期、春学期と2回経験することにより、短期間である程度の語彙・文体及び研究方法論を獲得できるようになる。グループディスカッションは、自信のない学生に目立たずに語彙・方法論を獲得する機会を提供する。一方、そのグループでの個人の役割分担を通して、実践の機会が何度も与えられ、能力を高めることができる。このようなプロセスの繰り返しは、切磋琢磨する良き方法であり、その上日研究生の著しい成長は日本人学生にとっても大きな刺激となる。

研究方法論は段階的に導入し、それに合わせてワークシートなど用いながら、研究を進めてもらう方法を取っている。日本人学生にとっても研究方法論を学び、日研究生のみならず、様々な学部 of 学生と共にそれらの実践を図る機会である。1学期という短い期間中に研究をまとめ上げるため、学生が授業時間外に自主的に集まって準備することが多く、授業内・外の共同学習活動を通して、日研究生・日本人学生、様々な学部 of 日本人学生同士が国籍・学部の壁を超越し、深い友情を育む場にもなっている。

本授業は研究方法論導入という目的のみならず、日本人学生との共学の場を提供するという目的においても、日研究生プログラムの重要な一環となっている。調査実習科目を履修する日本人学生は日研究生の中間発表合宿や課外活動、他大学との交流会、高校生との研究ワークショップ、修了研究発表会などにも参加し、日研究生の周りに常に日本人学生がいる学習環境作りをする上で重要な役割を果たしている。

本自己点検評価の対象期間における調査実習科目の履修者数、取り上げたテーマなどを次ページの表にまとめておく。

表3. 1. 5 - 45 調査実習科目実施状況

学期			履修者数		テーマ
期	年	学期	日研究生	日本人学生	
9	2003	秋	12	— ⁵	「各国の授受表現」 「各国の色彩表現」 「CMを通して見た日本社会と文化」
	2004	春	12		四つのグループに分かれ、言語、現代社会、比較文化、社会問題についてグループ研究を行った。
10	2004	秋	10		「相槌表現」 「日本人大学生の行動様式」 「各国の人称表現」
	2005	春	10	22	「若者から見た家族」 「日本社会における忠誠心」 「日本語における褒め言葉とその資料条件」 「自然観の比較研究」
11	2005	秋	16	25	「現代人の帰属意識」 「各国の比喩表現」 「ジェスチャー」 「各国の色彩表現」
	2006	春	16	16	「日本人若者の恋愛観」 「夫婦の役割分担に関する大学生の意識」 「大学生にとっての生き甲斐」 「大学生のジェンダー意識」
12	2006	秋	14	22	「役割語としての人称表現」 「現代人の帰属空間」 「各国の挨拶表現」 「大学生の行動様式に反映される性別意識」
	2007	春	14	15	「時間意識」 「大学生のファッション意識」 「各国における時間に対する意識」 その他
13	2007	秋	11	30	「いじめを通して見た仲間・非仲間の原理」 「慣用句を通して見た動物のイメージ」 「自称・他称表現の比較」 「現代人の豊かさ観」
	2008	春	11	20	「若者の価値観」 「お返し文化を巡って」 「談話におけるフィラーの役割」
14	2008	秋	8	21	「空気を読む文化」 「現代人の就労意識」 「いじめを通して見た学校における人間関係」
	2009	春	8	22	「若者から見た晩婚化の要因」 「『すみません』の意味機能」 「励ましの文化」 「各国の断り表現」
15	2009	秋	15	20	「若者の敬語表現」 「いじめを通して見る日本」 「不景気と若者の消費行動」 「歌を通して見る若者の志向」
	2010	春	15	26	「日本人の若者のお菓子の嗜好」 「日本の上下関係」 「土葬と火葬－日本と中国の葬法から見る意識の違い－」 「日本の推薦制度と各国の比較」 「日本・中国・ハンガリーにおける赤の意味と国旗における赤の意味」

5 日研究生用に2001年秋学期(第6期)から開講してきた「調査実習」科目を、共通教育の「留学生との合同言語・文化調査実習Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)」として登録し、日本人学生にとっても単位修得可能な科目として登録したのは2005年前期からである。それまでも各学期日本人学生が10数名程度授業に参加したが、筆者が他大学に移り、手元にデータがなく確認できないため、空欄となっている。なお、授業担当者は、2003年秋～2009年秋まではルチラ パリハワダナである。

b. 修了研究演習科目及び研究発表会

修了研究演習科目は本プログラム第10期（2004年秋学期）から新科目（必修）として開設した。それまでも、1年間に亘る修了研究を行い、その成果を発表し、レポートとして提出することが義務づけられていたが、それらに対する単位認定及び成績評価を行っていなかった。しかし、修了研究にかかる学習負担が大きく、その上受講者からも母国大学での単位振り替えのため単位認定をしてほしいという要望が多かったため、それまで続けていた研究指導のためのゼミ形式の授業を「修了研究演習」として正式に授業として位置づけ、単位認定も行うことにした。

研究経験を殆ど有さない学部3、4年生の日研究生に対する研究方法論の導入は、上述の調査実習科目を通して行い、更に同科目を通してグループ単位でのその応用実践を図る。一方、修了研究演習科目ではもっぱら個人研究の指導を行うという方法を取った。学習過程が終了する8月に研究発表を行い、受講者が作成したレポートをレポート集として発行している。

プログラム全体の構成は多様な背景を有する学生のニーズに応えられるよう編成せざるを得ないので、概説的になりがちである。それに対して修了研究は、一つのテーマについての学問的な追究であり、学生の学力向上、専門知識の習得、自立心の養成などのいくつかの面で教育効果が高い。その上、多様なテーマを通して受講者同士がお互いに刺激し合い、また周囲にいる日本人学生にも刺激を与える。修了研究のレベルは年々上がっていき、それと共に大学院への進学者も増えていったことが本プログラムの一つの成果と言える。

3. 1. 5. 4 他大学との交流

日研究生（国費日本語・日本文化研修留学生）は2009年現在56校に分かれ、日本語・日本文化研修を受けている。受けている教育に共通項はあるものの、そのカリキュラムも教育形態も受け入れ体制も受け入れ大学によって異なる。それぞれの受け入れ大学に特色ある教育の実施が求められているが、プログラム作りをする際に活用できる教育リソースは大学の（在籍部局内外の）組織体制や大学所在地の地域性などに特徴付けられる。

幸い金沢は伝統・地域文化の豊かな街であり、留学生教育に対する地域の惜しみない理解・協力も得られる。従って、金沢大学の日研究生プログラムは社会文化教育を中心に編成されたプログラムであり、実体験を通じた学習の機会も豊富である。一方で、都会特有の現代社会・文化の実体験を多く盛り込んだプログラム作りには適さない。このような地域独特の教育リソースを他大学と共有しながら、日研究生教育の新たな可能性を模索しつつ、異なる大学で学ぶ日研究生同士が合同で研修を行うことにより刺激し合う機会を作るために、他大学との合同研修会を以下の通りに実施した。

表 3. 1. 5 - 46 他大学の日研究生との交流

受け入れ期間	実施日	参加者数		行事等
		金沢大学	他大学	
第 11 期 (2005.10 ~ 2006.9)	2006 年 2 月 10 日 ~ 12 日	日研究生 15 名 日本人学生 6 名	大阪外国語 大学日研究生 8 名	大阪外国語大学日研究生との金沢合宿：合同課題 発表、里親との加賀料理体験、加賀万歳体験、 武家屋敷見学、兼六園散策、九谷焼体験
	2006 年 9 月 6 日 ~ 8 日	日研究生 10 名 日本人学生 3 名	大阪外国語 大学日研究生	大阪外国語大学日研究生との大阪合宿：お好み焼 き体験、なにわ探検クルーズ、大阪探検、合同 発表会、空堀散策、箕面滝見学
第 12 期 (2006.10 ~ 2007.9)	2007 年 1 月 12 日 ~ 14 日	日研究生 12 名 日本人学生 3 名	大阪外国語 大学日研究生 27 名	大阪外国語大学日研究生との金沢合宿：桜ヶ丘高 校生との討論会、なた寺散策、和菓子作り体験、 香道体験、里親との加賀料理体験、玉泉園見学、 九谷焼体験
	2007 年 3 月 7 日	日研究生 5 名 日本人学生 3 名	三重大学日 研究生 4 名	三重大学日研究生との交流会（金沢にて）：ヤマ ト醤油工場見学、大野からくり記念館見学、三 味線体験、兼六園散策
第 13 期 (2007.10 ~ 2008.9)	2008 年 2 月 14 日	日研究生 10 名	京都大学日 研究生 19 名 吉田日本語 会参加者	京都大学日研究生との合同研修会（京都にて）： 祇王寺、落柿舎、野々宮神社、常寂光寺などの 文学作品の舞台散策及び報告会
第 14 期 (2008.10 ~ 2009.9)	2009 年 2 月 19 日	日研究生 8 名 日本人学生 7 名	京都大学日 研究生 17 名	京都大学日研究生との合同研修会（金沢にて）： 兼六園及び城址公園見学、九谷焼体験

3. 1. 5. 5 合宿

修了研究は日研究生プログラムカリキュラムの重要な一環である。1 年間という短期間で、先行研究を読み込み、問題を明確に提起し、十分なデータを採集し、分析・考察を行った上で、オリジナリティのある論文に日本語という外国語でまとめ上げることが決して容易ではないと思われる。進め方に関する不安などから、とりわけ 1 学期目に順調なスタートが切れない学生が多い。強い動機付けにより、この戸惑い期間を可能な限り短縮する方法として、2 学期の開始時に国立のと青少年の家に合宿し、2 泊 3 日の中間発表合宿を行っている。

合宿中は各学生がそれぞれの修了研究テーマについて中間発表を行い、質疑に応答する。進んでいる学生の発表は他の学生の見本となるので、相乗効果が高い。また、他の学生の様々な方法論なども研究を進めるヒントとなる場合もある。合宿中は、研究の進め方について全体的なガイダンスを行い、過去の学生の修了研究発表のビデオを見せることなどで動機を高める。

中間発表会の司会を始めとする様々な合宿中の役割は、全ての参加者に分担してもらうので、学生の満足度も高い。日常的な学習環境を離れ、中間発表に熱中し、しかも宿泊を共にしながら、合宿場の慣れない決まりを守り、役割を分担する過程を通して実現する教育効果は極めて高い。その上、この 3 日間で日研究生としての仲間意識が一段と高まり、2 学期目にグループ学習の効果を最大限に発揮できる基盤ができあがる。

中間発表合宿は各学生に対する 1 学期目の成績通知を行い、フィードバックを行う場としても利用している。履修問題に関する個別相談や次学期の履修計画の話し合いなども行って

いる。

楽しみながら勉強できる場を作り上げるために、合宿中は手びねり体験、篆刻体験、和太鼓体験なども取り入れている。富来八幡和太鼓保存会のメンバーは11年間欠かさず、日研生合宿中の和太鼓体験を担当してくれた。能登半島地震で被災地となった年も例外ではなかった。同様に、大社での手びねり体験も11年間継続している。このような地域との交流を通して、地域の中で培われた伝統文化に実際に触れ、その継承の困難さや課題などを理解する機会が得られる。

合宿には「調査実習」科目などに出ている日本人学生も数名連れて行くようにしている。言うまでもなく、日本人学生との交流も合宿の意義を更に高めている。3、4年継続して参加した日本人学生もあり、彼らの大学生生活においても留学生との交流は大きな意味を持つものであったのではないかと推察される。日研生の修了生で金沢大学の大学院に進学した学生が参加してくれる場合もあり、先輩という身近な立場からの後輩への有益なアドバイスをしてくれたり、経験談を通して自信を持たせてくれたりする。修了生との交流は、日研生にとって大学でのネットワークを拡大する貴重なきっかけともなる。

中間発表合宿の実施概要は以下の通りである。

表 3. 1. 5 - 47 中間発表合宿実施概要

受け入れ期間	実施期間	参加者数			行事等
	場所：国立能登青年の家にて	日研生	日本人学生	その他 ⁶	
第9期 (2003.10～2004.9)	2004.4.5～7	12	2	1	中間発表会及び質疑応答 研究の進め方に関する指導 1学期目の成績通知及びフィードバック 和太鼓体験 篆刻体験 野外炊飯 大社焼き・手びねり体験
第10期 (2004.10～2005.9)	2005.4.4～6	10	1	—	
第11期 (2005.10～2006.9)	2006.4.3～5	16	2	1	
第12期 (2006.10～2007.9)	2007.4.2～4	13	3	—	
第13期 (2007.10～2008.9)	2008.4.2～4	11	—	—	
第14期 (2008.10～2009.9)	2009.4.1～3	8	6	—	
第15期 (2009.10～2010.9)	2010.4.6～8	15	1	—	

3. 1. 5. 6 地域との交流

a. 里親プログラム

日研生に、地域の日本の家族と1年間に亘り交流を育みながら、地域に溶け込む機会を提供する目的で里親交流プログラムを1999年10月（第5期）から実施してきた。本プログラ

⁶ 日研生修了生、参加日研生の両親、または他大学日研生

ムは田上公民館のご協力の下実施しており、里親への連絡などは公民館が窓口になって行ってくれる。渡日時の10月に対面式を行い、1泊のホームステイを行うが、その後の交流の形は原則的に里親家族及び学生に任せられる。交流を深める目的に、そして他の里親や他の日研究生とも交流できる機会を提供するために、バス研修旅行や日本料理教室、各国料理大会などの全体の行事も年に数回行っている。プログラムの目指している交流は、無理のない普段着の付き合いで、日研究生に以下の機会を提供するためのものである。

- 1) 日本の家庭生活を直接体験しながら、日本人のものの見方・考え方、日本の良さを知る機会を提供すること
- 2) 日本の家族の「一員」になり、温かい絆を形成していくことで、1年間に止まらない日本との関わり・ネットワークを構築する機会を提供すること
- 3) 地域社会に溶け込み地域コミュニティの「一員」として日本社会に関わる機会を提供すること

一方、里親には、世界各国からの優秀な若者との触れあいを通して、「世界」と関わり、日本を再発見しながら、更に豊かな多文化コミュニティを形成していくことに協力してもらっている。里親交流プログラムは田上公民会や継続的に里親になってくれた地域の方々の惜しみないご協力のおかげで、続けてこられたことを特筆すべきであろう。

本自己点検評価対象期間における日研究生里親交流プログラムの実施状況は以下の通りである。

表3. 1. 5 - 48 里親交流プログラム施概要

受け入れ期間	参加里親家族数	行事等
第9期 (2003.10～2004.9)	11	対面式、ホームビジット、田上文化祭、里親との各国料理大会、内川雪祭り、日本料理教室、研究発表会参加
第10期 (2004.10～2005.9)	8	対面式、ホームビジット、田上文化祭、里親との各国料理大会、内川雪祭り、日本料理教室、研究発表会参加
第11期 (2005.10～2006.9)	12	対面式、ホームビジット、田上文化祭、大阪外大との合宿中の加賀料理体験及び武家屋敷散策、日本料理教室、各国料理大会、研究発表会参加
第12期 (2006.10～2007.9)	13	対面式、ホームビジット、田上文化祭、大阪外大生を交えた加賀料理体験、研究発表会参加、各国料理大会
第13期 (2007.10～2008.9)	10	対面式、ホームビジット、田上文化祭、山中への日帰り旅行、日本料理教室、研究発表会参加
第14期 (2008.10～2009.9)	8	対面式、ホームビジット、田上文化祭、鳥越・出口村への日帰り旅行、日本料理教室、研究発表会参加
第15期 (2009.10～2010.9)	12	対面式、ホームビジット、田上文化祭、丸岡・永平寺・大野市への日帰りバス旅行、研究発表会参加

b. 課外文化体験

地域との交流を深める目的で、日研究生プログラムでは課外文化体験も行っている。和服体験はこのような行事の一つで、第5期（1999年）から継続してきた。和服の歴史や種類な

どを学んだ上で、着物体験を行い、会釈の仕方や歩き方などに関する礼儀作法を学ぶ。毎年成人式の日を実施しているこのイベントには金沢市「ボラ」グループの皆さんも参加し、学生にカルタ取り（百人一首）を経験する機会を作ってくれる。

日研生プログラムの一環として高校生との交流も推進してきた。2006年からは桜ヶ丘高校の高校生徒とともに「いじめ・自殺」をテーマにした研究ワークショップを実施してきた。「調査実習」科目を履修している日本人学生数名にも毎年参加してもらっている。大学生と高校生に、それぞれの視点から、「いじめ・自殺」という現代日本社会を象徴する問題について真剣に考えてもらい、それに反映される日本の社会構造や人間関係のあり方について見つめ直してもらうことが狙いである。更に、社会問題をウチ・ソトの両視点から捉えることによって、問題に対する認識を深めつつ、その問題意識を共有することも開催の一つの目的である。日研生との交流もさることながら、司会を務める優秀な日本人学生との交流も高校生にとって刺激的であったと思われる。日研生にとって、高校生という社会層の目線で日本社会問題を捉えることが可能になり、高校生にとっても事前調査を通して「いじめ・自殺」に関する認識や問題意識を深めることができる。

地域との交流を深めながら、地域文化に触れる機会を作る目的で、能登キリコ祭りにも参加してきた。日研生にキリコを担ぐ機会を作る上で、地域の多くの方々が様々な形で協力してくれた。

表 3. 1. 5 - 49 課外活動実施概要

受け入れ期間	行事等
第 9 期 (2003.10 ~ 2004.9)	和服体験, 金沢西高校国際交流ワークショップ参加, ござれ祭り参加及び能登巡り
第 10 期 (2004.10 ~ 2005.9)	和服体験, 金沢西高校国際交流ワークショップ参加, 八朔祭り参加及び能登巡り
第 11 期 (2005.10 ~ 2006.9)	和服体験, 金沢西高校国際交流ワークショップ参加, 八朔祭り参加及び能登巡り
第 12 期 (2006.10 ~ 2007.9)	和服体験, 桜ヶ丘高校生との討論会「いじめ・自殺」(高校生 21 名参加), 金沢西高校国際交流ワークショップ参加, 輪島大祭参加及び能登巡り
第 13 期 (2007.10 ~ 2008.9)	桜ヶ丘高校生との討論会「いじめ・自殺」(高校生 28 名参加), 和服体験, 輪島大祭参加及び能登巡り
第 14 期 (2008.10 ~ 2009.9)	和服体験, 輪島大祭参加及び能登巡り
第 15 期 (2009.10 ~ 2010.9)	桜ヶ丘高校生との討論会「世界の美しさ」「世界各国のオタク」(高校生 15 名参加), 能登金蔵「万燈会」へのボランティア・ホームステイ

3. 1. 5. 7 課題と展望

金沢大学日研生プログラムは、日研生に多様な教育を提供し、日本の大学院へのリピーターを数多く輩出してきた点において成果を上げていると言えるだろう。しかし、課題もたくさん残っている。

先ず、十分な受講者数の確保が課題である。スケールの大きな教育を展開し、維持してい

くためには、その教育効果が最も発揮できる規模の学生数の安定した確保が必要である。しかし、近年、国費留学生数が減少傾向にあり、国費留学生だけを対象にしたプログラムの維持が困難になってきた。従って、全ての受け入れ条件を満たし、このプログラムで学びたいという協定校出身者の私費留学生やその他の私費留学生にも門を開くことにした。本プログラムを海外の留学生に知ってもらう目的で毎年、パンフレットを発行し、日研究生を送り出している主要な国の大使館にも送っている。しかし、そもそも日本語能力試験 N2 合格程度の日本語能力を有し、海外の大学で日本語または日本文化を専攻にしている 3、4 年生というターゲット候補者層は限られている。平均 15 人程度の質の高い学生の安定した確保のためには今後も努力を続けていかなければならない。受講者相の拡大のために不可欠なのは、日本における「日本文化教育」の成熟である。成熟した学問伝統の構築のためには、ある程度の年月と日本文化教育に関わる大学同士の連携体制、共同研究などが必要であると思われる。

先述したが、日本語 5 科目の履修が必修であるにも拘わらず、最初の学期に最上級のレベルに配置される学生の場合、2 学期目に履修できる科目は少ない。このような学生が今後も増えていくと思われる。日本人学生向けの科目での部分的な振替は可能であるが、全面的な振替は学習負担の面で考えると困難であろうと思われる。各学期の実施内容を変える対策や E、F レベルを総合プログラムとしてではなく、別立ての科目として提供する試みなどと今までも様々な模索をしてきた。総合日本語コースの上級レベルの日本語科目の構成が見直され、学生のニーズにより合った再編成が試みられることを期待したい。

日研究生プログラムの日本文化演習Ⅰ、Ⅱ科目は学内の先生方のご協力に依存している部分が多い。筆者が担当を務めた 11 年間毎年欠かさず授業を提供してくれた先生もあり、その深い理解と惜しみないご協力に感謝している次第である。日研究生の授業担当を、担当役割の一部として認めてくれている学部もあるが、全くカウントされない部局の方が多い。学内の協力に頼らざるを得ない状況が今後も続くので、学内の先生方にプログラムについて知ってもらう機会をより多く作っていく必要があると思われる。多くの方々に知って頂き、理解者を増やしていく機会を積極的に作っていかねばならない。

学部などとの連携による日本人学生との共学の機会の拡大も日研究生の大学院進学をより確実なものとするだろうと思われる。他部局との連携体制が構築できれば、大学院の進学の際の受け皿探しもより容易なものとなるからである。

(文責：ルチラ パリハワダナ)

3. 2 多文化共生部門

多文化共生部門の役割は、全学の留学生を対象とする生活・学習支援を行うことと、日本人学生を対象とした留学支援を行うことである。当部門は、平成 21 年度（2009 年度）4 月における留学生センター内の組織改革を機に、センター旧組織の「相談指導部門」と「国際教育交流部門」の役割を引き継ぎ設けられたものである。

ここでは、当自己点検期間（2002 年 10 月～2010 年 3 月）における、旧組織の「相談指導部門」と「国際教育交流部門」及び現在の多文化共生部門の活動内容を点検する。

3. 2. 1 留学生のための生活・学習支援

当点検評価対象期間の留学生の相談指導に関する活動は、3 領域に大別される。「留学生の相談と指導」を中心に、適切な相談や指導に欠かすことの出来ない「調査」や迅速な問題解決のための「外部連携の構築」をすることである。しかし、その時々国内外情勢と関連した相談や、例えば近年の留学生の国内での就職問題、また「いしかわ金沢学」を媒介とした地域との交流、さらには日本人学生に異文化接触の機会の提供等の取り組みもあげられる。加えて、本学と比較的近い地域である新潟や能登地域での地震の発生（2004.10.23, 2007.4.25）など、自然災害に対する我が国特有の問題とその対応に力を入れる必要性を確認した時期もあった。

以下に指導相談部門の基本的な 3 領域の活動の概略を記す。

(1) 留学生の相談と指導

①留学生活全般に渡る相談とアドバイジング

（留学生自身／留学生を受け入れた研究室／学外）

②オリエンテーションの実施（留学生対象／チューター対象）

③導教員との意見交換会の開催

④相談協力体制のための学内連携とネットワークの構築

（指導教員・日本語教師・留学生専門教育教員・留学生係／各局学務係 // チューター／ボランティア // 法律アドバイザー・保健管理センター（ドクター／看護師／カウンセラー）

＜共通教育科目「多文化共生の時代を生きる」（留学生専門教育教員と担当）＞

(2) 調査研究およびパンフレット／ガイドブックの作成と教育交流活動の企画

1. 金沢大学 2002 年金沢大学留学生生活実態調査 報告書

留学相談・指導専門委員会／留学生センター 2003

2. 留学生を知るためのガイドブック

－ 2002 年金沢大学留学生生活実態調査の分析と考察－

留学相談・指導専門委員会／留学生センター 2004

3. 専門教育における留学生の日本語の調査 2005 ～ 2007 年

(専門日本語教育研究 2005 金沢大学留学生センター紀要 2006・2007 に掲載)

4. 教職員のための学生サポートガイドブック

(2006 年・2007 年・2008 年・2009 年・2010 年度版) の編集

5. 金沢大学 2007 年金沢大学留学生生活実態調査 報告書

留学相談・教育研究連絡会／留学生センター 2010

(3) 学外との連携

- ・国立大学法人(国立大学)留学生指導研究協議会
- ・他大学留学生センターおよび県内大学の留学生・日本人学生との交流
- ・地域との交流
- 「いしかわ金沢学」を通じた学内・学外の大学や地域との交流
- 県・市および企業・ボランティア等の留学生支援組織との連携

3. 2. 1. 1 留学生指導・相談

本部門の活動の中心は「外国人留学生の修学上・生活上の相談や指導」であり、部局配属の留学生受け入れに伴う専門教育教員と連係してそれを行っている。留学生受け入れ状況の変化と共に、相談の内容も変わって来ている。1 回限りの情報提供やアドバイジングから専門的なカウンセリングまで、全ての相談を含めて平均すると、留学生センター・工学部・理工学域・人間社会学域経済学類のそれぞれの部局とも、ピーク時には、1 日平均 2 ～ 4 件の相談を受けている。なお、本センターの相談件数は、2005 年度・2006 年度ともこれ迄の年度と同様、およそ 650 ～ 700 件であり、緊急度が高くかつ深刻なケースが生じた際には、さらに 50 ～ 100 件の増加となった。その後、各種調査結果を踏まえた学内の学習・研究環境の整備が成されるにつれて相談件数は減少したものの、深刻かつより専門的な解決が必要とされる難解な問題が近年は見られるようになった。

3. 2. 1. 2 留学生の相談に関する活動状況

留学生からの相談内容は、「修学上の問題」「生活適応上の問題」「経済的問題」「身体・精神的問題」「その他」の 5 領域に大別される。

「修学上の問題」は、ほぼ一定数見られるが、その内容として、[大学院の進学や専攻の変更に関わるもの／指導教員または研究室の指導方針を巡る文化的差異／学力・語学力、チューターへの要望、等] についての相談である。

また、「経済的問題」では従来からの[奨学金の選考を巡る問題／授業料免除]に関する

相談は減少したが、その理由として本学の選考についてのルールが留学生に浸透した結果と考えることができる。現在でも、大学では、緊急時の経済的な対応として、「金沢大学・コマツ私費留学生奨学援助金」や「金沢大学外国人留学生緊急貸付金」を整備している。しかし、従来見られたような一時的困窮のための援助というより、むしろパソコン等を買うための費用というように、援助金の性格が変わりつつあり、さらに最近の数年間は1件の申請もない状態である。

突然におこる日本特有の自然災害（地震など）に付いては、オリエンテーションをはじめ、「日本事情」などの機会をとらえては留学生に周知徹底を図った。

「身体的・精神的諸問題」は、カウンセリング・教育相談・異文化理解についての専門性が必要とされる内容を含むもので、[カルチャー・ショック／アカデミック・ハラスメント／ディプレッション、等]があり、問題の深刻さにもよるがその解決には一定の期間を要し、専門的な対処を必要とする。更に、その症状によっては病院をはじめ適切な専門機関へと繋ぐ必要も生じてくる。近年、留学生の精神的未熟さが指導教員より指摘されるケースが多くなったが、それへの対応が新たに求められている。また、こうした留学生像の変化は、指導教員や研究室での人間関係において、従来の対応では解決出来ない場合も見られた。とりわけ、数ヶ月間日本に留学する新たなプログラムでは、20歳前後の若い学生たちが来日するため、カルチャー・ショックをはじめとする文化適応問題が多く見られるようになった。

「生活適応上の問題」では、[在留資格／日本での衣・食・住／アルバイト先でのトラブル、等]があり、「その他」の内容で多くを占めるのは、留学生の奨学金や就職の面接のトレーニングをするワークショップである。留学生の増加に伴い、奨学金を受給できる確率が低くなったため、本センターをはじめ他部局の教員と連携して、面接を受ける予定の全学の留学生を対象として面接の準備を行った。

3. 2. 1. 3 生活指導オリエンテーションの実施

金沢大学での留学生生活に必要な情報提供を目的として、4月・10月の授業開始前に全学の留学生対象の生活指導オリエンテーションオリエンテーションを、留学生係と共に実施している（1995年～2009年）。これは主として、「生活者」としての留学生に必要な知識・情報を、概略的に伝えるものである。

主な内容は以下の①～⑤である。

- ①留学生にとっていわゆる「重要な他者」となるスタッフ；留学生センター教員・各学部、研究科の留学生受入れに関連した教職員・留学生担当職員の紹介
- ②カウンセリング・アドバイジングおよびチューター制度に関する情報
- ③授業料・奨学金・国民健康保険・医療費補助など、留学生生活全般に渡る情報
- ④学内外の留学生支援組織の紹介
- ⑤付属図書館など留学生の利用が多い学内施設の見学

しかし、2010 年からホームページ上で、動画による大学紹介や金沢での留学生生活全般が 5 カ国語で配信されるとともに、オリエンテーションでの知識・情報が適時視聴可能な DVD で網羅されたことに伴い、一堂に会して実施して来た生活指導オリエンテーションは実施方法を変えることになった。

3. 2. 1. 4 指導教員懇談会

留学生を受け入れた日本人の側からの相談で最も多いものが、留学生の指導教員からのものである。指導教員は留学生にとっては最も「重要な他者」であり、学業・研究面以外の接触も多く、とりわけ理系で学ぶ留学生にとってこの傾向は著しい。本センターでは、留学生の指導教員の方々から寄せられた問い合わせに対して、共通に回答できる情報の提供と、留学生との指導の中で体験された事柄についての意見を伺うために、指導教員懇談会を必要に応じて開催し、意見交換を行ってきた。

また、部局からの要請があれば、指導教員が留学生を受入れた際に利用できる制度（例えばチューター制度など）とその有効性、また「生活者としての留学生」と関連する諸手続きなどについて紹介し、意見交換を行っている。その際指導教員より提出された意見は、留学生の理解のためのガイドブックの作成に、また相談指導部門が全学を対象とした諸調査に反映させるとともに、関係機関に改善を求める提案を行ってきた。

3. 2. 1. 5 相談への対応と学内協力体制の構築

留学生センター指導・相談部門は、留学生の受入れに伴う教員（留学生専門教育教員・経済学類海外交流室教員）が配属されている工学部・理工学域・経済学類と連携し、部局の特色を踏まえた相談を行っている。また留学生へのカウンセリング・アドバイジングの適切性や専門性を保証するためには、教員間の連携は不可欠であり、必要に応じて活発な連絡のやり取りがある。また、留学生の多様化に伴い、相談の内容も多岐に渡ることから、週に 2 回は、非常勤のカウンセラーが担当している。

留学生に関する情報の多くは、指導教員、日本語教育部門の専任・非常勤の教員や留学生のチューター・学生ボランティア、授業に関連する連絡をはじめ諸手続きのために接触する機会の多い留学生係・各部局学務係、および保健管理センターをはじめとする医師・看護師からももたらされる。これらの人々は、留学生の抱える問題の第一発見者であると同時に、留学生の問題解決に向けてもキー・パーソンとなりうる人々であり、センター発足時から相談・指導部門とは密接な連絡網を構築してきた。更に、法学部教員のボランティアによる法律アドバイザー体制は 1997 年から正式に確立し、諸問題に対処してきている。

3. 2. 1. 6 チューターの指導

新たに来日した留学生に対して、指導教員の指導のもとに、大学が選定したチューターによる個別的課外学習指導を行い、留学生の学習・研究の向上を図る目的の「チューター制度」

について、その実質的な充実を目ざし、相談・指導部門は検討を重ね重ねてきた。

チューター活動を開始するに先立つチューター・オリエンテーションは、前期と後期のそれぞれに5回ずつ計10回実施し（2010年現在）、チューターの役割を理解し、適切に活動出来るように、その徹底を図っている。近年の多様な留学生のタイプや留学目的によって、チュータリング内容も一律には決められず、留学生ひとり一人の留学状況に相応しい対応が必要とされるのがその理由である。なお、チュータリング過程で生じた問題点や疑問に対しては、電話やメールによる情報提供やアドバイジング等を行い、チューターへのサポートと指導を行っている。留学生によるチューター満足度の調査ではおよそ80%を超える留学生が「満足／やや満足」と回答している（2007年留学生生活実態調査）。

さらに、このような「チューター制度」以外のボランティア・チューターとして、自発的に留学生の日本語学習の補助や、討論の場に加わる日本人学生のグループもあり、必要に応じて彼らに対する情報提供やアドバイジング等も実施している。

3. 2. 1. 7 留学生に関する調査研究

留学生に対して適切なるカウンセリング・アドバイジングを行うためには、留学生の実態を正確に把握する必要がある。さらに相談指導全体に関わる必要な資料として、基礎的データや情報の収集のため、ほぼ2年毎に様々な調査を行ってきている。これらの成果については、「金沢大学留学生センター紀要」や報告書等で公開し、討論を重ねている。

3. 2. 1. 8 学外との連携・協力

留学生に対する相談指導を適切に行うためには学外の諸機関との連携・協力は欠くことの出来ないものである。その中で代表的な組織としては以下の協議会がある。

国立大学法人留学生指導研究協議会

発足当初から現在まで、毎年5月に東京大学が主催する協議会と12月に大阪大学で開催される協議会はほぼ定例化しており、大学に設置されている留学生センター等で相談・指導を行う教員が一同に会する良い機会であり、各大学の現状を踏まえた貴重な意見交換や学習の場となっている。この協議会内での関係によって留学生教育がスムーズに行われている部分が予想以上に大きい。さらに、メーリングリストによる呼び掛けや問題提起・質問などは、極めて信頼すべき貴重な情報源である。

3. 2. 1. 9 学外からのアプローチとその対応

異なる文化的背景を持つ留学生と接することの多い相談指導部門が把握している事柄について、情報の提供を学外から求められることが多い。具体的には、次の3形態がある。

- ① 留学生教育、国際理解教育等に関連した情報提供のため、石川県・金沢市・留学生支援団体が主催する研修会等の講師。

- ② 自治体主催のシンポジウムへの通訳・シンポジスト，また公立学校での国際理解教育へそれぞれ留学生を講師として派遣。（留学生のアルバイトの創設とも考えられる。）
- ③ 国内外の会社からの，留学生への通訳や翻訳依頼への対応。

（文責・八重澤美知子）

3. 2. 2 日本人学生のための留学支援

3. 2. 2. 1 派遣留学に関する情報収集・提供・相談

日本人学生の本学交流協定校への派遣留学支援を目的とし，学務課と連携しながら継続して行っている活動は多岐にわたる。中でも，毎年度の「海外留学フェア」「派遣留学説明会」「派遣留学報告会」（表 1-3）に加え，平成 15 年度からは，5 月の国際月間中のランチョン・セミナーにおいて「ミニ派遣留学説明会」を開催し，派遣留学及び UMAP（University Mobility in Asia and Pacific = アジア太平洋大学交流機構）に関する諸情報を本学学生に提供した。（UMAP に関しては，特に，平成 17 年度には，10 月 13 日 -14 日に東京で開催された UMAP JAPAN 主催の国際シンポジウム，平成 18 年度には，10 月 14 日に国立台湾大学にて開催された UMAP TAIWAN 主催の国際カンファレンスにて入手した情報を学生に提供することができた。）また，毎年度，『金沢大学生のための派遣留学の手引き』，『派遣留学報告会報告書』の執筆・編集も行った。

さらに，この期間には，事務局 2 階の「留学情報コーナー」を拡張・整備し，最新の資料を随時設置するとともに，Web ページ「海外留学情報」¹には，留学に係る学内外のイベントや奨学金情報等をポストしている。

学生からの個別の留学相談については，学務課係員が随時対応しているが，留学先での履修科目の選択や TOEFL のスコアアップ法等の教育面での指導は，外国語教育センターや学生の所属部局とも連携しながら，多文化共生部門（旧組織では国際教育研究部門）が担当している。そのため，平成 15 年度（2003 年度）～平成 21 年度（2009 年度）の期間を通して，E メールによる留学相談に加え，「留学相談オフィスアワー」を設けてのウォークイン留学相談，アポイントメントによる留学相談に対応した。また，平成 16 年度（2004 年度）からは，外国語教育研究センターの協力により，外国語学習サポートのページ上にて「Web 上の留学相談」²を行った。

1 http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_ryugaku/top/kaigai_ryugaku_jyoho.htm

2 <http://fliwww2.ge.kanazawa-u.ac.jp/soudan/room.asp?room=6>

表1：海外留学フェア

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
日 時	6 月 17 日（火）～ 18 日（水） 10:00 ～ 17:00	6 月 1 日（火）～ 4 日（金） 12:00 ～ 17:00	6 月 2 日（木）～ 7 日（火） 12:00 ～ 17:00
場 所	角間・大学会館大集会室	角間・大学会館大集会室	角間・大学会館大集会室
説明者等	留学生 44 名 留学生センター教官 外国語教育研究センター教官	留学生 55 名 副学長 U.S.UMAP 事務長 留学生センター教員 外国語教育研究センター教員	留学生 51 名 留学生センター教員 外国語教育研究センター教員
来場者	240 名（延べ人数）	204 名（延べ人数）	144 名（延べ人数）
その他	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
日時	6 月 22 日（木）14:45 ～ 16:15	6 月 21 日（木）14:45 ～ 16:15	6 月 20 日（木）13:30 ～ 14:30
場所	角間・総合教育棟 A2/A3 講義室	角間・総合教育棟 A2/A3 講義室	角間・総合教育棟 A2/A3 講義室
説明者等	留学生 32 名 帰国学生 2 名 留学生センター教員 外国語教育研究センター教員	留学生 15 名 帰国学生 9 名 外国語教育研究センター教員 留学生センター教員	留学生 帰国学生 外国語教育研究センター教員 留学生センター教員
来場者	33 名	32 名	31 名
その他	アンケート実施	アンケート実施	アンケート実施

	平成 21 年度
日 時	6 月 18 日（木）14:45 ～ 16:15
場 所	角間・総合教育棟 A2/A3 講義室
説明者	留学生 24 名 帰国学生 8 名 外国語教育研究センター教員 留学生センター教員
来場者	64 名
その他	アンケート実施

表 2：派遣留学説明会

	平成 15 年度	平成 16 年度
日 時 (場所)	6 月 25 日 (水) 17:00 ～ 18:00 (角間・総合教育棟 A3 講義室) 6 月 26 日 (木) 17:00 ～ 18:00 (小立野・工学部 22 講義室) 7 月 1 日 (火) 17:00 ～ 18:00 (角間・総合教育棟 A3 講義室) 7 月 3 日 (木) (小立野・工学部 22 講義室)	6 月 14 日 (月) 17:00 ～ 18:30 (小立野・工学部 22 講義室) 6 月 15 日 (火) 17:00 ～ 18:30 (角間・総合教育棟 A4 講義室)
説明者等	留学生センター長 留学生交流小委員会委員長 留学生センター教官 留学生課留学生交流係 留学体験談報告者 4 名 (北京師範大学, ニューヨーク州立大学バッファロー校, ニューヨーク州立大学ニューポルツ校, レーゲンスブルク大学)	留学生センター長 留学生センター教員 国際課留学交流係 留学体験談報告者 5 名 (北京師範大学, タフツ大学, ニューヨーク州立大学バッファロー校, 釜山国立大学)
出席者数	計 101 名	計 44 名

	平成 17 年度	平成 18 年度
日 時 (場所)	6 月 21 日 (火) 17:00 ～ 18:00 (角間・総合教育棟 A3 講義室) 6 月 22 日 (水) 17:00 ～ 18:00 (角間・自然科学本館 207 講義室) 6 月 27 日 (月) 17:00 ～ 18:00 (宝町・医学部基礎第 2 講義室)	6 月 21 日 (水) 16:45 ～ 17:45 (宝町・医学部保健学科 1218 講義室) 6 月 22 日 (木) 16:45 ～ 17:45 (角間・総合教育棟 A1 講義室)
説明者等	留学生センター教員 国際課留学交流係 留学体験談報告者 5 名 (国立台湾師範大学, ダブリンシティ大学, ユバスキュラ大学, タフツ大学, 北京師範大学)	留学生センター教員 学務課留学生第一係 留学体験談報告者 1 名 (タフツ大学)
出席者数	20 名	31 名

	平成 19 年度	平成 20 年度
日 時 (場所)	6 月 21 日 (木) 16:45 ～ 18:30 (角間・総合教育棟 A1 講義室)	6 月 20 日 (金) 14:45 ～ 16:45 (角間・総合教育棟 B1 講義室)
説明者等	留学生センター教員 学務課留学生第一係 派遣留学体験談報告者 2 名 (タフツ大学, ニューヨーク州立大学ニューポルツ校)	留学生センター教員 学務課留学生第一係 派遣留学体験談報告者 1 名 (タフツ大学) 派遣留学予定学生 1 名 (ニューヨーク州立大学バッファロー校)
出席者数	34 名	32 名

	平成 21 年度
日 時 (場所)	6 月 18 日 (木) 16:30 ～ 18:00 (角間・総合教育棟 B3 講義室)
説明者等	留学生センター教員 学務課留学生第一係 派遣留学体験談報告者 1 名 (ウィリアム&メアリー大学) 派遣留学予定学生 1 名 (蘇州大学)
出席者数	50 名

表3：派遣留学報告会

報告内容： ・大学の雰囲気や授業について
 ・寮生活、治安など生活全般について
 ・派遣留学をしてよかったこと
 ・留学中大変だったこと
 ・留学前の準備について
 ・その他、アドバイス等

	平成 15 年度	平成 16 年度
日 時	1 月 28 日（水）16:30 ～ 18:30	1 月 28 日（金）16:20 ～ 18:00
場 所	角間・総合メディア基盤センタープレゼンテーション室（2F）	角間・大学会館大集会室
参加者	派遣留学経験者（報告者） 6 名 平成 16 年度派遣留学予定者 留学生委員会委員 留学生センター委員会委員 留学生センター長 外国語教育研究センター長 その他関係教官・学生 留学生課留学生交流係	派遣留学経験者（報告者） 7 名 平成 17 年度派遣留学予定者 留学生センター長 外国語教育研究センター長 国際委員会委員 その他関係教官・学生 国際課留学交流係
	平成 17 年度	平成 18 年度
日 時	1 月 30 日（月）16:20 ～ 17:50	1 月 29 日（月）16:30 ～ 18:00
場 所	角間・総合教育棟 A1 講義室	角間・総合教育棟 A1 講義室
参加者	派遣留学経験者（報告者）12 名 平成 18 年度派遣留学予定者 国際委員会委員 留学生センター長 留学生センター教員 外国語教育研究センター長 その他関係教官・学生 留学生課留学生交流係	派遣留学経験者（報告者）14 名 平成 19 年度派遣留学予定者 国際委員会委員 留学生センター長 留学生センター教員 外国語教育研究センター長 その他関係教員・学生 学務課留学生係
	平成 19 年度	平成 20 年度
日 時	2 月 4 日（月）16:30 ～ 18:00	2 月 3 日（火）16:30 ～ 18:30
場 所	角間・総合教育棟 B1 講義室	角間・総合教育棟 A1 講義室
参加者	派遣留学経験者（報告者）17 名 平成 20 年度派遣留学予定者 留学生委員会委員 留学生センター委員会委員 留学生センター長 外国語教育研究センター長 その他関係教員・学生 学務課留学生係	派遣留学経験者（報告者）13 名 平成 21 年度派遣留学予定者 留学生センター長 外国語教育研究センター長 国際委員会委員 その他関係教員・学生 学務課留学係

	平成 21 年度
日 時	2 月 10 日 (水) 15:30 ～ 17:30
場 所	角間・総合教育棟 A1 講義室
参加者	派遣留学経験者（報告者）17 名 平成 22 年度派遣留学予定者 留学生センター長 外国語教育研究センター長 国際委員会委員 その他関係教員・学生 学務課留学係

3. 2. 2. 2 タフツ大学サマースクール夏季英語研修（English Today 4 Weeks）への短期学生派遣

本部門は、平成 16 年度（2004 年度）より、本学交流協定校であるタフツ大学サマースクール（Tufts University, アメリカ合衆国マサチューセッツ州メドフォード市）における 4 週間の夏季英語研修プログラム（English Today 4 Weeks for Kanazawa Students）への学生派遣を行っている（表 4）。その目的は、より多くの学生に海外での学習や生活体験の機会を提供することと、派遣留学制度への参加を促すことにある。

当短期学生派遣は、平成 15 年度にタフツ大学との間で行った授業料、成績評価の方法等に関する協議に基づき翌年度より開始したものであり、研修期間の第 1 週目には、教職員が参加学生に同行している。また、参加学生のタフツ大学への授業料の納入、海外旅行保険と航空券の手配は、金沢大学生協が一括して行っている。

平成 17 年度からは、当研修での学習は、事前・事後学習と合わせ、共通教育外国語科目 2 科目（平成 18 年度以前の入学者は「英語 C」2 科目、平成 18 年度以降の入学者は「英語 II」2 科目）4 単位、法学部 / 法学類所属の学生については「英語表現法（タフツ大学英語研修）」4 単位として単位認定されるようになった。

当夏季英語研修に関する周知は、毎年度 4 月の履修登録期間に説明会を開くことにより行い、参加学生の経験は、報告会（表 5-1, 5-2）及び「海外留学情報」の Web ページ³に体験談をアップすることにより、学内に還元している。

表 4：タフツ大学サマースクール夏季英語研修（English Today 4 Weeks）

年 度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
日 程	7 月 19 日 (月) ～ 8 月 13 日 (金)	7 月 18 日 (月) ～ 8 月 12 日 (金)	7 月 17 日 (月) ～ 8 月 11 日 (金)	7 月 16 日 (月) ～ 8 月 10 日 (金)	7 月 14 日 (月) ～ 8 月 8 日 (金)	7 月 13 日 (月) ～ 8 月 7 日 (金)
参加者	学部生 5 名	学部生 5 名 大学院生 1 名	学部生 7 名 大学院生 1 名	学部生 7 名	学部生 12 名 大学院生 1 名	学部生 12 名
同行者	国際課職員	センター教員	センター教員 学務課職員	センター教員	センター教員	センター教員

3 (http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_ryugaku/top/kaigai_ryugaku_jyoho.htm)

表5－1：タフツ大学サマースクール夏期英語研修プログラム報告会

	平成 16 年度
日 時	11 月 17 日（水） 16:20 ～ 18:00
場 所	角間キャンパス事務局第一会議室（2F）
参加者	タフツ大学サマースクール夏期英語研修プログラム参加者（報告者） 4 名 留学生センター長，留学生センター教員，その他関係教員，国際課職員
報告内容	・大学の雰囲気や授業について ・寮生活，治安など生活全般について ・その他，よかったこと，大変だったこと，改善点 等

表5－2：タフツ大学サマースクール夏期英語研修プログラム成果発表会(ランチョンセミナーにて)

	平成 17 年度	平成 18 年度
日 時	12 月 16 日・19 日（12:10 ～ 12:45）	1 月 30 日（12:10 ～ 12:45）
場 所	角間・総合教育棟 A1 講義室	角間・総合教育棟 A1 講義室
参加者	報告者 5 名 留学生センター教員，外国語教育研究センター教員，その他関係教員，国際課職員，一般学生，留学生	報告者 4 名 留学生センター教員，外国語教育研究センター教員，その他関係教員，学務課職員，一般学生，留学生

3. 2. 2. 3 留学疑似体験授業（「アメリカの大学留学体験授業」）の企画・実施

「留学疑似体験授業」（「アメリカの大学体験授業」）は，平成 17 年度（2005 年度）より本部門が企画し実施している。これは，アメリカで教える現役の大学教員に依頼し，勤務大学での実際の授業の一コマ分を全学学生，教職員を対象に再現してもらい，学生には予習と授業後の課題の提出も課せられるというものである。平成 21 年度末までの期間に実施した授業は次の通りである。

平成 17 年度	・ 2005 年 7 月 5 日	ラトガース大学准教授 Young-mee Yu Cho 氏 テーマ：‘Writing Systems of the World’
平成 18 年度	・ 2006 年 7 月 6 日	リーハイ大学准教授 Kiri Lee 氏 テーマ：‘Japanese Grammar in Contrast to English Grammar’
	・ 2006 年 7 月 13 日	ラトガース大学准教授 Young-mee Yu Cho 氏 テーマ：‘Writing Systems of the World’
平成 19 年度	・ 2007 年 7 月 26 日	ラトガース大学准教授 Young-mee Yu Cho 氏 テーマ：‘Writing Systems of the World’
平成 20 年度	・ 2008 年 12 月 18 日	リーハイ大学准教授 Kiri Lee 氏 テーマ：‘Psychological Utterances and Speakers' Territory of Information’

平成 21 年度 ・ 2010 年 1 月 8 日 タフツ大学教授 Hosea Hirata 氏
テーマ：‘英語で村上春樹を読む’

3. 2. 2. 4 TOEFL 受験支援

本学学生が英語を使用する海外の大学への留学を実現させるためには、留学希望大学が要求する TOEFL スコアを満たすことは必至である。特に、2006 年度に旧形式の TOEFL(PBT と CBT) が廃止され、Reading, Listening, Speaking, Writing の 4 技能のバランスを試される新形式の TOEFL (iBT) が導入されたことにより、学生の負担は増大した。

本部門では、そのような学生を支援するために、点検評価期間中を通して、学生からの TOEFL スコアアップ法についての相談に常時対応した。また、部門担当教員の一人は、TOEFL 受験をテーマにした共通教育外国語科目「英語 C」(～ 2007 年)、「英語 II」(200 ～)を担当した。

さらに、本部門では、TOEFL-受験のための指南書の作成、夏季短期セミナーの企画・実施も行ったが、これについては次の通りである。

a. 『TOEFL を受験する金沢大学生のために』

本学の「教育研究改革・改善プロジェクト経費（平成 17 年度 [890 千円], 平成 18 年度 [700 千円]）」の支援を受けることにより、事務局 2 階の「留学情報コーナー」に TOEFL 関連の図書を設置するとともに、次のような TOEFL-iBT 受験のための指南書を作成した。

- ・『TOEFL を受験する金沢大学生のために』 2005 年度版

- ・『TOEFL を受験する金沢大学生のために』 2006 年度版（2005 年度版を改訂したもの）

この冊子は、学務課留学生係、各部局の学務係、外国語教育研究センターに設置し、留学相談に訪れる学生に随時配布した。また平成 18 ～ 19 年度には、留学生センター教員が担当した共通教育科目「大学・社会生活論」で「留学と国際交流」の回を担当した際の資料とした。

b. TOEFL-iBT セミナー

「TOEFL-iBT セミナー」は、本部門がコーディネートし、平成 19 年度より毎年度実施している TOEFL 受験のための準備セミナーである。本学交流協定校であるタフツ大学より TOEFL 受験のための準備教育を専門とする講師を本学に招き、夏季休業期間中の数日間、集中的に TOEFL 攻略のための技能を習得させるもので、主な対象は、派遣留学候補生及び派遣留学希望者である（表 6）。

平成 19 年度と 20 年度にはセミナー実施のための経費は学内予算（留学生経費）で負担したが、平成 21 年度からは受講学生が負担することとなった（受講生 1 名につき 500 ドル）。

またセミナーでの学習は、共通教育外国語科目「英語 II」1 科目 2 単位により単位認定されることとなった。

表6：TOEFL-iBT セミナー

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
講 師	タフツ大学 サマースクール主任講師 Ms. Debbie Brandon	タフツ大学 サマースクール講師 Ms. Gosia Helmlinger	タフツ大学 サマースクール講師 Ms. Gosia Helmlinger
日 程	9 月 10 日（月） ～ 9 月 21 日（金）	8 月 25 日（月） ～ 8 月 29 日（金）	8 月 31 日（月） ～ 9 月 11 日（金）
受講生数	11 名	18 名	16 名
主な対象	派遣留学候補生	派遣留学候補生	派遣留学候補生 派遣留学希望者

3. 2. 2. 5 危機管理体制の整備

学生が充実し質の高い留学生活を送るためには、大学側、学生側の両者の危機管理体制を強化しなければならない。そのため本部門では、平成 19 年度より、人間社会研究域経済学経営学系宮崎悦子教員と連携することにより、派遣留学、海外での語学研修を始めとするすべての海外渡航を予定している学生を対象に、留学中に不測の事態が発生した際の対処法及び不測の事態を事前に防ぐ方法を確認させ周知するためことを目的に、「危機管理オリエンテーション」を開催した（平成 19 年度（2007 年）7 月 6 日（金）、平成 20 年度（2008 年）7 月 1 日（火）、平成 21 年度（2009 年）7 月 3 日（金））。

さらに、平成 20 年度（2008 年度）には、本学教育企画会議留学生部会を座長とする危機管理ワーキンググループのメンバーとして、留学中の不測の事態発生後の基本方針を定めるとともに、保険、外部組織との契約などに関する対象となる本学事業や組織ごとのリスク・テイキングについて整理した。

3. 2. 3 その他：留学生教育

平成 15 年度（2003）には、本学の「教育研究改革・改善プロジェクト経費 [1,300 千円] ‘金沢大学留学生のための英語教育改善プロジェクト’」を獲得することにより、留学生のための初級英語学習を支援するための体制を整えた。具体的には、入学時まで英語学習の経験がない留学生のために、初習英語学習用教材を収集し、留学生に貸し出すとともに、教材研究を行い、初級英語科目のコースデザイン及び授業方法・成績評価法を立案した。

平成 16 年度（2004）には、共通教育機構及び英語系と連携し、共通教育外国語科目中に「英語 A」を設け、4 科目を担当することとなった。同様の体制での授業実施は、平成 19 年度（2007）前期まで継続され、平成 21 年度（2010 年）3 月現在、本学では、留学生、日本人学生を問わず、補助的英語学習を必要とする学生を対象に、共通教育外国語科目「英語 I（基礎演習）」を開講している。

また、平成 16 年度（2004）には、外国語教育研究センターと連携し、『初中級英語 eLearning 教材』を作成した（「平成 16 年度金沢大学重点教材作成予算」による外国語教育研

究センター渡邊明敏氏，澤田茂保氏との共同作業）。

（文責：齊木麻利子）

3. 2. 4 問題点と展望

3. 2. 4. 1 留学生のための適切な指導相談活動のために

(1)組織作り

全学各部局からのメンバーで構成されていた「留学生委員会（委員長；副学長）」が廃止されて以来，学習者や研究者，そして生活者でもある留学生の問題とその解決策について学内共通の認識を持つ場がなくなった。それに伴い，部局における留学生の教育・指導には徐々に差異が見られるようになってきた。全学あげて「留学生 30 万人計画の推進」を掲げる現在，多くの多様な留学生に対応が追いつかない状況がある。また，全学でのルール化が可能な留学生教育の共通部分についても明確化されておらず，さらに，全学的な取組み全般を討議し，共有する場がないことは，今後とも増加する留学生への対応に不安を感じるものである。

各部局から当センターに寄せられる留学生問題の情報を共有してこそ，効果的な留学生の受入が実現し，全学が足並みを揃えて留学生の教育にあたることが可能となる。そのための組織作りについて検討することが肝要である。

(2)学域毎の専門教育における留学生担当教員の確保

3 学域のうちの 1 学域には，複数の留学生専門教育教員が配置され，適切な留学生教育環境が整備されている。しかし，留学生専門教育教員の配置がない，あるいは 1 名のみ配置の学域では，当然のことながら問題を抱えた留学生が存在する割合は高くなる。とりわけ，学部の再編成に伴い，カリキュラムが変わった学類では，履修問題でのつまずきが引き金となり，不適応行動へと移行するケースが見られる。そのような留学生には，部局の留学生専門教育教員の対応が重要となる。さらに，異文化での大学生活で生じる諸問題とその解決には，同じ学類内の教員の助言や支援の果たす役割が大きい。留学生の急増が見られた学域では特に，学類毎に留学生を担当する留学生専門教育教員や相談教員の配置が求められる。

(3)留学生受入に係る新たな施策のための，既存の規程等の見直しの必要性

留学生受入コースの多様性に伴い，従来の規程では対応できない状況が見られるようになった。留学生・日本人学生の教育的な視点に立った既存の規程あるいはルールの変更や改善が必要とされる。

3. 2. 4. 2 日本人学生のための円滑な留学支援のために

(1)今後留学生，留学を志す日本人学生ともに，数の増大が見込まれる。また，それに伴い，学生側のニーズもこれまで以上に多様化することが予想される。より綿密な支援を提供す

るためには、学務課や関係部局との連携体制の強化、スペシャリストを含む担当人員の確保は、常に大きな課題である。

(2)派遣留学制度を学生に周知するため、また学生への派遣留学へのモチベーションを高めるための方策として、従来より説明会や留学フェアを開催しているが、特に平成18年度からは規模や回数を縮小せざるをえなくなっている。

(3)派遣留学を目指す本学学生の多くが英語圏の本学交流協定校への留学を希望している。そのため本部門でも TOEFL 受験のための支援を行っているのだが、関連部局との確かな連携のもとでの全学規模の支援は必要不可欠である。特に、学生の入学時より広いスパンで継続的な指導を行うための「タイムスケジュール」を作成することが必要である。

4. 学内貢献

4. 1 授業科目担当

4. 1. 1 共通教育開講科目

4. 1. 1. 1 「日本語 B」

平成 14 年度後期は、太田亨（1 コマ）、長野ゆり（2 コマ）が担当した。平成 15 年度からは、共通教育言語科目の日本語 B（学部留学生対象）は、すべて総合日本語コースの技能別クラスの一部を開放するという形を取るようになった。（前後期とも開講するが、内容は同じものである。）

三浦香苗「日本語 B（上級読解）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）
（平成 15 年後期を除く）

太田亨「日本語 B（講義の聴解）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）
（平成 15 年前期を除く）

太田亨「日本語 B（中級読解）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）
（平成 15 年前期を除く）

峯正志「日本語 B（口頭発表）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）
（平成 15 年後期を除く）

峯正志「日本語 B（作文）」平成 16 年度後期，平成 19 年度前期

長野ゆり「日本語 B（作文）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）
（平成 15 年前期，平成 16 年度後期，平成 19 年度前期を除く）

ルチラ・パリハワダナ「日本語 B（レポート作成）」（平成 15（2002）年度前期～21（2009）年度後期）（平成 15 年後期を除く）

4. 1. 1. 2 「日本事情」

岡沢孝雄「日本事情Ⅰ」（平成 14（2002）年度～21（2009）年度・前期のみ）

八重澤美知子「日本事情Ⅰ」（平成 14（2002）年度～21（2009）年・前期のみ）

三浦香苗「日本事情Ⅱ」（平成 14（2002）年度～21（2009）年度・後期のみ）

4. 1. 1. 3 「大学・社会生活論」

平成 18（2006）年度より共通教育科目として「大学・社会生活論」（前期のみ）が開講され、留学生センター教員はそのなかの「留学と国際交流」の回を担当した。

岡沢孝雄 平成 14（2002）年度～21（2009）年度

三浦香苗 平成 14（2002）年度～21（2009）年度

八重澤美知子 平成 14（2002）年度～21（2009）年度

太田亨 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度
長野ゆり 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度
斉木麻利子 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度
峯正志 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度
ルチラ・パリハワダナ 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度
ビットマン・ハイコ 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度

4. 1. 1. 4 その他

八重澤美知子 平成 14 (2002) 年度～ 21 (2009) 年度

「多文化共生の時代を生きる」
「いしかわの地酒学入門」
「ジェンダー学入門」
「ジェンダー学実践編」
「心理学 B」

斉木麻利子

「英語 B (週 3 コマ) 平成 15 年～ 16 年
「英語 A-1」 平成 16 年
「英語 A-2」 平成 16 年
「英語 A-3」 平成 16 年
「英語 A-4」 平成 16 年
「英語 I (基礎演習)」(週 4 コマ) 平成 17 年～ 18 年
「英語 I (基礎演習)」(週 2 コマ) 平成 19 年
「英語 I (TOIC/TOEFL)」平成 17 年
「英語 II (アカデミック・イングリッシュ)」平成 17 年～ 19 年
「英語 I (TOIC/TOEFL)」(週 2 コマ) 平成 18 ～ 19 年
「英語 I (ライティング)」平成 20 ～ 21 年
「英語 I (リスニング)」平成 20 年～ 21 年
「英語 II (アカデミック・イングリッシュ)」(週 4 コマ) 平成 20 年～ 21 年

ビットマン・ハイコ

「ドイツ語 A2」平成 14 年～ 21 年 (平成 16 年除く)
「ドイツ語 A4」平成 14 年～ 21 年 (平成 16 年除く)

ルチラ・パリハワダナ

「留学生との合同言語・文化調査実習 I」平成 17 年～ 21 年
「留学生との合同言語・文化調査実習 II」平成 17 年～ 21 年

4. 1. 2 教育学部・学校教育学類開講科目

4. 1. 2. 1 日本語教員養成科目

三浦香苗「日本語教育学概論 A」(平成 14 (2002) 年度～ 20 (2008) 年度・後期のみ)

峯正志「日本語教育学概論 B」(平成 15 (2003) 年度～ 20 (2008) 年度・前期のみ)

長野ゆり「日本語教育学各論 B」(平成 15 (2003) 年度～ 20 (2008) 年度・前期のみ。ただし、平成 19 年度だけは後期)

ルチラ・パリハワダナ「日本語教育学各論 A」(平成 14 (2002) 年度～ 20 (2008) 年度・後期のみ)

太田亨「日本語教育実習」(平成 15 (2003) 年度～ 20 (2008) 年度・前期のみ)

4. 1. 2. 2 その他

斉木麻利子 「英文法 A」平成 15 年

「英語学演習 A」平成 15 年～ 21 年

「英語学研究」平成 15 年

「総合演習 C」平成 15 年

「言語学演習 A」平成 15 年～ 20 年

「対照言語学 B」平成 15 年～ 21 年

「英文法 B」平成 16 年

「日本語学特殊講義 A」平成 17 年～ 20 年

「異文化理解と心理」(2 コマ) 平成 17 年～ 20 年

ビットマン・ハイコ

「武道学」平成 17 年～ 21 年

4. 1. 3 教育学研究科開講科目

三浦香苗「日本語教育学特論Ⅱ」(平成 18 (2006) 年度～ 21 (2009) 年度・前後期)

三浦香苗「日本語教育学セミナー」(平成 18 (2006) 年度～ 21 (2009) 年度・前後期)

八重澤美知子「学校心理学特論Ⅰ」(平成 18 年度～)

八重澤美知子「学校心理学特論Ⅱ」(平成 18 年度～)

斉木麻利子「英語学演習Ⅰ」平成 15 年

斉木麻利子「英語学特論Ⅰ」平成 15 年

4. 1. 4 文学部・人間社会学域開講科目

文学部科目

齊木麻利子「日本人の思想と文化」(1コマ)平成19年～21年

人文学類科目

峯正志「個別言語論」平成21年(前後期)

地域創造学類科目

八重澤美知子「心理学概論」(平成21年～)

学校教育学類科目

八重澤美知子「異文化理解と心理」(平成17年～)

「いしかわ金沢学」

4. 1. 5 工学部・理工学域開講科目

理工学域科目

八重澤美知子「職業指導Ⅰ」(1992～現在)

八重澤美知子「職業指導Ⅱ」(1992～現在)

4. 1. 6 医学部・医薬保健学域開講科目

医学部科目

八重澤美知子「医学入門基礎」

4. 1. 7 自然科学研究科開講科目

自然科学研究科(博士後期課程)生命科学専攻

岡澤孝雄「疾病媒介動物学」(集中講義)平成10～平成21年度

「昆虫群衆生態学」(集中講義)平成10～平成21年度

4. 1. 8 自然科学研究科博士前期課程・高度専門(技術・ビジネス)留学生特別コース (アジア人財資金構想・高度専門留学生育成事業)

4. 1. 8. 1 概要

本コースは、経済産業省と文部科学省により平成19年度から開始されたプロジェクトの一環として、本学大学院自然科学研究科博士前期課程の中に設けられた特別コースである。プロジェクトの大きな目標は、アジアから優秀な外国人を母国と日本とのブリッジ人材とし

て育成し、日本または母国の日系企業に就職させることである¹。

留学生センターは、コース企画立ち上げが始まった平成 18 年度から継続して関与しており、教員 1 名（太田教員）が自然科学研究科長から「専門プログラム開発リーダー」の委嘱を受け、「日本語・日本ビジネス教育部門」の統括を担当している（図 4.1.8-1）。

4. 1. 8. 2 カリキュラム

コース全体のカリキュラムは下図のとおりである。

アジア人財育成教育カリキュラム

金沢大学における教育		産学連携による教育
専門教育 専門個別科目（10 単位以上選択必修） ■機械・メカトロ系 ■人間・環境科学専攻 ■T・電子系 ■電子情報工学専攻 ■創薬・分析系 ■生命薬学専攻 ■物質工学系 ■物質工学専攻 ■社会基盤系 ■社会基盤工学専攻 ■地球環境系 ■地球環境学専攻 ■課題研究（8 単位必修） 修士論文の作成	日本語・日本ビジネス教育 （必修を含む 18 単位以上選択必修） 総合日本語 ★2 科目 4 単位必修 ビジネス日本語 ★2 科目 4 単位必修 日本文化（いしかわ金沢学） ★1 科目 2 単位必修	企業実証教育 （6 単位必修） 地域企業概論 ★1 科目 2 単位必修 企業の特徴と優位性ある技術の理解 地域企業研究 ★1 科目 2 単位必修 インターンシップ事前教育 企業技術研修 ★1 科目 2 単位必修 インターンシップ（技術系）
	MOT(技術経営)教育 ★2 科目 4 単位必修 技術マネジメント基礎論 ニュービジネス創造論 地域ビジネス論 企業ビジネス研修 ★1 科目 2 単位必修 インターンシップ（ビジネス系）	

図 4. 1. 8 - 1 コース・カリキュラムにおける留学生センターの役割

この中にあって、留学生センターは「総合日本語コース」（本書 3.1.4）と「いしかわ金沢学」（本書 3.1.5）をコース授業として提供するとともに、（財）石川県国際交流協会で実施される「ビジネス日本語教育」のコースデザイン及び運営を行っている。特筆すべきは、本コースのビジネス日本語教育が全国でも珍しい「短期集中型」教育を採用しており、2 年半という短期間のうちにコース学生のビジネス日本語力を着実に伸長させる点である²。

4. 1. 9 保健管理センターカウンセリング担当

保健管理センター

八重澤美知子 カウンセラー

本学で学ぶ全ての日本人学生や留学生、並びに教職員を対象とした面接相談を担当（1991.12～現在）。

1 <http://iscbc.ge.kanazawa-u.ac.jp/about/index.html>

2 「アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題」, 太田亨・今井武・島弘子, 『金沢大学留学生センター紀要』第 13 号, pp.1-10, 2010

5. 教員の業績

5. 1 各教員の業績

5. 1. 1 岡澤 孝雄

a. 研究テーマ

- 1) 短期留学生教育
- 2) 蚊類の生態

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) Redescription of *Armigeres (Armigeres) setifer* Delfinado (Diptera: Culicidae) collected from Kuching, Sarawak, Malaysia. Toma, T., Miyagi, I. and Okazawa, T., Med. Entomol. Zool., 58: 251-259. 2007 Dec.
- 2) Comparison of four light-trap methods for collecting mosquitoes in Iriomote, Ryukyu Archipelago, Japan. Toma, t., Higa, Y., Okazawa T. and Miyagi, I. Ryukyu Med. J. 26 (1,2) : 39-451. 2007
- 3) A redescription of *Topomyia decorabilis* Leicester, 1908 (Diptera, Culicidae) from Malaysia and Indonesia. Miyagi, I., Toma, T. and Okazawa, T., Med. Entomol. Zool., 58: 251-259. 2007 Dec.
- 4) 文系学術論文における判断表現の使用実態. 早川幸子, 古本裕子, 苗田敏美, 松下美知子, 岡澤孝雄 金沢大学留学生センター紀要 10:11-29 2007
- 5) Redescription of *Topomyia argenteoventralis* Leicester, 1908 (Diptera, Culicidae) from Malaysia. Miyagi, I., Toma, T. and Okazawa, T. Med. Entomol. Zool., 4: 347-354. 2006
- 6) Female *Armigeres (Leicesteria) flavus* holding an egg raft in her hind legs. Miyagi, I., Toma, T., Okazawa, T., Mogi, M. and Hashim R. Journal of the American Mosquito Control Association, 21: 466-468. 2005 Dec
- 7) Culicid and Chaoborid flies (Diptera: Culicidae and Caoboridae) attracted to a CDC miniature frog call trap at Iriomote Island, the Ryukyu Archipelago, Japan. Toma, T., Miyagi, I., Higa, Y., Okazawa, T. and Sasaki, H. Med. Entomol. Zool., 56: 65-71. 2005 June
- 8) A crab-hole mosquito, *Ochlerotatus baisasi*, feeding on mudskipper (Gobiidae: Oxudercinae) in the Ryukyu Islands, Japan. Okudo, H., Toma, T., Sasaki, H., Higa, Y., Fujikawa, I., Miyagi, I. and Okazawa, T. Journal of the American Mosquito Control Association, 20:134-137, 2004

<学術報告>

- 1) 協定校における金沢大学短期留学プログラム（K U S E P）で取得した単位の認定調査結果. ビットマン ハイコ, 岡澤孝雄 金沢大学留学センター紀要 11:53-58, 2008
- 2) 金沢学の計画と実践. 松下美知子, 岡澤孝雄, 苗田敏美 金沢大学留学センター紀要 8:97-108, 2005
- 3) 学生による金沢大学短期留学プログラムの評価と評価に関与する要因. 金沢大学留学センター紀要 岡澤孝雄, ビットマン ハイコ 6:67-82, 2003

<教科書>

- 1) 『アカデミックプレゼンテーション入門』 三浦香苗, 岡澤孝雄, 深沢のぞみ, ヒルマン 小林京子 ひつじ書房 p.225, 2006

<報告書>

- 1) 石川県における乳幼児の子育てに関する実態調査 –ワーク・ライフ・バランスの観点から– 男女共同参画実態調査研究会 p.27, 2008

c. 口頭発表等

<研究発表>

- 1) マレーシアに分布する *Armigeres* 属の蚊の卵巣小管数. (衛生動物学会, 高松, 2009 年 4 月)
- 2) 東マレーシアサラワク州ノココヤシ園と林の中で人に集まる蚊 (衛生動物学会, 栃木県下野市, 2008 年 4 月)
- 3) 東マレーシア, サラワク州における蚊の発生源としてのココナツ殻 (衛生動物学会, 福井, 2007 年 4 月)
- 4) 東マレーシア, サラワクでココナツ殻に生息する蚊 (衛生動物学会, 長崎, 2006 年 4 月)
- 5) *Armigeres* (*Leicesteria*) *flavus* の竹切株への卵放出と幼虫の成長 (衛生動物学会, 札幌, 2005 年 6 月)
- 6) マラリア媒介蚊 *Anopheles farauti* と *An. punctulatus* の体の大きさと卵のサイズ (衛星動物学会, 福井, 2004 年 4 月)
- 7) ソロモン諸島におけるマラリア媒介蚊, *Anopheles farauti* と *An. punctulatus* の幼虫の生存率 (衛生動物学会西日本支部大会 金沢 2003 年 11 月)
- 8) 沖縄におけるカニアナヤブカ *Ochlerotatus baisasi* の生態 III 成虫の日周期活動 (衛星動物学会 大分 2003 年 4 月)

<講演>

- 1) 田上公民館市民講座 「蚊」 2009 年 8 月
- 2) 石川県 JICA 派遣専門家 O B 会 「蚊ー東南アジアで蚊を調べるー」 2006 年 3 月
- 3) 札幌 P C O 協会 「蚊の生活と調査法」 2005 年 6 月
- 4) ロータリー米山 「金沢大学の留学生, 市民との交流」 2003 年 3 月

<シンポジウム>

- 1) 北陸病害虫研究会 「蚊と病気 - その調査法」 2009 年 6 月
- 2) 富山科学博物館 「佐々先生が研究した病気, 虫」 2008 年 3 月
- 3) 日本学生支援機構 地域の力を留学生教育に生かす 「地域社会と留学生」 2005 年 11 月

<セミナー>

- 1) 公衆衛生研究会 「血を吸う虫 “蚊”」 2009 年 6 月

d. 社会における活動

<所属学会>

- 1) 日本衛生動物学会 (学会幹事, 編集委員)
- 2) 日本昆虫学会
- 3) 日本寄生虫学会
- 4) American Mosquito control Association, Society for Vector Ecology

5. 1. 2 三浦 香苗

a. 研究テーマ

- 1) ビデオ会議システムを使った遠隔異文化ディスカッション指導の方法論
- 2) アカデミック・プレゼンテーション指導の方法論
- 3) Can-do statements を使った学生による自己評価
- 4) 日本語音声指導

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) 深川美帆・三浦香苗 (2010.3) 「異文化交流ディスカッションにおけるトピックについてー実践からの考察をもとに」, 『金沢大学留学生センター紀要』第 13 号, 23-42
- 2) マシニナ アナスタシア・三浦香苗「日本語学習者による漢字学習支援電子教材・電子ツール使用の実態に関するアンケート調査」『金沢大学留学生センター紀要』第 12 号, 25-35
- 3) 三浦香苗・太田亨・深川美帆 (2009) 「ビデオ会議システムを使用した異文化ディスカッ

ションにおけるターンテイキングの諸相－直接型対面会議と遠隔型ビデオ会議の比較を通して－」,『2008 年度日本語教育学会第 11 回研究集会発表資料』同 発表要旨『日本語教育』142 号, 日本語教育学会, 184

- 4) 三浦香苗・太田亨 (2005)「『テレビ会議で行う異文化ディスカッションの方法』 Web 用試作版教材公開」,『2005 (平成 17) 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 10
- 5) 三浦香苗・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子 (2005)「日本語学習者のためのアカデミック・プレゼンテーション入門教科書の研究開発」,『2005 (平成 17) 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 243-244 同 発表要旨『日本語教育』129 号, 日本語教育学会, 73
- 6) 三浦香苗・敷田紀子・小西光子 (2005)「ディクテーション誤表記の分類・記述システム開発 (試案)－初級日本語発音教育の一環として」『2004 年度日本語教育学会第 8 回研究集会発表資料』同 発表要旨『日本語教育』125 号, 日本語教育学会, 178
- 7) 三浦香苗・太田亨 (2007)「ビデオ会議による異文化交流ディスカッションの方法－試論－」,『金沢大学留学生センター紀要』第 10 号, 45-57
- 8) 三浦香苗・太田亨 (2006)「ビデオ会議による海外協定校とのディスカッション授業」, 独立行政法人メディア教育開発センター第 2 回国際遠隔 教育フォーラム『高等教育の国際展開における実践事例と諸課題』(2006.1.30) 発表資料
- 9) 三浦香苗 (2004)「口頭発表する『内容』をもたせるための指導法－日本語初級レベルでのアンケート調査プロジェクト」『金沢大学留学生センター紀要』第 7 号, 1-17
- 10) 三浦香苗 (2003)「教養教育の『日本事情：多文化ディスカッション』授業研究」『金沢大学留学生センター紀要』第 6 号, 31-47
- 11) 三浦香苗・古本裕子 (2002)「日本語研修コース(大学院予備教育)同窓会出席者によるコース評価」『金沢大学留学生センター紀要』第 5 号, 57-68
- 12) 早川幸子・島弘子・三浦香苗 (2002)「日本語研修コース修了生の研究活動における日本語使用」『金沢大学留学生センター紀要』第 5 号, 39-56

<学術報告>

- 1) 三浦香苗・深川美帆 (2009)「ビデオ会議の問題点とその改善点－改良版ビデオ会議に向けて－」,『遠隔ディスカッションの有用性に関する実践的研究』平成 19～20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究課題番号 19520450, 67-77
- 2) 深川美帆・三浦香苗 (2009)「ビデオ会議システムを使用した異文化ディスカッションにおける turn-taking の諸相－直接型対面会議との比較を通して－」,『遠隔ディスカッションの有用性に関する実践的研究』平成 19～20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究課題番号 19520450, 46-66
- 3) 三浦香苗・深川美帆 (2009)「ビデオ会議及び対面会議の実践報告－平成 20 (2008) 年－」,『遠隔ディスカッションの有用性に関する実践的研究』, 平成 19～20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究課題番号 19520450, 31-45

- 4) 三浦香苗・太田亨・加藤登茂子・David Shantz (2009)「ビデオ会議システムを使った遠隔異文化ディスカッション・プロジェクトの概略」,『遠隔ディスカッションの有用性に関する実践的研究』,平成19～20年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究課題番号19520450, 1-29
- 5) 三浦香苗 (2007)「ウィリアム・アンド・メアリー大学との遠隔地双方向授業による日本事情教育」,『国際人養成のための新教育プログラム報告書』,金沢大学,30-35
- 6) 三浦香苗 (2003)「専門への橋渡しとしての口頭研究発表プロジェクト」,『専門日本語教育研究』第5号 No.5, 専門日本語教育研究会, 70

<教科書>

- 1) 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子 (2006)『アカデミック・プレゼンテーション入門—日本語学習者と日本人学生のための』,ひつじ書房,(日英対訳)全225ページ
- 2) 三浦香苗 (2002)「教養的課目としての日本事情授業例」『中・上級日本事情テキストバンク』,東京外国語大学

< DVD 教材 >

- 1) 三浦香苗・太田亨 (2005)「TV 会議で行う『異文化間ディスカッション』の方法教材」(55分53秒)『IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進』文部科学省大学改革推進経費「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」金沢大学
- 2) 三浦香苗・小西光子・敷田紀子 (2004)『金沢大学留学生センター発音教材』,金沢大学留学生センター

b. 口頭発表等

<研究発表>

- 1) 三浦香苗・太田亨・深川美帆 (2009)「ビデオ会議システムを使用した異文化ディスカッションにおけるターンテイキングの諸相—直接型対面会議と遠隔型ビデオ会議の比較を通して—」2008年度日本語教育学会第11回研究集会
- 2) 三浦香苗・敷田紀子・小西光子 (2005)「ディクテーション誤表記の分類・記述システム開発(試案)—初級日本語発音教育の一環として」2004年度日本語教育学会第8回研究集会

<パネルディスカッション>

- 1) 太田亨・三浦香苗 (2005)「テレビ会議による異文化間ディスカッションの方法」教材制作をめぐる困難点について:金沢大学・現代GPシンポジウム 教員・授業の個性に合わせたイーラーニング』(2005.9.16)

- 2) 三浦香苗 (2004) パネルディスカッション「問い直す！留学生センターの現況と方向性」
第 19 回国立大学日本語教育研究協議会
- 3) 三浦香苗 (2002) 「大学・大学院入学後, 留学生に求められる日本語能力と現状」文部科学省主催平成 14 年度留学生交流研究協議会 (中部・近畿地区)

<講演>

- 1) 三浦香苗・太田亨 (2006.1.30) 「ビデオ会議による海外協定校とのディスカッション授業」
独立行政法人メディア教育開発センター 第 2 回 国際遠隔教育フォーラム「高等教育
の国際展開における実践事例と諸課題」於東京代々木オリンピック記念センター国際会
議場

<研修会>

- 1) 三浦香苗 (2009.5.30) 「プレゼンテーションプロジェクトの指導方法—『アカデミック』
への架け橋」石川国際交流協会テーマ別研修会

d. 社会における活動

<学会活動>

- 1) 日本語教育学会 (評議員 2003 年 5 月～2005 年 4 月, 学会誌委員 2005 年 7 月～2009 年
6 月, 学会誌査読協力者 2009 年 7 月～現在に至る)
- 2) 専門日本語教育学会
- 3) 日本語教育方法研究学会

<石川県>

- 1) 石川県外国人スピーチコンテスト審査委員 (2006～現在に至る)

5. 1. 3 八重澤 美知子 (著書・論文には松下を使用)

a. 研究テーマ

- 1) 異文化適応に関する心理学的研究
- 2) 自我同一性の形成・発達過程に関する研究
- 3) 多文化共生時代の教育

b. 著書・学術論文等

<著書>

- 1) (共編著) 『新女性のためのライフサイクル心理学』 福村出版 2002
- 2) (分担執筆) 親・教師の子供観を見直す—「良い子期待」から「個性・多様性」の尊

重へー「児童心理」3 金子書房 2003

<学術論文>

- 1) (共) 異文化から見た日本のジェンダー ―主として留学生の面接調査より―, 金沢大学留学生センター紀要 vol.5 97-109 2002
- 2) (共) 帰国を控えた短期滞在留学生の面接調査 ―先行研究との比較による検討―, 金沢大学留学生センター紀要 vol. 6 55-65 2003
- 3) 三田論文「独立意識から見た女性の自己の発達」へのコメント, 青年心理学研究 第16号 2004
- 4) (共) 工学を専門とする日本人学生が書いた文章に見られる基礎的な問題点, 専門日本語教育研究 第7号 47 - 52 2005
- 5) (共) 文系学部の大学生生活満足度・充実度と職業イメージとの関連 ―キャリア支援のための予備的検討―金沢大学大学教育開放センター紀要 第25号 69 - 84 2005
- 6) (共) 金沢学の計画と実践, 金沢大学留学生センター紀要第8号 2005
- 7) (共) 専門教育における留学生の日本語―日本人学生との比較を通じた分析―, 金沢大学留学生センター紀要 第9号 21 - 33 2006
- 8) 留学生に必要な経済支援とは―多様性に応じた実のある対応を―, 留学交流 vol.18 no.4 ぎょうせい 2006
- 9) (共) 文系学術論文における判断表現の使用実態, 金沢大学留学生センター紀要 第10号 11 - 29 2007

<学会論文>

- 1) (共) 外国人留学生の受入れに関する研究・―日本の保育園における異文化接触と多文化理解教育―, 異文化間教育学会 23 回大会発表抄録 66-67 2002
- 2) 女性と仕事―女性の多様なライフスタイルの背景にあるジェンダー, (研究委員会企画シンポジウム) 日本青年心理学会第10回大会発表論文集 24-25 2002
- 3) (共) 外国人留学生の受入れに関する研究Ⅺ, 異文化間教育学会 24 回大会発表抄録 56-57 2003
- 4) (共) 留学満足度に関する事例研究, 異文化間教育学会 24 回大会発表抄録 54-55 2003
- 5) (共) 進路の選択と決定に関する研究 (12) ―職業観の発達;ジェンダーの視点から―, 日本教育心理学会第44回総会発表論文集 688 2003
- 6) (共) 進路の選択と決定に関する研究 (13) ―キャリア教育の視点から―, 日本教育心理学会第44回総会発表論文集 689 2003
- 7) (共) 進路の選択と決定に関する研究 (14) ―教職志望大学生の職業と関連する意識について①― 日本教育心理学会第46回総会発表論文集 418 2004
- 8) (共) 進路の選択と決定に関する研究 (15) ―教職志望大学生の職業と関連する意識につ

いて②－日本教育心理学会第46回総会発表論文集 419 2004

- 9) (共) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅰ) —方向性と展開—, 日本教育心理学会第48回総会発表論文集 124 2006
- 10) (共) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅱ) —地方の大学生の現状—, 日本教育心理学会第48回総会発表論文集 125 2006
- 11) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅲ) —高校生の職業価値観に関する調査—, 日本教育心理学会第50回総会発表論文集 (共著) 2008
- 12) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅳ) —インターンシップの効果に関する予備的な検討—, 日本教育心理学会第50回総会発表論文集 (共著) 2008
- 13) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅴ) —文系大学生におけるインターンシップの効果に関して—, 日本教育心理学会第51回総会発表論文集 (共著) 2009
- 14) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅵ) —医療系専門学校生におけるインターンシップの効果に関して—, 日本教育心理学会第51回総会発表論文集 (共著) 2009
- 15) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅶ) —大学におけるキャリア教育の効果—, 日本教育心理学会第52回総会発表論文集 (共著) 2010
- 16) キャリア教育・発達に関する研究 (Ⅷ) —専門学校で学ぶ女子学生の進路選択における中学・高校時の職場体験の効果—, 日本教育心理学会第52回総会発表論文集 (共著) 2010
- 17) 指定等論者; 多文化社会と教育支援Ⅲ～国際社会のアイデンティティーと心理アプローチ, 日本教育心理学会第52回総会発表論文集 (共著) 2010

<報告書>

- 1) (共) 児童・生徒のジェンダー意識調査報告書 留学生センター・いしかわ女性基金 2002
- 2) (共) セクシャル・ハラスメント アンケート調査結果報告書, 金沢大学セクハラ実態調査小委員会 2002
- 3) (共) 金沢大学 2002年金沢大学留学生生活実態調査 報告書, 留学相談・指導専門委員会/留学生センター 2003
- 4) 「金沢学への招待」平成14年度金沢大学地域貢献推進事業報告書 2003
- 5) 留学生を知るためのガイドブック－2002年金沢大学留学生生活実態調査の分析と考察－, 留学相談・指導専門委員会/留学生センター 2004
- 6) 男女共同参画に関する 金沢市職員/教職員 意識調査結果報告書「調査の分析と考察」金沢市役所市民生活部男女共同参画室 2004
- 7) 平成16年度 留学生交流研究協議会報告書 (中部・近畿地区), 文部科学省・独立行政法人教員研修 センター・福井大学 2004
- 8) 平成16年度 留学生交流研究協議会報告書 (中部・近畿地区), 文部科学省・独立行政

法人教員研修 センター・福井大学 2004

- 9) 「金沢学への招待」 平成 16 年度金沢大学社会貢献推進事業報告書 2005
- 10) 農村における男女共同参画に関する意識調査報告書, 金沢市・金沢大学留学生センター 2005
- 11) 大学の地域への取り組み～金沢学 計画と実践～ 大学と地域の連携, (財) 地域活性センター 2006
- 12) 金沢大学男女共同参画アンケート調査結果 (ホームページ) 2006
- 13) 書評; 福島脩美著「自己理解ワークブック」児童心理 金子書房 2006
- 14) いしかわ金沢学 平成 17 年度 報告書 2006
- 15) いしかわ金沢学 平成 18 年度 報告書 2007
- 16) いしかわ金沢学 平成 19 年度 報告書 2008
- 17) いしかわ金沢学 平成 20 年度 報告書 2009
- 18) COISAN との 10 年 本誌 10 号記念特集 COISAN を振り返る, 留学生交流・指導研究 2007
- 19) 金沢大学 男女共同参画キャリアデザインラボラトリー報告書, 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業 平成 20 年度 2009
- 20) 金沢大学 男女共同参画キャリアデザインラボラトリー報告書, 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業 平成 21 年度 2010
- 21) いしかわ金沢学 平成 21 年度 報告書 2010
- 22) 金沢大学 2007 年金沢大学留学生生活実態調査 報告書, 留学相談・指導専門委員会／留学生センター 2010
- 23) (その他) 学生サポートガイドブック (2006 / 2007 / 2008 / 2009 / 2010 年度版) 金沢大学 2006 / 2007 / 2008 / 2009 / 2010

c. 招待・基調講演・講演等

- 1) 「多文化間カウンセリングの方法と課題」(筑波大学大学院心理学特講Ⅺ) 筑波大学大学院 2003
- 2) 「異文化間カウンセリングの方法」 平成 15 年度第 9 回日本語教育学会研究集会 (講演) 2003
- 3) 「日越国際交流フォーラム '03」(財) アイ・社会文化推進事業団主催, 北陸ベトナム友好協会共催 2003
- 4) 男女共同参画出前講座 (石川県人権擁護委員連合会／男女共同参画社会推進委員会 対象) 金沢市男女共同参画室 2003
- 5) 男女共同参画「まちかど参画トーク」(大学生部門) 石川県県民文化局男女共同参画課 2003
- 6) 男女共同参画「まちかど参画トーク」(中学・高校生部門) 石川県県民文化局男女共同

参画課 2003

- 7) 留学生国際シンポジウム「日本海交流の試み」 第16回 JAPAN TENT 2003
- 8) 「女性のライフサイクル心理学」 金沢大学教育開放センター 出前講座（七尾市生涯学習課 平成15年度 主事研修会）2003
- 9) 男女共同参画社会を進めるシンポジウム（コーディネーター）金沢市男女共同参画室 2003
- 10) 成人教育講座 味噌蔵公民館 講師 2003
- 11) 石川県看護師研修会・中堅保育士Ⅱ研修会 講師 2003
- 12) 金沢市男女共同参画出前講座 講師 金沢市 2003 / 2004
- 13) 金沢市こども福祉課 ジェンダー研修会 講師 2003 / 2004
- 14) 「男女共同参画社会について」 税務大学校 2003 / 2004
- 15) 「男女共同参画社会の実現」 北陸農政局総務部 2003 / 2004 / 2005 / 2006
- 16) 金沢ボランティア大学校 講師 2003 / 2004 / 2005 / 2006 / 2007 / 2008 / 2009 / 2010
- 17) 男女共同参画地域トップセミナー・パネルディスカッション（コーディネーター）石川県男女共同参画課・野々市町生涯学習課 2004
- 18) 「世界各国のジェンダー事情」基調講演・コーディネーター 七尾市総務部男女共同参画課 2004
- 19) 「外から見た日本の学生・教育」平成16年度石川縣市町村教育委員会連合研究大会 石川県教育委員会・石川縣市町村教育委員会連合会 2004
- 20) 「学ぶ女性のつどい」基調講演 石川県各種女性団体 2005
- 21) 「自分らしさは他人が育てる」基調講演 石川工業高等専門学校 2005
- 22) 「多文化共生に向けてー異文化間カウンセリングー」講演 とやま国際センター 2007
- 23) 「多文化共生の時代を生きる」平成19年度日本語基礎講座 石川県国際交流協会 2007
- 24) 「金沢で『和』を学ぶ」第1回金沢大学シニア短期留学 講師 金沢大学 2007
- 25) 「女性の人権・男女共同参画」石川県総務部同和対策室 2007 / 2008
- 26) 石川県男女共同参画のつどい コーディネーター 石川県県民文化局 2008 / 2010
- 27) 「金沢で学ぶ・金沢を学ぶ・金沢から学ぶー地域学への招待ー」金沢大学サンデーセミナー 金沢大学東京事務所 2008
- 28) 「子どもの生活リズム向上全国フォーラム in いしかわ」シンポジウム・コーディネーター 文部科学省 石川県教育委員会 2008
- 29) 「これからの金沢の都市と交通を考える」K.CAT フォーラム実行委員会／いしかわまちづくり技術センター 2009
- 30) 「対等で豊かな絆を求めて」地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業 内閣府 2009

- 31) 「いしかわ金沢学」についてのコメント 日本経済新聞 2009
- 32) 「金沢市民研究機構」についてのコメント 週刊ダイヤモンド 2009
- 33) 「ワークライフバランスのすすめ」 21 世紀職業財団セミナー 石川労働局 2009

d. その他の業績

1. 金沢大学公開講座 「太鼓学入門」 2006 / 2007
2. 金沢大学公開講座 「自分らしさ発見・再発見」 2009

e. 社会における活動

<所属学会>

1. 日本心理学会
2. 日本教育心理学会
3. 日本青年心理学会
4. 日本カウンセリング学会
5. 異文化間教育学会
6. 北陸心理学会
7. 国立大学留学生指導研究協議会

<社会活動>

1. 石川工業高等専門学校ハラスメント防止委員会委員
2. 石川県教育委員
3. 石川県男女共同参画審議会委員（審議会会長 2007 ～）
4. 石川労働局雇用均等行政共助員
5. （財）いしかわ女性基金・理事
6. 金沢市社会教育委員
7. 金沢市男女共同参画審議会委員（審議会会長 2007 ～）
8. 金沢まちづくり市民研究機構ディレクター
9. 家庭教育テレビ放送運営委員（北陸放送）
10. 金沢市金沢学生のまち推進会議委員

<資格>

1. 「学校心理士」第 99143 号（資格更新） 学会連合資格「学校心理士」認定運営機構
2004.10/2009.10

<その他>

1. 地方教育行政功労者表彰（文部科学大臣）2006.10

2. 金沢市社会教育委員表彰（石川県社会教育委員連絡協議会）2008.10

5. 1. 4 太田 亨

a. 研究テーマ

- 1) 日本語とスペイン語及びポルトガル語の文法対照研究
- 2) 日韓プログラム通年予備教育カリキュラムの開発
- 3) ビデオ会議システムを使った異文化ディスカッション教育研究

b. 業績

<学術論文>

- 1) 「スペイン語母語話者の指示空間認識に関する調査の統計的検証」, 『スペイン語学研究』 17, 2003: 27-30, 東京スペイン語学研究会
- 2) 「『講義の聴解』の目指す理解促進のための基本目標と授業活動について」, 『金沢大学留学生センター紀要』第6号, pp.1-12, 2003
- 3) 「ポルトガル語の単純形式と複合形式の機能分担に関する多角的視点からの考察」, 『スペイン語学論集: 寺崎英樹教授退官記念』, p.193-201, くろしお出版, 2004
- 4) 「『メキシコ人日本語学習者の指示語習得調査』と基本統計結果」, 『金沢大学留学生センター紀要』第7号, pp.25-43, 2004
- 5) 「日韓共同理工系学部留学生に対する3大学共同意識調査－留学志望から学部進学まで－」, 『岡山大学留学生センター紀要』第11号, pp.59-78, 2004（共著: 齋藤美智子・田山のり子・太田亨）
- 6) 「ポルトガル語の完全過去と現在完了の機能分担について」, Anais, 第34号, 日本ポルトガル・ブラジル学会, 2004
- 7) 「金沢大学における日韓共同理工系学部留学生数学予備教育について」, 『金沢大学留学生センター紀要』第8号, pp.51-71, 2005（共著: 太田亨・勝美昌明）
- 8) “Investigación sobre el uso de los demostrativos del español y del japonés en aprendices mexicanos del idioma japonés” y sus resultados estadísticos básicos, 『スペイン語学研究』, No.20, pp.71-83, 東京スペイン語学研究会, 2005
- 9) “Uso de los demostrativos del español y del japonés en aprendices mexicanos del idioma japonés”, Actas del XIV Congreso Internacional de la Asociación de Lingüística y Filología de América Latina, Universidad Autónoma de Nuevo León, Monterrey-NL-México, 2005
- 10) 「金沢大学における日韓共同理工系学部留学生事業に対する中間評価報告」, 『金沢大学留学生センター紀要』第9号, pp.61-73, 2006
- 11) 「ビデオ会議による異文化交流ディスカッションの方法－試論－」, 『金沢大学留学生セ

- ンター紀要』第10号, pp.45-57, 2007 (共著: 三浦香苗・太田亨)
- 12) 「デジタル版自己診断型「渡日前日本語診断テスト」制作について」, 『金沢大学留学生センター紀要』第11号, pp.43-52, 2008
 - 13) 「大学入学前予備教育における日韓連携カリキュラムの試み～日韓プログラムの歩みから～」, 『日本語教育学世界大会 2008 予稿集 1』, 於: 釜山外国語大学校, pp.210-213, 2008 (共著: 太田亨・門倉正美・安龍洙・酒匂康裕)
 - 14) 「アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題」, 『第11回専門日本語教育学会研究討論会発表要旨集』, 於: 金沢大学, pp.2-3 (共著: 太田亨・今井武・島弘子)
 - 15) 「日韓プログラムの「通年予備教育カリキュラム」のための前半期予備教育シラバス試案検証へ向けた「教育参画」実践について」, 『金沢大学留学生センター紀要』第12号, pp.9-23, 2009 (共著: 太田亨・門倉正美・菊池和徳)
 - 16) 『日韓プログラムのシームレスな通年予備教育カリキュラムの開発研究・(科学研究費補助金) 研究成果報告書』, 金沢大学留学生センター, 142頁, 2010
 - 17) 「アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題」, 『金沢大学留学生センター紀要』第13号, pp.1-10, 2010, (共著: 太田亨・今井武・島弘子)
 - 18) 「日韓プログラム・通年予備教育カリキュラムのための第2回教育参画について」, 『金沢大学留学生センター紀要』第13号, pp.55-71, 2010, (共著: 太田亨・門倉正美・菊池和徳・藤田清士・古城紀雄)

<総説・解説・報告書・教材>

- 1) 「各国の日本語教育－スペイン」, 『新版日本語教育事典』, p.1021, 大修館書店, 2005
- 2) 「日本語とスペイン語・ポルトガル語」, 『講座・日本語教育学 第6巻 言語の体系と構造』, pp.126-140, スリーエーネットワーク, 2006

<学会・シンポジウム>

- 1) 「テレビ会議で行う異文化ディスカッションの方法」Web用試作版教材公開, 「平成17年度日本語教育学会秋季大会」2005.10.6 (金沢大学)
- 2) Uso de los demostrativos del español y del japonés en aprendices mexicanos del idioma japonés, XIV Congreso Internacional de la Asociación de Lingüística y Filología de América Latina, Universidad Autónoma de Nuevo León, México, 2005.10.19
- 3) パネルセッション 「「テレビ会議による異文化間ディスカッションの方法」教材制作をめぐる困難点について」, 『現代GP 金沢大学IT教育推進プログラム 第1回シンポジウム』2005.8.15 (金沢大学自然科学図書館大会議室, 共同発表)
- 4) 「ビデオ会議による海外協定校とのディスカッション授業」, 『大学教育開発・支援セン

ター共同学会集』, 2006.1.30 (金沢大学, 共同発表)

- 5) パネルセッション「渡日前日本語力診断テスト」, 『現代 GP 金沢大学 IT 教育推進プログラム 第2回シンポジウム e-Learning 金沢大学方式の全容～オリジナル教材による全学展開の成果と展望～』 2007.2.27 (金沢大学自然科学図書館大会議)
- 6) 「渡日前日本語診断テスト」作成と事後の転載許諾(著作権)処理について, 2007年度日本語教育学会研究集会第4回, 2007.6.24 (金沢大学サテライトプラザ, 共同発表)
- 7) 「大学入学前予備教育における日韓連携カリキュラムの試み～日韓プログラムの歩みから～」, 日本語教育学世界大会 2008, 2008.7.12 (釜山外国語大学)
- 8) 「アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題」, 第11回専門日本語教育学会研究討論会, 2009.3.7, (金沢大学)
- 9) 「ビデオ会議システムを使用した異文化ディスカッションにおけるターンテイキングの諸相—直接型対面会議と遠隔型ビデオ会議の比較を通して—」, 2008年度日本語教育学会研究集会/第11回研究集会(関西地区), 2009.3.7, (同志社女子大学), 三浦香苗・深川美帆・太田亨

<講演・セミナー>

- 1) 「日韓共同理工系学部留学生事業(日韓プログラム)の意義と将来～この8年を振り返って～」, 平成19年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会パネリスト, 2007.7.20 (大阪大学留学生センター)
- 2) 「アジア人財資金構想における「日本語教育」への取組み ～金沢大学留学生センターの場合～」, 茨城大学留学生センター・宇都宮大学留学生センター共催 留学生センター・シンポジウム 2008「留学生の就職支援としての日本語教育」パネリスト, 2008.8.8 (茨城大学留学生センター)
- 3) 「通年予備教育カリキュラムと教育参画実践」, 平成21年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会「第2次日韓プログラムのさらなる充実に向けて—第1次評価を踏まえて—日韓予備教育連携の可能性」パネリスト, 鹿児島大学留学生センター, 2009.8.4

e. 社会における活動

<所属学会・資格>

5. 1. 5 ビットマン ハイコ

a. 研究テーマ

- 1) 日本武道における思想史
- 2) 空手道の歴史や教え
- 3) 日独比較文化論

b. 業績

<著書>

- 1) BITTMANN Heiko; NIEHAUS Andreas. Schwert und Samurai (剣と侍). Traktate zur japanischen Schwertkunst. Heiko Bittmann, 2006, 184 頁
- 2) BITTMANN Heiko. The Teachings of Karatedô. Heiko Bittmann, 2005, 217 頁

<学術論文・雑誌等>

- 1) ビットマン ハイコ:「日本武道に見られる思想の研究 (その6) - 日本武道における「道場」の一考察」, 『金沢大学留学生センター紀要』第12号, 1-7, 2009.3
- 2) ビットマン ハイコ:「日本武道に見られる思想の研究 (その5) - 日本武道における「修行」の一考察」, 『金沢大学留学生センター紀要』第11号, 35-42, 2008.3
- 3) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第23回『空手二十箇條を考える』(総括編その一)」, 『月刊武道』2月号 (通巻483号), 108-112, (財)日本武道館, 2007.1
- 4) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第24回『空手二十箇條を考える』(総括編その二)」, 『月刊武道』3月号 (通巻484号), 72-76, (財)日本武道館, 2007.2
- 5) BITTMANN Heiko. Über den respektvollen Gruß (*rei*) in den japanischen Kampfkünsten. New Aspects of Sports History. *Proceedings of the 9th ISHPES Congress Cologne, Germany 2005*. Academia, 2007, 264-268 (ISHPES Studies Vol. 13/1).
- 6) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第11回 空手の修業は一生である」, 『月刊武道』2月号 (通巻471号), 90-93, (財)日本武道館, 2006.1
- 7) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第12回 あらゆるものを空手化せよ, そこに妙味あり」, 『月刊武道』3月号 (通巻472号), 58-61, (財)日本武道館, 2006.2
- 8) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第13回 空手は湯の如し, 絶えず熱を与えざれば元の水に還る」, 『月刊武道』4月号 (通巻473号), 68-71, (財)日本武道館, 2006.3
- 9) BITTMANN Heiko. The Historical Development of the Ways of the Martial Arts. *Uchinadi Journal*, 1st Quarter. 2006.1, 17-27.
- 10) ビットマン ハイコ:「日本武道に見られる思想の研究 (その4) - 日本武道における「礼」の一考察」, 『金沢大学留学生センター紀要』第9号, 43-48, 2006.3
- 11) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第14回 勝つ考えを持つな, 負けぬ考えは必要」, 『月刊武道』5月号 (通巻474号), 70-73, (財)日本武道館, 2006.4
- 12) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第15回 敵によって転化せよ」, 『月刊武道』6月号 (通巻475号), 52-55, (財)日本武道館, 2006.5
- 13) ビットマン ハイコ:「私が学んだ武道の名著から・第16回 戦は虚実の操縦いかにあり」, 『月刊武道』7月号 (通巻476号), 56-59, (財)日本武道館, 2006.6

- 14) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 17 回 人の手足を剣と思え」, 『月刊武道』 8 月号 (通巻 477 号), 54-57, (財) 日本武道館, 2006.7
- 15) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 18 回 男子門を出ずれば百万の敵あり」, 『月刊武道』 9 月号 (通巻 478 号), 76-77, (財) 日本武道館, 2006.8
- 16) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 19 回 構えは初心者に, 後は自然体」, 『月刊武道』 10 月号 (通巻 479 号), 76-79, (財) 日本武道館, 2006.9
- 17) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 20 回 型は正しく, 実戦は別もの」, 『月刊武道』 11 月号 (通巻 480 号), 62-65, (財) 日本武道館, 2006.10
- 18) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 21 回 力の強弱, 体の伸縮, 技の緩急を忘るな」, 『月刊武道』 12 月号 (通巻 481 号), 60-63, (財) 日本武道館, 2006.11
- 19) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 22 回 常に思念工夫せよ」, 『月刊武道』 1 月号 (通巻 482 号), 86-89, (財) 日本武道館, 2006.12
- 20) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から」, 『月刊武道』 4 月号 (通巻 461 号), 68-71, (財) 日本武道館, 2005.3
- 21) BITTMANN Heiko. *Dô - Eine Betrachtung des 'Weges' in den japanischen Kampfkünsten. Cultura martialis. Das Journal der Kampfkünste aus aller Welt. Heft 3 (April, Mai, Juni)*. Cultura media, 2005.4, 48-61.
- 22) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 2 回 『空手二十箇條』 の類別とその内容について」, 『月刊武道』 5 月号 (通巻 462 号), 72-75, (財) 日本武道館, 2005.4
- 23) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 3 回 空手は礼に始まり礼に終る事を忘るな」, 『月刊武道』 6 月号 (通巻 463 号), 56-59, (財) 日本武道館, 2005.5
- 24) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 4 回 空手に先手なし」, 『月刊武道』 7 月号 (通巻 464 号), 58-61, (財) 日本武道館, 2005.6
- 25) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 5 回 空手は義の輔け」, 『月刊武道』 8 月号 (通巻 465 号), 56-59, (財) 日本武道館, 2005.7
- 26) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 6 回 先ず自己を知れ, 而して他を知れ」, 『月刊武道』 9 月号 (通巻 466 号), 72-75, (財) 日本武道館, 2005.8
- 27) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 7 回 技術より心術」, 『月刊武道』 10 月号 (通巻 467 号), 68-71, (財) 日本武道館, 2005.9
- 28) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 8 回 心は放たん事を要す」, 『月刊武道』 11 月号 (通巻 468 号), 56-59, (財) 日本武道館, 2005.10
- 29) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 9 回 禍は懈怠に生ず」, 『月刊武道』 12 月号 (通巻 469 号), 60-63, (財) 日本武道館, 2005.11
- 30) ビットマン ハイコ : 「私が学んだ武道の名著から・第 10 回 道場のみの空手と思うな」, 『月刊武道』 1 月号 (通巻 470 号), 72-75, (財) 日本武道館, 2005.12

- 31) BITTMANN Heiko, General Outline of the Development and the Contents of Teaching-
Texts in the Japanese Ways of the Martial Arts. *Local Identity and Sport, Historical
Study of Integration and Differentiation. Proceedings of the 6th ISHPES Seminar,
Kanazawa, Japan 2002*. Academia, 2004, 122-126. (ISHPES Studies Vol. 11).
- 32) ビットマン ハイコ:「日本武道に見られる思想の研究(その3) - 日本武道における「型」
の一考察」, 『金沢大学留学生センター紀要』第7号, 19-24, 2004.3
- 33) ビットマン ハイコ:「私から見た日本武道」, 『月刊武道』9月特大号(通巻442号),
18-19, (財)日本武道館, 2003.8
- 34) ビットマン ハイコ:「日本武道に見られる思想の研究(その2) - 日本武道における「空」
の一考察」, 『金沢大学留学生センター紀要』第6号, 49-54, 2003.3

<報告>

- 1) ビットマン ハイコ, 岡沢 孝雄:「協定校における金沢大学短期留学プログラム
(KUSEP) で取得した単位の認定調査結果」, 『金沢大学留学生センター紀要』第11号,
53-58, 2008.3
- 2) 岡沢 孝雄, ビットマン ハイコ:「学生による金沢大学短期留学プログラムの評価と評
価に關与する要因」, 『金沢大学留学生センター紀要』第6号, 67-82, 2003.3

<主な競技歴>

- 1) 平成14年11月 第6回びわこふれあい居合道大会・五段の部 第3位
- 2) 平成15年4月 石川県剣道連盟 第40回石川県居合道大会・五段の部 第2位
- 3) 平成15年6月 第28回東北日本居合道大会・五段の部 敢闘賞
- 4) 平成15年6月 金沢市剣道連盟 金沢市剣道連盟設立50周年記念剣道・居合道大会・
居合道五段の部 最優秀賞
- 5) 平成15年10月 全日本剣道連盟 第38回全日本県居合道大会・都道府県対抗優勝試
合五段の部出場(石川県代表)
- 6) 平成15年11月 第9回凌雲館居合道演武大会・五段の部 第3位
- 7) 平成16年4月 石川県剣道連盟 第41回石川県居合道大会・五段の部最優秀賞
- 8) 平成17年4月 石川県剣道連盟 第42回石川県居合道大会・五段の部最優秀賞
- 9) 平成17年10月 全日本剣道連盟 第40回全日本県居合道大会・都道府県対抗優勝試
合五段の部・演武
- 10) 平成17年11月 第11回凌雲館居合道演武大会・五段の部 第2位
- 11) 平成17年11月 全日本剣道連盟 居合道・六段取得
- 12) 平成18年4月 石川県剣道連盟 第43回石川県居合道大会・六段の部優秀賞
- 13) 平成18年11月 全日本剣道連盟 居合道・錬士称号取得
- 14) 平成18年11月 第12回凌雲館居合道演武大会・六段の部 優勝

- 15) 平成 19 年 4 月 石川県剣道連盟 第 44 回石川県居合道大会・六段の部優秀賞
- 16) 平成 19 年 11 月 第 13 回凌雲館居合道演武大会・六段の部 第 3 位
- 17) 平成 20 年 2 月 全日本剣道連盟 杖道・五段取得
- 18) 平成 20 年 4 月 石川県剣道連盟 第 45 回石川県居合道大会・六段の部優秀賞
- 19) 平成 20 年 9 月 神道夢想流杖術「奥入り」
- 20) 平成 20 年 11 月 第 14 回富山県居合道大会・六段の部 第 3 位
- 21) 平成 21 年 4 月 石川県剣道連盟第 46 回石川県居合道大会・六段の部 優秀賞
- 22) 平成 21 年 7 月 神道夢想流杖術「初目録」
- 23) 平成 21 年 10 月 第 44 回全日本居合道大会・石川県代表・六段の部 第 9 位
- 24) 平成 21 年 11 月 第 15 回富山県居合道大会・六段の部 第 3 位

<研究発表>

- 1) Regarding the 'Way-culture' in Japanese Martial Arts. *Korea, Japan, Taiwan Sports History Seminar 2010* (東北アジア体育・スポーツ史学会). National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan, 2010.03.26. (英語発表)
- 2) Über den respektvollen Gruß (*rei*) in den japanischen Kampfkünsten. *New Aspects of Sports History*. 9th ISHPES Congress Cologne, Germany 2005.09.07-09.11.
- 3) Way-culture in Budô. *Asian Sports in a Global World. Traditions and Transformations*. Conference and Panel Discussion organized by NIAS (Nordic Institute of Asian Studies), Copenhagen, Denmark, 2005.07.31. (英語発表)
- 4) 「日本古流武術・武道のドイツへの伝来について」(コメンテーター), 国際日本文化センター第 23 回国際研究集会, 「21 世紀の日本武道の行方, 過去・現代・未来」, 京都, 2003.11.

<演武会>

- 1) 平成 19 年 8 月 ドイツ JKA 空手道連盟 (Deutscher JKA-Karate-Bund) 主催:「カンボジア・プノンペンの孤児院を支援するための日本武道演武大会」(Tamm・ドイツ)における居合道・杖道演武
- 2) 平成 19 年 7 月 「Asian Sports in a Global World」学術シンポジウム(コペンハーゲン・デンマーク)における居合道演武

c. 社会における活動

<学会・社会的活動>

- 1) 日本武道学会
- 2) 空手研究会
- 3) 東北アジア体育・スポーツ史学会

- 4) 琉球唐手術国際研究会 (International Ryukyu Karate Research Society)
- 5) International Society for the History of Physical Education and Sport (ISHPES)
- 6) OAG ドイツ東洋文化研究協会

<理事・運営等>

- 1) NPO 法人「日本武道修学院」副代表理事, 杖道部会・責任者・指導員
- 2) 「いしかわ金沢学」日本武道体験コース(平成 18 年 6 月 10 日), 金沢大学留学生センター・NPO 法人「日本武道修学院」共催: 居合道講師・運営
- 3) 「いしかわ金沢学」日本武道体験コース(平成 21 年 5 月 31 日), 金沢大学留学生センター・NPO 法人「日本武道修学院」共催: 杖道講師・運営

5. 1. 6 長野 ゆり

a. 現在の研究テーマ

- 1) 日本語教育
- 2) 日本語学

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) 長野ゆり, 峯正志「金沢大学で学ぶ学部留学生の学習上の問題点に関する聞き取り調査」『金沢大学留学生センター紀要』第 8 号 . pp.73-96. 2005.3
- 2) 長野ゆり, 峯正志「日本語教育に関するニーズ調査結果」『金沢大学留学生センター紀要』第 7 号 . pp.59-73. 2004.3
- 3) 長野ゆり, 笹原幸子, 寺下優子「総合日本語コース C1 (初中級) クラスの解説と活動・教材開発」『金沢大学留学生センター紀要』第 6 号 p.13-?? 2003.3

<学術報告>

- 1) 長野ゆり, 峯正志「留学生センター『総合日本語コース』の日本語教育 ―チームティーチングによるコース運営を中心として―」『金沢大学留学生センター紀要』第 13 号 pp.45-54 2010.3

<その他>

- 1) 教材「金沢大学渡日前日本語診断テスト」(初級および中・上級編) 2007 年 3 月『平成 16 年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP)』(「IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進」による「重点教材作成資金」教材)
- 2) 長野ゆり, 浅野悦子, 笹原幸子, 寺下優子, 苗田敏美『ともだちと話そう』留学生センター

総合日本語コース C1 クラス教科書 2005 年

c. 口頭発表等

<研究発表>

- 1) 「インタラク션을重視した初級から中級への橋渡し教材—理解から運用へ—の作成」
2006 年 第 27 回日本語教育方法研究会
- 2) 「渡日前テスト」日本語教育学会平成 19 年度第 4 回研究集会 —金沢—（於金沢大学サ
テライトプラザ）（発表要旨は日本語教育学会誌『日本語教育』No.139 に掲載）

5. 1. 7 峯 正志

a. 現在の研究テーマ

- 1) シュメール語統語論
- 2) 日本語語用論

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) 峯正志「交通標識における日本語の『ほのめかし』表現」『金沢大学留学生センター紀要』
第 11 号 pp.23-33 2008 年 3 月
- 2) 峯正志「シュメール語の主観性表現 —書簡におけるアスペクト表現—」『ニダバ』第
37 号 pp.31-38 2008 年 3 月
- 3) 峯正志「オノマトペ様態副詞における助詞の有無」『金沢大学留学生センター紀要』第
10 号 pp.1-10 2007 年 3 月
- 4) 峯正志「シュメール語の代名詞接中辞の表記について」『ニダバ』第 36 号 pp.1-8 2007
年 3 月
- 5) 長野ゆり, 峯正志「金沢大学で学ぶ学部留学生の学習上の問題点に関する聞き取り調査」『金
沢大学留学生センター紀要』第 8 号 p.73-96 2005 年 3 月
- 6) 長野ゆり, 峯正志「日本語教育に関するニーズ調査結果」『金沢大学留学生センター紀要』
第 7 号（長野ゆりとの共著）p.59-73 2004 年 3 月
- 7) 峯正志「シュメール楔形文字における改行」『金沢大学留学生センター紀要』第 5 号 p.25-32
2002 年 3 月

<学術報告>

- 1) 峯正志「留学生センター『総合日本語コース』の日本語教育 —チームティーチングに
よるコース運営を中心として—」（長野ゆりとの共著）『金沢大学留学生センター紀要』
第 13 号 p.45-54 2010 年 3 月

<辞書・辞典>

- 1) 「シュメール語」『古代オリエント事典』岩波書店 2004 年 12 月 p.527

<その他>

- 1) 教材「金沢大学渡日前日本語診断テスト」(初級および中・上級編) 2007 年 3 月『平成 16 年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP)』(「IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進」による「重点教材作成資金」教材)

c. 口頭発表等

<研究発表>

- 1) 「『渡日前日本語診断テスト』作成と事後の転載許諾(著作権)処理について」平成 19 年度日本語教育学会第 4 回研究集会 - 金沢 - (於金沢大学サテライトプラザ)
(発表要旨は日本語教育学会誌『日本語教育』No.135, p.173 に掲載)

<講演>

- 1) 「金沢大学における日本語教育の改編」2007 年 3 月 16 日於東京農工大
東京農工大学留学生センターシンポジウム
「大学における国際教育と留学生センターの役割」

d. 社会における活動

<学会活動>

西日本言語学会運営委員
日本ギリシャ語ギリシャ語学会運営委員
日本語教育学会北陸地区研究集会委員 (2003.7 ~ 2006.6)
北陸地区日本語教育ネットワーク代表世話人

<学外での貢献>

1. 平成 20 年度 (2008 年) 広島大学にて集中講義
前期 歴史言語学研究法 A
後期 歴史言語学研究法 B
 2. 広島大学留学生センター客員研究員
 3. 北陸大学「世界のことばと人々」にて「パラグアイの言葉と人々」の回を担当 (2005 年 ~ 2010 年)
 5. 1. 8 ルチラ・パリハワダナ (Ruchira Palihawadana) 2003.10 ~ 2010.9
- a. 現在の研究テーマ

- 1) 日本語の時間副詞表現
- 2) 日本語の否定文
- 3) 日本語・日本文化研修留学生教育

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) 副詞「しばらく」による出来事時の局限『日本語教育』118号：67-76, 2003
- 2) 副詞「やっと」を通して見た出来事の実現『金沢大学留学生センター紀要』第8号, 1-28, 2005.3
- 3) 長時間経過の末の予見の実現を表す副詞「やっと」「ようやく」「ついに」「とうとう」について『金沢大学留学生センター紀要』第8号, 29-49, 2005.3
- 4) 副詞「どんどん」を通してみた出来事展開のあり方『金沢大学大学教育開放センター紀要』27号：53-66, 2007.12
- 5) 「日本語日本文化研修プログラム修了生に対する合同アンケート調査から見えてくる日研究生教育の成果と課題」(森真理子(京都大学), 平尾得子(大阪外国語大学)との共著)『第6回日研究生教育改善研究会 報告書』2007.3, pp.3-24, 金沢大学留学生センター
- 6) 副詞「だんだん」「次第に」「徐々に」が表す展開性の諸局面——漸次性と過程性・意志性・望ましさの関わり——『金沢大学留学生センター紀要』第11号：1-22, 2008.3
- 7) 「日本語・日本文化研修プログラム修了生に対する合同アンケート調査から見えてくる日研究生教育の課題と成果」(森 真理子(京都大学), 平尾得子(大阪外国語大学)との共著)『第6回 日研究生教育改善研究会 報告書』金沢大学留学生センター 3-24, 2007.3
- 8) 「全国修了生に対するアンケート調査から見えてくる日研究生教育の課題と成果——日本語及び日本文化学習に関する検討——」『第7回日研究生教育改善研究会 報告書』2009.3, pp.14-22, 金沢大学留学生センター
- 9) 「日研究生の修了研究の取り組み方と可能性——修了研究・課題を通じた技能獲得——」『第8回日研究生教育改善研究会 報告書』2010.3, pp.9-17, 金沢大学留学生センター

<学術報告書>

- 1) 「研究方法論の指導法」『第3回 日研究生教育改善研究会 報告書』2004.3, pp.37-39, 金沢大学留学生センター
- 2) 「特色のある日研究生教育の確立と大学の枠を超えた教育交流を目指して」『平成16年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議報告書』大阪外国語大学留学生日本語教育センター発行：21-26, 2004.8
- 3) 「身近な地域と社会現象を主題とした日本文化教育への試み」『第5回 日研究生教育改善研究会 報告書』48-53, 2006.3, 金沢大学留学生センター
- 4) 「修了生に対する予備調査報告」(森 真理子(京都大学), 平尾得子(大阪外国語大学))

- との共著)『第6回 日研究生教育改善研究会 報告書』, 金沢大学留学生センター発行: 2-15, 2007.3
- 5) 「日本語・日本文化研修プログラム 2007 年修了時全国アンケート調査報告書」(pp.1-140, 森 真理子(京都大学), 平尾得子(大阪外国語大学)との共著) pp.16-36, 46-55, 64-71 石田大成社, 2008.3
 - 6) 「地域における国際交流の現状」『報告書 パネルディスカッション「地域ニーズの視点から見た国際交流のあり方」』 2009.1
 - 7) 「日本語・日本文化研修留学生教育に関する全国的研究調査報告書」(pp.1-134, 森真理子(京都大学)との共著) pp.9-26, 93-97 石田大成社, 2010.3

<翻訳>

- 1) 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説冊』のシンハラ語への語彙訳(スリーエーネットワーク発行, 2006)

c. 研究発表等

<口頭発表>

- 1) 「研究方法論の指導法」, 第3回 日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2004.3.1
- 2) 「特色のある日研究生教育の確立と大学の枠を超えた教育交流を目指して」, 平成16年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議(大阪にて), 2004.8.3
- 3) 「日本人学生との共学を目指して——留学生教育と日本の大学——」, 第58回共同学習会(金沢大学にて), 2005.2.10
- 4) 「金沢大学における日本語・日本文化教育——その特色と目指すもの」, 日欧国際シンポジウム「欧州における日本語日本文化教育の展望——欧州と日本との教育連携を目指して」(東京国際交流館にて), 2005.3.6
- 5) 「副詞『だんだん』を通してみる出来事の実現」, 東京外国語大学日本課程20周年記念日本語文法研究会(東京外国語大学にて) 2005.11.24
- 6) 「身近な地域と社会現象を主題とした日本文化教育への試み」第5回日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2006.3.3
- 7) 「副詞『だんだん』『次第に』『徐々に』が表す展開の諸局面——漸次的展開性と過程性・意志性・望ましさとの関わり——」(白馬日本語研究会にて), 2006.8.20
- 8) 「修了生に対する調査から見えて来る日研究生教育の課題と成果」(合同発表者: 森真理子(京都大学), 平尾得子(大阪外国語大学)), 第6回日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2007.3.9
- 9) 「中・上級日本語学習者を対象にした研究方法論指導法の試み」, 平成19年度第4回日本語教育学会研究集会パネルディスカッションパネリスト発表(金沢大学サテライトプラザにて), 2007.6.24

- 10) 「副詞『そろそろ』による出来事の成立時期の局限——成立時期に対する話し手の判断と認識——」(白馬日本語研究会にて), 2007.8.19
- 11) 「全国修了生に対するアンケートから見えてくる日研究生教育の課題と成果」(合同発表者: 森真理子(京都大学)), 第7回日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2008.3.7
- 12) 「副詞『やがて』『いずれ』『いつか』『そのうち』『間もなく』による出来事成立時期の規定」(白馬日本語研究会にて), 2008.8.18
- 13) 「日研究生の修了研究の取り組み方と可能性——修了研究を通じた技能習得——」, 第8回日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2009.3.6
- 14) 「事前段階における日研究生のニーズ」, 第9回日研究生教育改善研究会(金沢大学にて), 2010.3.5
- 15) 「日本語の時間副詞表現における基準時の役割」(白馬日本語研究会にて), 2009.8.17
- 16) 副詞『いよいよ』を通して見た出来事実現に対する話し手の時間的把握」(白馬日本語研究会にて), 2010.8.19

<講演>

- 1) 「留学生と市民交流」小松国際協会 2005.5.29
- 2) 石川県立明峰高等学校基調講演「自己探求と世界観の育成」及びパネルディスカッション「国際社会人を目指して」のパネリスト 2005.11.5
- 3) 東京外国語大学日本課程創立20周年記念講演「学問への扉」 2005.11.23
- 4) 石川県立羽咋高等学校講演「学ぶ英語から使う英語へ」 2006.1.26
- 5) 「不思議な日本語・美しい日本語」第3回 能美市立辰口図書館・博物館・金沢大学共催講座 2007.3.3
- 6) 「留学生教育における地域交流の意義」加賀白山ロータリークラブ 2007.8.7
- 7) “The First Step to a Long Journey – in Search of Global Standards, Mutual Understanding and Super Cultural Values –JET プログラム オープニング講演, 石川県国際交流課主催 2008.8.12
- 8) 「金沢大学留学生センターの教育と留学生30万人計画」第1回地域連携セミナー「多文化共生を目指した地域作りに対して大学は何ができるのか?」金沢大学地域創造学類地域連携室主催(金沢大学にて), 2009.1.17
- 9) 「ことばに映る心と文化」大阪大谷大学講演会(大阪大谷大学にて), 2009.11.18

<シンポジウム・研修会>

- 1) 里親交流プログラム研修会企画実施・コーディネーター(田上公民館にて), 2007.8.29
- 2) パネルディスカッション「地域ニーズの視点から見た国際交流のあり方」企画実施・コーディネーター(金沢大学サテライトプラザにて), 2008.6.22

d. 社会における活動

<所属学会>

- 1) 日本語教育学会（北陸地区委員 2009.7 ～ 2010.3）
- 2) 日本語学会
- 3) 日本語文法学会
- 4) 日研生教育改善研究会議長 2002.3 ～ 2010.3

<社会活動>

- 1) 金沢市教育委員会小中一貫英語教育実施検討委員会委員（2000.7 ～ 2004.3）
- 2) 石川県立金沢西高等学校 学校評議員（2004.4 ～ 2007.3）
- 3) 石川県立羽咋高等学校 教員研修講師（2005.8 ～ 2006.11）
- 4) 加賀市多文化共生社会づくり指針策定委員会委員（2009.8 ～ 2010.7）

5. 1. 9 齊木 麻利子

a. 研究テーマ

- 1) 言語と音楽のインターフェイス研究
- 2) 語彙機能文法
- 3) TOEFL 受験準備教育

b. 著書・学術論文等

<学術論文>

- 1) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2009) "Resolving Conflicts of Prominence in Music and Speech," in *Current Issues in Unity and Diversity of Languages*, CD-ROM, Linguistic Society of Korea, [Revised version of the same paper appears in 『金沢大学留学生センター紀要』第13号, pp. 11-22.] (共著・査読有) .
- 2) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2008) "Resolving Conflicts of Prominence in Music and Speech," in *The 18th International Congress of Linguists: Current Issues in Unity and Diversity of Languages, Abstracts*, Vol. 2, Linguistic Society of Korea, pp. 447-448 (共著・査読有)
- 3) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2008) "Preservation of Lexical Prominence in Vocative Chant," in Mutsuko Endo Hudson et al. eds., *Japanese and Korean Linguistics* 13, Stanford: CSLI Publications, pp. 3-14.
- 4) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2007) "Melody, Rhythm, and Prosodic Structure in Linguistic Chants," in Annie Zaenen et al. eds., *Architectures, Rules, and Preferences: Variations on Themes by Joan W. Bresnan*, Stanford: CSLI Publications, pp. 431-445 (共

著・査読無)。

- 5) 南相璽・西嶋義憲・斉木麻利子 (2006) 「ポライトネス・グラマー ―コミュニケーション行動評価概念の日韓比較―」『金沢大学留学生センター紀要』第9号, pp. 1-19 (共著・査読有)。
- 6) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2004) "Contrast and Preservation of Linguistic Prominence in Vocative Chant," in *Proceedings of the 2004 LSK International Conference Vol. II*, Linguistic Society of Korea and Yonsei Institute of Language and Information Studies, pp. 31-32 (共著・査読有)。
- 7) Mariko Saiki (2003) "Identifying Pyongko: Where Linguistics and Musicology Meet," 『金沢大学教育学部紀要 人文科学・社会科学編』第52号, 金沢大学教育学部, 19-36 (単著・査読無)。

<学術報告>

- 1) 斉木麻利子 (2007) 『平成17年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書』pp. 1-60 (単著・査読無)。

<書評>

- 1) 斉木麻利子 (2004) 「中村捷著『意味論―動的意味論―』開拓社2003年」『言語』第33巻 第号, 大修館, p. 121.

<辞典・百科事典>

- 1) 飯野厚・岩淵万季・斉木麻利子, Young-mee Yu Cho 他73名 (2006) 『言語科学の百科辞典』(「音楽と言語」の章執筆), 鈴木良次 編集, 畠山雄二 監修, 丸善, pp. 743-764.
- 2) 合原一幸・栗生修司・斉木麻利子 他109名 (2003) 『デジタル認知科学辞典』(CD-ROM版) (「下位範疇化」「項構造」「語彙規則」「語彙機能文法」「文法機能」の項目執筆), 日本認知科学学会 編集, 共立出版.
- 3) 合原一幸・栗生修司・斉木麻利子 他109名 (2002) 『認知科学辞典』(「下位範疇化」「項構造」「語彙規則」「語彙機能文法」「文法機能」の項目執筆), 日本認知科学学会 編, 共立出版.

c. 口頭発表等

<学会発表>

- 1) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2008.7) "Resolving Conflicts of Prominence in Music and Speech," the 2008 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL 2008), Korea University, Seoul.
- 2) Cho, Young-mee, Kiri Lee and Mariko Saiki (2006.7) "Power, Solidarity and Emotional

Proximity in Address Terms: The Case of Japanese -san and Korean -ssi," the 2006 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL 2006) , Seoul National University, Seoul.

- 3) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2006.7) "Headness in Language and Music: The Case of Rhythmic Lengthening in Japanese and Korean," the 2006 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL 2006) , Seoul National University, Seoul.
- 4) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2004.7) "Contrast and Preservation of Linguistic Prominence in Vocative Chant," the 2004 LSK International Conference, the Linguistic Society of Korea, Yonsei University, Seoul.
- 5) Cho, Young-mee and Mariko Saiki (2003.8) "Preservation of Lexical Prominence in Vocative Chant," Invited Presentation at the 13th Japanese/Korean Linguistics Conference, Michigan State University, East Lansing, MI.

<講演>

- 1) Mariko Saiki (2010.3) "Linguistic Prominence in Chanting," Rutgers Undergraduate Linguistics Club, Rutgers University, New Brunswick, NJ.

d. その他の業績

<教科書・教材>

- 1) 古畑徹・小川智・斉木麻利子 他 14 名 (2008) 『知的キャンパスライフのすすめ—ステディ・スキルズから自己開発へ—』(「第4章「派遣留学の」すすめ」のセクション担当, 小山久美子との共同執筆), 金沢大学「大学社会・生活論」テキスト編集会議 編, 学術図書出版社, pp. 87-92 【教科書執筆】.
- 2) 渡邊明敏・澤田茂保・斉木麻利子 (2005) 『初中級英語 eLearning 教材』(「2004 年度金沢大学重点教材作成予算」による外国語教育研究センターとの共同作業) 【教材作成】.

e. 社会における活動

<所属学会>

- 1) International Lexical-Functional Grammar Association
- 2) 日本アイスランド学会
- 3) 上智大学言語学会
- 4) 日本英文学会中部支部
- 5) 日本英文学会中国四国支部
- 6) 石川日独協会

<学会運営・事務担当>

- 1) 石川日独協会 運営委員 (2004.7～現在).
- 2) 日本アイスランド学会 事務局 (2006.6～2008.5).

<教育委員会等における活動>

- 1) 石川県高等学校文化連盟英語部・第4回高等学校文化連盟英語部英語スピーチコンテスト審査員 (2009.9.13).
- 2) 石川県教職員組合・外国語教育共同研究者 (2005年度).
- 3) 金沢市教育委員会・金沢市中学校文化連盟英語部, 第31回英語スピーチコンテスト審査員 (2004.10.23).
- 4) 石川県教育委員会・教育研究開発に係る運営指導委員会委員 (2003年度～2005年度).
- 5) 石川県教育委員会・学習指導カウンセラー (2003年度～2004年度).
- 6) 石川県教育委員会・基礎学力調査研究委員会委員 (2002年度～2004年度).
- 7) 石川県教育委員会・個に応じた発展的な学習推進委員会委員 (2002年度).

<報告書執筆>

- 1) 『「学習指導カウンセラー派遣に係る調査研究事業」実践報告書』石川県教育委員会 (2005.3).
- 2) 『第31回英語スピーチコンテスト報告書』金沢市中学校文化連盟英語部, 金沢市教育委員会 (2004.11).
- 3) 『平成16年度「基礎学力調査」報告書』石川県教育委員会 (2004.9).
- 4) 『「学習指導カウンセラー派遣に係る調査研究事業」実践報告書』石川県教育委員会 (2004.3).
- 5) 『平成15年度「基礎学力調査」報告書』石川県教育委員会 (2003.9).
- 6) 『個に応じた発展的な学習に関する指導資料 きめ細かな指導の充実 中学校編』石川県教育委員会 (2003.3).

<講義・講演・助言>

- 1) 斉木麻利子 (2006.11) "Learning Japanese," Workshop IV: 日本社会への適応, 平成18年度外国語指導助手中間期研修会, 石川県教育委員会【講義】.
- 2) 斉木麻利子 (2005.12) 「石川県立金沢錦丘中学校・高等学校のコミュニケーション英語および英語教育についての現状と展望について」コミュニケーション英語研修会, 石川県立金沢錦丘中学校・高等学校【講義】.
- 3) 斉木麻利子 (2005.11) "Learning Japanese," Workshop IV: 日本社会への適応, 平成17年度外国語指導助手中間期研修会, 石川県教育委員会【講義】.
- 4) 斉木麻利子 (2005.10) 石川県教育研究集会外国語教育部会, 石川県教職員組合【助言】.

- 5) 斉木麻利子 (2005.8)「"国際化"ってなに？」富山県立南砺総合高等学校井波高等学校【講義】.
- 6) Saiki, Mariko (2005.7) "English Education at Kanazawa University," Language Education Institute, Seoul National University, Seoul 【講演】.
- 7) 斉木麻利子 (2005.3)「コミュニケーション英語とは」, コミュニケーション英語研修会, 石川県立金沢錦丘中学校・高等学校【講義】.
- 8) 斉木麻利子 (2004.11) "How to Improve Your Japanese," Workshop IV: 日本社会への適応, 平成 16 年度外国語指導助手中間期研修会, 石川県教育委員会【講義】.

5. 2 資金の導入状況

5. 2. 1 学内資金

太田 亨

1. 平成 14 年度 学長裁量経費（教育基盤設備充実費）
「全学留学生のための情報配信システム導入プロジェクト」3,850 千円
2. 平成 15 年度 重点化経費（情報インフラ整備経費）
「テレビ会議による協定校との遠隔相互教育システム構築」841 千円
3. 平成 16 年度 文部科学省「現代的ニーズ取組支援プログラム：IT 教育用素材集の開発と IT 教育の推進」による学内公募「重点教材作成資金」

平成 16 年度	246,410 円（米国ウイリアム&メアリー大学へ調査のため訪問）
平成 17 年度	498,752 円（『日本語能力試験出題基準改訂版』データベース作成）
平成 18 年度	499,600 円（渡日前日本語力診断教材作成）

斉木 麻利子

- 1) 平成 19 年度（2007） 重点研究経費（一般研究推進）[500 千円]「伝統音楽におけるアウトタクト成立の要因を探る～言語学からのアプローチ～」
- 2) 平成 18 年度（2006） 教育研究改革・改善プロジェクト経費 [700 千円]「学生の海外派遣に係る支援体制の改善」
- 3) 平成 17 年度（2005） 教育研究改革・改善プロジェクト経費 [890 千円]「学生の海外派遣に係る支援体制の改善」
- 4) 平成 16 年度（2004） 国際学会等派遣事業経費 [147 千円]
- 5) 平成 15 年度（2003） 教育研究改革・改善プロジェクト経費 [1,300 千円]「金沢大学留学生のための英語教育改善プロジェクト」

5. 2. 2 外部資金

岡沢 孝雄

1)平成 19 年度 財団法人いしかわ女性基金調査研究委嘱事業

研究課題名：石川県における乳幼児の子育てに関する実態調査

三浦 香苗

1)科学研究費補助金 平成 19(2007)年度 (研究代表者:三浦香苗)基盤研究(C)「遠隔ディスプレイの有効性に関する実践的研究」平成 19～20 年度科学研究費補助金, 研究課題番号 19520450, 1,950 千円, 研究代表者

2)科学研究費補助金 平成 21 年度基盤研究(C)「誤用例の文脈分析に依拠した上級作文教材－日中両国語パラレルコーパスの活用」, 200 千円, 研究分担者

3)「金沢大学国際人養成のための新教育プログラム」文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」, 平成 18(2006)年度採択事業研究補助金, 780 千円, 研究分担者

4)「金沢大学 I T 教育用素材集の開発と I T 教育の推進」文部科学省大学改革推進経費「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」平成 17(2005)年度, 500 千円, 研究分担者

八重澤(松下) 美知子

1)科学研究費(分担)

平成 18～20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「大学関係保育所にみる異文化接触と留学生の子育て支援方策に関する基礎的研究」(代表 森山日出夫 総額 3,700 千円/平成 20 年度 700 千円)

2)文部科学省地域貢献特別推進事業 「金沢学への招待」(実施担当)

平成 14 年度 74,000 千円 の一部 (10,000 千円 概算額)

平成 15 年度 65,000 千円 の一部

平成 16 年度 15,000 千円 の一部

3)金沢大学地域貢献推進事業 「いしかわ金沢学」(地域活性化プロジェクト担当)

・文部科学省配分額

	事業費	人件費	合計
平成 17 年度	4,000 千円	3,500 千円	7,500 千円
平成 18 年度	3,600 千円	3,500 千円	7,100 千円
平成 19 年度	3,890 千円	3,610 千円	7,500 千円
平成 20 年度	3,500 千円	4,500 千円	8,000 千円
平成 21 年度	3,500 千円	4,400 千円	7,900 千円

・金沢市教育委員会配分額

平成 22 年度 300 千円

・アジア人財資金構想高度専門留学生特別コース 経済産業省 配分額

平成 19 年度	<u>282.0</u> 千円 (概算額)
平成 20 年度	342.9 千円
平成 21 年度	233.6 千円
平成 22 年度	102.1 千円

4) 金沢学子ども体験塾実行委員会「金沢学子ども体験塾」(担当)

(平成 19 ～ 「いしかわ金沢学」 に名称変更) 独立行政法人国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金」

平成 17 年度	780 千円
平成 18 年度	705 千円
平成 19 年度	805 千円
平成 20 年度	385 千円
平成 21 年度	613 千円

5) 「いしかわ金沢学」を通じた文化の継承事業 「文化芸術による創造のまち」支援事業
文化庁(北浦勝 代表 岡沢孝雄, 太田亨, ビットマン・ハイコと分担)

平成 19 年度	4,568 千円
平成 20 年度	<u>4,500</u> 千円 (概算額)
平成 21 年度	<u>4,500</u> 千円 (概算額)

6) 「いしかわ金沢学」奥能登文化体験コース (財) 中島記念国際交流財団助成事業
(岡沢孝雄 代表 岡沢と分担)

平成 17 年度	520 千円
----------	--------

7) 「いしかわの地酒学入門」(北浦勝, 岡沢孝雄 代表 北浦, 岡沢と分担)

「金沢・いしかわまちなかキャンパス構想事業」助成金 大学コンソーシアム石川

平成 18 年度	<u>150</u> 千円 (概算額)
平成 19 年度	<u>150</u> 千円 (概算額)
平成 20 年度	279.9 千円
平成 21 年度	150 千円
平成 22 年度	150 千円

8) 金沢市との共同研究 「農村における男女共同参画に関する意識について」

平成 17 年度	<u>500</u> 千円 (概算額)
----------	---------------------

太田 亨

1) 平成 19 ～ 21 年度 科学研究費補助金基盤研究 (B) (一般) 「日韓プログラムのシームレスな通年予備教育カリキュラムの開発研究」研究代表者, 5,200 千円

峯 正志

- 1)平成 19 ～ 22 年度 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「現場データによる日本語教育プログラムの質的評価研究」(代表:鎌田 倫子) 研究分担者, 2,100 千円

斉木 麻利子

- 1)平成 21 ～ 23 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C) (一般)「言語と音楽の接点で何が起こっているのか ― 新たな言語類型を求めて―」研究代表者 1,300 千円
- 2)平成 17 ～ 18 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C) (一般)「呼びかけチャントのメロディー形式を決定する言語と音楽の「バトル」」研究代表者 1,500 千円

6. 地域・社会貢献

6. 1 金沢大学公開講座

平成 15 年度大学公開講座「留学生教育への扉」(計 4 回)

受講者：男性 3 人 女性 4 人 合計 7 人

月 日	題 目	講演者
5月24日(土)	留学生教育 ― 日本語で教える日本語 ― 日本語は特殊か ― 世界の言語における日本語 ―	三浦香苗 峯正志
5月30日(土)	ドイツ人から見た日本武道の魅力 日本武道体験：杖道	ビットマン ハイコ
6月7日(土)	日本語文法はおもしろい つまづかない『国際交流』を目指して	長野ゆり ルチラ パリハワダナ
6月14日(土)	日本で学んだ留学生達のその後 ― 日本に留学したことはどんな意味や意義があったのだろうか? ― 留学生教育の意義	八重澤美知子 岡沢孝雄

6. 2 JAPAN TENT

日本全国で学ぶ留学生を石川県に招き、県下全域で交流を図る「JAPAN TENT」が昭和 63 年から開催されている。金沢大学留学生センター所属教員や学務課留学生係職員は平成 13 年度から「JAPAN TENT 夏期大学金沢職人大学校」の一環として「日本武道の体験・杖道」を実施した。日本文化をよりよく理解し体得するためには、武道を体験させることが良い手段であると確信しているからである。また平成 19 年度には一回限りで「薩摩琵琶・琴・横笛体験」を実施した。

a. 第 16 回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2003

(2003 年 8 月 1 日～8 月 8 日)

「日本武道の体験・杖道」

日時：2003 年 8 月 6 日

講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター助教授

b. 第 17 回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2004

(2004 年 7 月 30 日～8 月 6 日)

「日本武道の体験・杖道」

日時：2004 年 8 月 4 日

講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター助教授

- c. 第18回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2005
(2005年7月29日～8月5日)
「日本武道の体験・杖道」
日時：2005年8月3日
講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター助教授
- d. 第19回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2006
(2006年7月29日～8月5日)
「日本武道の体験・杖道」
日時：2006年7月31日
講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター助教授
- e. 第20回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2007
(2007年7月28日～8月4日)
「薩摩琵琶・琴・横笛体験」
日時：2007年7月30日
講師：三浦 香苗 金沢大学留学生センター教授
- f. 第21回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2008
(2008年8月21日～8月27日)
「日本武道の体験・杖道」
日時：2008年8月26日
講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター准教授
- g. 第22回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2009
(2009年8月20日～8月26日)
「日本武道の体験・杖道」
日時：2009年8月24日
講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター教授
- h. 第23回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2010
(2010年8月19日～8月25日)
「日本武道の体験・杖道」
日時：2010年8月23日
講師：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センター教授

6. 3 金沢学プログラム（平成 14 年度～ 16 年度）

平成 14 年度から開始された文部科学省地域貢献特別支援事業に応募し、「『金沢学』への招待」を企画・実施して以来、3 年間に亘って「金沢学」を行った。

「金沢学」とは、本センターでこれまでに行って来た「留学生教育」、「日本文化理解カリキュラムの開発」、「地域との連携」の諸活動の成果に基盤をおいた地域貢献プログラムである。「地域に点在する有形・無形の文化的遺産・資源を集積し、その文化的価値を明らかにすると共に、それらを用いた学習活動を行う、さらに文化の変遷を見ることにより、歴史・世代の流れを認識し、文化の継承と今後の発展とを考える」というのがその定義である。

カリキュラムは「講義」部分と「体験学習」部分の二つに大別される。文化体験学習を通じた日本と日本文化への理解は、その後の地域に対する関心の喚起や日本文化学習への動機付けの機会となることを期待した。

「金沢学」のスタート時点における具体的な目的は下記の 3 点である。

1) 留学生受け入れの特徴としての金沢学

本学が位置する地域には、大都会には無い豊かな自然と古くからの歴史と伝統に育まれた文化があり、従来から、留学生を対象としたプログラムは、そうした地域的な特徴を取り入れて作成して来た。このような本学独自の文化体験学習のカリキュラム開発は、留学生センターの独自性（アイデンティティ）であり、特徴である。金沢大学からの文化的発信を広く国内外に行う事に貢献する事業と考える。

2) 文化体験学習を通じた国際教育交流

「金沢学」では、宿泊研修を含み、文化体験学習の機会を通じた留学生・日本人学生の交流を行うものであり、留学生・日本人学生それぞれの多文化理解を目指すものである。

3) 地域との連携と文化活動を通じた貢献

地域の自治体の持つ文化学習プログラムの集積をはじめ、文化学習施設の利用、さらには地域住民への本講座の開放や、学生たちとの共学により、地域の文化理解と多文化への理解を深めることに貢献する。

6. 3. 1 「金沢学プログラム」各年度の概要

各年度の概要を表に示す。

表 「金沢学」実施経過（平成 14 年度～ 16 年度）

年度	実施期間	参加者	実施方法	実施場所
14	2003・3・9 ～3・15 (6泊7日)	・ 全国大都市圏の大学（国立 11・私立 10）および県内：金沢美大・金工大・金大の 15 の国と地域からの留学生／日本人学生の計 44 名 ・ 横浜国立大学・三重大学留学生センター教員 ・ 市民ボランティア	講義および芸・道・町並み体験の 3 コース毎の体験学習	サテライトプラザ 大乘寺 県立歴史博物館 県立美術館 県立能楽堂 旧中村邸 加賀友禅伝統産業会館 伝統工芸箔巧館 金沢市キゴ山 ふれあいの里研修館
15	2003・11・8 ～2004・1・10 (体験学習は 1泊2日)	県内の大学のみ； 北陸大学・金沢星陵大学・金沢大学・県立農業短期大学の留学生／日本人学生の計 34 名 ・ 三重大学留学生センター教員 ・ 市民ボランティア	・ シティカレッジ「金沢学Ⅱ」の講義および体験学習 ・ 「金沢学Ⅱ」を履修した学生は単位取得	シティカレッジ 大乘寺 伝統工芸箔巧館 松向庵 県立能楽堂 金沢市大場 コミュニティセンター 金沢市キゴ山 ふれあいの里研修館
16	夏コース 2004・9・20～21 (1泊2日) 冬コース 2004・12・18～19 (1泊2日)	・ 県内の大学のみ； 北陸大学・金沢星陵大学・金沢大学・県立農業短期大学・北陸先端科学技術大学院大学の留学生／日本人学生 夏コース 計 28 名 冬コース 計 33 名 ・ 市民ボランティア	夏／冬 2 回に分けて実施 講義と体験学習	サテライトプラザ 国立能登青年の家 県水産総合センター 能登島事業所 能登島水族館 県立歴史博物館 金沢市キゴ山 ふれあいの里研修館

6. 3. 2 「金沢学」3 年間の検討

各年度の金沢学の終了時には、参加者全員にアンケートおよび面接・座談会等を実施し、その結果を次年度の科目の新設や採用および実施方法に生かすなどの改善を重ねてきた。平成 14～16 年度まで実施した「金沢学」について、開始時の目的がどのように達成されたか、あるいは達成されつつあるか、に沿って検討を進めた。

①特色ある文化体験学習用のプログラムの適切性

各年度終了時に実施するアンケートの回答に見る限り、「興味のある文化体験学習」がいずれの年度も最も多い参加理由（およそ半数～65%以上）となっていることから、学習動機を喚起させ、学習者のニーズを捉えた文化体験プログラムが作成されたといえよう。また、実際の体験学習後の評価も、「とても満足」「満足したほう」が極めて高い割合（90%）である一方、少数ではあるが「講義を聞く」というのが不満理由としてあげられている。特に日本語力が十分ではない留学生にとって、難しい漢字や専門用語、また日本人であれば当然学習済みの基礎知識を要する講義は、理解し難いものであったと思われる。しかし、理解を深めるためには、体験だけの学習では不十分であるため、講義との組み合わせや事前学習の工夫を考えることが必要となる。

②文化体験学習を通じた国際教育交流

日本人学生と留学生の相互理解をはじめ、講義・体験を共にした地域住民の方々との接触により、多文化共生の状況が出現した。最初の意図通り、「金沢学」を媒介として学習者全員の交流が促され、お互いを理解する出会いの場が提供されたことになる。とりわけ留学生の自由記述欄の多くには、興味ある体験学習とならんで学習者同士の交流に高い満足度を示している様子が述べられている。代表的な記述を数例、以下に取り上げる。

「日本人の学生と交流をもつ良い機会になった。／一緒に参加した日本人の学生も、自分の国の歴史や文化が更に理解できるし、また一緒に勉強した時に様々な国からの人は、他の国の人と交流するチャンスがあるから友達ができるし、異文化が理解できるから金沢学のような活動は本当にいいと思う。」（留学生）

「参加できて本当に良かった。金沢の歴史と文化に触れることができただけでなく、多くの友人を作ることができた。／留学生の方々や地域の方々、そしてそれを支えてくださった多くの方々に出会い、衣食住を共にする企画は、短期間でしたが私自身の中では大きな変化をもたらしたと同時に、人と触れあい交流する楽しさや、そこから学ぶことは計り知れないと感じた。」（日本人学生）

③地域との連携と文化活動を通じた貢献

地域の大学間の連携や自治体との連携が重視されている現在、学生同士の交流をはじめ地域と大学とが多次元で協力・交流することに本事業は文化活動を通じて、その機会を提供したことになり、今後ともこの事業の継続が望まれる。また、金沢学に参加した学生たちを経由して、地域の持つ文化的特徴は国内外に発信されたことになり、この地の文化が流布されることに貢献することへと通じる。

なお、詳細は、報告書を参照されたい。

・「金沢学への招待」平成14年度金沢大学地域貢献推進事業報告書 2003

・「金沢学への招待」平成16年度金沢大学社会貢献推進事業報告書 2005

（引用：「金沢学の計画と実践」留学生センター紀要 第8号 2005）

6. 4 「いしかわ金沢学」（平成17年度以降）

平成17年度からは地域活性化プロジェクトの1部門として「いしかわ金沢学」と名称を改め、引き続き取り組んでいる。なお、「いしかわ金沢学」の企画の意図や定義、またその特徴については既刊の年報（2003.4～2005.3）に詳述されている。

カリキュラムは「金沢学」同様、「講義」部分と「体験学習」部分の二つに大別される。また、基本となる定期的なコースの「夏コース」「秋コース」「冬コース」に加え、「特別コース」や地域の子どもたちを対象とした「金沢学こども体験塾」を実施し、総合的に地域に根ざした文化体験プログラムを構築している。参加者は、本学の留学生だけでなく、ひろく県

内で学ぶ留学生と日本人学生、また地域住民の方々であり、「いしかわ金沢学」を媒介として積極的、自発的に交流する機会を提供している。

6. 4. 1 平成 17 年～ 18 年事業報告

表 「金沢学」実施経過（平成 17 年度～ 18 年度）

◆平成 17 年度報告	時 期 / 回 数	参加人数
「いしかわ金沢学」夏コース	平成 17 年 7 月 2 日（土）～ 平成 17 年 7 月 3 日（日）	50 人
8 カ国の留学生を含む、県内 4 大学とボランティア大学校からの参加者は、「いしかわシティカレッジ」にて開講式を行った後、金沢市観光協会のボランティア「まいどさん」の案内で、金沢城公園、兼六園を散策後、加賀友禅伝統産業会館にて友禅絵付け体験を行った。また、宿泊先の金沢市キゴ山ふれあいの里では「着物文化講義」の講演を聞き、翌日は箔巧館にて箔貼り体験を行うなど、金沢の伝統文化を体験し、また参加者同士の交流を深めた。参加者は、「この文化体験プログラムに参加して、金沢の美しい文化を体験することができた」、「他の国の人と友達になれた」等、期待以上の成果を感じた。 □協力 金沢ボランティア大学校		
「いしかわ金沢学」秋コース	平成 17 年 11 月 5 日（土）～ 平成 17 年 11 月 6 日（日）	30 人
石川県では 11 月 1 日の「教育の日」にふさわしい取り組みを集中的に展開する期間として 11 月 1 日から 7 日までを「いしかわ教育ウィーク」とし、金沢大学留学生センターでは平成 14 年度より開講された文化体験学習プログラム「金沢学」をその共催事業として毎年実施している。本年度は金沢市の「金沢湯涌創作の森」で、8 カ国の留学生をふくむ市内の大学生が金沢湯涌創作の森ディレクターらの指導を受け、「金沢の秋を染める」という題材で本格的な染色に取り組んだ。 これまで「金沢学」では、1 度に数種類の伝統文化を体験することに重点をおいてきたが、今回初めて 1 種類の科目に集中して取り組む「中級コース」を開講し、参加者には高い満足度が得られた。 □共催 石川県教育委員会		
「いしかわ金沢学」冬コース	平成 17 年 12 月 17 日（土）～ 平成 17 年 12 月 18 日（日）	36 人
金沢大学創立 50 周年記念館「角間の里」で、日本の伝統的習慣である「もちつき」を体験した。その後「金沢市キゴ山ふれあいの里」に移動し、加賀料理の講義を受け、加賀野菜である「打ち豆」や「源助大根」などを使つての調理実習を行った。2 日目は和太鼓の講義と実践、12 カ国からの参加者の満足度は高かった。また金沢ボランティア大学校の授業の一環としてこの「冬コース」が取り入れられたことにより、一般市民の参加者も多く、国籍・年齢等多様な参加者の交流が実現した。 □協力 金沢ボランティア大学校		
「いしかわ金沢学」特別コース	平成 18 年 3 月 7 日（火）	33 人
「能の世界にみる女の一生」という題で「いしかわ金沢学」特別コースを開催。12 カ国 5 大学そして一般市民を含む参加者が、能楽師「藪俊彦」邸の修篁堂舞台にて、能楽に関する講義を受講した。足袋を履いて能舞台を歩いたり、能面や能楽器に触れたり、普通の鑑賞ではできない体験をすることができ、より一層能楽への興味を高めることができた。		
「いしかわ金沢学子ども体験塾」	平成 17 年 8 月 24 日（水）～ 平成 17 年 8 月 25 日（木）	172 人
子ども達に加賀百万石の歴史・伝統文化・芸能などの文化を学び、体験学習を通じて日本文化の魅力を発見・理解させる目的で「体験塾」を開催した。「和菓子づくり」「茶道」「能楽」「邦楽（箏、三味線、尺八）」などと取り組み、日本の伝統文化を金沢大学の学生や留学生と交流を深めながら学んだ。 □共催 「金沢学子ども体験塾」実行委員会		
「いしかわ金沢学」教育研究会	平成 17 年 6 月 21 日・7 月 12 日・9 月 8 日・ 平成 18 年 2 月 8 日	各回 10 人
「いしかわ金沢学」教育内容の検討と教材開発のための調査研究を行い、大学・地域連携教育システムの連携を目指す。多角的な視点及び連携強化による「金沢学」の体系化と洗練、さらなる発展が見込まれる。 □委員構成 石川県・金沢市教育委員会、金沢美術大学、金沢大学文学部・留学生センター		

◆平成18年度報告	時 期 / 回 数	参加人数
「いしかわ金沢学」夏コース	平成18年7月1日（土）～平成18年7月2日（日）	40人
「九谷焼の工程見学と絵付け体験」「着物着付け体験及び礼法講義」「金澤と和菓子」（内容省略）		
「いしかわ金沢学」秋コース	平成18年11月2日（木）	30人
「能を知ろう」 □共催 石川県教育委員会（石川県「いしかわ教育ウィーク」の一環）（内容省略）		
「いしかわ金沢学」冬コース	平成18年12月2日（土）～平成18年12月3日（日）	34人
「藍染め」「草木染め」「加賀野菜を使った和菓子と茶道体験」（内容省略） □協力 金沢ボランティア大学校		
「いしかわ金沢学」 日本武道体験コース	平成18年6月10日（土）	30人
金沢市第55回百万石まつり協賛事業として、日本武道体験コースを開催した。 □共催 NPO法人日本武道修学院、□協力 金沢市		
「いしかわ金沢学子ども体験塾」	平成18年8月24日（木）～平成18年8月25日（金）	100人
金箔・能楽、和菓子・お茶、お花、着付け、箏、三弦、杖道、剣道の8コース □共催 「金沢学子ども体験塾」実行委員会		
「加賀・能登・金沢を飲む 「～いしかわの地酒学入門～」	平成18年10月7日（土）～平成19年1月27日（土）	73人
いしかわシティカレッジにて「加賀・能登・金沢を飲む～いしかわの地酒学入門～」を開講。講座受講者は県内大学生及び一般社会人など73名。日本酒の製法や消費動向などの講義と酒蔵見学を組み合わせ、地酒の背景となる自然環境や歴史、文化の学習後、酒蔵見学を実施した。またこの講座の最終講としてにて「地酒学シンポジウム」（金沢市文化ホール）を開催した。林勇二郎金沢大学長の挨拶で始まり、パネリストは石川県立大学の矢野俊博教授、（財）地域振興研究所主任研究員の谷本互先生、石川県酒造組合連合会需要開発委員長の中村太郎さん、石川県に在住のスペイン語・英語講師マルガリータ・アンドラーデ・フローレスさんの4人が担当。各パネリスト達はそれぞれの観点から日本酒文化を語った。 □共催 石川県酒造組合連合会 □協力 大学コンソーシアム石川事務局		
「いしかわ金沢学」教育研究会	平成18年12月6日（水）・平成19年3月14日（水）	各回10人
石川県・金沢市・大学が連携した教育研究会において、石川県内の教育現場におけるニーズを把握し、「いしかわ金沢学」教育内容の検討、教材開発のための調査研究を行う。また、教育現場のニーズに合った教材作り、体験学習のための講師派遣システムの構築、教員研修への取り入れ等を通じ、石川県内における「いしかわ金沢学」の体系化を目指す。		

出典：文化体験学習プログラム「金沢学」平成17年度金沢大学地域貢献推進事業 報告書 2006

文化体験学習プログラム「いしかわ金沢学」平成18年度金沢大学地域貢献推進事業 報告書 2007

（引用：「金沢学の計画と実践」 留学生センター紀要 第8号 2005）

6. 4. 2 平成 19 年度事業報告

平成 19 年度 実施事業

4 月 子ども体験塾Ⅰ（いしかわ子育て支援財団）（4 月末の土日開催）

4 月～7 月 いしかわシティカレッジ前期講座（毎回テーマ別講義と体験学習）

・毎週火曜日 15:30～17:00 開講

* 7 月 夏コース（1泊2日）

8 月 奥能登文化体験コース（中島財団助成金による事業）（1泊2日）

8 月 子ども体験塾Ⅱ（子どもゆめ基金助成による事業）

9 月～2 月 いしかわシティカレッジ後期講座（石川県酒造組合後援）

・9～12 月中土曜日 コンソーシアムにおける講義

・1 月中の土日 酒蔵見学

10 月～3 月 いしかわ金沢学を通じた文化の継承事業（文化庁支援事業）

・アシスタント養成講座・・・全6回

・子ども体験塾（上級編）・・・全6回

・文化の継承シンポジウム開催（2 月）・・・1 回

・実行委員会会議・・・3～4 回 石川県／金沢市／担当者

（各教育委員会／外郭団体）

* 11 月 秋コース（いしかわ教育ウィーク関連事業）

* 12 月 冬コース（1泊2日）（金沢ボランティア大学）

本年度（平成 19 年度）から、文化庁支援事業「文化芸術による創造のまち」（大学と地域との交流・連携の促進事業）に「いしかわ金沢学を通じた文化の継承」事業が採択され、金沢大学が地元の大学として果たす役割と責任の重さが本事業に加わった。

プログラムを運営していく中、金沢市教育委員会からの強い要望もあり、金沢市内の小中学校向けの教材の開発や体験学習の体系化を、お互いの協力のもと実現しようという方向性を確認している。例えば、どの地域の小学校においても使える加工のしやすい教材を開発すること。地域によっても学年によっても理解度が異なるし、ひいては障害児用にも使えるような加工しやすい教材の開発を目指すこと。そしてまた、受け皿である教員を教育するための研修（初任者研修等 石川県・金沢市両教育委員会）にも使用できるような教材開発を目指すこと、などである。また、本学で行われている「社会主事講習」においても「いしかわ金沢学」を取り入れたいとの要望もあり、学校教育現場と公民館等地区単位での連動したふるさと教育が今後必要と思われる。体験学習を通して伝統文化を学ぶということは、日本人的な感覚を身につけさせ、日本人としての確固たるアイデンティティを形成する上で非常に大切なことである。

現在の「アシスタント養成講座」の受講生からは「人生においてこういったきっかけがあったのはものすごいこと」という意見も聞かれ、講師からは「アシスタントを育成するのは大

切なこと。これを足がかりに小学校等での体験学習活動を行い、いしかわの文化が継承されていってほしい。」という意見が出ている。また、金沢市教育委員会からは、その講座の修了生のリストを登録して、実際の学校教育現場でのお手伝いがいただけないかという申し出もきている。事業開始から3ヶ月を過ぎただけで、このような意見を聞かれる本事業の継続は、金沢大学が地域において担う大きな役割ではないかと考える。平成20年度に出される学習指導要領にも「伝統文化の授業」が盛り込まれており、金沢大学が率先して県や市と連携して県内のふるさと教育に貢献していくことが大切ではないだろうか。

6. 4. 3 平成20－21年度事業報告

平成20年度・21年度とも「定期コース（春・夏・秋・冬コース）や「特別コース」「子ども体験塾」「いしかわの地酒学入門」「いしかわ金沢学を通じた文化の継承事業である『いしかわ金沢学』指導者養成プログラム」などに取り組んだ。

平成20年度

<定期コース>

○夏コース 日時：平成20年7月12日（土）～13日（日）

場所：石川四高記念文化交流館、松声庵、東茶屋街、キゴ山ふれあいの里研修館

参加人数：約50名

内容：加賀百万石を築いた前田家の藩政についての講義と、体験を通して伝統的な衣食住を学ぶ一泊二日の体験プログラム。ゆかた着用で昔の風情が残る町並みを散策し、二日目には地元野菜で地域のブランド野菜の調理を行う。

1. 講義「加賀百万石の藩政」講師：中野 節子（金沢大学 教授）
「百万石を現在の価値に換算すると」「金沢に寺院郡が多くある理由」「金沢の昔のメインストリートは」など当時の豊かな金沢や今も残る町並みについて当時の地図を見ながら受講。
2. ゆかたの着付け体験 講師：寺井 淑子（装道きもの学院 講師）
着物の基本的な形について講義を受けた後、実際にゆかたを着て、着物での身のこなしの指導。
3. 東茶屋街の散策 指導：観光ボランティアガイド「まいどさん」
雪国ならではの造りや当時の人の知恵が詰まった東茶屋街の建物を見学すると同時に、ゆかたで歩くことの大変さの実感。
4. 加賀野菜を使った料理実習 講師：石野 典子（料理研究家）
15品目が認定されている加賀野菜のうち、加賀太きゅうり、打木赤皮甘栗かぼちゃ、加賀つるまめを使った郷土料理を作り、輪島塗のお膳に盛って地域を味わう。

○秋コース 日時：平成 20 年 11 月 4 日（火）

場所：講師の鍛刀場 講師：松田 恒治（刀工） 参加人数：約 10 名

内容：焼入れという熱処理を行うことによって複雑な組織変化をおこし、より強い鉄にする日本の伝統的な製鉄技術を学ぶ体験学習。県内で唯一の現役刀工、松田恒治氏の指導の下、希少価値の高い和鉄に文字を刻み、刃紋をつける。

○冬コース 日時：平成 20 年 12 月 13 日（土）～14 日（日）

場所：石川四高記念文化交流館 参加人数：約 20 名

内容：日本の伝統文化に大きな影響を与えた神道と仏教について学び、お正月や結婚などの慶事には欠かせない水引を体験する。日本独自の宗教観を学び、直線の水引を様々な形に編み上げる加賀水引細工の細やかさを感じ取る。

1. 講義「大乘寺の歴史」講師：清水 邦彦（金沢大学 准教授）

曹洞宗の特徴や大乘寺が金沢に建てられた経緯などについて講義を受け、午後からの大乘寺拝観の予習をした。難しい内容にもかかわらず多くの質問が飛び出し、活気のある講義となった。

2. 前田利家とお松の方を祭る尾山神社

金沢城の金谷御殿を移築した拝殿で正式参拝の方法を学ぶ。

3. 大乘寺で座禅体験

午前中に学んだ大乘寺を訪れ、15 分 2 回の座禅体験。「寒い」「足が痛い」と修行の辛さを実感しながらも「心がすっきりした」「もっと長い座禅に挑戦したい」など意欲的な感想が聞かれた。

4. 加賀水引細工で香玉巾着づくり 講師：長田 公美子（水引作家）

水引の結び方の意味や結納飾りの地域性について、講師の作品を見ながら講義を受け、もっとも基本となるあわじ結びでお香玉巾着を制作。色の選択にはお国柄が影響しているなど参加者らの個性あふれる作品を通しての交流。

○特別コース

日時：平成 21 年 2 月 14 日（土） 場所：金沢大学 地域連携推進センター

講師：前古 孝人（沈金師） 参加人数：約 25 名

内容：日本一高級といわれる輪島塗に輪島塗特有の装飾技法「沈金」を施す体験プログラム。バレンタインデーにちなんで夫婦箸を作成。

○「いしかわ金沢学」子ども体験塾～子どもゆめ基金助成事業～

日時：平成 20 年 8 月 25 日（金） 場所：金沢大学 角間の里、角間ゲストハウス

参加人数：約 45 名

内容：県内の小学生を対象とした伝統文化体験講座。参加者は 3 コースに別れ、コー

ス毎の体験を講師や日本人学生、留学生に教わり、交流を深めた。

工芸コース

金沢が全国シェア 98%を誇る金箔を使って、ボックスにオリジナルのデザインで装飾を施し、輪島塗特有の装飾技法「沈金」で輪島塗パネルを仕上げる。

参加者らは 1/10000 という薄さの金箔や、思うように彫れないのみに苦戦しながらも、最後まで真剣に取り組んだ。

芸能コース

加賀宝生流講師の指導の下、能楽器や能面に触れた後、箏と三弦に分かれて「さくらさくら」を合奏。普段観る機会が少なく、敷居が高いと感じる「能」も実際に観て触れることで関心は高まり、邦楽では一曲仕上げたという達成感で講座を終えた。

文化コース

茶道の作法について楽しく学び、折り紙などを取り入れた生け花で日本的な美意識を身につける。正座に慣れていない子どもたちは、足がしびれながらも和菓子の季節感と抹茶の渋みを楽しみ、また自由な発想で花を生けた。

○金澤夕ぐれ祭り 2008

日時：平成 20 年 7 月 25 日（金）～ 26 日（土） 場所：石川県中央公園

参加人数：約 80 人

内容：昨年度の加賀友禅の「いしかわ金沢学」指導者養成プログラムを修了した大学生らが、顔料を用いた、短時間での仕上げができる簡易の友禅体験を「金澤夕ぐれ祭り」でブース出展した。参加した市民や観光客らは染色の難しさを実感するとともに、夏らしいデザインの染色を楽しんだ。

○子どもの生活リズム向上 全国フォーラム in いしかわ

日時：平成 20 年 9 月 15 日（月・祝） 場所：いしかわ総合スポーツセンター

参加人数：約 200 人

内容：金沢大学の学生が金箔で装飾する絵葉書づくりの体験ブースを出展し、子どもたちが身近にありながら普段なかなか体験できない伝統文化に触れる機会を提供した。当日は敬老の日であり、参加した子どもたちは完成した絵葉書に祖父母に向けたメッセージを書き持ち帰る姿が見られた。

○いしかわの地酒学入門～いしかわシティカレッジ開講科目～

日時：平成 20 年 10 月 4 日（土）～ 平成 21 年 1 月 31 日（土）

場所：いしかわシティカレッジ 共催：石川県酒造組合連合会 約 70 名の参加者

内容：県内の高等教育機関で学ぶ日本人学生や留学生、社会人を対象に、石川県の地

酒と酒づくりの背景となる自然・環境・歴史・文化などについて多角的に検討・考察。さらに、1月の酒造りの最盛期には複数の酒蔵を見学し、それらを比較検討することで理解を深めた。以下に講義内容を記す。

講義内容

オリエンテーション (金沢大学 教授 留学生センター長 北浦 勝)

醸造発酵と酒の製法, 種類 (石川県立大学 教授 矢野 俊博)

酒類の消費動向と商品開発 ((財) 地域振興研究所 主任研究員 谷本 互)

江戸時代の古文書に書かれた酒 (石川金沢学院大学 教授 陶 智子)

日本酒と料理 (酒房猩猩店主 川原 明弘)

日本酒と税 (金沢国税局課税部酒税課 課長 大塩 俊明)

利き酒の実習 (金沢大学 教授 岡澤 孝雄)

酒蔵見学 見学先酒蔵: 鳥屋酒造, 御祖酒造, 中村酒造, 吉田酒造店, 日吉酒造店, 数馬酒造, 福光屋, やちや酒造, 久世酒造店, 菊姫, 橋本酒造, 宮本酒蔵店, 小堀酒造店, 金谷酒造店, 宗玄酒造, 白藤酒造店, 櫻田酒造, 松波酒造 引率は, 留学生センターの全教員
レポート提出等 (金沢大学 教授 岡澤 孝雄, 八重澤 美知子)

○「いしかわ金沢学」を通じた文化の継承事業 「文化芸術のまち支援事業」

「いしかわ金沢学」指導者育成プログラム, 子ども体験塾(上級編)

内容: 初等教育現場において「伝統文化に関する教育の充実」が図られており, その際に必要とされる講師アシスタント育成を目的とした講座を開講した。

子どもたちを指導するための知識と技術を習得した修了生は, 子どもたちの「ふるさと教育」を目的とした子ども体験塾(上級編)で指導経験を積んだ後, 県内教育機関での卒業制作やイベントなどに体験指導スタッフとして参加する。

実施期間: 平成20年6月~平成21年1月

茶道

講師: 松井 宗貴(裏千家茶道家) 場所: 耕雲庵, 松向庵, 松声庵

内容: 盆略手前から風炉手前まで一つ一つの所作の意味についても詳しく学ぶ。

参加人数: 講師補助6人, 子ども10人

金箔

講師: 安江 一(箔師), 松川 裕子((株)今井金箔 社員)

場所: 金沢市立安江金箔工芸館, (株)今井金箔

内容: 金箔の工程について学び, 石やクリスマスカードなど様々なものに金箔で装飾。

参加人数：6人，子ども10人

加賀宝生

講師：藪 俊彦（宝生流 能楽師） 場所：金沢大学，石川県立能楽堂

内容：舞や鼓を見て触れて体験する能楽の稽古を積み，発表会として能楽師が立つ本格舞台で能を舞う。

加賀友禅

講師：下村 利明（加賀友禅作家） 場所：（株）アート染華

内容：着物を知ることから始め，下絵，糊おき，彩色など「蒸し」以外のすべての工程を体験する。さらに染め上がった作品はガラス絵皿にする。

輪島塗

講師：前古 孝人 場所：金沢大学

内容：輪島塗の工房や資料館を見学したあと，のみで彫り，金粉で装飾する輪島塗特有の装飾技法「沈金」を体験する。

九谷焼

講師：佐久間 忍（能美市九谷焼陶芸館 技術主任） 場所：能美市九谷焼陶芸館

内容：土づくりから成形，彩色まですべての工程を体験し，古九谷の模写を作成。

○第2回いしかわ金沢学シンポジウム 「文化芸術のまち支援事業」

地域を学ぶ，地域で学ぶ，地域から学ぶ～金沢の金～

日時：平成21年2月21日（土） 場所：KKRホテル金沢 鳳凰の間

内容：今も金沢の地に息づく加賀百万石文化。その伝統芸能や伝統工芸を目的に多くの観光客が集まる一方で，それらの業界では生活スタイルの変化による需要の伸び悩みや後継者不足など重要な課題を抱えている。様々な伝統文化に用いられる「金」をキーワードに教育面，産業面から文化の継承と発展に対して何ができるのかを考察した。

コーディネーター：岡澤 孝雄（金沢大学 教授）・八重澤 美知子（金沢大学 教授）

基調講演： 陶 智子（金沢学院大学 教授）

パネリスト：浅野 邦子（株式会社 箔一 代表取締役社長）

岡 能久（株式会社 能作 代表取締役社長）

表 純一（石川県立輪島高等学校 学校長）

平成 20 年度の課題と成果

昨年に引き続き実施したアシスタント養成講座の充実を図ったことにより、受講生の習得した伝統文化に関する知識や技能は向上した。これによって、アシスタント養成講座修了生が講師補助として参加したその他のコースや子どもを対象とした講座でよりきめ細かい指導が可能となり、参加者からは高い評価を得られた。今後アシスタント養成講座修了生は市内小学校などで行われる体験学習において講師補助としての活躍が期待できる。

また、小学生や留学生など幅広い層を対象とした加賀友禅に関する教材コンテンツを作成した。来年度はこの教材を定期コース等で活用する他、市の教育委員会と協力し、市内小中学校でのふるさと教育に活用する。

これまで、いしかわ金沢学では留学生や日本人学生、一般の方々を対象に伝統文化体験学習プログラムを実施してきたが、平成 22 年度からは教育学部で「いしかわ金沢学」を開講することが決まっており、将来、「ふるさと教育」の充実に寄与できる人材の育成に向けて準備を進める。

平成 21 年度

定期コース（春・夏・秋・冬コース）や特別コース、子ども体験塾、いしかわの地酒学入門、アシスタント養成プログラムは、平成 20 年と同様である。今年度新たに加わったのが、地域のお祭りである「金沢百万石祭り」への参加である（「百万石」踊り流し）。第 58 回金沢百万石祭りでは約 1 万人の市民が参加する踊り流しが 6 月 6 日に開催され、留学生を中心に約 30 名の本学の学生たちが踊りの輪に加わり、踊りを盛り上げた。その結果は、準優勝に当る「いいね金沢賞」の獲得にあらわれている。

また、金沢大学創基 150 年記念「講演会・シンポジウム」シリーズと共催した「いしかわ金沢学」シンポジウムは、平成 22 年 3 月 7 日、金沢 21 世紀美術館シアター 21 で行われ、およそ 70 名の参加者があった。シンポジウムのテーマと内容は、下記の通りである。

「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域から学ぶ～新しい時代に伝統を活かす～」

金沢らしい伝統文化の継承と発展を目的とした「いしかわ金沢学」シンポジウムを開催した。中村信一学長による開会のあいさつで幕を開けた本シンポジウムは、基調講演に金沢 21 世紀美術館の秋元雄史館長を迎え、その開館から成長し続ける美術館についての講演があった。「伝統が息づくまち、金沢」というバックグラウンドがあるからこそ輝ける金沢 21 世紀美術館であり、現代美術を模索し深める場としての 21 世紀美術館の役割を話された。パネルディスカッションでは、若手陶工の稲積佳谷氏が、ボーダレス化する焼き物と伝統文化とをコラボレーションさせながら作陶する取り組みを、また、金沢アートグミの上田陽子氏は、アートを切り口に人やまちを繋ぐ活動実績を紹介した上で、文化の継承と発展はそれ

ぞれの理想のぶつけあいや交差から始まると述べた。附属図書館長の柴田正良教授は、情報化が進む現代では図書館の必要性が危ぶまれているが、知の集積を担う図書館は利用者に創造的な空間を提供し、地域の最新の情報を維持し世界に展開していくことが使命だと語った。

多様な分野で活躍するパネリストが、地域住民とのつながりを大切にし、地域からの刺激を受けて新たな活動を展開する姿を見ることができたこのシンポジウムは、金沢の文化的発展の可能性を考えさせるものとなった。

6. 4. 4 まとめに代えて —— 「いしかわ金沢学」の最近の5年間

- (1) いしかわ金沢学について 平成14年度から開始された文部科学省地域貢献特別支援事業である「『金沢学』への招待」を企画・実施して以来、3年間に亘り「金沢学」を実施した。これを基礎として平成17年度からは「地域活性化プロジェクト」事業の一つとして、「いしかわ金沢学」と名称を変え、5年の間取り組んできた。なお、「いしかわ金沢学」の企画の意図や定義、またその特徴には、平成14年度開始時点と同様である。
- (2) いしかわ金沢学プログラムの構成 プログラムは「講義」部分と「体験学習」部分の二つに大別される。また、定期的に実施する「夏コース」「秋コース」「冬コース」に加え、「特別コース」や地域の子どもたちを対象とした「金沢学こども体験塾」を実施し、総合的に地域に根ざした文化体験を構築している。参加者は、本学の留学生をはじめ、ひろく県内の留学生と日本人学生、さらに地域住民の方々であり、「いしかわ金沢学」を媒介として積極的、自発的な国際教育交流の機会を提供している。
- (3) 各年度の特徴（「定期コース」・「特別コース」を除く新規活動の概要のみ）

平成17年度 金箔と加賀友禅の实地調査実習に重点を置くとともに、能楽が盛んな地域的特性を活かして、高度な体験学習（ワークショップ）を行った。

平成18年度 「いしかわ金沢学」を正規科目とした。また、県内の団体からの共催の申し込みを受けた。それは「日本武道体験コース」と現在も継続中の大学コンソーシアム石川の単位互換授業である「いしかわの地酒学入門」である。いずれも、留学生センターが実施する「いしかわ金沢学」が広く地域に浸透した成果である。

平成19年度 文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業にも採択され、いしかわ文化芸術のアシスタント養成講座（大学生対象）を新設すると共に、伝統文化を継承する専門家によるシンポジウムを開催した（平成19年度～21年度）。

平成 20 年度 加賀友禪の教材コンテンツの作成（2 カ国語）や新規領域（日本刀の制作）を開拓した。また、石川県が実施する全国フォーラムにも参加した。

平成 21 年度 「いしかわ金沢学」の内容・参加者ともに拡大・充実し、翌年度教育学類で開講する授業を通して、「ふるさと教育」に貢献できる人材育成の準備を進める。

6. 5 JICA（（独）国際協力機構）日系研修員受入事業

留学生センターでは、JICA 日系研修員受入れ事業（<http://www.jica.go.jp/join/group/nikkei.html>）を平成 17 年度から実施している。平成 18 年度からは事業が受入れ機関による提案制になったが、留学生センター提案のものは連続して採択されており、以下のとおり毎年ブラジルから 1 名ずつの研修員を受入れてきた。

本研修事業では、「スペイン語またはポルトガル語を母語とする学習者に対する継承日本語教育個別テーマ研究」という統一テーマの下、太田教員が中南米からの日系研修員を受入れる。研修員候補者は事前に太田教員から研究課題についてメールで指導を受け、約 2 ヶ月半～3 ヶ月の期間に一定の成果をあげることが可能と判断された課題が受諾される仕組みになっている。

・個別・短期受入れ（平成 17 年度：2005 年 5 月 16 日～8 月 5 日）

研修員	派遣元	所属機関	研究課題
栗原章子	ブラジル・サンパウロ	日伯文化連盟	ブラジル人日本語学習者における動詞用法に関する考察

・「スペイン語またはポルトガル語を母語とする学習者に対する継承日本語教育個別テーマ研究」（個別・短期）

平成 18 年度（2006 年 10 月 16 日～12 月 20 日）

研修員	派遣元	所属機関	研究課題
小本ラウラ光子	ブラジル・クリチバ	パラナ連邦大学	ブラジルの日本語教育における格助詞使用に媒介語としてのポルトガル語使用の有効性検証を行うためのテスト作成

平成 19 年度（2007 年 5 月 14 日～7 月 31 日）

研修員	派遣元	所属機関	研究課題
石田洋子	ブラジル・サンパウロ	日伯文化連盟	名詞文の特徴と分類

平成 20 年度（2008 年 5 月 16 日～ 7 月 28 日）

研修員	派遣元	所属機関	研究課題
宮崎マルシアなおみ	ブラジル・サンパウロ	日伯文化連盟	日本語の終助詞「ね」と「よ」の 分析と実例収集

平成 21 年度（2009 年 5 月 15 日～ 7 月 30 日）

研修員	派遣元	所属機関	研究課題
細川ナイル幸江	ブラジル・クリチバ	パラナ連邦大学	ブラジルの日本語教育における 日本語慣用句の研究

7. 講演・討論会・その他の活動

7. 1 講演・討論会

7. 1. 1 日研究生教育改善研究会

開催日：2003年3月4日

開催場所：金沢大学総合教育棟2階大会議室

参加者：細川英雄（早稲田大学），浮葉正親（名古屋大学），森真理子（京都大学），
岸田泰浩（大阪外国語大学），五之治昌比呂（大阪外国語大学），奥村訓代
（高知大学），岡沢孝雄（金沢大学），ルチラ パリハワダナ（金沢大学）

検討課題：1. 「日本人学生との合同授業の可能性」
2. 「日研究生教育の課題」

7. 1. 2 研究会「日本語教育における日・中・韓対照研究の役割—文法研究の立場から—」

開催日時：2004年3月13日（土）10:00～15:00

開催場所：金沢大学総合教育棟2F大会議室

対象者：金沢大学教員，非常勤講師，学生

趣 旨：日本語，中国語，韓国語の文法中に観察される共通の事項ならびに異なる事項
の両者について学び，また，その重要性を認識することにより，日本語教育へ
の見識を深める。

講 師：井上優（国立国語研究所）

参加人数：20名

7. 2 遠隔教育

日本本学学生の異文化理解教育の一環として，遠隔ビデオ会議システムを利用した異文化
ディスカッションを，海外協定校との間で，2001年より毎年数回，行っている。1回のディ
スカッションの時間は1時間から1.5時間である。本学の日本人学生数人と少数の留学生，
相手方は協定校の外国人学生数人が参加し，日本語でディスカッションを行う。実施者は，
三浦香苗と太田亨である。2008年度からは深川美帆非常勤講師も加わった。相手側は，主
として米国協定校の William and Mary 大学の日本語専攻の学生であるが，2005年には中国
協定校の北京師範大学，2009年はタイ王国のチェンマイ大学とも各1回の試験的ビデオ会
議ディスカッションを実施した。

なお，2008年の3回のディスカッション（14, 15, 16回）は，科学研究費補助金を得て，

遠隔と対面ディスカッションの異同を検証するために行ったものである。(基盤研究(C)「遠隔ディスカッションの有用性に関する実践的研究」平成 19～20 年度科学研究費補助金, 研究課題番号 19520450)

表 金沢大学と海外協定校とのビデオ会議によるディスカッション履歴

回	年月日	ディスカッションのテーマ	参加者数 金大／相手	使用機器・ アプリケーション*
1	2001.3.17	日本人は曖昧か返事のしかた, 謝り方	6 名 / 5 名 W& M 大学	①
2	2002.2.22	日本人は曖昧か返事のしかた, 謝り方	4 名 / 2 名 W& M 大学	①
3	2004.2.25	学歴社会, ブランド志向, 階層	7 名 / 4 名 W& M 大学	②
4	2004.3.25	男らしさ, 女らしさ謝り方	5 名 / 3 名 W& M 大学	②
5	2005.2.10	職業観	5 名 / 5 名 W& M 大学	②
6	2005.2.24	職業観 (続き) 結婚・恋愛	5 名 / 4 名 W& M 大学	②
7	2005.6.17	若者の結婚観	7 名 / 8 名 北京師範大学	③
8	2006.2.02	人を判断する基準, 職業	5 名 / 6 名 W& M 大学	②
9	2006.2.23	恋愛・結婚の条件	6 名 / 6 名 W& M 大学	②
10	2006.3.30	家族観: 父母の役割少子化への対応	2 名 / 5 名 W& M 大学	②
11	2006.4.27	家族観: 家族構成	4 名 / 6 名 W& M 大学	②
12	2007.3.30	地球温暖化問題: ツバル	4 名 / 8 名 W& M 大学	②
13	2007.4.20	地球温暖化問題: 市・大学・個人のゴミの取り扱い方	4 名 / 8 名 W& M 大学	②
14	2008.2.7	謝り方の違い	12 名 / 11 名 W& M 大学	②
15	2008.2.26	Conflict の解決方法の違い	7 名 / 10 名 W& M 大学	②
16	2008.3.11	Non-verbal communication の違い	6 名 / 10 名 W& M 大学	②
17	2010.2.1	友達関係	5 名 / 8 名 W& M 大学	④
18	2010.2.8	友達関係	4 名 / 5 名 チェンマイ大学	④

* 使用機器・アプリケーション (金大／相手)

① Microsoft NetMeeting® / 同 ② Sony PCS-1 / Polycom VS4000

③ Sony PCS-1 / 同 ④ AV-CON

7. 3 ホームビジット

ホームビジット

実施年月日	参加人数	寄宿先	実施内容
2003 年 5 月 17 日～18 日 (1 泊 2 日)	21	小松市, 加賀市, 根上町	那谷寺見学, 茶道体験, お旅祭り参加 (曳山体験), ホームビジット

7. 4 スキー講習会・交流事業

平成 14 年度金沢大学スキー講習会・交流事業

2003 年 2 月 14 日～15 日

石川県石川郡尾口村, 東二口歴史民俗資料館にて重要無形民俗文化財「文弥人形浄瑠璃」
観賞と交流

スキー講習 尾口村白山一里野温泉スキー場
参加留学生 47 人 日本人学生 5 人

平成 15 年度金沢大学スキー講習会・交流事業

2004 年 2 月 19 日～20 日

石川県石川郡尾口村, 東二口歴史民俗資料館にて重要無形民俗文化財「文弥人形浄瑠璃」
観賞と交流

スキー講習 尾口村白山一里野温泉スキー場
参加留学生 52 人 日本人学生 5 人

平成 16 年度金沢大学スキー講習会・交流事業

2005 年 2 月 21 日～22 日

石川県石川郡尾口村, 東二口歴史民俗資料館にて重要無形民俗文化財「文弥人形浄瑠璃」
観賞と交流

スキー講習 尾口村白山一里野温泉スキー場
参加留学生 69 人 日本人学生 3 人

平成 17 年度金沢大学スキー講習会

2006 年 2 月 14 日

富山県南砺市, イオックスアローザ スキー場
参加留学生 75 人 日本人学生 3 人

平成 18 年度金沢大学スキー講習会

2007 年 2 月 13 日

富山県南砺市, イオックスアローザ スキー場

参加留学生 69 人 日本人学生 3 人

平成 19 年度金沢大学スキー講習会

2008 年 2 月 13 日

白山一里野温泉スキー場

参加留学生 67 人 日本人学生 4 人

平成 20 年度金沢大学スキー講習会

2009 年 2 月 13 日

白山一里野温泉スキー場

参加留学生 68 人 日本人学生 1 人

平成 21 年度金沢大学スキー講習会

2007 年 2 月 12 日

白山一里野温泉スキー場

参加留学生 75 人 日本人学生 2 人

7. 5 茶器・書道展

金沢大学短期留学プログラムで学んでいる留学生が「日本文化体験Ⅰ」授業の中で陶芸家大樋年雄氏の指導の下に茶器を作り、制作した作品の展覧会を石川国際交流サロンを会場として平成 15 年に初めて開催した。また、金沢大学の留学生は、課外活動の一環として学内で問谷元子氏、中村香林先生指導の下、書道を習ってきた。平成 16 年度より同じ会場で茶器、書道の合同展となった。

7. 5. 1 大樋年雄氏指導・金沢大学留学生制作の茶器展

場所：石川国際交流サロン

期日：平成 15 年 3 月 8 日～16 日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

Sofi Andriani (バンドン工科大学), Suwansing Phakorn (キングモンクット工科大学), Ittiravivongs Achapan (チュラロンコン大学), Marathe Smita Madhav (プネー大学), Kim Ji Man (東亜大学), Jeon Sung Kyung (釜山国立大学), Jin Eun Kyoung (釜山国立大学), Shin Sang Hoon (湖西大学), Lim

Young Jae (湖西大学), Vo Anh Tuan (タフツ大学), Hovey Jacqueline G. (ニューヨーク州立大学バッファロー校), Chen Pei Chun (ニューヨーク州立大学ニューボルト校), Perricone Nathaniel Gregory (ニューヨーク州立大学ニューボルト校), Harris Melanie Maria (オーストラリア国立大学), Farinian Yerann Teral (南オーストラリア大学), Smyth Caoimhe Maria (ダブリンシティ大学), Kajava Juha Tuomas (ユバスキュラ大学), Bauer Eva Anemone (レーゲンスブルク大学), Rademacher Christoph Walther (ジューゲン大学), Mueller Sabine Desiree (ジューゲン大学), Mitsova Lubica (スロバキア工科大学)

7. 5. 2 大樋年雄氏指導・金沢大学留学生制作の茶器展

期間：平成16年6月23日～7月3日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

徐 艶梅(中国), 王 南希(中国), Kwak Bom Sae (韓国), Park Jeong Ha (韓国), Kim Young-Soo (韓国), Narissara Chalermchaichan (タイ), Weerasamorn Boonsompopphan (タイ), Penny Rappa (米国), Matthew David Shufelt (米国), Kenneth R. Giese (米国), Richard D. Windmuller (米国), Timothy Stephen Ayling (オーストラリア), Esa Kristian Kaihlanen (フィンランド), Rainer Koreasalo (フィンランド), Christian Huttner (ドイツ), Joseph Meenan (アイルランド), Kovac Michal (スロバキア), Simon Protic (イギリス), Deshpande Vibhavari Arvind (インド)

7. 5. 3 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会

期間：平成17年6月8日から6月19日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

方 冠 琪(中国), 姚 紅(中国), 湯 磊(中国), Amruta Dnyaneshwar Naik (インド), Kim So Lyong (韓国), Kang Sung Hwa (韓国), Kim Soon-Shin, (韓国), Chommai Jatuchatra (タイ), Pechsuttitanasan Natee (タイ), Michael David Berman (米国), Stephanie Shoree Simpson-White (米国), Elisha Sherriece Hazel (米国), Tracie Saori Takatani (米国), Michael Charles Alexander (オーストラリア), Toni Markus Tourunen (フィンランド), Pirjo Riikka Jokinen (フィンランド), Aku Kalervo Riihela (フィンランド), Hadrian Heil (フランス), Ophelie Flore Periquet (フランス), Stefan Ahlers (ドイツ), Tobias Popperl (ドイツ), Elizabeth Ida Cope (アイルランド), Zdenka Masarova (スロバキア), Zou Xiaohua (中国), Said Roustamovich Latypov (ロシア)

書道出展者

7. 5. 4 金沢大学留学生制作の茶器・書道展

期日：平成 18 年 6 月 20 日～7 月 2 日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

喻 蓓（中国）、唐嘉澍（中国）、Lee Jae Ho（韓国）、Lee Sangjin（韓国）、Bae Young Peel（韓国）、Hur Jungeun（韓国）、Kim Soojung（韓国）、Luengtrairat Ploywarong（タイ）、Luengkanokwanich Auranong（タイ）、Amanda Louise French（アメリカ）、Kasey Mae Doran（アメリカ）、Kelly Ann Long（アメリカ）、Stephanie Ellen Hillman（オーストラリア）、Terho Jaakko Reuhkala（フィンランド）、Karna Tuomas Petteri（フィンランド）、Alexandre Francois Quentin（フランス）、Siren Nina Figgemeier（ドイツ）、Demirtas Yildiz Gilda（ドイツ）、Demirtas Yildiz Gilda（ドイツ）、Roman Jorg Mayer（ドイツ）、Michael Edenharter（ドイツ）、Brian William Stapleton（アイルランド）、Michal Brusil（スロバキア）、Yawen Fiona Zhang（イギリス）、Christopher Richard Kelly（イギリス）

書道出展者

森下実砂雄（ブラジル）、クレア ハズレット（オーストラリア）、シルビア クハルスカ（ポーランド）、セーツー チン ターポン（タイ）、ジルダ デミリタッシュ（ドイツ）、アレックス ベルトハイム（ドイツ）、張 善美（韓国）、李政殷（韓国）、チャワーブン チャイシー（タイ）、オラノン ルーアンカノックワニット（タイ）

7. 5. 5 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会

期間：平成 19 年 6 月 26 日～7 月 1 日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

何 莉（中国）、Lee Eunji（韓国）、Moon Hye-Kyoooung（韓国）、Hwang Jae Eun（韓国）、Jung Seok Keun（韓国）、Kim Young Hoon（韓国）、Leelavoravongse Chavakorn（タイ）、Rattanapan Tashatorn（タイ）、Kamsoi Orathai（タイ）、黄僅容（台湾）、Orgel Mark Alan（米国）、Huouston Michael Anthony（米国）、Vandecasteele Todd Anthony（米国）、Johnson Nicole Michele（米国）、Townes Ashley Raquel（米国）、Foster Christine Ann（米国）、Nokelainen Ruusu Ullrikka（フィンランド）、Yoshida Tomi Tetsuya（フィンランド）、Rademacher David Benjamin（ドイツ）、Giessner Christian Gerd（ドイツ）、

Hofmann Sabine (ドイツ), Brown Mark Anderw (イギリス), Frenchman Benjamin James (イギリス), Cook Amelia Imelda (イギリス)

書道出展者

ファン ジェウン (韓国), ノケライネン ルース (フィンランド), ナイル マックナマーラ (アイルランド), イエルマ アロンソ (スペイン), オルガ ボイトチャック (ポーランド), ジャビクバエフ アセット (カザフスタン), ロッビ ウイドド (インドネシア), 朱 淳敏 (中国), 陸 芸娜 (中国), サンホセ マリア フリエタ セシリア (フィリピン), プシマキン バジム (ロシア), プラートワ ターニャ (ロシア), マシニナ アナスタシア (ロシア)

7. 5. 6 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会

期間：平成 20 年 6 月 26 日～7 月 1 日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

李 淑堯 (中国), 王 涵秀 (中国), 董 姍姍 (中国), Lee Myung Hoon (韓国), Kim Areum (韓国), LEE Areum (韓国), Park Gyujin (韓国), Hwang Sang Gu (韓国), Park Chunkeum (韓国), Preeyachot Chanon (タイ), Salakij Rasa (タイ), Na Chiangmai Siriluk (タイ), Waikar Niyati Vanawali (インド), Ring Catherine Margaret Eleanor (オーストラリア), Knox David Michael (米国), Saint Cyr Gabriel Joseph (米国), Miller Matthew Royce (米国), Ludsteck Martina Elisabeth (ドイツ), Hauschild Paul (ドイツ), Reznickova Adela (チェコ), Partanen Joonas Hermann (フィンランド), Pajot Morgane Joelle (フランス), Spens Victoria Peine Marie (フランス), Leather Jason (イギリス), Yip King Sun (イギリス)

書道出展者

セントセイヤ ガブリエル (米国), 齊 飛 (中国), 晏 長根 (中国), 龔 翊 (中国), 李 玉武 (中国), 朱 淳敏 (中国), 崔 允漆 (韓国), 李 周娟 (韓国), ラサー サーラーキット (タイ), ナッティニー (タイ), ワイカル ニヤティ バナマ (インド), プシマキン バジム (ロシア), マシニナ アナスタシア (ロシア), プガチョワ オリガ (ロシア), ベック スケイン (オーストラリア), グレニ イエンジェイ (ポーランド)

7. 5. 7 金沢大学留学生制作の茶器・書道展と茶会

期間：平成 21 年 6 月 30 日～7 月 5 日

場所：石川国際交流サロン

茶器出展者

何 文 静 (中国), 何 文 超 (中国), 黄 美 容 (中国), 韓 冰 (中国), Madhura Sham Kulkarni (インド), Park Chang-Seok (韓国), Yeom Dong-Seok (韓国), Han Sung-Kap (韓国), 邱 亭 綺 (台湾), 蔡 文 萱 (台湾), 張 芸 懷 (台湾), Suvithyasiri Chanokruedee (タイ), Lapayaporn Natthawut (タイ), Paonil Prawwaree (タイ), Patrick Sungha Lee (アメリカ), Nathan Robert Paine (アメリカ), Whitnee Marie Walker-Giles (アメリカ), Melanie Suzanne Carey (アメリカ), Kymberley Barrington-Knight (オーストラリア), Maija Annika Oksanen (フィンランド), Petteri Johannes Laasanen (フィンランド), Rajaa Doudou (フランス), Wolfgang Albert Maximilian Berger (ドイツ), Dominic Marx (ドイツ), Richard Stueck (ドイツ), Richard Tzu Kwan Ng (アイルランド), Daniel James Murray (アイルランド), Ryan Lee Mcelhone (イギリス), Liana Spodniakova (スロバキア), Alexander Richard Dixon Phillips (イギリス)

書道出展者

張 真 (中国), 何 文 静 (中国), Dorjpurev Unursaikhan (モンゴル), Ryenchin Natsagbayar (モンゴル), Siwaunchaleekul Watcharapol (タイ), メガナ ジャドハヴパチル (インド), Liana Spodniakova (スロバキア), Doudou Rajaa (フランス), Doudou Aziza (フランス), Walker-giles Whitnee (アメリカ), Pyko Ilya (ベラルーシ), マシニナ アナスタシア (ロシア), ブシマキン バジム (ロシア), Wolfgang Berger (ドイツ), Annika Oksanen (フィンランド)

7. 6 広報活動

7. 6. 1 留学フェア

留学生センターは、JASSO（日本学生支援機構）主催の日本留学フェアと国内進学説明会、日韓プログラム留学推進フェア、及びアジア人財資金構想による大学院自然科学研究科・高度専門留学生（技術・ビジネス）留学生特別コース（「アジア人財」と略す、4.1.8 参照）枠学生募集留学説明会に参加し、大学の広報活動及び留学生募集に寄与している。

表 7. 6 - 1 JASSO 日本留学フェア参加者一覧

年度	開催地	期 間	留学生センター参加者
2002 (平 14)	中国	H14.11	三浦教授
2003 (平 15)	ベトナム	H15.10	峯助教授
	タイ	H15.11	峯助教授
2004 (平 16)	インドネシア		テロ及び地震のため開催中止
2005 (平 17)	マレーシア	H.17.8	岡澤教授
2006 (平 18)	台湾	H.18.7	岡澤教授
2007 (平 19)	留学生センターからの参加なし		
2008 (平 20)	タイ	H.20.11	ルチラ准教授
2009 (平 21)	留学生センターからの参加なし		

表 7. 6 - 2 JASSO 国内進学説明会参加者一覧

年度	開催地	期間	留学生センター参加者
2003 (平 15)	東京	9 月 7 日	峯助教授
2004 (平 16)	東京	9 月 5 日	斉木准教授
2005 (平 17)	大阪	7 月 17 日	ビットマン准教授
2006 (平 18)	東京	7 月 2 日	北浦留学生センター長
2007 (平 19)	東京	7 月 1 日	ビットマン准教授

表 7. 6 - 3 日韓プログラム留学推進フェア参加者一覧

年度	開催地 (ソウル)	期間	留学生センター参加者
2003 (平 15)	慶熙大学校国際教育院	H.15.5.22	太田助教授
2004 (平 16)	〃	H.16.10.2	太田准教授
2005 (平 17)	国際教育振興院	H.17.9.21	太田准教授
2006 (平 18)	〃	H.18.9.11	北浦センター長, 太田准教授
2007 (平 19)	〃	H.19.9.1	太田准教授
2008 (平 20)	韓国国立国際教育院	H.20.8.30	太田准教授
2009 (平 21)	〃	H.21.9.6	太田教授

表 7. 6 - 4 アジア人財留学説明会参加一覧

年度	開催地	期間	留学生センター参加者
2007 (平 19)	ソウル, 天安, 大田, 釜山	H.19.9.2-7	太田准教授
	ソウル, 釜山	H.20.3.18-22	太田准教授
2008 (平 20)	ソウル, 天安, 釜山	H.20.9.23-27	太田准教授

7. 6. 2 ホームページ

平成 18 年 4 月から以下の 1) ～ 4) に掲げたような 4 言語版に移行した。

管理者は太田教員である。コンテンツ管理は総合教育棟内に設置されたサーバ上で行っており, 内容の更新が行われるたびにバックアップを取るようになっている。更新頻度は, 新規情報が入り次第適宜行っている。

1) 日本語版トップページ (<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp>)



金沢大学留学生センター

KANAZAWA UNIVERSITY INTERNATIONAL STUDENT CENTER

[Japanese](#)
[English](#)
[Chinese](#)
[Korean](#)

- センター概要
- 日本語研修コース
- 日本語・日本文化研修プログラム
- 総合日本語コース
- 金沢大学短期留学プログラム
- 日韓共同理工系学部留学生コース
- セメスター・プログラム
- 相談・指導
- 派遣留学
- 時間割
- 学年暦
- 刊行物
- Links
- サイトマップ







[時間割 >>](#)

[学年暦 >>](#)

[刊行物 >>](#)

新着情報 What's New

2010.10.26 『チューターマニュアル平成22(2010)年度版』の公開が始まりました！

2010.10.1 総合日本語コース「[パンフレット](#)」が更新されました！

2010.9.30 2010年度後期・「[学年暦](#)」と「[時間割](#)」が公開されました！

2010.10.1より 総合日本語コース・オンライン履修登録開始！（学内専用）

（注意：全員新規登録してください）

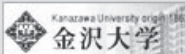
総合日本語コース 授業履修システム

INTEGRATED JAPANESE LANGUAGE PROGRAM, COURSE ENROLLMENT SYSTEM

[>>](#)



金沢大学 Kanazawa University



金沢大学 Kanazawa University



☐ WWW を検索
 ☒ isc.ge.kanazawa-u.ac.jp を検索

金沢大学留学生センター 〒920-1192 石川県金沢市角間町 Tel: 076-264-5188
E-mail: kuis@sqit.ge.kanazawa-u.ac.jp

2) 英語版トップページ (<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/kuisc.html>)



金沢大学留学生センター

KANAZAWA UNIVERSITY INTERNATIONAL STUDENT CENTER

[Japanese](#)
[English](#)
[Chinese](#)
[Korean](#)

- Center Outlines
- Intensive Japanese Language Program
- Japanese Language & Culture Program
- Integrated Japanese Language Program
- KUSEP
- J-K Joint Program for Science & Engineer
- Semester Program
- Consultation & Guidance
- Study Abroad Section
- Schedules
- Calendars
- Publications
- Links
- Site Map







[Schedules](#)
[時間割 >>](#)


[Calendars](#)
[学年歴 >>](#)


[Publications](#)
[刊行物 >>](#)

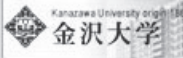
新着情報 What's New

October 1 2010 Integrated Japanese Language Program **Pamphlet** has been updated !

September 30 2010 Fall Semester 2010 - **Program Calendars** and **Program Schedules** are available for downloading !

From October 2010 Integrated Japanese Language Program - Online Course Enrollment System is starting !
 (accessible inside Univ LAN)
 (All the students are requested to register for this time)

総合日本語コース 授業履修システム
INTEGRATED JAPANESE LANGUAGE PROGRAM, COURSE ENROLLMENT SYSTEM
[>>](#)



☐ Search on WWW
 ☒ Search on isc.ge.kanazawa-u.ac.jp

Kanazawa University
 International Student Center

Kakuma-machi, Kanazawa City, Ishikawa Prefecture 920-1192 JAPAN
 Tel : +81-76-264-5188
 E-mail : kuisc@sqkit.ge.kanazawa-u.ac.jp

3) 中国語版トップページ (<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/ch/index.html>)



金沢大学留学生センター

金沢大学留学生中心

Japanese | English | Chinese | Korean

- 中心概要
- 日语研修课程
- 日语/日本文化研修计划
- 综合日语课程
- 金泽大学短期留学计划
- 日韩共同理工科本科留学生课程
- 半学期计划
- 咨询/指导
- 派遣留学
- 授课时间表
- 学年日历
- 刊行物
- 链接
- 网页构图










[時間割 >>](#)


[学年歴 >>](#)


[刊行物 >>](#)

新着情報 What's New

2010.10.1 综合日语课程 [宣传手册](#) 已更新！

2010年下半年学期「[行事历](#)」和「[课表](#)」已公开！

2010.10.1开始 综合日语课程的网上选课登录！
(校园网专用)

(注意:请大家重新登录)

[総合日本語コース 授業履修システム](#)
INTEGRATED JAPANESE LANGUAGE PROGRAM, COURSE ENROLLMENT SYSTEM




☐ WWW 検索
 ☒ isc.ge.kanazawa-u.ac.jp 検索

金沢大学留学生中心 920-1192 石川県金沢市角町 Tel: +81-76-264-5188
 E-mail: kuisc@sqit.ge.kanazawa-u.ac.jp

4) 韓国語版 トップページ (http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp /kr/index.html)


金沢大学留学生センター
가나자와 대학교 유학생센터

[Japanese](#)
[English](#)
[Chinese](#)
[Korean](#)

- 센터개요
- 일본어연수코스
- 일본어/일본문화 연수 프로그램
- 종합일본어코스
- 가나자와대학 단기유학 프로그램
- 한일공동 이공계학부 유학생코스
- 세미스터 프로그램
- 상담/지도
- 파견유학
- 시간표
- 일정표
- 간행물
- 링크집
- 사이트 맵











시간표
時間割 >>


일정표
学年歴 >>


간행물
刊行物 >>

新着情報 What's New 신학 정보

2010.10.1 종합일본어코스 **프플렛**이 갱신되었습니다!

2010년도 후기 **일정표** 와 **시간표** 공개되었습니다!

2010.10.1에서 종합일본어코스 - 온라인 이수 등록 시작!
 (학내 네트워크 전용)

(주의: 모든 학생은 신규등록해 주십시오)

総合日本語コース 授業履修システム
INTEGRATED JAPANESE LANGUAGE PROGRAM, COURSE ENROLLMENT SYSTEM

>>



☐ WWW 을검색 ☒ isc.ge.kanazawa-u.ac.jp 을검색

가나자와대학교 유학생센터 920-1192 이시카와현 가나자와시 카즈마시가 Tel : 076-264-5188
 E-mail : kuisc@sqkit.ge.kanazawa-u.ac.jp

7. 6. 3 留学生センターニュース

年 1 회, 留学生センターの年間活動を紹介している。詳細は 11.4 を参照のこと。

8. 施設と環境

8. 1 施設の現状

留学生センターには固有の建物・施設がない。現在のところ、事務組織は本部棟と総合教育棟に、教員の研究室は総合教育棟にある。また、留学生センターが提供している授業に関しては、総合教育棟、地域貢献推進センターの施設、体育館等を利用している。

留学生の居住施設としては、国際交流会館がある。鉄筋コンクリート5階建てで、住居室数は留学生用が68室、研究者等用が11室である。また、2010年4月、男子学生寮（北溟寮）内に国際交流会館別館を設置した。住居室数は留学生用が12室である。これらは、「金沢大学国際交流会館規程」（2004年4月1日施行、2010年4月1日改正）によって運営されている。現在は常時満室である。

8. 2 施設の将来計画

留学生センターの固有の建物を要求する財政状況にはないが、留学生数の増大に伴う日本語の授業や新プログラムの提供による授業が大幅に増加している状況から、今後は教室確保にかなりの困難が予想されるので、全学の施設計画に強く関与し、必要な場合は固有の建物の確保等の要求をする必要がある。

留学生の宿泊施設の新築計画は、2010年9月の経営評議会です承された。この施設は、日本人学生との混住型で、8名程度の学生が共同生活をする（LDK等が共用で寝室が個室）シェア・ハウス型になる予定である。第1期工事は100名規模の施設を予定しており、今後順次収容人数を拡大する予定である。この新たな混住型の宿泊施設において留学生と日本人学生の交流がさらに進展することが期待されている。

9. 管理運営

9. 1 管理運営組織

留学生センターの管理運営に関しては、センター長の下に留学生センター教員会議が、また事務組織として学生部内に学生部学務課留学生係が置かれている。センター教員会議は、1) センター教員の選考に関する事項、2) センターの予算及び概算要求に関する事項、3) センターの中期目標、中期計画及び年度計画の策定並びに中期目標に係る事業報告書の作成に関する事項、4) センターの教育課程の編成に関する事項、5) 外国人留学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項、6) 外国人留学生の入学、課程の修了その他留学生の在籍に関する事項、7) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項、8) 短期留学プログラムに関する事項（金沢大学国際委員会の所掌に係る事項を除く）、9) その他センターの教育又は研究に関する重要事項、を審議し、センターの管理運営にあたっている（規程第7条）。その際、教員会議に「財務」「広報及びセンターニュース」「紀要」「年報及び点検評価」「ネットワークおよび機器管理」の主担当と副担当を置き、実務を行っている。

9. 2 留学生部会

留学生センターの運営に直接関与するものではないが、学生の国際交流に関わる点で留学生センターとも関連の深い委員会として本学には留学生部会が設けられている。教育担当の副学長が部会長である。各研究科から選出された委員等の他、留学生センターからは留学生センター長が構成員となっている。なお、留学生センターの専任教員が関わっている短期留学プログラムの教育課程の編成その他教育に関する事項はこの部会で審議されている。

9. 3 留学生センター長の選出方法

センター長及びその選出方法については、「金沢大学留学生センター規程」及び「金沢大学留学生センター長、センター教員及び客員教授等選考規程」で規定されている。センター規程によれば、センター長については本学の専任教授をもって充て、その任期は2年であり（2.1.1.a も併せて参照）、再任を妨げないとされている。

また、選考規程では、センター長の選考については、学長が関係部局長にセンター長候補者の推薦を求め、推薦された候補者を参考とし、本学の教育研究評議会の議を経て選考するとされている。

9. 4 学内管理運営への参加状況

学内管理運営への参加としては、留学生センター長が基幹会議である教育企画会議及びその下部組織である留学生部会、さらには国際交流委員会や国際交流本部及びその下部組織であるタスクフォースの委員を務め、本学の国際化・留学生教育に関わる管理運営に参加している。また、センター専任教員も国際交流本部タスクフォースのメンバーとしてその経験と知見を生かして、本学の国際化の推進に貢献している。

9. 5 事務組織

留学生部会、留学生センター教員会議に関わる事務など、留学生及び国際学生交流に関わる事務は国際交流本部事務室と連携して、学生部学務課留学生係が行っている（2.1.2 も併せて参照）。

9. 6 自己点検評価の実施状況

自己点検評価は、前回 2002 年度に実施し（評価期間：1995 年 4 月～2002 年 9 月）、報告書を 2003 年 3 月に出した。今回の自己点検評価は、国立大学法人化後の第一期中期計画の期間を中心として行うものである。評価作業は、センター教員会議の下にワーキンググループを設置し、その指示のもと報告・評価分担者を決め、最終的にはセンター教員会議において確認作業を行った。また、事務担当者は必要な資料を収集した上、必要に応じて報告を行った。

10. 財政

10. 1 留学生センター予算

10. 1. 1 平成 14 年度（単位：千円）

科目・事項	予算額	執行計画
諸謝金	85	
附属施設経費	85	研究会等（予定）
非常勤職員手当	22,266	講師等経費 3,934 時間（5,660 / H）
職員旅費	820	教官研究等旅費 632 千円，附属施設経費 188 千円
教官研究等旅費	820	共通 センター長会議，留学生スキー実習引率， 実地見学引率等 個人研究費 $560,000 \text{ 円} \div 8 \text{ 人} = 70,000 \text{ 円}$
講師等旅費	776	附属施設経費 各種研究会等
校 費	10,941	配当額 庁費等 200 千円，教育研究基盤校費 3,503 千円， 附属施設経費 7,238 千円
教官研究費等	2,400	研究費 $2,400,000 \text{ 円} \div 8 \text{ 人} = 300,000 \text{ 円}$
運営費	6,791	授業用図書購入費，消耗品，複写費，センター紀要，センタ ー概要，センターニュース等印刷費，自己点検・評価実施経費， 外国人留学生生活実態調査経費
人件費	750	パート職員（1,500 千円 留学生経費とで折半）
事務管理費	1,000	事務用品等購入費，施設等使用料（総合教育棟，教育学部等）
合 計	34,888	

10. 1. 2 平成 15 年度（単位：千円）

科目・事項	予算額	執行計画
諸謝金	83	
附属施設経費	96	研究会等（予定）
非常勤職員手当	20,614	講師等経費 3,642 時間（5,660 / H）
職員旅費	815	教官研究等旅費 627 千円，附属施設経費 188 千円
教官研究等旅費	627	共通 センター長会議，留学生スキー実習引率， 実地見学引率等
講師等旅費	1,155	附属施設経費 各種研究会等
校 費	10,349	当初配当，留学生経費（教育研究基盤校費，施策充実経費）
教官研究費等	800	研究費 $800,000 \text{ 円} \div 8 \text{ 人} = 100,000 \text{ 円}$
運営費	5,099	授業用図書購入費，消耗品，複写費，センター紀要，センタ ー概要，センターニュース等印刷費
人件費	3,450	パート職員（6,900 千円 留学生経費とで折半）
事務管理費	1,000	事務用品等購入費，施設等使用料（総合教育棟，教育学部等）

10. 1. 3 平成 16 年度（単位：千円）

基礎額 11,981 千円

1 基盤研究経費

< 4,180 千円 > 3,300 千円（9 人分，各担当教育経費含），共通経費：850 千円（複写機保守，電話，等）

2 学生教育経費

< 100 千円 >

3 国費留学生教育費

< 96 千円 >

4 部局等特別管理運営費

< 322 千円 > 配分方針：15 年度の実績を踏まえ，下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
書籍購入（一括）	15,000	予備的計上
印刷物（一括）	16,000	予備的計上
NHK 受信料	291,000	所要額
	322,000	

5 留学生センター事業費

< 7,283 千円 > センター共通経費

10. 1. 4 平成 17 年度（単位：千円）

基礎額 12,599 千円

1 基盤研究経費

< 4,050 千円 > 3,150 千円（9 人分，各担当教育経費含），共通経費：900 千円（複写機保守，電話，等）

2 学生教育経費

< 190 千円 >

3 国費留学生教育費

< 200 千円 >

4 部局等特別管理運営費

< 295 千円 > 配分方針：16 年度の実績を踏まえ、下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
書籍購入（一括）	2,000	予備的計上
印刷物（一括）	2,000	予備的計上
NHK 受信料	291,000	所要額
	295,000	

5 留学生センター事業費

< 7,864 千円 > センター共通経費

10. 1. 5 平成 18 年度（単位：千円）

基礎額 12,275 千円

1 基盤研究経費

< 2,700 千円 > 300 千円 × 9 人

2 学生教育経費

< 0 円 > 配分方針：5 の留学生センター事業費が学生教育経費の役割を果たすため敢えて計上しない。

3 国費留学生教育費

< 0 円 > 配分方針：「学生教育経費」と同じ。

4 部局等特別管理運営費

< 1,050 千円 > 配分方針：17 年度の実績を踏まえ、下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
電話料	180,000	1 月約 15,000 円 × 12
複写機保守	540,000	1 月約 45,000 円 × 12
書籍購入（一括）	20,000	予備的計上
印刷物（一括）	14,000	予備的計上
NHK 受信料	296,000	所要額
	700,000	

5 留学生センター事業費

＜ 8,525 千円＞ 配分方針：算定基礎額から上記 1～4 までの計 3,750 千円を差し引いた額を計上する。

また、各コース（部門）の運営費（消耗品等費）は本経費から同額措置することとし、残りの 6,625 千円は全体管理分とし、その用途についてはこれまでどおり、留学生センター教員会議の協議を経て執行するものとする。

名称	配分額	摘要
総合日本語コース	600,000	
日本語・日本文化	400,000	
日本語研修コース	300,000	
KUSEP	200,000	
日韓プログラム	200,000	
相談指導	100,000	
国際教育交流	100,000	
センター管理	6,625,000	全体管理分
	8,525,000	

10. 1. 6 平成 19 年度（単位：千円）

基礎額 12,356 千円

1 基盤研究経費

＜ 2,700 千円＞ 300 千円×9 人

2 学生教育経費

＜ 0 円＞ 配分方針：平成 18 年度方針と同様計上しない。

3 国費留学生教育費

＜ 0 円＞ 配分方針：「学生教育経費」と同じ。

4 部局等特別管理運営費

＜ 700 千円＞ 配分方針：18 年度の実績を踏まえ、下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
電話料	168,000	1 月約 14,000 円× 12
複写機保守	420,000	1 月約 35,000 円× 12
書籍購入（一括）	15,000	予備的計上
印刷物（一括）	13,000	予備的計上
NHK 受信料	84,000	所要額
	700,000	

5 留学生センター事業費

＜ 8,956 千円＞ 配分方針：算定基礎額から上記 1～4 までの計 3,400 千円を差し引いた額を計上する。

また、18 年度同様、各コース（部門）の運営費（消耗品等費）は本経費から同額措置することとし、残りの 7,056 千円は全体管理分とし、その用途についてはこれまでどおり、留学生センター教員会議の協議を経て執行するものとする。

名称	配分額	摘要
総合日本語コース	600,000	
日本語・日本文化	400,000	
日本語研修コース	300,000	
KUSEP	200,000	
日韓プログラム	200,000	
相談指導	100,000	
国際教育交流	100,000	
センター管理	7,056,000	全体管理分
	8,956,000	

10. 1. 7 平成 20 年度（単位：千円）

基礎額 11,233 千円

1 基盤研究経費

＜ 2,700 千円＞ 300 千円× 9 人

2 学生教育経費

＜ 0 円＞ 配分方針：平成 19 年度方針と同様計上しない。

3 国費留学生教育費

＜ 0 円＞ 配分方針：「学生教育経費」と同じ。

4 部局等特別管理運営費

＜ 760 千円＞ 配分方針：19 年度の実績を踏まえ、下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
電話料	180,000	1 月約 15,000 円× 12
複写機保守	480,000	1 月約 40,000 円× 12
書籍購入（一括）	16,000	予備的計上
印刷物（一括）	0	
NHK 受信料	84,000	所要額
	760,000	

5 教育施設事業費（旧，留学生センター事業費）

＜ 7,773 千円＞ 配分方針：算定基礎額から上記 1～4 までの計 3,460 千円を差し引いた額を計上する。

また，19 年度同様，各コース（部門）の運営費（消耗品等費）は本経費から同額措置することとし，残りの 5,968 千円は全体管理分とし，その用途についてはこれまでどおり，留学生センター教員会議の協議を経て執行するものとする。

名称	配分額	摘要
総合日本語コース	570,000	算定基礎額 5% 圧縮のため，前年比 5% 圧縮額とする。
日本語・日本文化	380,000	〃
日本語研修コース	285,000	〃
KUSEP	190,000	〃
日韓プログラム	190,000	〃
相談指導	95,000	〃
国際教育交流	95,000	〃
センター管理	5,968,000	全体管理分
	7,773,000	

10. 1. 8 平成 21 年度（単位：千円）

基礎額 11,268 千円

1 基盤研究経費

＜ 2,700 千円＞ 300 千円× 9 人

2 学生教育経費

＜0円＞ 配分方針：平成20年度方針と同様計上しない。

3 国費留学生教育費

＜0円＞ 配分方針：「学生教育経費」と同じ。

4 部局等特別管理運営費

＜722千円＞ 配分方針：20年度の実績を踏まえ、下記のとおり配分。

名称	配分額	摘要
電話料	180,000	1月約15,000円×12
複写機保守	480,000	1月約40,000円×12
書籍購入（一括）	16,000	予備的計上
印刷物（一括）	0	
NHK受信料	46,000	所要額
	722,000	

5 教育施設事業費

＜7,846千円＞ 配分方針：算定基礎額から上記1～4までの計3,422千円を差し引いた額を計上する。

また、20年度同様、各コース（部門）の運営費（消耗品等費）は本経費から同額措置することとし、残りの6,041千円は全体管理分とし、その用途についてはこれまでどおり、留学生センター教員会議の協議を経て執行するものとする。

名称	配分額	摘要
総合日本語コース	570,000	20年度と同様措置とする。
日本語・日本文化	380,000	〃
日本語研修コース	285,000	〃
KUSEP	190,000	〃
日韓プログラム	190,000	〃
相談指導	95,000	〃
国際教育交流	95,000	〃
センター管理	6,041,000	全体管理分
	7,846,000	

10. 2 非常勤講師手当等実績（平成 16 ～ 21 年度）

	前期			後期			合計		講師等旅費
	人数 (人)	時間数 (時間)	金額 (円)	人数 (人)	時間数 (時間)	金額 (円)	計 (時間)	計 (円)	計 (円)
16	24 (0)	1,420	8,037,200	31 (0)	1,470	8,320,200	2,890	16,357,400	414,940
17	24 (0)	1,410	7,980,600	29 (0)	1,170	6,622,200	2,580	14,602,800	456,720
18	24 (0)	1,084	6,135,440	26 (2)	1,200	6,792,000	2,284	12,927,440	489,960
19	23 (0)	1,054	5,965,640	26 (2)	1,108	6,271,280	2,162	12,236,920	540,560
20	23 (1)	960	5,433,600	27 (2)	874	4,946,840	1,834	10,380,440	545,370
21	23 (1)	838	4,743,080	28 (3)	1,016	5,755,200	1,854	10,498,280	590,900

※ () 内は、無給講師で、内数

11. 刊行物

11. 1 研究論文集（紀要）

第6号（2003年3月）

a. 原著

- ・ 太田亨 「講義の聴解」の目指す理解促進のための基本目標と授業活動
- ・ 長野ゆり・笹原幸子・寺下優子
総合日本語コースC1（初中級）クラスの開設と活動・教材開発
- ・ 三浦香苗 教養教育の「日本事情・他文化交流ディスカッション」授業研究
- ・ ビットマン ハイコ 日本武道に見られる思想の研究（その2）
—日本武道における「空」の一考察—
- ・ 中崎崇志・櫻田千采・松下美知子 帰国を控えた短期滞在留学生の調査 —先行研究との比較による検討—

b. 報告

- ・ 岡沢孝雄・ビットマン ハイコ
学生による金沢大学短期留学プログラムの評価と評価に関与する要因

第7号（2004年3月）

a. 原著

- ・ 三浦香苗 口頭発表する「内容」をもたせるための指導法 —日本語初級レベルでのアンケート調査プロジェクト—
- ・ ビットマン ハイコ
日本武道に見られる思想の研究（その3）—日本武道における「型」の一考察—
- ・ 太田亨 「メキシコ人日本語学習者の指示語習得調査」と基本統計結果
- ・ 岸田由美 理系大学院留学生の生活とニーズに関する事例研究 —金沢大学留学生生活実態調査の分析より—
- ・ 峯正志・長野ゆり 日本語教育に関するニーズ調査結果

第8号（2005年3月）

a. 原著

- ・ ルチラ パリハワダナ 副詞「やっと」を通して見た出来事の実現
- ・ ルチラ パリハワダナ 長時間経過の末の予見の実現を表す副詞 「やっと」「ようやく」「ついに」「どうとう」について
- ・ 太田亨・勝見昌明 金沢大学における日韓共同理工系学部留学生数学予備教育につ

いて

- ・長野ゆり・峯正志 「金沢大学で学ぶ学部留学生の学習上の問題点」に関する聞き取り調査

b. 報告

- ・松下美知子・岡沢孝雄・苗田敏美 金沢学の計画と実践

第9号(2006年3月)

a. 原著

- ・南相璽・西嶋義憲・斉木麻利子 ポライトネス・グラマー ―コミュニケーション行動評価概念の日韓比較―
- ・古本裕子・苗田敏美・松下美知子 専門教育における留学生の日本語 ―日本人学生との比較を通じた分析―
- ・崔岩 中国瀋陽市第一・第二朝鮮族中学校における日本語教育 ―現状と展望―
- ・ビットマン ハイコ 日本武道に見られる思想の研究(その4) ―日本武道における「礼」の一考察―
- ・宮崎悦子 石川県における中国人留学生に関する調査 ―私立大学文系学部生と国立大学理系院生の比較分析を通して―

b. 報告

- ・太田亨 金沢大学における日韓共同理工系学部留学生事業に対する中間評価報告

第10号(2007年3月)

a. 原著

- ・峯正志 オノマトペの様態副詞における助詞の有無
- ・早川幸子・古本裕子・苗田敏美・松下美知子・岡沢孝雄 文系学術論文における判断表現の使用実態
- ・佐藤実 中国ムスリムにおける食の禁忌と殺生について 劉智著「天方典礼」を中心に
- ・太田亨・三浦香苗 ビデオ会議による異文化交流ディスカッションの方法―試論―

第11号(2008年3月)

a. 原著

- ・ルチラ パリハワダナ 副詞「だんだん」「次第に」「徐々に」が表す展開の初局面―漸次姓と過程性・意志性・望ましさととの関わり―
- ・峯正志 交通標識における日本語の「ほのめかし」表現

- ・ビットマン ハイコ 日本武道に見られる思想の研究（その5） ―日本武道における「修行」の一考察―
- ・太田亨 デジタル版自己診断型「渡日前日本語診断テスト」制作について

b. 報告

- ・ビットマン ハイコ・岡沢孝雄 協定校における金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）で取得した単位の認定調査結果

第12号（2009年3月）

a. 原著

- ・ビットマン ハイコ 日本武道に見られる思想の研究（その6） ―日本武道における「道場」の一考察―
- ・太田亨・門倉正美・菊池和徳 日韓プログラム「通年予備教育カリキュラム」のための前半期予備教育シラバス試案検証へ向けた「教育参画」実践について

b. 報告

- ・マシニナ アナスタシア・三浦香苗 日本語学習者による漢字学習支援電子教材・電子ツール使用の実態に関するアンケート調査

第13号（2010年3月）

a. 原著

- ・太田亨・今井武・島弘子 アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題
- ・Young-mee Yu Cho and Mariko Saiki Resolving Conflicts of Prominence in Music and Speech
- ・深川美帆・三浦香苗 異文化交流ディスカッションにおけるトピックについて ―実践からの考察をもとに―

b. 報告

- ・峯正志・長野ゆり 留学生センター「総合日本語コース」の日本語教育―チームティーチングによるコース運営を中心として―
- ・太田亨・門倉正美・菊池和徳・藤田清士・古城紀雄 日韓プログラム・通年予備教育カリキュラムのための第2回教育参画実践について

11. 2 学生文集

日本語研修コースでは、修了研究発表終了後の1日の授業中にクラスの文集作りを行っている。文集の内容は、留学生による修了口頭発表、学期途中の「私の国」発表、思い出の写真などである。過去29期の文集がある。

日本語・日本文化研修プログラムでは、プログラム生の修了研究の集大成として修了レポート集を毎年刊行している。内容は、言語学、教育学、歴史学、社会学等の多岐にわたり、今年で15期分を数える。

11. 3 日本語教材

- (1) 長野ゆり・浅野悦子、笹原幸子、寺下優子、苗田敏美著

『ともだちと話そう』総合日本語コース C1（初中級）クラス教科書 2005年

- (2) 「金沢大学渡日前日本語診断テスト」（初級および中・上級編） 2007年3月

『平成16年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）』（「IT教育用素材集の開発とIT教育の推進」による「重点教材作成資金」教材）

11. 4 留学生センターニュース

『留学生センターニュース』は、毎年度秋に発行している。留学生を対象とし、内容としては、センターの活動紹介、留学生や日本人学生の留学経験談や手記である。

11. 5 年報

年報は、次のように、当点検評価期間中に2冊作成した。

- ・『金沢大学留学生センター年報 第1号 2002.10～2005.3』
- ・『金沢大学留学生センター年報 第2号 2005.4～2007.3』

11. 6 その他

多文化共生部門では、英語を使用する交流協定校への派遣留学を計画している学生のTOEFLスコアアップを支援するために、次の冊子を発刊した。

- ・『TOEFLを受験する金沢大学生のために』2005年度版
- ・『TOEFLを受験する金沢大学生のために』2006年度版（2005年度版を改訂したもの）

12. 留学生センターの課題と将来展望

留学生センターの設置から現在までの経過

留学生センターは1995年に設置された。その目的は外国人留学生及び海外留学を希望する金沢大学の学生に必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学の留学生交流の推進に寄与することであった。留学生センターの主な業務は、1) 外国人留学生に対する日本語・日本文化・日本事情教育及び予備教育、2) 短期プログラムの運営（教育も含む）、3) 留学生修学支援（指導助言）、4) 本学の学生の海外留学支援、5) 留学生教育の質を向上させるための研究調査の5つがあげられる。

センターの歴史は、その時々日本政府の留学生政策によって新しいコース（プログラム）が開設・運営されるようになった歴史の積み上げと言ってよい。

北陸地域で最初に設置された留学生センターであったため、本学の大学院研究科に進学する留学生ばかりではなく、新潟、富山、石川、福井の大学に進学する留学生の日本語予備教育（日本語研修コース）も金沢大学が引き受けた。設置当時は日本語研修コースの立ち上げと運営に全力をあげた。一方、その頃金沢大学に学ぶ外国人留学生は250人程度であり、海外の協定校も大学間、部局間合わせて20大学程度であった。それらの留学生の日本語学習のために「全学向け日本語補講」が開講されていたが、留学生センターが運営を担当するようになった。しかし、センターの日本語教育の中では日本語予備教育のウエイトは大きかった。

センター設置以後、日本語・日本文化研修生の所属が部局から留学生センターに移りプログラムとして整備された。1998年秋からは全学プログラムである金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）が開始され、その運営も留学生センターが担当するようになった。センター所属の学生が徐々に増えていった。KUSEPのカリキュラムで日本語が必修となったことで、「全学向け日本語補講」を母体に拡充再編し「総合日本語コース」が整備され、日本語の単位化が始まった。2000年から日韓共同理工系学生受け入れ事業（日韓プログラム）が始まり、予備教育を留学生センターが担当するようになった。2010年からは、セメスタープログラムが始まった。

金沢大学の留学生数は順調に増え続け、2005年には377名に達した。その後、減少横ばいに転じたが、2009年の大学の「留学生数を増やす」方針の決定により短期間に一気に500名を超えた。海外協定校も大学間80校（学生交流協定65校）、部局間55校（25校）と急増している。留学生センター設置以来16年が経過し、センターで運営しているコース（プログラム）にも変化が訪れている。KUSEPは1998年10月に来た19名の学生に始まったが、現在40名を超えている。協定校が急速に増えているので、今後も応募者の増加が予想されている。一方日本語研修コースに参加する学生数は、新潟大学、富山大学、福井大学に留学生センターが設置されたため、それらの県からの参加者はなくなり最近では5人に満たなくなった。日本語・日本文化研修生は10名から15名、日韓プログラム生は数名と増減はあま

りない。セメスタープログラムの学生数は増加が予想される。

日研究生、KUSEP 生、セメスタープログラム生に加え、一般短期、金沢大学コンソーシアム・高度専門留学生事業に参加する留学生、他部局の短期プログラム生で日本語の単位が必要な学生が増加し、それらの学生は「総合日本語コース」に参加している。

今後、金沢大学に学ぶ留学生および金沢大学から留学に派遣される学生の増加が見込まれている。本センターはそうした情勢に主体的に対応するため、大学の中・長期的な国際戦略の中でさまざまな改革を行っていく必要がある。

その一つは、日本語教育の在り方である。留学生数が現在の 500 名程度から将来大幅に増大したとき、どのような日本語カリキュラムを設計するのか。また、そのカリキュラムを実行するための組織はどうするのか。各研究科・学域のニーズをも踏まえたうえで、継続可能な日本語教育の再構築が必要とされよう。

次に、本センターが提供している短期留学プログラム及び文化プログラムの拡充と再編が必要である。本学が提携している大学が増加し、学生たちのニーズが多様化している現状に適切に対応するため、現在ある K U S E P、日本語・日本文化研修、セメスター、大学院予備教育の各プログラムを再編し、機能的なプログラムを構成しなければならない。2010 年度に設置した文化プログラムと新規プログラムに関するワーキンググループの議論を踏まえ、できるだけ早い時期に、新規のプログラムを含めた短期留学プログラムの刷新を図るべきである。その際重要なのは、留学生が日本人学生と共に学びあうプログラム設計である。その意味でも、各研究科・学域との連携が強められなくてはならない。

また、深い学識と広い視野をもった国際経験が豊かな学生を育てるために、あるいはグローバル化した社会からの要請に答えるためにも、外国語教育研究センターや各研究科・学域と協力し、これまで以上に、派遣留学のための支援を行う必要がある。単に語学力の向上だけではなく、異文化や世界そのものへの関心を涵養し、精神的なサポートも含めた多角的な派遣留学支援を行わなくてはならない。

精神的な側面も含めた留学生の就学指導は、さまざまな文化・教育背景をもった留学生に対しては必須のサポートであるが、急速に増加する留学生のニーズに対応しきれていない現状がある。各研究科・学域の学生・留学生相談体制および保健管理センターの提供するセーフティネットと連携し、柔軟な就学指導を行う必要がある。

さらに、留学生教育の質を向上させるための研究調査に関しては、各教員が自らの専門分野において、本センターの教育の特徴を生かした研究を行い、外部資金の獲得も含めた十分に検証が可能な成果を作り出していきたい。

言うまでもなく、こうした将来的課題をより効果的に解決し、日常業務を円滑に遂行するために、機能的な教員・事務組織が構築されなくてはならない。この自己点検評価を踏まえ、本センターに新たな歩みが重ねられ、本センターが金沢大学の留学生教育、国際化に今後も主体的に寄与していくことを切望する。

資 料

1. 規程

1. 1 留学生センター規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、金沢大学学則第10条第2項の規定に基づき、金沢大学留学生センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、外国人留学生及び海外留学を希望する金沢大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における留学生交流の推進に寄与することを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育に関すること。
- (2) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (3) 外国人留学生に対する予備教育に関すること。
- (4) 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- (5) 留学生教育の調査研究に関すること。
- (6) 短期留学プログラムの実施に関すること。
- (7) その他センターに関する必要な業務

(職 員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター教員

2 前項の職員のほか、必要に応じ、事務職員及び技術職員を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長は、本学の専任の教授をもって充てる。

2 センター長は、センターの管理及び運営を総括する。

3 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター長が欠けたときの補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 センター長の選考については、別に定める。

(センター教員の選考)

第6条 センター教員の選考については、別に定める。

(教員会議)

第7条 センターに、金沢大学留学生センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

2 教員会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センター教員の選考に関する事項
- (2) センターの予算及び概算要求に関する事項
- (3) センターの中期目標，中期計画及び年度計画の策定並びに中期目標に係る事業報告書の作成に関する事項
- (4) センターの教育課程の編成に関する事項
- (5) 外国人留学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言，指導その他の援助に関する事項
- (6) 外国人留学生の入学，課程の修了その他留学生の在籍に関する事項
- (7) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (8) 短期留学プログラムに関する事項（金沢大学国際委員会の所掌に係る事項を除く。）
- (9) その他センターの教育又は研究に関する重要事項
（教員会議の組織）

第8条 教員会議は，次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター教員（教授，准教授及び常時勤務の講師に限る。）

2 前条第2項第1号の事項を審議する場合は，金沢大学研究国際企画会議及び教育企画会議が推薦する当該企画会議委員若干人を加えるものとし，前項第2号の委員については，准教授及び講師を除くものとする。

（教員会議の議長）

第9条 教員会議に議長を置き，センター長をもって充てる。

2 議長は，教員会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは，議長があらかじめ指名する者が，議長の職務を行う。

（会 議）

第10条 教員会議は，原則として毎月定例日に開催するものとする。ただし，必要に応じて臨時に開催することができる。

第11条 教員会議は，委員の過半数が出席しなければ，会議を開き，議決することができない。

2 議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。ただし，特別の必要があると認められるときは，3分の2以上の多数をもって議決することができる。

第12条 教員会議に議案を提出しようとする者は，会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。

（委員以外の者の出席）

第13条 教員会議は，必要があると認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

(委員会)

第14条 教員会議に、専門の事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(外国人留学生教育コース)

第15条 センターに、次に掲げる外国人留学生教育コース（以下「コース」という。）を置く。

(1) 日本語・日本文化研修コース

(2) 総合日本語コース

(3) 日本語研修コース

(4) 日韓共同理工系学部留学生コース

2 コースに関する事項は、センター長が別に定める。

(科目等履修生等)

第16条 高等学校を卒業した者又はこれらの者と同等以上の学力があると認められた者で、科目等履修生としてセンターに入学を志願するものがあるときは、教員会議で選考の上、入学を許可する。

2 科目等履修生の履修については、別に定める。

(特別聴講学生等)

第17条 金沢大学外国人留学生規程第3条に定める特別聴講学生又は日本語研修生としてセンターに入学を志願する者があるときは、選考の上、許可することがある。

(事務)

第18条 センターの事務は、学生部学務課において処理する。

(雑則)

第19条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関する必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規程の施行の後最初に任命されるセンター長の任期は、金沢大学学則附則第5項の規定により、平成17年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

1. 2 留学生センター外国人留学生日本語・日本文化研修コース規程

(趣 旨)

第1条 この細則は、金沢大学留学生センター規程第15条第2項の規定に基づき、日本語・日本文化研修コース（以下「研修コース」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(入学資格)

第2条 研修コースに入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に定める日本語・日本文化研修留学生
- (2) 金沢大学と交流協定のある外国の大学からの推薦による外国人留学生
- (3) その他金沢大学留学生センター長（以下「センター長」という。）が適当と認めた外国人留学生

(入学許可)

第3条 センター長は、研修コースに入学を志願する者について、金沢大学留学生センター教員会議（以下「教員会議」という。）の議を経て、科目等履修生又は特別聴講学生として入学を許可する。

(定 員)

第4条 研修コースの定員は、20人とする。

(教育期間)

第5条 研修コースの教育期間は1年以内とし、その始期は10月とする。

(教育課程)

第6条 研修コースの教育課程は、教員会議の議を経て、別に定める。

(研修コース以外の授業科目の履修)

第7条 研修コースに在学する者が、研修コース以外の授業科目を履修しようとする場合は、所定の手続を経て許可を得なければならない。

(研修コース在学者以外の者の授業科目の履修)

第8条 研修コースに在学する者以外の者が、研修コースの授業科目を履修しようとする場合は、センター長に願い出て許可を得なければならない。

(修了判定)

第9条 研修コースの修了判定は、教員会議が行う。

(修 了)

第10条 センター長は、前条により修了を認定された者に対して、修了証書を授与する。

(雑 則)

第11条 この細則に定めるもののほか、研修コースに関し必要な事項は、センター長が、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

1. 3 留学生センター外国人留学生日本語研修コース規程

(趣 旨)

第1条 この細則は、金沢大学留学生センター規程第15条第2項の規定に基づき、日本語研修コース（以下「研修コース」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(受講資格)

第2条 研修コースを受講することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に定める研究留学生

(2) 金沢大学留学生センター規程第16条第1項に定める科目等履修生

(受講の許可)

第3条 金沢大学留学生センター長（以下「センター長」という。）は、研修コースを受講しようとする者について、金沢大学留学生センター教員会議（以下「教員会議」という。）の議を経て選考を行い、受講を許可する。

(定 員)

第4条 研修コースの定員は、20人とする。

(教育期間)

第5条 研修コースの教育期間は6か月とし、その始期は4月及び10月とする。

(教育課程)

第6条 研修コースの教育課程は、教員会議の議を経て、別に定める。

(修了判定)

第7条 研修コースの修了判定は、教員会議が行う。

(修 了)

第8条 センター長は、前条により修了を認定された者に対して、修了証書を授与する。

(雑 則)

第9条 この細則に定めるもののほか、研修コースに関し必要な事項は、センター長が、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

1. 4 金沢大学留学生センター日韓共同理工系学部留学生コース規程

(趣 旨)

第1条 この細則は、金沢大学留学生センター規程第15条第2項の規定に基づき、日韓共同理工系学部留学生コース（以下「日韓理工系留学生コース」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(受講資格)

第2条 日韓理工系留学生コースを受講することができる者は、日韓共同理工系学部留学生事業実施要項（平成12年8月1日文部省学術国際局長裁定）に定める予備教育期間中の日韓理工系留学生とする。

(定 員)

第3条 日韓理工系留学生コースの定員は、学長が定める人数とする。

(教育期間)

第4条 日韓理工系留学生コースの教育期間は6か月とし、その始期は10月とする。

(教育課程)

第5条 日韓理工系留学生コースの教育課程は、金沢大学留学生センター教員会議（以下「教員会議」という。）の議を経て、別に定める。

(修了判定)

第6条 日韓理工系留学生コースの修了判定は、教員会議が行う。

(修 了)

第7条 金沢大学留学生センター長（以下「センター長」という。）は、前条により修了を認定された者に対して、修了証書を授与する。

(雑 則)

第8条 この細則に定めるもののほか、日韓理工系留学生コースに関し必要な事項は、センター長が、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

1. 5 金沢大学短期プログラム規程

(設 置)

第1条 金沢大学（以下「本学」という。）に、1年間の特別の教育課程を編成し、主として英語による教育を行う金沢大学短期留学プログラム（以下「短期プログラム」という。）を置く。

(目 的)

第2条 短期プログラムは、外国の大学等に在学する学生を受け入れて、大学間等の協力及び提携の強化を図るとともに、当該学生が専門分野の知識及び我が国への理解を深めることを目的とする。

(入学資格)

第3条 短期プログラムの学生（以下「短プロ学生」という。）として入学することのできる者は、大学間交流協定又は部局間交流協定を締結している外国の大学等（以下「協定校」という。）の学部の3年次以上又は大学院の修士課程に在学している学生とする。

(在学期間)

第4条 短プロ学生の在学期間は、1年以内とする。

(受入れ人数)

第5条 短プロ学生の受入れ人数は、30人程度とする。

(入学時期)

第6条 短プロ学生の入学時期は、原則として10月又は4月とする。

(学 期)

第7条 学期は、次の2学期とする。

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

春学期 4月1日から9月30日まで

(身 分)

第8条 短プロ学生は、金沢大学留学生センター（以下「留学生センター」という。）に所属するものとする。

2 短プロ学生は、特別聴講学生として取り扱うものとする。

(出願手続)

第9条 短プロ学生として入学を志願する者は、所定の期日までに、協定校を経て学長に願い出なければならない。

(入学者の選考)

第10条 入学者の選考は、金沢大学教育企画会議留学生部会（以下「委員会」という。）が行う。

(入学許可)

第11条 学長は、前条の結果に基づく合格者のうち、所定の期日までに、所定の手続を完了した者に入学を許可する。

(授業科目、履修方法等)

第12条 短期プログラムの授業科目、履修方法等は、別に定める。

(履修手続)

第13条 短プロ学生は、履修を希望する授業科目を、所定の期日までに、金沢大学留学生センター長（以下「センター長」という。）に願い出て承認を受けなければならない。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績の評価は、試験、論文、報告書、平素の学習状況等により授業担当教員が行う。

2 授業科目の成績は、「S」(90点以上),「A」(89～80点),「B」(79～70点),「C」(69～60点)及び不可(59点以下)の評語をもって表し、S、A、B及びCを合格とし、不可を不合格とする。ただし、英語表記の成績証明書にかかる90点以上の評語は、「AA」とする。

(成績証明書)

第15条 センター長は、授業担当教員からの報告に基づき、短プロ学生に成績証明書を交付する。

(修了証書)

第16条 学長は、秋学期及び春学期ともに在学し、かつ、20単位以上を修得した短プロ学生に対し、委員会の議を経て修了証書を授与する。

(学部学生等の履修)

第17条 本学の学部学生等は、短プロ学生の履修に支障のない限り、所定の手続を経て短期プログラムの授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により修得した単位を学位取得に必要な単位数に算入することについては、各学部又は各研究科の定めるところによるものとする。

(実施体制)

第18条 短期プログラムの教育課程の編成その他教育に関する重要な事項は、委員会が審議するものとする。

2 短期プログラムの実施は、各学部及び各研究科の協力を得て、留学生センターが当たるものとする。

(事務)

第19条 短期プログラムに関する事務は、学生部学務課において処理する。

(雑則)

第20条 この規程に定めるもののほか、短期プログラムに関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2. 学生交流の推移

2. 1 協定校との学生の相互交流の推移

表 2. 1 学生交流の状況（派遣については 2010.8.24, 受入については 2010.8.30）

国名・ 地域名	大 学 名	覚 書 数	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21													
			受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣										
中国	蘇 州 大 学	2		2	1	3		4		3		3	1	2	1	2	2	1	2	2		2		2	1	2	2	
	四 川 大 学 (旧華西医科大学)	2	2		1		2			2					3	1	2		1		1		2		2		2	
	ハルビン医科大学						1																	1				
	北 京 師 範 大 学	2						1		1		1	2	1	3	2	2	2	4	1		2	3	2	2	2	2	2
	北 京 工 業 大 学	2							2		1		1		2		3		3		2		5		3			
	大 連 大 学	2													1	1	1		1		1					2		
	大 連 理 工 大 学	2																								2		
	南 京 大 学																											
	延 辺 大 学																							1				
	華 東 理 工 大 学																											
	北 京 語 言 大 学																										1	
	南 開 大 学																											
	※東北師範大学 社会学部	2	1			1			1				1															
	※中国科学院 化学研究所 特殊材料研究センター						1			1				1				1										
	※北京 中国語文学系																		1									
	※北京 大学薬学院									1																		
	※東華 大学科学 学院	2										2					1											
	※南方 医科大学 (旧第一軍医大学)													1														
	※中国 医科大学	2									1						2											
	※吉林 大学工 程学院																											
	※東北 林業大 学学院 土木工 程学院																											
	※長安 大学地 質学院 行程及 び測地 学院																											
	※河南 中医 学院																											
	※中国 科学院 大気物 理研究 所大気 科学 と地球 流体 力学 数値 モデ リング 国家 重点 研究 所																											
	※同済 大学機 工 程学院																											
	※華南 理工 大学 学院 汽車 工 程学院																											
インド	ブネー 大学	2				1		1		1			1	2		1	1			1		1		1		1		
インドネシア	バンドン 工科大学	2			1	1	2	1	1				2	1	2							1						
大韓民国	東亜 大学 校	2					2		2		2		2	2			2		2	1	2		4		2	3		
	釜山 国立大 学校	2								2		3	1	2	1	2		2	3	1	2	3		2	1	1		
	韓国 地質資 源研究 院																											
	国立 釜慶大 学校	2					2		2		1		3		2		1		3			1		1		2	1	
	※韓国 科技術 研究所 遺伝子 工学研 究所																											
	※翰林 大学国 際学大 学院	2					2					2	1		2		2											
	※湖西 大校工 科大学	2					2		2		2		3		2		2		2		2		2		2			
	※湖西 大経商 学部																											

国名・ 地域名	大 学 名	覚 書 数	H 9 受 入	H 9 派 遣	H 10 受 入	H 10 派 遣	H 11 受 入	H 11 派 遣	H 12 受 入	H 12 派 遣	H 13 受 入	H 13 派 遣	H 14 受 入	H 14 派 遣	H 15 受 入	H 15 派 遣	H 16 受 入	H 16 派 遣	H 17 受 入	H 17 派 遣	H 18 受 入	H 18 派 遣	H 19 受 入	H 19 派 遣	H 20 受 入	H 20 派 遣	H 21 受 入	H 21 派 遣
大韓民国	※大韓民国国立体育大学																											
	※慶熙大学校理科大学																											
	※壇国大学校工学部																											
	※全北国立大学																											
	※ウルサン大学医学部	2																										
モンゴル	※ソウル大学校薬学大学																											
	※モンゴル科学 アカデミー地 質 鉱物資源研究所																											
	※国立モンゴル 大 学 生 物 学 部																							1				
フィリピン	※モンゴル科学 アカデミー生物研究所										1																	
	※フィリピン大 デ ィ リ マ ン 校	2					1	2	2	1			1				1	1										
シンガポール	※国立シンガポール大学					2					1																	
タイ	チュラロンコン大学	2					3	3	5	2	3	2	3	2	2	2	2	2	3	2								
	モンクット王工 大 学 ト ン プ リ 校	2		2	2	2	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2						
	チェンマイ大学	2				1	2	1	1	1	1	1	1				1	2	2	1								
	※東アジア・東南 アジア沿岸・沿海地球 科学計画調査委員会																											
	※プリンスオブ ソンクラ大学工学部																											
	※タマサート大学 S I I T	2																								1		
ベトナム	※ハノイ医科大学																											
	※ハイフォン医科大学																											
台湾	国立台湾師範大学	2							1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	
	※台湾政治大学法学院	2																		1	1	1	1	2	2	1	1	
オーストラリア	オーストラリア国立大学 ¹	2		1	2	3	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2		1	2	2		
	ロイヤル・メルボルン工科大学	2							1																			
	グ リ フ ィ ス 大 学																											
ケニア	※南オーストラリア大学 情報工学・環境工学学群						2	1	1	1	1																	
	※ケニア中央 医 学 研 究 所														1						1							
エジプト	ア シ ュ ー ト 大 学						2						2						1	1	1							
ブルガリア	※バルナ医科大学														1	1	2	1										
チェコ	カ レ ル 大 学	2											1	2	1	2	2									2		
	※プラハ化学工業大学	2																										
フィンランド	ユバスキュラ大学	2				2	2	1	1	2			2	2	2	1	1	2	1			2	3	2	2			
	ヘルシンキ工科大学	2									1				1	2	1	1			1					1		
フランス	ナンシー第一大学	2	1			2	1	1							1									1				
	ナンシー第二大学	2		1							1				2	2	1		2	2	2		2	2	1	2		
	オルレアン大学																											
	※サヴォア大学	2																										
ドイツ	ジ ー ゲ ン 大 学	2		2	1	1	1	2			1	2	2		1		3	1	1		1					1	1	
	レーゲンスブルク大学	2					2	1	2	2	1	2	1		1	2	2	3	2	2	1			3	3	2	3	
	デュッセルドルフ大学																											
	※イルメナウ工科大学	2													1	1												
	※ヴァッパータール大学 電気情報メディア工学系	2																										
	※シュトゥットガルト大学	2																										

1 H22 の受入 10 名は、セメスタープログラムによるもの

国名・ 地域名	大 学 名	覚 書 数	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21													
			受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣										
スペイン	バルセロナ自治大学	2																										
アイルランド	ダブリンシティ大学	2	2	1	2	2	4		2		2	1	2	1	2	2	2											
ポーランド	ルブリン工科大学	2	1		2		1		2		1							1	1									
スロバキア	スロバキア工科大学	2							1		1		1		1					1								
ベルギー	ゲント大学																											
イギリス	リバプール ジョン モアズ大学	5	2	1	4	1	1	3	1	3	1	2		1	1	1	1	2	2	3	2	3	2	5	2	5	2	4
	シェフィールド大学	2	4		2	2	5	1		2					2		2	2	2	2	1		1		2	2	2	2
	※オックスフォード大学 ペンブロッックカレッジ		1		2		1		1				1				1									1		
ロシア	国立カザン大学	2	1			2		2					1		2		2		1							2	1	
	ロシア科学アカデミー極東支部																											
	※イルクーツク 経済アカデミー		1	1	1																							
	※極東国立総合大学 附属東洋大学	2	1				1		1		1																	
	※国立クラスノヤルスク 医科大学																											
	※理論実験物理学研究所																											
	※国立イルクーツク大学																											
	※極東医科大学	2																										
アメリカ	ペンシルバニア大学		1	1	1	1																						
	ニューヨーク州立大学 バッファロー校	2	1	1	1	2		2	1	2	1	1	1	1	3	2		2		1	2				1	1	1	
	ウィリアム アンド メアリー大学	2	2		2		2	1	2		2	1			1	2	1	2		2		2			2			
	タフツ大学	2	2		5	1	4		5	1	4	1	5	1	3	1	6		3	2	6	3	6	1	3	1	6	1
	ニューヨーク州立大学 ニューボルツ校	2			2	1	2	2	3		1	1	2	2	2	1	1		2	2	1				1	2	2	
	ネヴァダ大学リノ校																											
	※プリンストン大学 東洋学部																											
	※ハワイ大学ジョン A・バーンズ医学部																											
	※カリフォルニア大学 デービス校医学部																											
	計		105	23	6	33	16	51	13	55	12	46	11	61	13	56	15	56	26	62	23	54	19	52	14	54	33	59

※印は、部局間交流協定校。

受入留学生数は、短期留学推進制度、大学推薦による国費外国人留学生制度（研究留学生、日本語・日本文化研修留学生）及び奨学財団招致留学生奨学制度により、受け入れられた留学生数を示す。

派遣留学生数は、学生交流覚書に基づく本学短期派遣留学制度（サマープログラム含む）により、派遣された留学生数を示す。

なお、留学生数については、過年度修正があります。

2. 2 金沢大学における外国人留学生数の推移

表 2. 2 - 1 外国人留学生数の推移：奨学金受給状況別（平成 22 年 5 月 1 日現在）

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
国 費	92	97	92	110	110	108	116	119	104	113
私 費	227	239	229	228	233	242	221	202	203	217
外国政府	15	17	19	21	25	27	28	31	20	15
計	334	353	340	359	368	377	365	352	327	345

図 2. 2 - 1 外国人留学生数の推移：奨学金受給状況別（平成 22 年 5 月 1 日現在）

外国人留学生数の推移

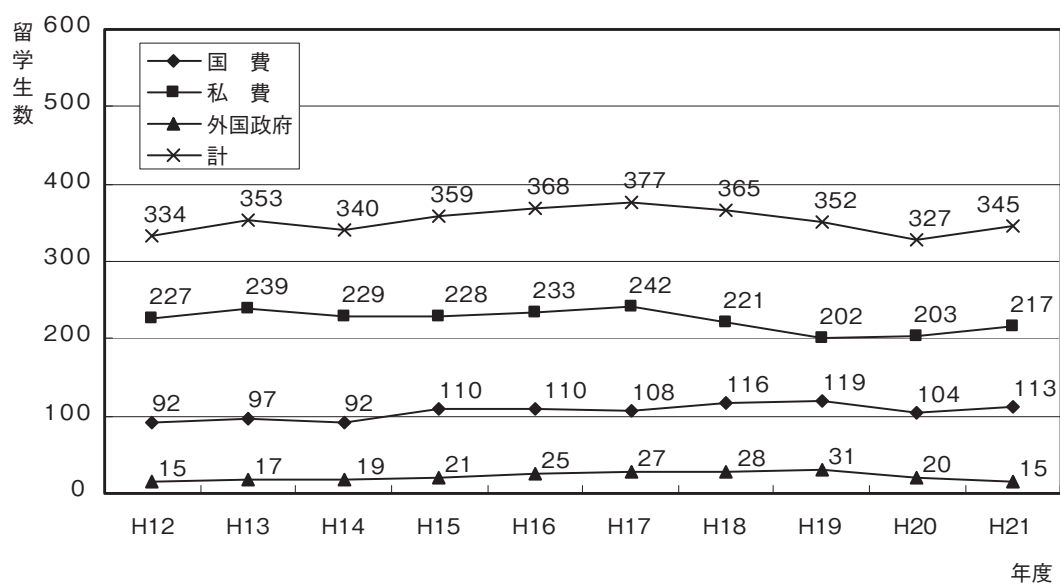


表 2. 2 - 2 外国人留学生数の推移：地域別

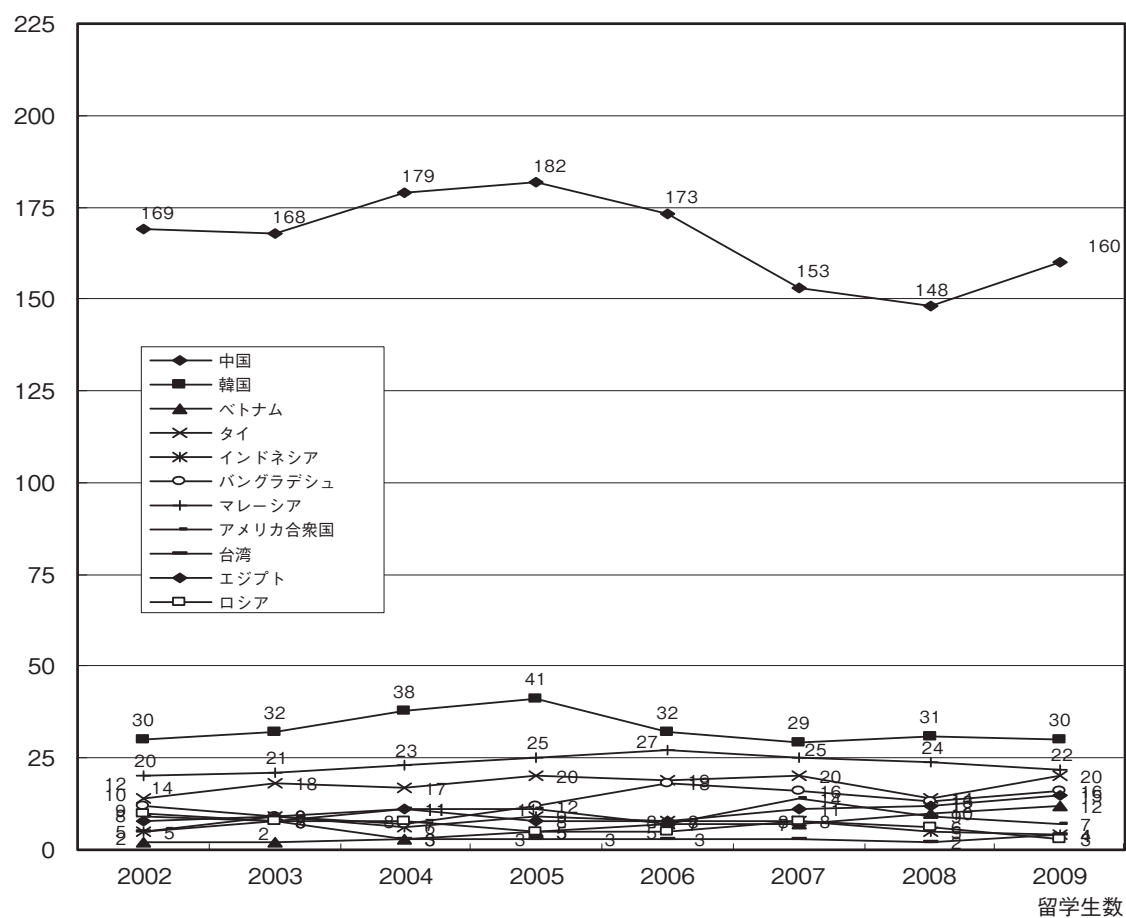
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
アジア	279	298	303	318	303	280	264	286	388
オセアニア	6	4	3	1	2	2	3	2	11
アフリカ・中東	13	13	15	12	13	17	20	22	31
ヨーロッパ	14	21	22	24	28	27	22	21	33
ロシア及びNIS	12	10	10	6	6	9	7	5	12
北米・南米	16	13	15	15	13	17	11	9	16
計	340	359	368	376	365	352	327	345	491

表 2. 2 - 3 外国人留学生数の推移：主要国別

		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
1	中国	169	168	179	182	173	153	148	160
2	韓国	30	32	38	41	32	29	31	30
3	ベトナム	2	2	3	5	7	7	10	12
4	タイ	14	18	17	20	19	20	14	20
5	インドネシア	5	9	6	9	8	8	5	4
6	バングラデシュ	12	9	7	12	18	16	13	16
7	マレーシア	20	21	23	25	27	25	24	22
8	アメリカ合衆国	9	8	11	11	7	14	9	7
9	台湾	5	8	3	3	3	3	2	4
10	エジプト	8	9	11	8	8	11	12	15
11	ロシア	10	8	8	5	5	8	6	3

図 2. 2 - 2 外国人留学生数の推移：主要国別（平成 22 年 5 月 1 日現在）

外国人留学生数の推移：主要国別



金大キャンパスの国際化をリードする

**金沢大学留学生センター自己点検評価
2002.10 ～ 2010.3**

2011 年 3 月 31 日発行

発 行 金沢大学留学生センター
〒920-1192 金沢市角間町
T E L (076) 264-5188
F A X (076) 234-4043

印 刷 金沢電子出版株式会社